第94号住居跡出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
341	土師器	鉢	10.8	5.5	3.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面弱いハケ目整形，内面ヘラナデ	北西壁付近床面	95% PL20
342	土師器	壺	12.8	(13.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から体部外面中段ヘラ磨き，口辺部内面ヘラ磨き，体部内面ヘラナデ	西コーナー付近床面	20%
343	土師器	ミニチュア土器	6.0	3.7	2.8	長石・赤色粒子	灰褐	普通	下段外面弱いハケ目整形，内面ナデ	西コーナー付近床面	95% PL32

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP207	土玉	3.3	3.3	0.5	33.5	土	外面ナデ	東コーナー付近下層	
DP208	土玉	2.9	3.4	0.7	29.3	土	外面ナデ	南東壁付近床面	
DP209	土玉	2.9	3.1	0.7	25.4	土	外面ナデ	南東壁付近床面	
DP210	土玉	2.6	2.7	0.6	16.4	土	外面ナデ	南西壁付近床面	
DP211	土玉	3.4	3.4	0.5	34.7	土	外面丁寧なナデ	北西壁付近床面	
DP212	不明土製品	(2.3)	(1.5)	(1.1)	(3.0)	土	外面ナデ	下層	

第95号住居跡（第182～184図）

位置　調査区西部のＣ１c0区に位置し，標高28.0mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　中央部を東から西に第５号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.7m，短軸4.3mほどの方形で，主軸方向はＮ－39°－Ｅである。壁高は23～26cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，各コーナー付近を除いて踏み固められており，壁溝が全周している。また，南東壁の中央部付近から北西壁に向かって，長さ1.1m，幅12cmほどの溝状の掘り込みが検出されている。

炉　１か所。中央部よりかなり南西側に位置し，長径52cm，短径36cmほどの楕円形で，床を10cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子少量

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，長径52cm，短径45cmほどの楕円形で，深さは65cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子少量

覆土　７層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

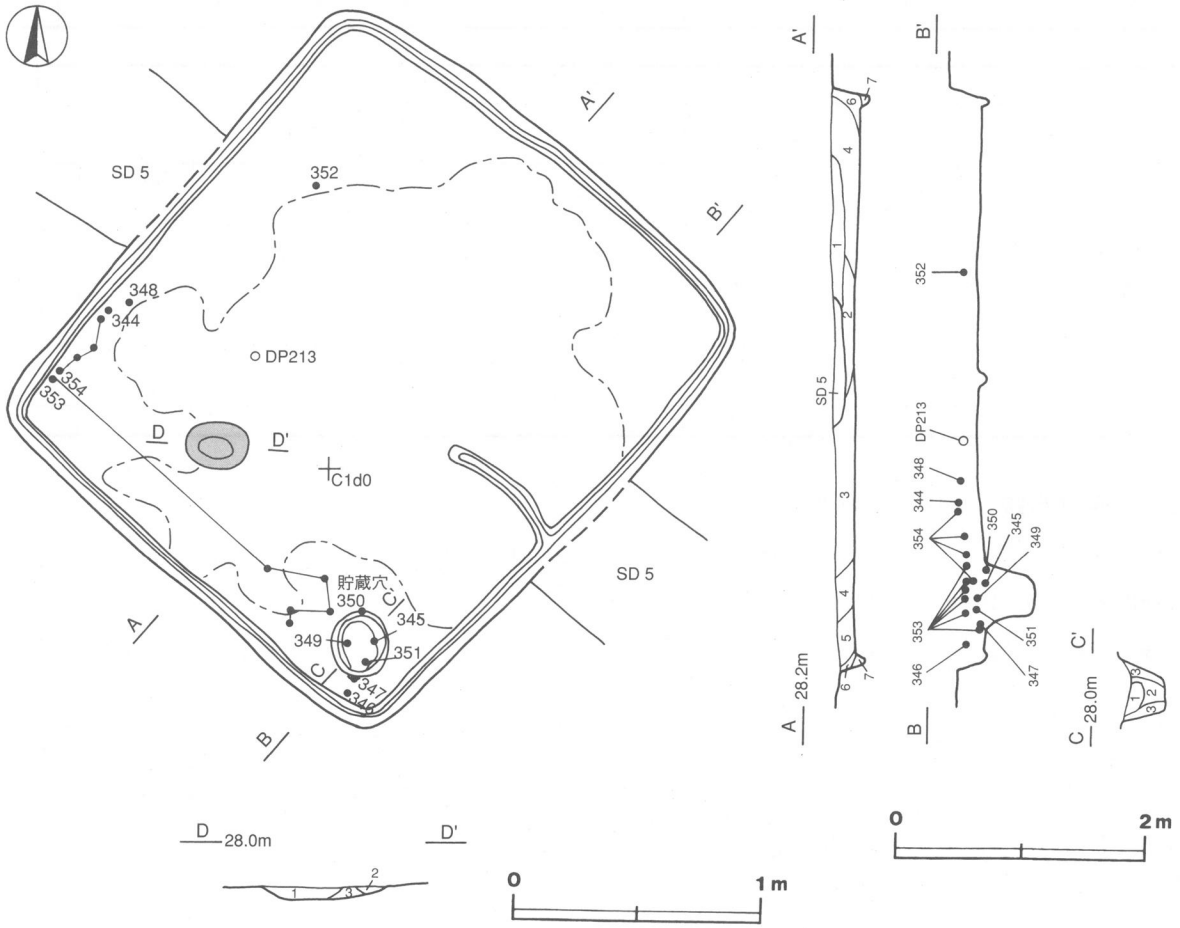
土層解説

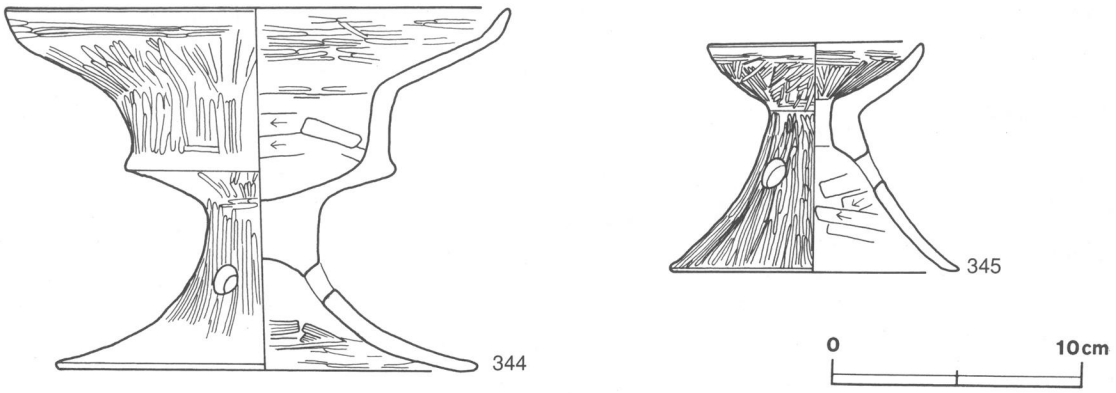
1　黒色　ローム粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　焼土ブロック微量
5　黒褐色　ローム粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック少量
7　暗褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片256点（器台８，壺16，甑５，甕類227），土製品２点（土玉）が南東側の特に貯蔵穴付近を中心に出土しており，図示できたものは13点である。345は貯蔵穴内の覆土上層，347・349・350・351は貯蔵穴付近の床面から遺棄されたように横位で出土している。344は北西壁付近の覆土上層，346は南コーナ

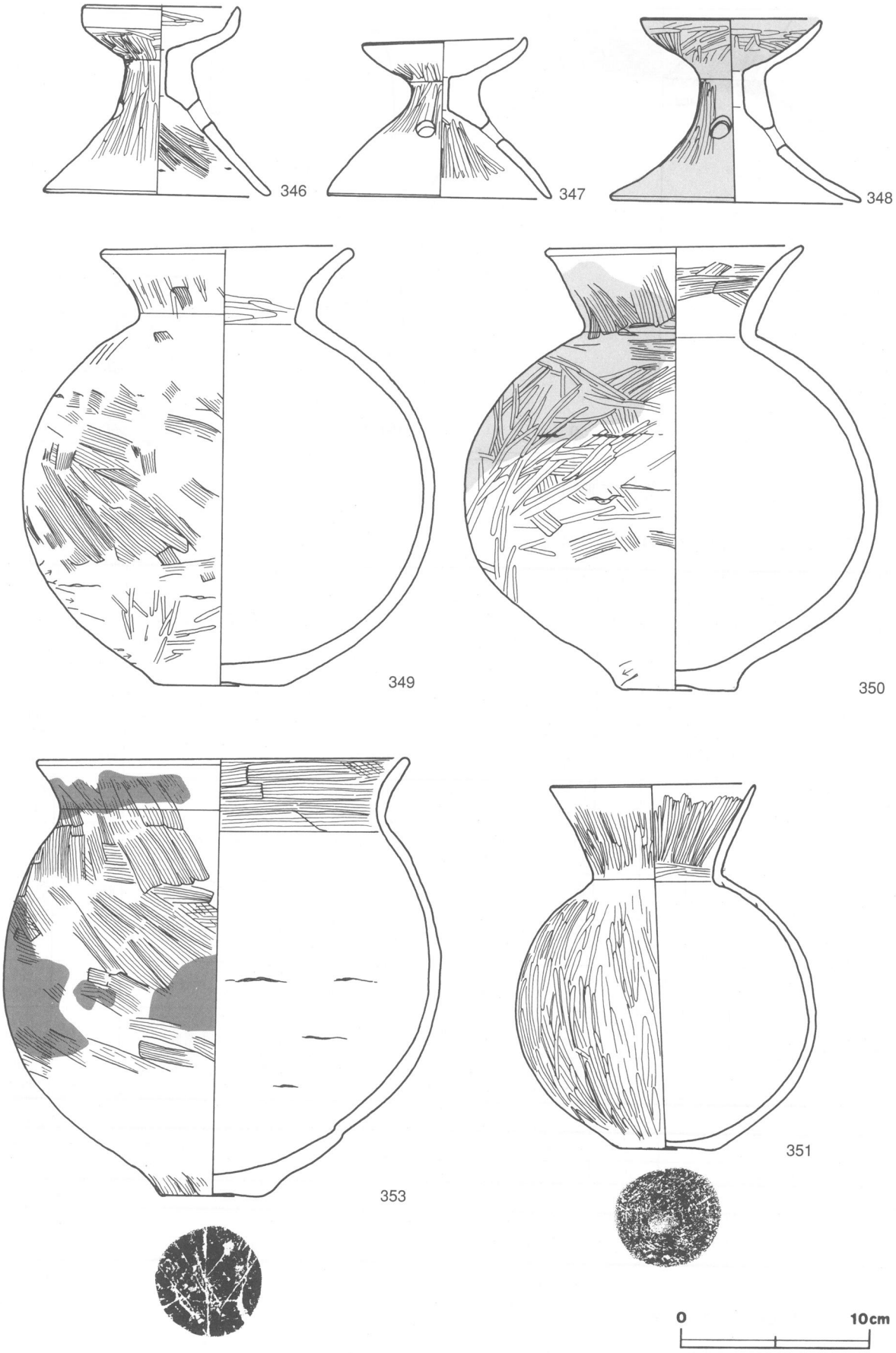
ー付近の覆土中層，348は北西壁付近の覆土中層，353・354は北西壁付近の覆土中層からいずれも投棄されたような状態で検出されている。そのほか，混入した縄文土器37点，埴輪片30点が出土している。

所見　貯蔵穴付近床面からは，ほぼ完形の壺が４点まとまって出土し，貯蔵穴との関連が想定される。時期は，出土土器から４世紀前半頃と考えられる。

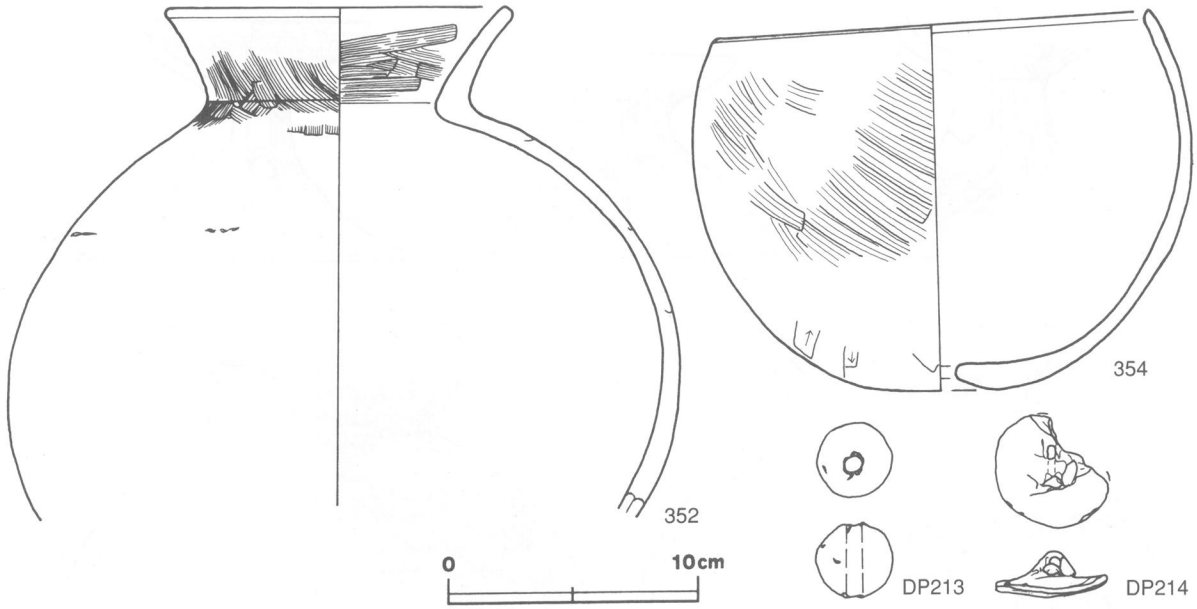




第182図　第95号住居跡実測図・出土遺物実測図（１）



第183図　第95号住居跡出土遺物実測図（2）



第184図　第95号住居跡出土遺物実測図（3）

第95号住居跡出土遺物観察表（第182～184図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
344	土師器	高坏	20.2	14.6	17.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	器受部・脚部外面ヘラ磨き，器受け部内面ヘラ削り，ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形	北西壁付近上層	80% PL19
345	土師器	器台	8.8	9.2	11.6	長石・石英	橙	普通	器受け部内・外面・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラ削り，窓3か所	貯蔵穴内	95% PL16
346	土師器	器台	8.3	10.0	12.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	器受部内・外面・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形，窓3か所	南コーナー付近床面	95% PL16
347	土師器	器台	8.6	8.5	11.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	器受部外面・脚部内・外面ヘラ磨き，窓3か所	貯蔵穴内	90% PL16
348	土師器	器台	9.6	9.7	13.4	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	器受部内・外面・脚部外面ヘラ磨き，窓3か所	北西壁付近中層	80% 赤彩 PL16
349	土師器	壺	13.1	23.2	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	口辺部外面ヘラ磨き，体部上段から中段ハケ目整形，下段ヘラ削り後ヘラ磨き	貯蔵穴内	95% PL22
350	土師器	壺	13.7	23.6	6.1	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	口辺部から頸部外面・口辺部内面ハケ目整形，体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き	貯蔵穴内	95% 外面赤彩 PL22
351	土師器	壺	10.9	19.2	5.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部から体部外面下段・口辺部内面ヘラ磨き	床面	95% PL22
352	土師器	壺	13.8	(20.6)	—	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	頸部内・外面ハケ目整形，輪積み痕	中層	30% 体部摩滅
353	土師器	甕	19.5	23.2	5.9	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	浅黄橙	普通	口辺部から体部外面下段・口辺部内面ハケ目整形，輪積み痕，底部木葉痕	中層～下層	80% 煤付着 PL25
354	土師器	甑	17.6	15.3	4.8	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部上段から中段弱いハケ目整形，外面下段ヘラ削り，単孔	中層	90% PL31

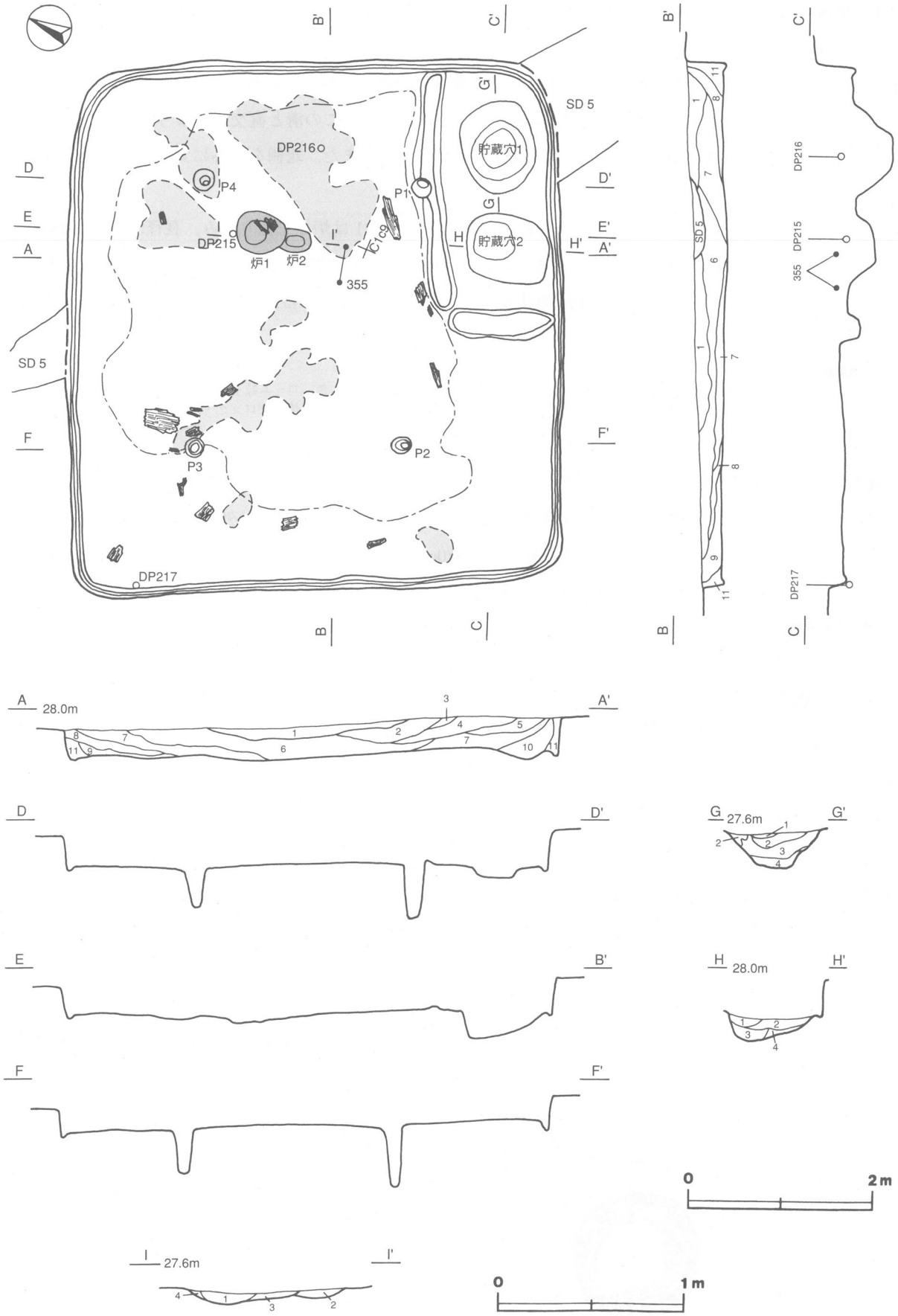
番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP213	土玉	3.1	3.0	0.7	26.4	土	外面丁寧なナデ	中層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP214	蓋	(4.6)	4.5	1.8	15.2	土	つまみ部貼り付け，つまみ部孔径0.3，外面ナデ	—	PL41

第96号住居跡（第185・186図）

位置　調査区西部のＣ１b8区に位置し，標高27.8mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　東コーナー部から，北壁に延びるように第５号溝に掘り込まれている。



第185図　第96号住居跡実測図

規模と形状　長軸5.7m，短軸5.4mほどの方形で，主軸方向はN－67°－Eである。壁高は15～38cmで，各壁とも直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められている。壁溝が全周しており，南壁の中央部付近から北壁に向かって，長さ1.1m，幅30cmほどの溝状の掘り込みが検出され，さらにこの溝と直交するように東壁から西壁に向かって，長さ2.6m，幅30cmほどの土手状の高まりが見られた。また，北側を中心に大量の焼土塊が検出されている。

炉　中央部よりやや北側に，重複して２か所確認されている。炉１は炉２を掘り込み，長径54cm，短径40cmの楕円形で，床を15cmほど掘りくぼめている。炉２は長径40cm，短径25cmほどの楕円形と推測され，床面を12cmほど掘りくぼめている。ともに，炉床面は被熱を受け赤変硬化している。なお，土層は第２層が炉２，第１・３・４層が炉１である。

炉土層解説

1	灰　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（炉1）	3	褐　　色	ローム粒子・焼土粒子微量（炉１）
2	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量（炉2）	4	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量（炉１）

ピット　４か所。すべて主柱穴と考えられ，深さは43～63cmである。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１と貯蔵穴２が東西に並ぶように検出されている。貯蔵穴１は東コーナー部に位置し，長径1.0m，短径80cmほどの楕円形で，深さは48cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴２は貯蔵穴１の西側に位置し，長軸90cm，短軸70cmほどの隅丸長方形で，深さは26cmである。底面は平坦で，壁はなだらかに外傾して立ち上がっている。

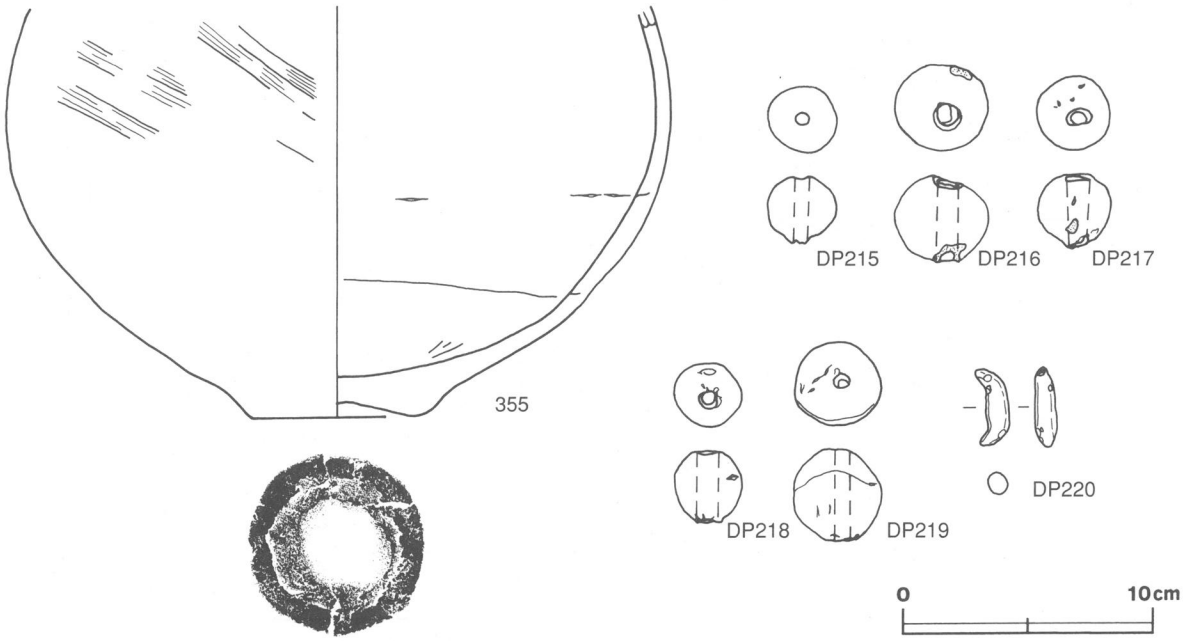
貯蔵穴１土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子微量	3	黒　褐　色	ロームブロック微量
2	暗　褐　色	ロームブロック中量	4	灰　褐　色	ローム粒子微量

貯蔵穴２土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック中量	3	黒　褐　色	ロームブロック少量
2	黒　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	4	褐　　色	ローム粒子微量

覆土　11層からなる。レンズ状に堆積しているが，覆土に炭化材や焼土を含んでいることから火災に伴って形成された土層と考えられる。



第186図　第96号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化材少量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化材少量
7　黒　　色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ローム粒子少量
9　黒　褐　色　ローム粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量
11　灰　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片287点（高坏23，壺16，甕類248），土製品６点（土玉５，不明土製品１）が出土しており，図示できたものは７点である。355は投棄されたような状態で覆土下層から出土し，DP215は床面，DP216は覆土下層，DP217は西コーナー付近の壁溝からそれぞれ出土している。そのほか混入した縄文土器94点が出土している。

所見　床面からの遺物出土が少なく，覆土中層から多く出土していることなどから，住居廃絶後に焼失したと考えられる。時期は，出土土器から４世紀代と考えられる。

第96号住居跡出土遺物観察表（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
355	土師器	壺	－	(16.4)	7.0	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面中段ハケ目整形，内面下段ヘラ当痕	下層	30%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP215	土玉	2.7	2.8	0.5	17.2	土	外面丁寧なナデ	床面	
DP216	土玉	3.5	3.8	0.9	37.4	土	外面ナデ	下層	
DP217	土玉	2.9	2.9	0.9	21.3	土	外面ナデ	西コーナー付近壁溝	
DP218	土玉	2.8	2.8	0.8	18.0	土	外面ナデ	覆土	
DP219	土玉	3.5	3.5	0.6	41.5	土	外面ナデ，ヘラ当痕	覆土	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP220	不明土製品	3.1	1.4	0.9	2.4	土	外面ナデ	覆土	PL41

第97号住居跡（第187・188図）

位置　調査区西部のＣ１d4区に位置し，標高27.0mほどの台地傾斜部に立地している。

重複関係　ほぼ中央部を第６号溝に東から西に掘り込まれている。

規模と形状　一辺4.9mほどの方形で，主軸方向はＮ－39°－Ｅである。壁高は18～28cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，東コーナー部付近の床面が南北に2.0m，東西に1.0mほどの長方形状に10cmほど高くなっている。また，南東壁の中央部付近から北西壁に向かって，長さ1.2m，幅20cmほどの溝状の掘り込みが見られた。壁溝は南東壁の一部を除いて巡っており，中央部が踏み固められている。

炉　１か所。中央部より北側に確認された。長径72cm，短径60cmの楕円形で，床面を８cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱により赤変硬化している。

炉土層解説

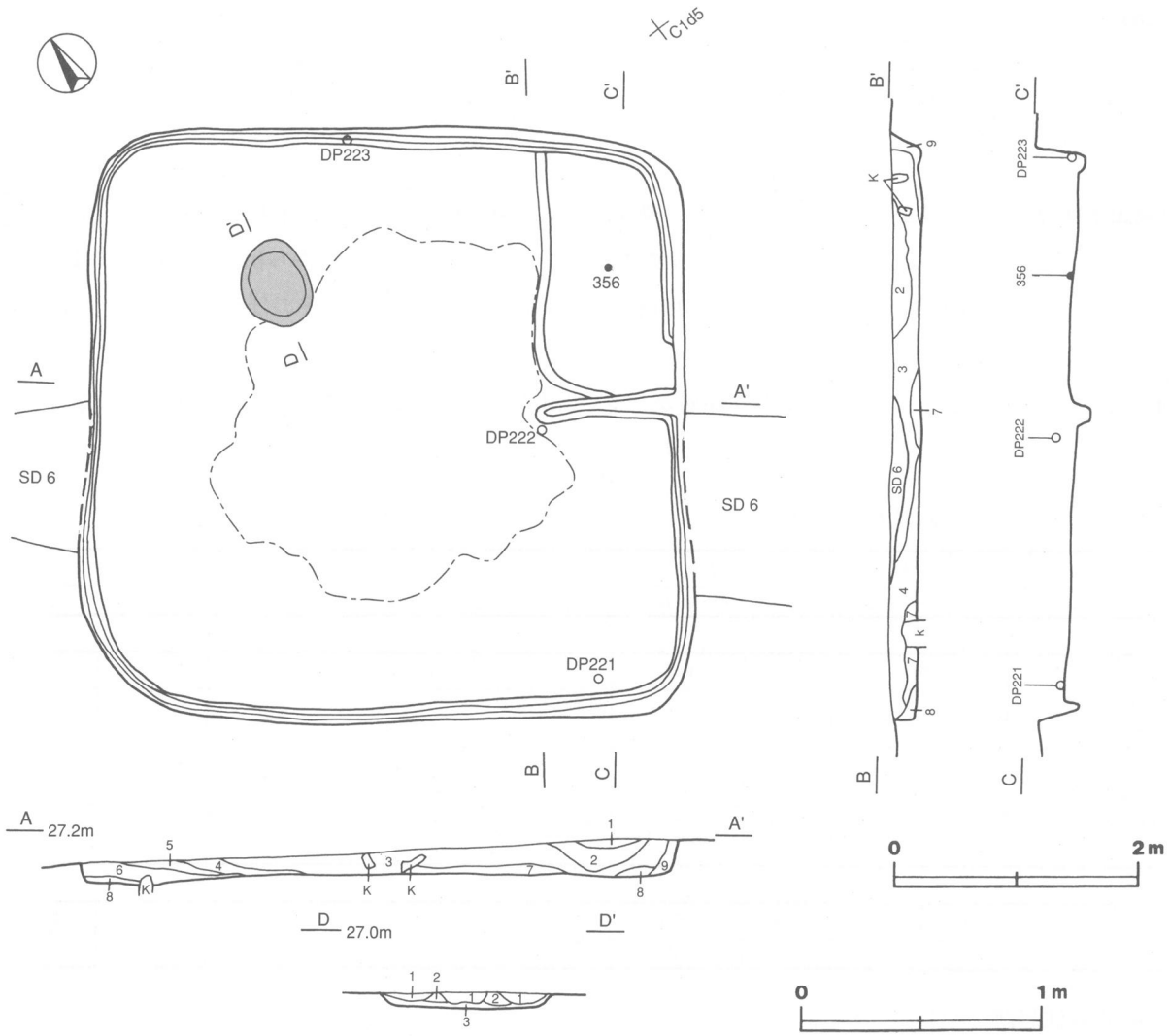
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量
2　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

ピット　確認できなかった。

覆土　９層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

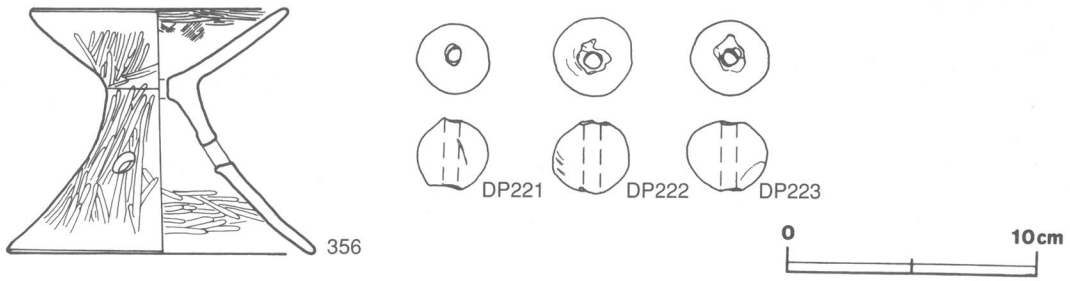
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　極暗褐色　焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　極暗褐色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量



第187図　第97号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片316点（器台10，高坏27，壺６，鉢３，甕類270），土製品３点（土玉）が北東部を中心に出土しており，図示できたものは４点である。356は東コーナーの高まり部分の床面，DP223は北東壁際の床面からそれぞれ出土している。そのほか混入した縄文土器71点が出土している。

所見　床面の一部がベッド状に高められている部分と，間仕切りと考えられる溝が確認されたことから，生活空間を使い分けていたと考えられる。時期判定の資料となる遺物が少ないが，住居の形状や形態，主軸方向などから，時期は４世紀代と考えられる。



第188図　第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表（第188図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
356	土師器	器台	10.3	9.9	12.5	長石・石英	橙	普通	器受け部・脚部内・外面ヘラ磨き，器受部内面ハケ目整形，窓３か所	ベッド部床面	95% PL16

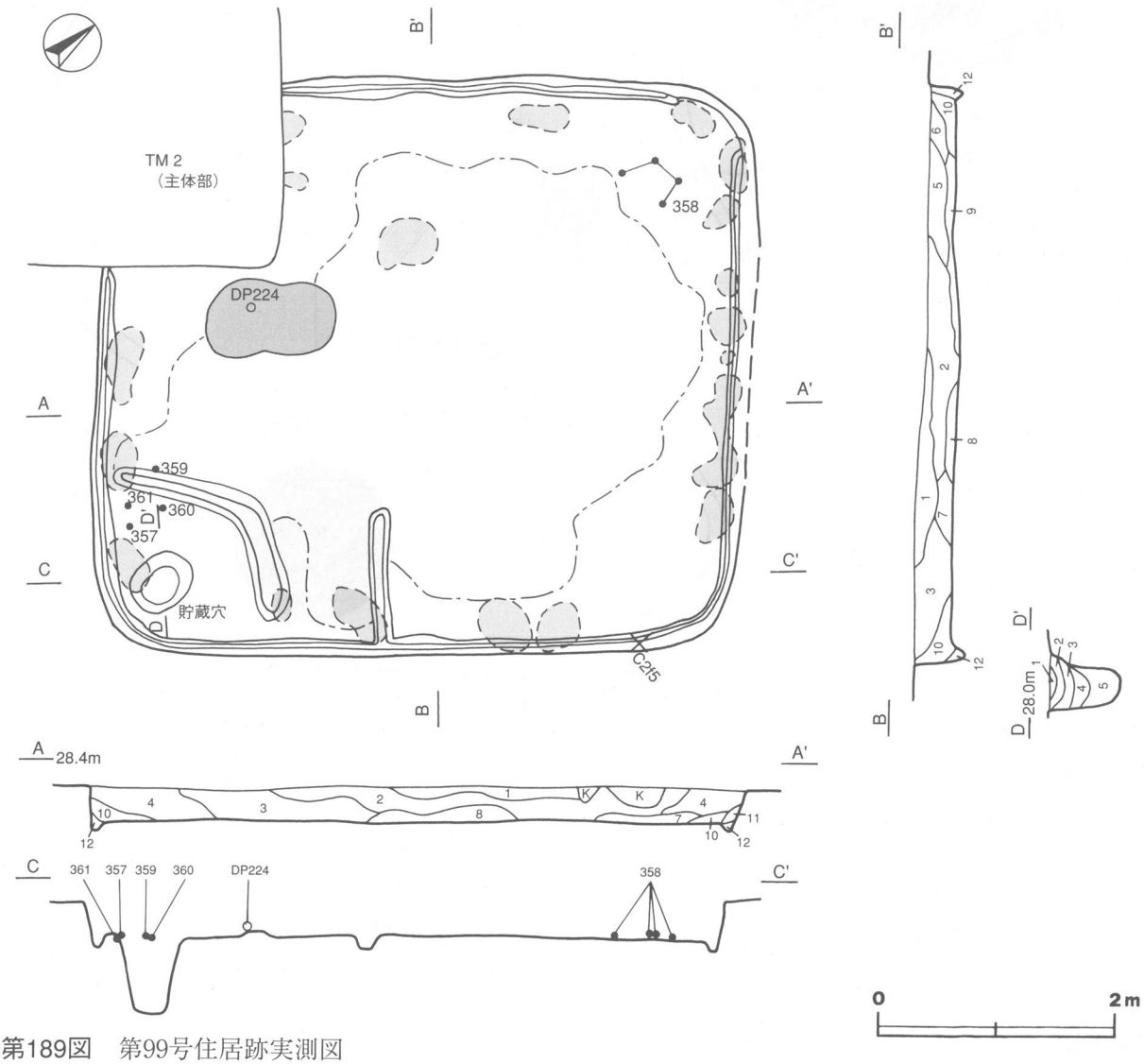
番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP221	土玉	2.9	2.8	0.6	20.8	土	外面丁寧なナデ	南西壁付近床面	
DP222	土玉	2.9	3.1	0.6	26.6	土	外面ナデ，ヘラ当痕	間仕切り溝際中層	
DP223	土玉	2.8	3.2	0.6	23.8	土	外面ナデ，指頭痕	北東壁際床面	

第99号住居跡（第189～191図）

位置　調査区西部のＣ２e4区に位置し，標高28.1mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　西コーナー部付近を第２号墳の主体部に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.5m，短軸5.0mほどの長方形で，主軸方向はＮ－45°－Ｅである。壁高は22～34cmで，南壁は直立して，ほかは外傾して立ち上がっている。



第189図　第99号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められており，各壁際には焼土塊が検出されている。また，確認された床面には，北コーナー部を除いて壁溝が巡っている。南東壁の中央部付近から北西壁に向かって，長さ1.2m，幅20cmほどの溝状の掘り込みが検出され，さらに南コーナー付近には高さ10cmほどの逆L字状を呈する土手状の高まりが見られた。

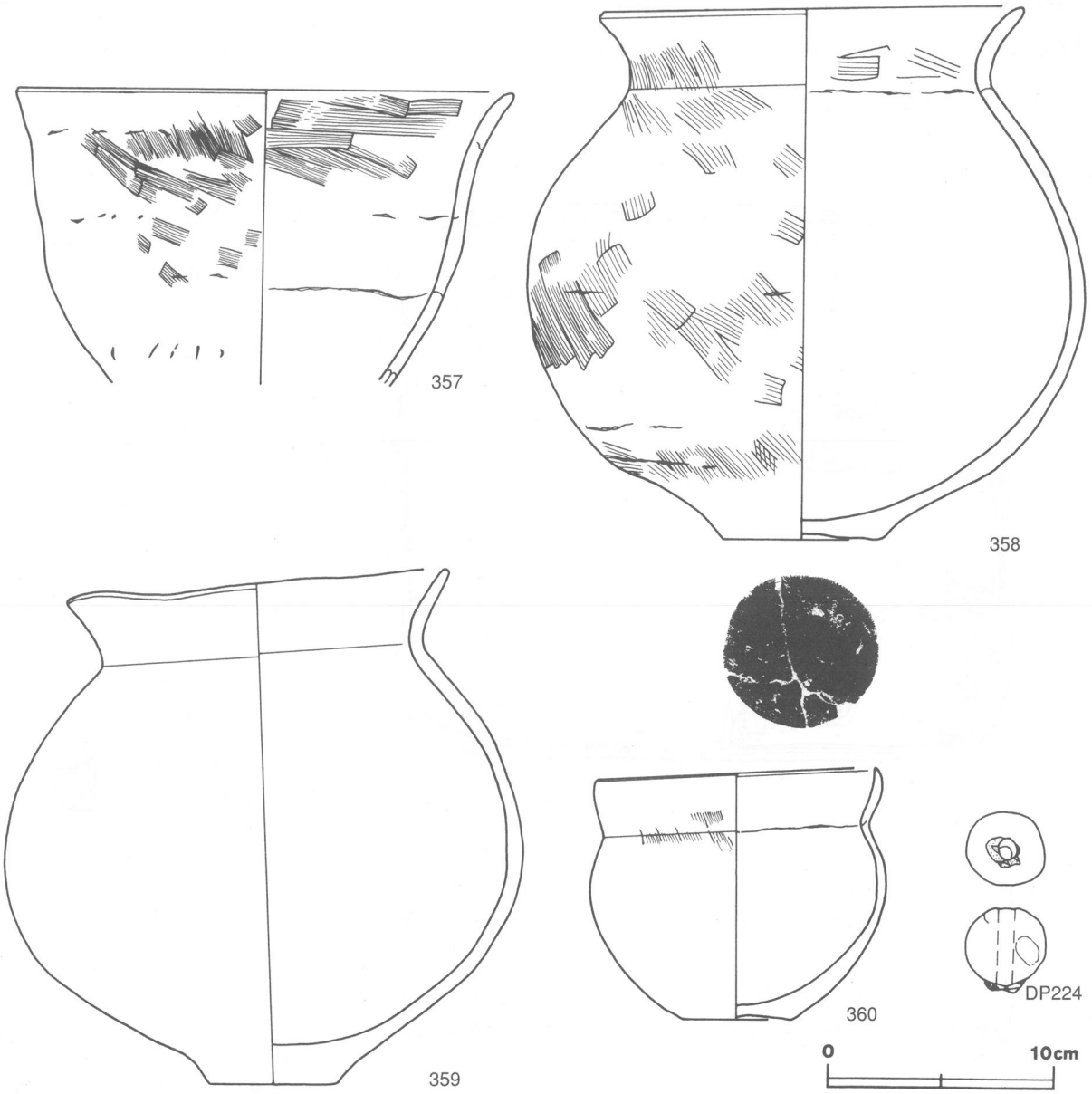
炉　1か所。中央部よりやや西部コーナー寄りに位置し，長径1.1m，短径70cmほどの不整楕円形を呈しているが掘り込みや火床面は確認できず，床面上に焼土が検出された状態であった。

ピット　確認できなかった。

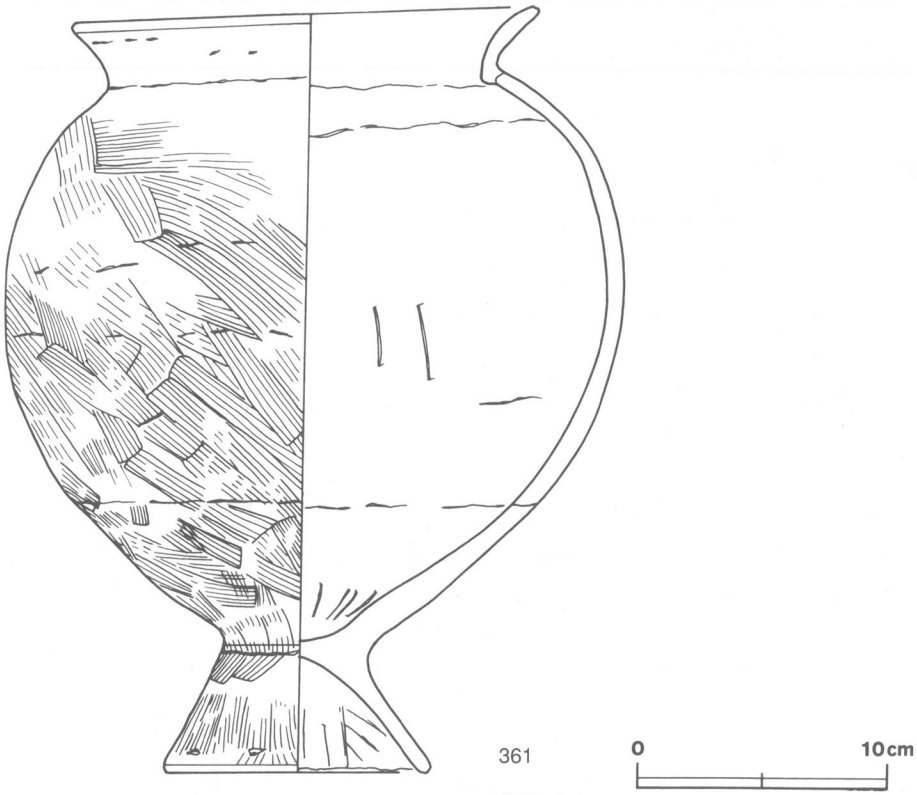
貯蔵穴　南コーナー部に位置し，長径55cm，短径45cmほどの楕円形で，深さは65cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	4	黒褐色	ローム粒子中量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，ロームブロック微量	5	暗褐色	ローム粒子中量
3	極暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量			



第190図　第99号住居跡出土遺物実測図（1）



第191図　第99号住居跡出土遺物実測図（２）

覆土　12層からなる。焼土や炭化材を多く含む壁際の層（第10層）や覆土下層（第７～11層）は火災に伴って形成された層であり，その後人為的に埋め戻されたと考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子多量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
8　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
10　黒　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物中量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
12　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片301点（椀２，鉢３，壺４，甑２，甕類290），土製品１点が各壁付近を中心に出土しており，図示できたものは６点である。359は土手状の高まり部分付近床面，360・361は貯蔵穴西側の床面から遺棄されたように出土しており，DP224は炉床面から出土している。そのほか，混入した縄文土器22点が出土している。

所見　第95号住居跡と同様に，貯蔵穴付近の床面から遺棄されたように甕類が出土しており，貯蔵穴との関連が想定される。住居廃絶後に焼失したと考えられ，出土土器から時期は４世紀中頃と考えられる。

第99号住居跡出土遺物観察表（第190・191図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
357	土師器	甑	22.1	(13.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	外面・口辺部内面弱いハケ目整形	南コーナー付近床面	70%
358	土師器	甕	18.8	23.7	7.1	長石・石英・雲母・礫	淡赤橙	普通	口辺部～体部外面下段・口辺部内面ハケ目整形，底部籾殻痕	北コーナー付近床面	80% PL30
359	土師器	甕	16.8	23.8	5.7	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面剥離のため詳細不明，底部籾殻痕	土手際床面	80% PL26
360	土師器	小形甕	12.6	11.2	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	頸部外面弱いハケ目整形，内面ナデ	貯蔵穴付近床面	100% PL24
361	土師器	台付甕	18.6	31.2	10.4	長石・石英・雲母・黒色粒子・礫	にぶい黄橙	普通	体部・脚部外面ハケ目整形，体部・脚部内面ヘラナデ，輪積み痕	貯蔵穴付近床面	95% PL30

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP224	土玉	3.7	3.5	0.7	39.9	土	外面ナデ，指頭痕	炉床面	

第100号住居跡（第192・193図）

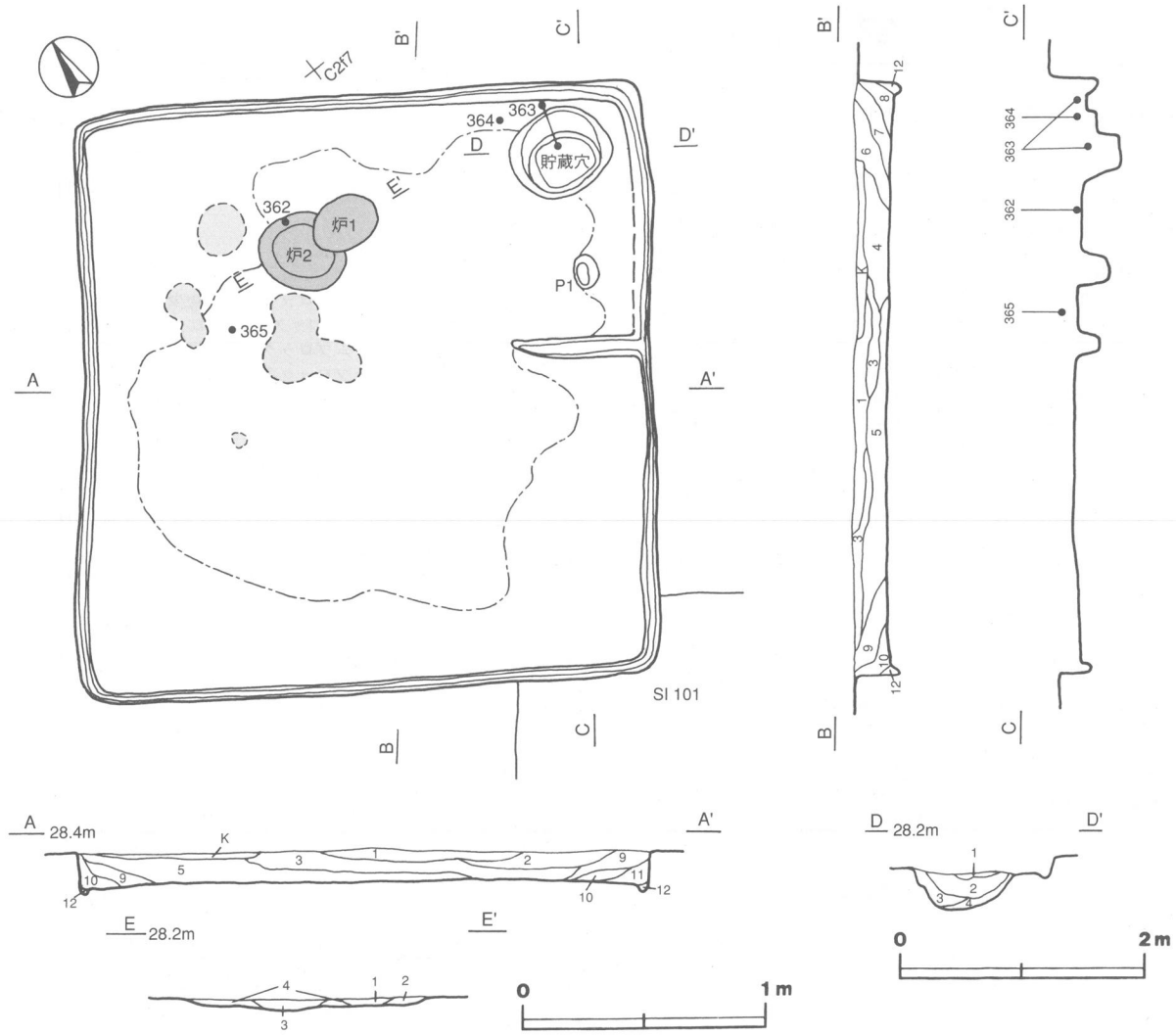
位置　調査区西部のＣ２f6区に位置し，標高28.1mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　南コーナー部が，第101号住居を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.9m，短軸4.7mほどの方形で，主軸方向はＮ－37°－Ｅである。壁高は16～32cmほどで，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められており，壁溝が全周している。また，南東壁から北西壁に向かって，長さ1.1m，幅18cmほどの溝状の掘り込みが見られた。

炉　中央部より北側に重複して２か所確認された。炉１は炉２を掘り込み，長径55cm，短径42cmの楕円形で，床を８cmほど掘りくぼめている。炉２は長径72cm，短径60cmほどの楕円形と推測され，床面を10cmほど掘りくぼめている。炉床面はともに，被熱のため赤変硬化している。なお，土層は第１・２層が炉１，第３・４層が炉２である。



第192図　第100号住居跡実測図

炉土層解説

1	赤　褐　色	焼土粒子少量（炉1）	3	暗赤褐色	焼土ブロック少量（炉2）
2	赤　褐　色	焼土粒子・炭化粒子少量（炉1）	4	暗赤褐色	焼土粒子微量（炉2）

ピット　1か所。深さは23cmで，炉と向き合う位置にあることから出入り口施設に関係するものと考えられる。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径80cm，短径70cmほどの楕円形で，深さは32cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒　褐　色	炭化物中量，ローム粒子微量	3	暗　褐　色	ロームブロック中量
2	暗　褐　色	ロームブロック多量	4	灰　褐　色	ローム粒子中量

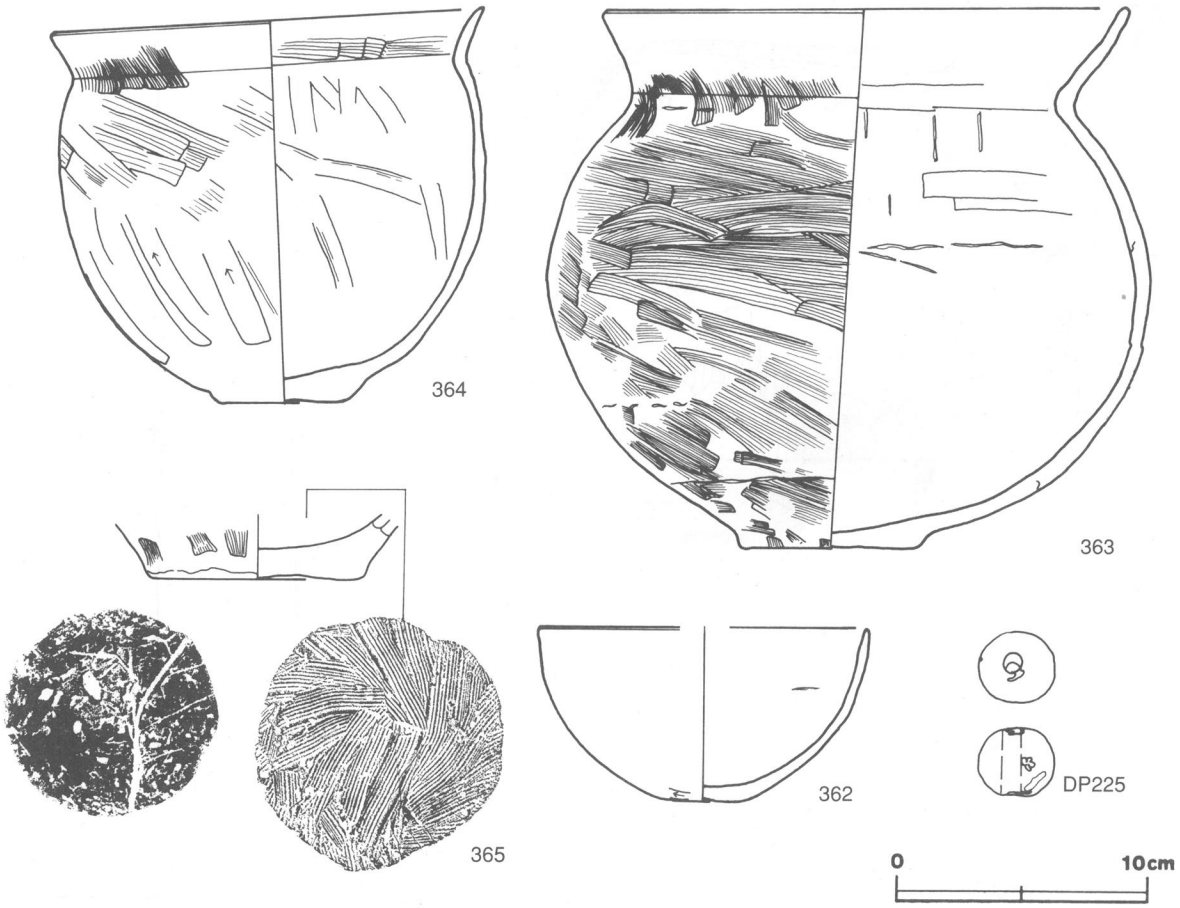
覆土　12層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子微量	7	極暗褐色	ロームブロック少量
2	黒　褐　色	ローム粒子・黒色ブロック少量	8	黒　褐　色	ロームブロック微量
3	黒　　色	ロームブロック少量	9	暗　褐　色	ロームブロック中量
4	黒　褐　色	ローム粒子多量	10	黒　褐　色	ローム粒子少量
5	黒　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	11	極暗褐色	ローム粒子中量
6	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量	12	灰　褐　色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片195点（高坏9，鉢6，壺類6，甕類174），土製品1点が北側を中心に散在して出土しており，図示できたものは5点である。362は炉床面，363は土圧でつぶれて貯蔵穴付近床面から，364は斜位で北東壁付近の覆土下層から出土している。そのほか混入した縄文土器16点が出土している。

所見　床面付近から検出された焼土塊は，範囲と土層観察から判断して，本住居の焼失を示すものではなく，埋没過程において廃棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第193図　第100号住居跡出土遺物実測図

第100号住居跡出土遺物観察表（第193図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
362	土師器	鉢	[13.2]	7.0	2.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面下段ヘラ削り，内面ナデ	炉床面	60%
363	土師器	甕	21.1	21.8	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	頸部から体部下段外面ハケ目整形，内面ヘラナデ，輪積み痕	貯蔵穴内	80% PL26
364	土師器	甕	17.2	15.9	5.1	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	頸部外面体部外面上段・口辺部内面ハケ目整形，中段外面下段ヘラ削り，底部ヘラナデ	北東壁付近下層	70% PL24
365	土師器	甕	－	(2.5)	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面下段・底部内面ハケ目整形，底部木葉痕・籾殻痕	下層	

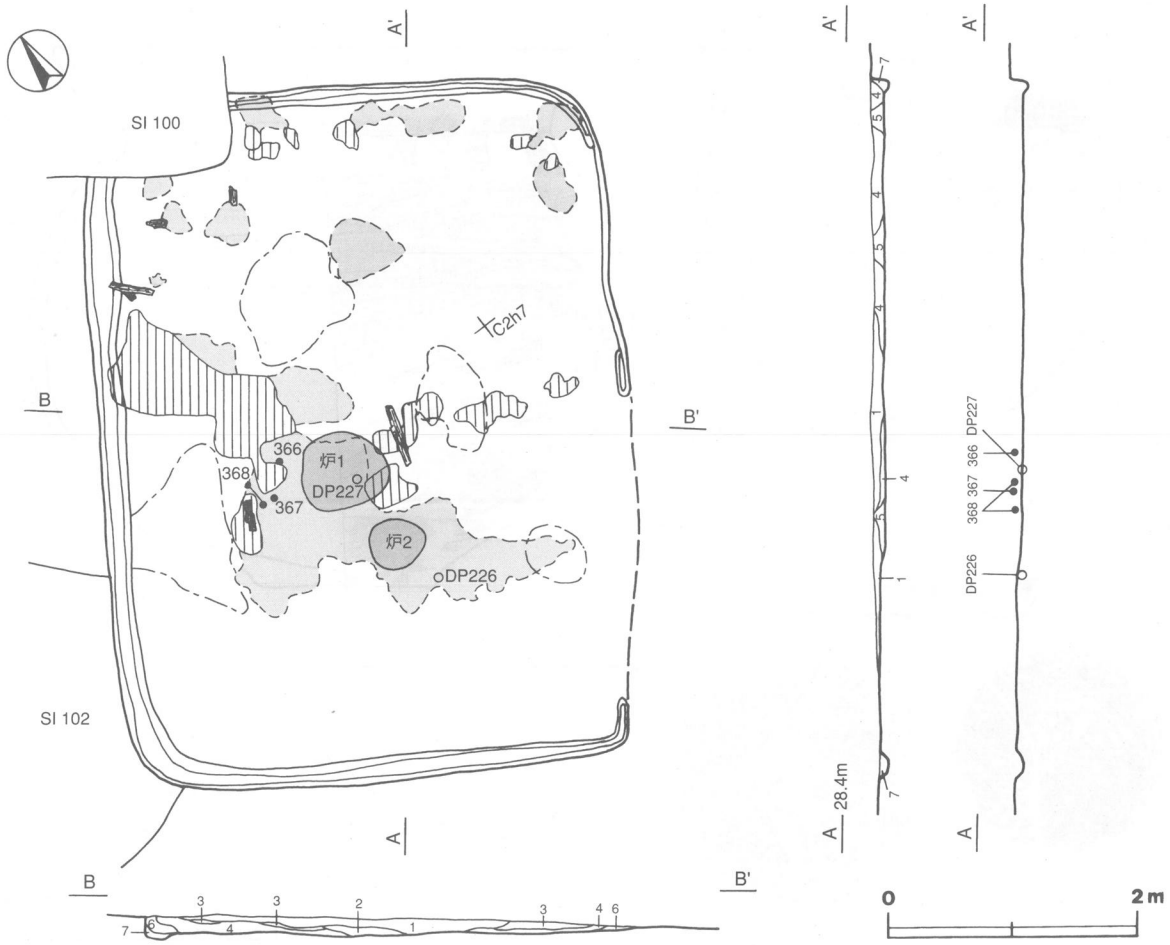
番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP225	土玉	2.8	3.1	0.8	23.9	土	外面ナデ	覆土	

第101号住居跡（第194・195図）

位置　調査区西部のＣ２h6区に位置し，標高約28.1mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　西コーナー部で第102号住居を掘り込み，北コーナー部を第100号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.5m，短軸4.3mほどの長方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｅである。壁高は最も残りのよいところで10cmで，直立ぎみに立ち上がっている。



第194図　第101号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，炉を取り囲むように小規模な硬化面が点在しており，確認された床面には壁溝が全周している。

炉　2か所。ほぼ中央部に炉1，中央部よりやや南側に炉2が確認された。炉1は長径75cm，短径60cmほどの不整楕円形で，炉2は長径46cm，短径40cmほどの楕円形である。掘り込みは見られず，焼土が堆積している状態であったが，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

ピット　確認できなかった。

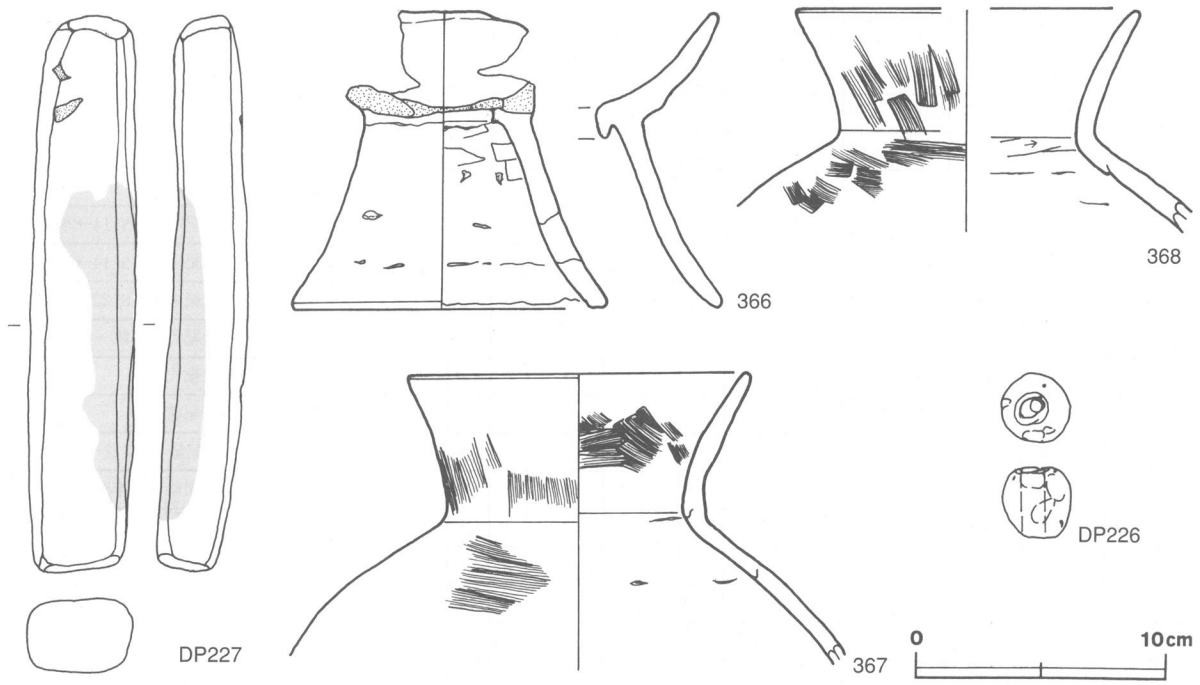
覆土　7層からなる。第2～6層は焼土，炭化物を含有し，住居の火災に伴って形成されたものと考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　炭化材多量
4　暗　褐　色　炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片278点（器台3，高坏5，壺7，甕類263），土製品3点（土玉，炉石形土製品，不明土製品），礫4点が多量の焼土，炭化材とともに出土している。ほとんどが細片であり，図示できたものは5点である。366・367・368は投棄されたような状態で焼土塊中から出土し，またDP227は炉1の炉床から出土している。図示できなかったほかの遺物も，覆土中層から下層や焼土塊中から出土している。そのほか，混入した縄文土器123点が出土している。

所見　遺物は床面付近よりも覆土中層から下層にかけての出土が多く，焼土塊中からの出土も目立つことから，住居廃絶後に焼失し，土器類が投棄されたと考えられる。時期は，住居の形状などから，4世紀代と考えられる。



第195図　第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表（第195図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
366	土師器	炉器台	—	11.9	12.8	長石・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面ナデ，脚部内面ヘラナデ，輪積み痕	中層	70% PL16
367	土師器	壺	13.7	(11.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部・体部外面上段・口辺部内面弱いハケ目整形，輪積み痕	中層	20% PL20

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
368	土師器	壺	[14.0]	(9.0)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部・体部外面上段ハケ目整形，頸部内面ヘラ削り，輪積み痕	中層～下層	15% PL20

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP226	土玉	2.8	2.8	0.6	16.2	土	外面ナデ，指頭痕	床面	南コーナー付近

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP227	炉石形土製品	22.5	4.2	3.5	398.6	土	外面ナデ	炉1床面	赤変　PL41

表3　古墳時代住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向(長軸方向)	平面形	規模（m）(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	備　考(時期・旧→新)
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	炉			
1	F7b3	N-28°- E	長方形	5.60 × 4.08	10～12	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀代　本跡→SK 40・43，PG 1
2	F6f0	N-73°-W	隅丸方形	6.98 × 6.96	29～32	平坦	—	4	－	2	－	1	人為	土師器，土製品，石製品	4世紀代
4	E7j2	N-59°-W	［方形］	[4.14]× 4.11	5～8	(平坦)	ほぼ全周	－	－	－	－	1	不明	－	4世紀代
5	E6i0	N-29°- E	長方形	4.47 × 3.32	10～14	平坦	全周	－	－	－	－	1	自然	土師器，土製品	4世紀代　本跡→SK38
6	F6b9	N-74°-W	隅丸方形	7.84 × 7.83	24～38	平坦	全周	4	1	3	1	1	自然	土師器，土製品，石製品，鉄製品	4世紀前～中頃　本跡→SK 12
8	F6g5	N-82°-W	隅丸方形	5.10 × 5.08	18～26	平坦	—	－	－	－	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀代　SI 9→本跡
10	F6d2	N-40°-W	隅丸長方形	6.38 × 5.39	10～18	ベッド	ほぼ全周	－	－	－	－	1	自然	土師器，土製品	4世紀代
11	F5b0	N-54°-W	［方形］	3.71 × 3.69	8	(平坦)	—	－	－	－	－	1	不明	土師器	4世紀代
12	F5a8	N-33°-W	方形	5.43 × 5.29	40～44	平坦	—	4	1	－	－	1	自然	土師器	4世紀中頃
13	E6j7	N-24°-W	方形	3.96 × 3.89	8～17	平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	－	自然	土師器	4世紀代　本跡→SK 42
14	F6a4	N-35°- E	長方形	6.90 × 6.29	38～48	平坦	ほぼ全周	4	－	－	－	2	自然	土師器，土製品	4世紀代　本跡→SI 18・19
15	E6g2	N-36°-W	方形	3.90 × 3.80	4～6	平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	－	自然	土師器，石製品	4世紀代
16	E6d8	N-49°-W	方形	6.90 × 6.87	43～49	平坦	ほぼ全周	4	2	－	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀代
17	E6g7	N-29°- E	長方形	5.05 × 4.59	8～15	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	2	自然	土師器，土製品	4世紀前半
18	F6a4	N-34°- E	［方形］	[3.54]×[3.45]	8	平坦	—	－	－	－	－	1	自然	土師器	4世紀中頃　SI 14→本跡
19	E6j5	N- 1°- E	［長方形］	[3.62]×[3.11]	14	平坦	—	－	－	－	－	1	人為	土師器，土製品	4世紀中頃　SI 14→本跡
21	E6h5	N-64°- E	方形	5.50 × 5.42	26～38	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	4	自然	土師器，土製品	4世紀中頃　SI 22→本跡
22	E6h4	N-63°- E	［方形］	(4.90)× 4.64	10～16	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	1	自然	土師器	4世紀代　本跡→ SI 21
23	E6c5	N-65°-W	方形	4.30 × 4.22	14～35	平坦	—	－	－	－	－	2	人為	土師器	4世紀代
24	E6a4	N-44°- E	長方形	4.74 × 3.87	2～10	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	1	自然	土師器	4世紀前半
26	E6b1	N-56°-W	方形	5.96 × 5.80	6～24	平坦	全周	－	－	－	－	4	自然	土師器，土製品	4世紀前半　SI 27→本跡→S 81
27	E6c1	[N-56°-E]	［方形］	(5.6)×(5.2)	4～6	(平坦)	(全周)	－	－	－	－	－	不明	－	4世紀前半　本跡→SI 26
29	E6f1	N-52°- E	方形	6.47 × 6.30	6～12	ベッド	ほぼ全周	4	－	－	1	4	人為	土師器	4世紀前半　本跡→SI 30，SK 45
30	E5f9	N-50°- E	長方形	6.28 × 5.40	24～38	平坦	全周	－	－	－	1	2	人為	土師器	4世紀前半～中頃　SI 29→本跡
31	E5h9	N-51°- E	方形	4.92 × 4.45	16	平坦	全周	－	－	－	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀前半
32	D6e1	N-31°- E	［方形］	5.30 ×(5.0)	24～36	(平坦)	(全周)	4	1	－	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀代
33	D5g0	N-47°- E	長方形	4.61 × 4.16	10～16	平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	－	自然	土師器	4世紀代
34	D5f9	N-34°- E	長方形	4.38 × 3.78	12～24	傾斜	—	－	－	－	1	2	自然	土師器，土製品	4世紀代
35	D5i8	N-49°-W	［方形］	3.96 × 3.82	2	平坦	一部	－	－	－	1	1	不明	土師器	4世紀代
36	D5i7	N-47°- E	方形	5.55 × 5.10	8～16	平坦	ほぼ全周	－	－	－	2	4	人為	土師器	4世紀代
37	D5j5	N-51°- E	方形	4.69 × 4.28	6～13	平坦	全周	－	－	－	2	3	自然	土師器	4世紀代
38	E5b3	N-35°- E	方形	8.05 × 7.94	52	平坦	ほぼ全周	4	1	1	1	2	人為・自然	土師器，土製品，鉄製品，石製品	4世紀前～中頃　SI 39→本跡→SK 44
39	E5b4	[N-34°-E]	［方形］	(8.7)×(8.3)	36～40	平坦	(全周)	－	－	－	1	(－)	自然	土師器	4世紀前半　本跡→SI 38
40	D5b8	[N-34°-E]	［方形・長方形］	4.88 ×(2.76)	45～50	平坦	(全周)	－	－	－	－	(－)	人為・自然	土師器，石製品，鉄製品	4世紀代
41	D5c8	N-21°- E	方形	4.13 × 4.11	4～8	平坦	全周	－	－	－	1	1	自然	土師器，鉄製品	4世紀代

住居跡番号	位置	主軸方向(長軸方向)	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	炉			
42	D5d5	N-21°-E	長方形	4.58 × 4.00	16～20	平坦	全周	−	1	−	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀代
43	C5j5	N-87°-W	方形	3.46 × 3.12	不明	(−)	(−)	−	−	−	−	1	不明	土師器	4世紀代
44	D4b3	N-25°-E	長方形	5.15 × 4.08	16～28	平坦	全周	−	−	−	1	2	人為・自然	土師器，土製品	4世紀代
46	C5h1	N- 9°-W	長方形	5.79 × 5.16	12～17	平坦	全周	−	−	−	1	2	自然	土師器	4世紀代
47	C5j1	N-82°-W	方形	3.66 × 3.51	12～17	平坦	全周	−	−	−	1	1	自然	土師器，土製品，石製品	4世紀代
48	D5b1	N- 1°-W	長方形	4.15 × 3.63	32～40	平坦	ほぼ全周	−	−	−	1	2	自然	土師器	4世紀代
49	D5c1	N-17°-E	長方形	4.58 × 3.71	8～16	凹凸	全周	−	−	−	1	−	自然	土師器，土製品	4世紀代
50	D5e1	N-62°-W	方形	3.10 × 2.86	5～8	平坦	ほぼ全周	−	−	−	−	2	自然	土師器	4世紀代
51	D4e9	N-25°-W	方形	5.27 × 5.13	20～33	平坦	全周	4	1	−	1	2	自然	土師器，土製品，鉄製品	4世紀代　SI 61→本跡
52	D4g8	N-17°-E	方形	5.46 × 5.20	12～32	ベッド	ほぼ全周	4	1	−	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀代
53	D4i8	N-36°-E	方形	5.67 × 5.17	22～42	平坦	ほぼ全周	4	−	−	1	2	人為	土師器，土製品	4世紀前半
54	C4g9	N-33°-W	方形	3.80 × 3.77	28～35	平坦	全周	−	−	−	−	1	人為	土師器	4世紀前半
55	C4f8	N-38°-W	方形	3.94 × 3.86	5～8	平坦	全周	−	−	−	−	1	自然	土師器	4世紀代　本跡→SK 29
56	D4c5	N-51°-E	方形	4.59 × 4.25	24～32	平坦	一部	−	−	−	1	1	自然	土師器，土製品，鉄製品	4世紀代
57	D4f4	N-47°-W	長方形	5.87 × 4.98	35～50	平坦	全周	4	−	−	1	1	自然	土師器，土製品，石製品	4世紀代
58	D4e2	N- 6°-W	方形	3.87 × 3.72	6～10	平坦	−	−	−	−	1	1	自然	土師器，土製品，石製品	4世紀代
62	D2g0	N-27°-W	[方形・長方形]	3.82 ×(2.44)	38～46	平坦	ほぼ全周	2	−	−	1	1	自然	土師器，鉄製品	4世紀前～中頃　本跡→SD 8
63	D2c6	N-27°-E	方形	4.88 × 4.63	38～44	平坦	全周	4	1	−	1	1	人為	土師器，土製品，石製品	4世紀中頃　SI 64→本跡
64	D2b6	N-51°-W	方形	4.44 ×[4.25]	18～28	平坦	一部	−	−	−	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀前半　本跡→SI 63
66	D2b3	N-18°-E	方形	[4.81]×[4.43]	18～20	平坦	一部	−	−	1	1	5	自然	土師器，土製品，石製品	4世紀代　本跡→SD 6
67	C4e3	N-44°-E	方形	5.17 × 5.01	38～48	平坦	ほぼ全周	4	−	1	1	2	人為	土師器，土製品，石製品	4世紀前半
68	C4f6	N-28°-W	[方形・長方形]	5.72 ×(4.60)	40～44	平坦	(全周)	(2)	(−)	(−)	(−)	(1)	自然	土師器，土製品	4世紀代
69	C4h4	N-55°-W	長方形	5.17 × 4.73	50～56	凹凸	ほぼ全周	−	−	1	1	1	自然	土師器，土製品，石製品	4世紀代
70	C4j2	N-45°-E	長方形	5.57 × 4.88	10～15	平坦	全周	−	−	−	−	2	自然	土師器，土製品，石製品	4世紀中頃　本跡→SD 8
71	C3h0	N-51°-E	長方形	4.57 × 3.90	24～26	平坦	全周	−	−	−	1	2	自然	土師器，土製品	4世紀前～中頃　本跡→SD 8
72	C3d0	N-47°-E	長方形	5.47 × 4.98	54～71	平坦	全周	4	−	−	1	1	人為・自然	土師器，土製品，石製品	4世紀代
73	D3a9	N-44°-W	方形	6.85 × 6.67	30～42	平坦	ほぼ全周	4	1	−	1	3	人為	土師器，土製品	4世紀代　本跡→SK 50～55・58・63・84
74	C3d5	N-54°-E	長方形	5.38 × 4.57	25～35	平坦	全周	4	−	−	1	1	人為・自然	土師器，土製品	4世紀代
75	C3c9	N-55°-W	方形	4.82 × 4.62	12～20	平坦	一部	−	−	−	1	3	自然	土師器，土製品	4世紀初～前半
76	C1g0	N-54°-E	方形	6.25 × 6.06	30～44	平坦	ほぼ全周	4	−	−	1	2	人為・自然	土師器，土製品，石製品	4世紀代
77	B3j5	N-50°-E	方形	6.18 × 6.15	30～42	平坦	ほぼ全周	4	−	−	1	2	自然	土師器，土製品，石製品	4世紀代
78	C3g6	N-33°-W	方形	6.15 × 6.07	4～8	平坦	全周	3	1	−	−	1	自然	土師器	4世紀代　本跡→SK 56
79	C3h3	N-46°-E	長方形	5.40 × 4.85	10～16	平坦	ほぼ全周	4	1	−	1	2	人為	土師器，土製品	4世紀代
80	D2a9	N-18°-E	[長方形]	5.30 × 4.60	不明	(平坦)	(一部)	−	−	−	−	1	不明	土師器，土製品	4世紀代
81	D3b0	N-42°-E	方形	3.82 × 3.82	6～7	平坦	ほぼ全周	−	−	−	−	−	自然	土師器	4世紀代
82	D3c8	N-33°-W	[長方形]	(4.88)×(4.02)	不明	平坦	−	3	−	−	−	1	不明		4世紀代　本跡→SK 105・106・115・SD 10
83	C3f2	N-34°-E	方形	3.66 × 3.50	7～10	平坦	一部	−	−	−	1	(−)	自然	土師器	4世紀代　本跡→SK 59・60
85	C2d8	N-31°-E	長方形	4.32 × 3.84	24～32	平坦	ほぼ全周	−	−	−	−	1	人為	土師器	4世紀代
86	C2d6	N-34°-E	方形	3.51 × 3.43	5～9	平坦	−	−	−	−	−	−	自然	土師器	4世紀代
87	C2b4	N-33°-E	長方形	5.33 × 4.67	20～28	平坦	ほぼ全周	−	−	−	1	2	人為	土師器，土製品	4世紀代
91	B2h6	N-33°-E	方形	3.56 × 3.28	10～14	平坦	−	−	−	−	−	2	自然	土師器，土製品，石製品	4世紀代
92	C1a0	N-41°-E	方形	4.85 × 4.71	35～40	平坦	ほぼ全周	4	−	−	1	1	人為・自然	土師器，土製品	4世紀代
93	B2e4	N-33°-E	長方形	4.36 × 4.02	8～25	平坦	−	−	−	−	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀前半
94	B2h1	N-26°-E	長方形	4.71 × 4.22	27～34	平坦	一部	1	1	−	1	2	自然	土師器，土製品	4世紀代
95	C1c0	N-39°-E	方形	4.67 × 4.25	23～26	平坦	全周	−	−	−	1	1	自然	土師器，土製品	4世紀前半　本跡→SD 5
96	C1b8	N-67°-E	方形	5.69 × 5.38	15～38	平坦	全周	4	−	−	2	2	人為	土師器，土製品	4世紀代　本跡→SD 5

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	備　考
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	炉			
97	C1d4	N-39°-E	方形	4.94×4.94	18～28	平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	1	自然	土師器，土製品	4世紀代　本跡→SD 6
99	C2e4	N-45°-E	長方形	5.54×4.97	22～34	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	1	人為	土師器，土製品	4世紀中頃　本跡→TM 2
100	C2f6	N-37°-E	方形	4.94×4.65	16～32	平坦	全周	－	1	－	1	2	自然	土師器，土製品	4世紀代　SI 101→本跡
101	C2hc	N-35°-E	長方形	5.54×4.25	2～10	平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	2	人為	土師器，土製品	4世紀代　SI 102→本跡→SI 100

（2）方形周溝墓

第１号方形周溝墓（第196図）

位置　調査区中央部のＣ４i7～Ｄ４b8区の標高27.6ｍほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　耕作のため，方台部は削平されて周溝を残すだけであるが，確認された方台部上面は南北7.72ｍ，東西7.73ｍで，周溝を含めた上面は南北11.04ｍ，東西1.32ｍであり，長軸方向はＮ－73°－Ｗである。平面形は整った方形を呈しているが，北側の溝がほかに比べ若干長く，外周部の西コーナー溝付近がやや丸みをもっている。

周溝　溝は全周しており，上幅147～195cm，下幅107～150cmで，深さ18～46cmである。コーナー部の幅が狭くなっており，南コーナー部，西コーナー部はさらに掘り込みも浅くなっている。底面は東側溝の一部を除いて平坦であり，東側の底面は外側から方台部側に向かって傾斜している。壁は方台部側，外周部側ともに外傾して立ち上がっている。

覆土　８層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　極暗褐色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量

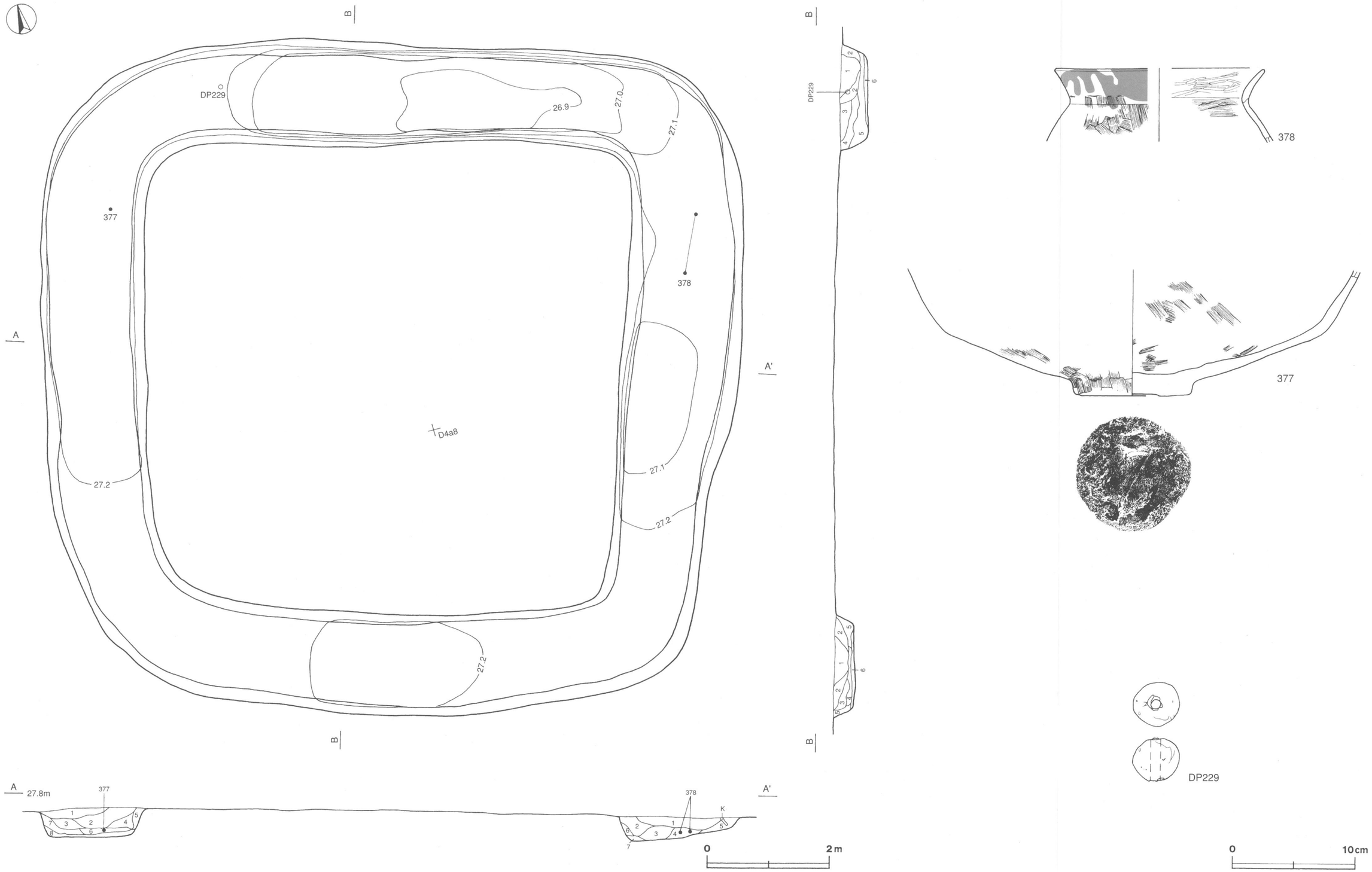
遺物出土状況　土師器片516点（器台７，高坏11，坩10，壺12，甕類476），土製品１点（土玉）が出土しているがほとんどが細片であり，図示できたものは３点だけである。DP229は北コーナー付近の覆土中層，377は覆土下層から，378は東コーナー付近の覆土下層からそれぞれ出土している。そのほか混入した縄文土器106点が出土している。

所見　耕作などによる削平のため，方台部は確認できず，また，良好な遺存状態の遺物も少なかったが，時期は遺構の形状と出土土器から，４世紀前半と考えられる。

第１号方形周溝墓出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
377	土師器	壺	－	(10.4)	9.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面下段ハケ目整形	北コーナー付近下層	15%
378	土師器	甕	[17.2]	(6.1)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部～体部外面ハケ目整形，口辺部内面ヘラ磨き，体部内面上段弱いハケ目整形	東コーナー付近下層	５％煤付着

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP229	土玉	3.5	3.8	0.8	46.2	土	外面ナデ	北コーナー付近中層	



第196図　第１号方形周溝墓・出土遺物実測図

(3) 古墳

今回の調査で，帆立貝形古墳１基と前方後円墳１基が確認された。ともに墳丘は確認できなかったが，第１号墳からは埴輪片が，第２号墳の箱式石棺内からは骨片が確認できた。以下，遺構の特徴と遺物について記す。

第１号墳（第197～201図）

位置　調査区中央部のＣ３i2～Ｄ３f6区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　第１号塚，第10・11号溝，62・64～69・73～76・85～88・96～100・102～107・111～113・115～117・120・121・123～128号土坑に掘り込まれている。

墳形及び規模　墳形は周溝内形から帆立貝形と推定される。第10・11号溝などに掘り込まれているため，全長約21.5m，後円部径約18.0m，前方部幅約13.0mと推定され，主軸方向はN―28°―Wである。

墳丘　土層は23層からなる。第１～17層には埴輪片などが多少混じっているが，第18～23層には埴輪片は見られず，比較的しまっていることから，本墳の盛土であると考えられ，ローム粒子・ロームブロックを微量から中量含んだ黒色土・黒褐色土・暗褐色土である。また，第１～17層は締まりが弱いか普通であり，後世になって塚として構築された，盛土及び表土層と考えらる。このように本墳構築時の盛土は大部分が失われており，構築状況は明確でない。

盛土層解説（表土・第１号塚含む）

1	黒褐色	ローム粒子微量	表土
2	黒褐色	ローム粒子少量	表土
3	極暗褐色	ロームブロック微量	表土
4	極暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	表土
5	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	表土
6	黒褐色	ロームブロック少量	塚盛土
7	極暗褐色	ロームブロック少量	塚盛土
8	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	塚盛土
9	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	塚盛土
10	極暗褐色	ローム粒子中量	塚盛土
11	極暗褐色	ローム粒子微量	塚盛土
12	黒色	ロームブロック・炭化粒子微量	塚盛土
13	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	塚盛土
14	黒色	ローム粒子微量	塚盛土
15	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	塚盛土
16	極暗褐色	ローム粒子少量	塚盛土
17	暗褐色	ロームブロック微量	塚盛土
18	黒色	ロームブロック微量	古墳盛土
19	黒褐色	ロームブロック微量	古墳盛土
20	暗褐色	ロームブロック少量	古墳盛土
21	暗褐色	ローム粒子少量	古墳盛土
22	暗褐色	ローム粒子中量	古墳盛土
23	暗褐色	ロームブロック中量	古墳盛土

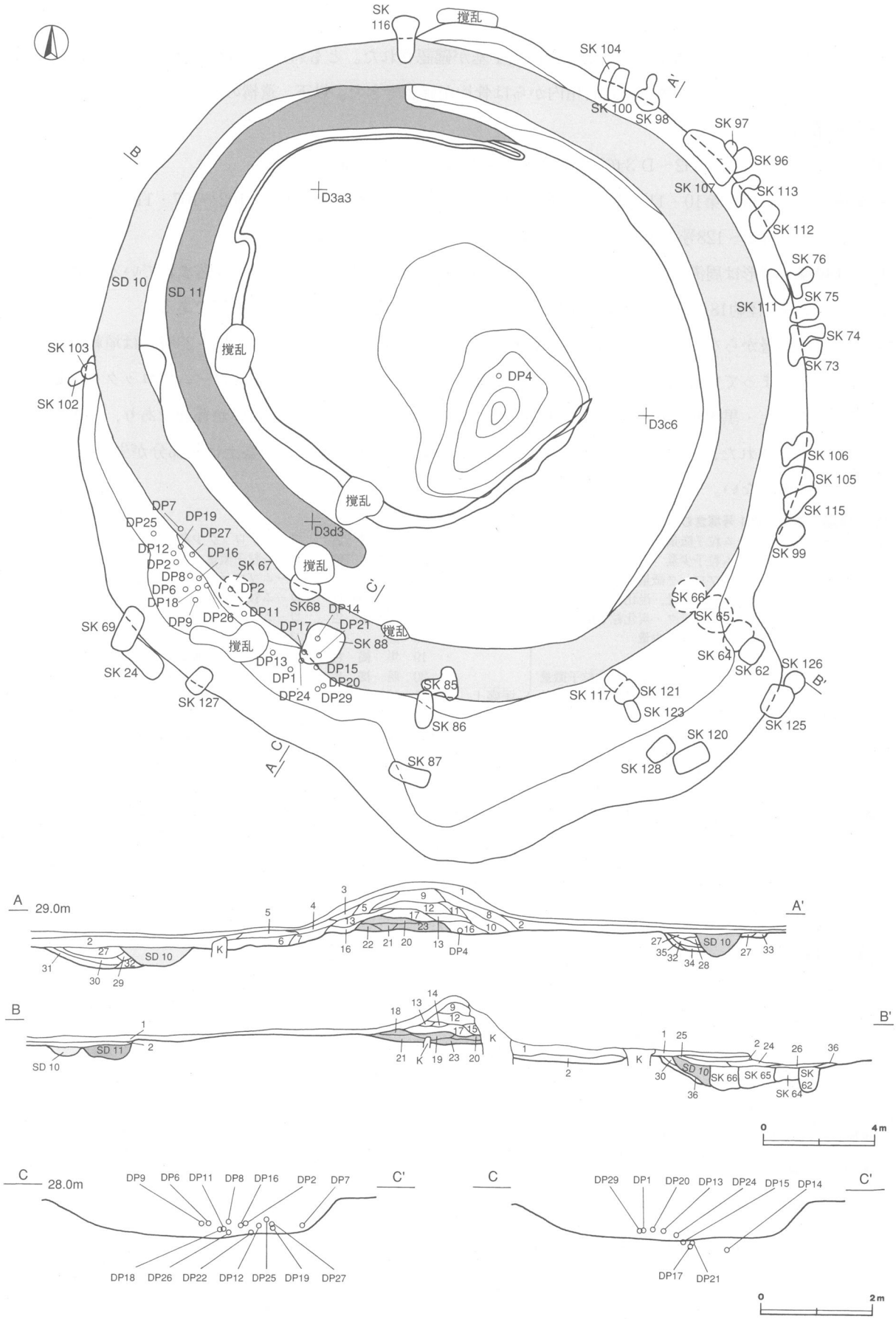
周溝　前方部と考えられる南東側は突出しており，後円部と考えられる北西側は途切れて，全周していない。13層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり，盛土の流入が認められる。土層断面中第24～26層は表土層である。後円部側周溝の上幅は約2.8～3.9mで，下幅は約1.1～3.5m，深さは約0.6～0.9mで，断面形は逆台形状を呈している。

周溝土層解説

24	黒褐色	褐色粒子中量，ローム粒子微量
25	黒褐色	ローム粒子・褐色粒子微量
26	黒褐色	ロームブロック・褐色粒子微量
27	黒色	黒色土ブロック多量
28	褐色	ロームブロック少量
29	暗褐色	ローム粒子微量
30	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
31	黒褐色	ローム粒子微量
32	暗褐色	ロームブロック微量
33	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
34	極暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
35	暗褐色	ロームブロック少量
36	極暗褐色	ローム粒子微量

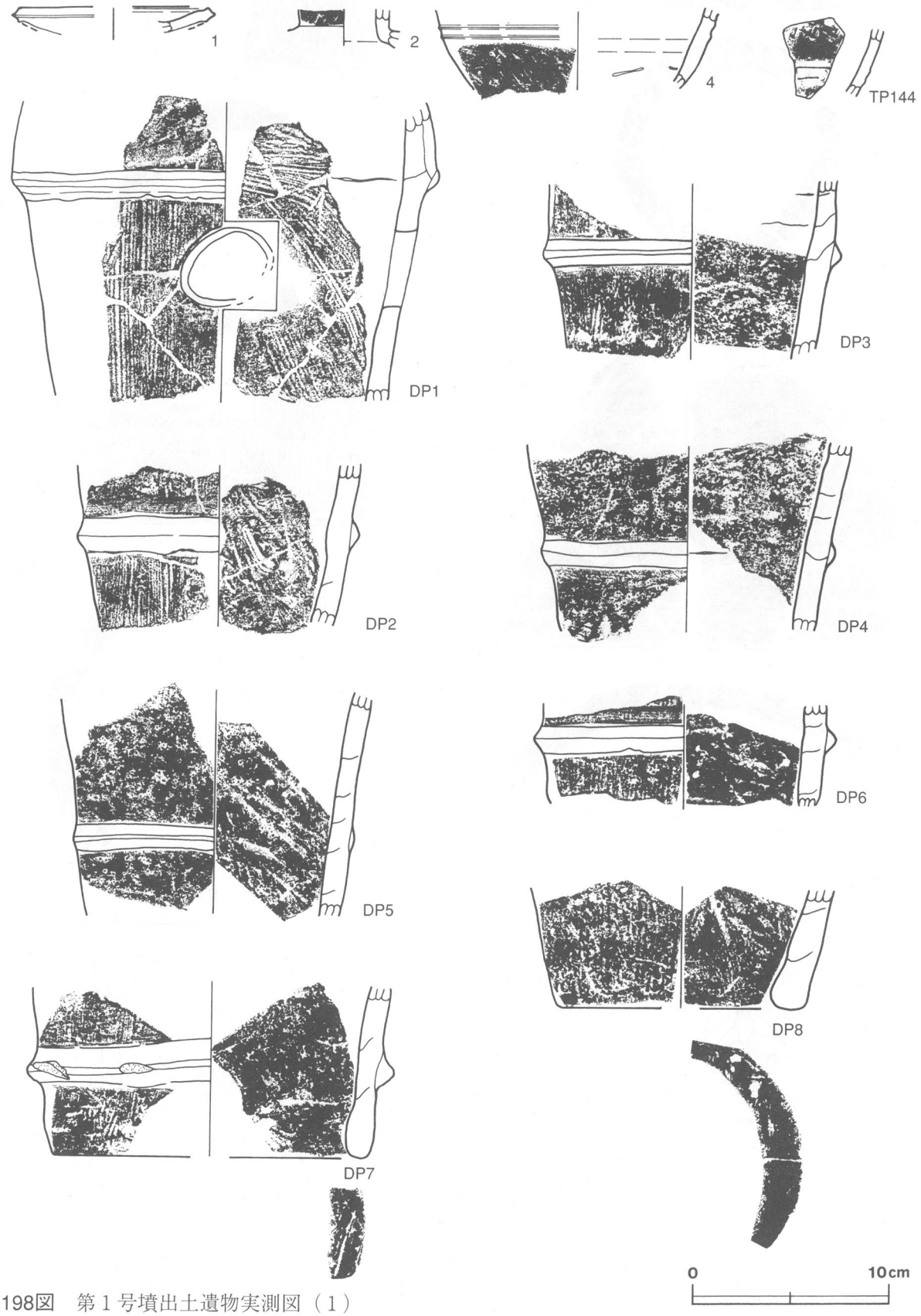
埋葬施設　確認できなかった。

遺物出土状況　土師器片905点（坏64，椀１，甕832，高坏８），須恵器片４点（瓶ヵ２，無蓋高坏ヵ２），埴輪片3653点（円筒埴輪3213，人物埴輪440)が出土しており，特に埴輪片は南部の括れ部側周溝下層から多く出土している。１・２・４・TP144は周溝の覆土から出土しており，本墳に伴うものと考えられる。DP４は土層断面図中第16層の下層から出土しているため，墳丘は塚として利用されたものと考えられる。DP１～DP３，DP５～29は本墳南部のくびれ部側周溝の底面から下層にかけて出土したものであり，墳丘上にあったものが，周溝に流れ落ちたものと考えられる。

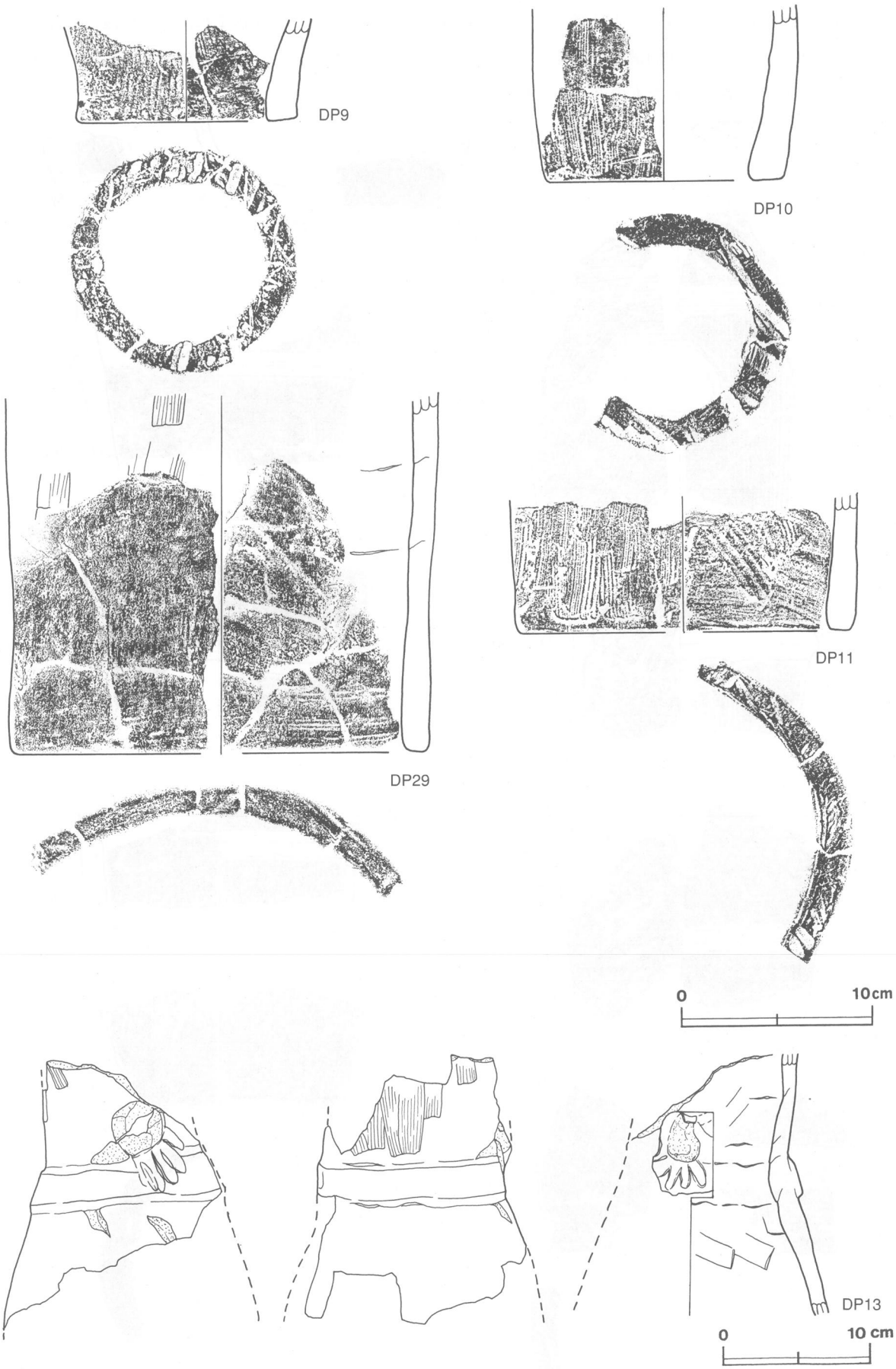


第197図　第１号墳実測図

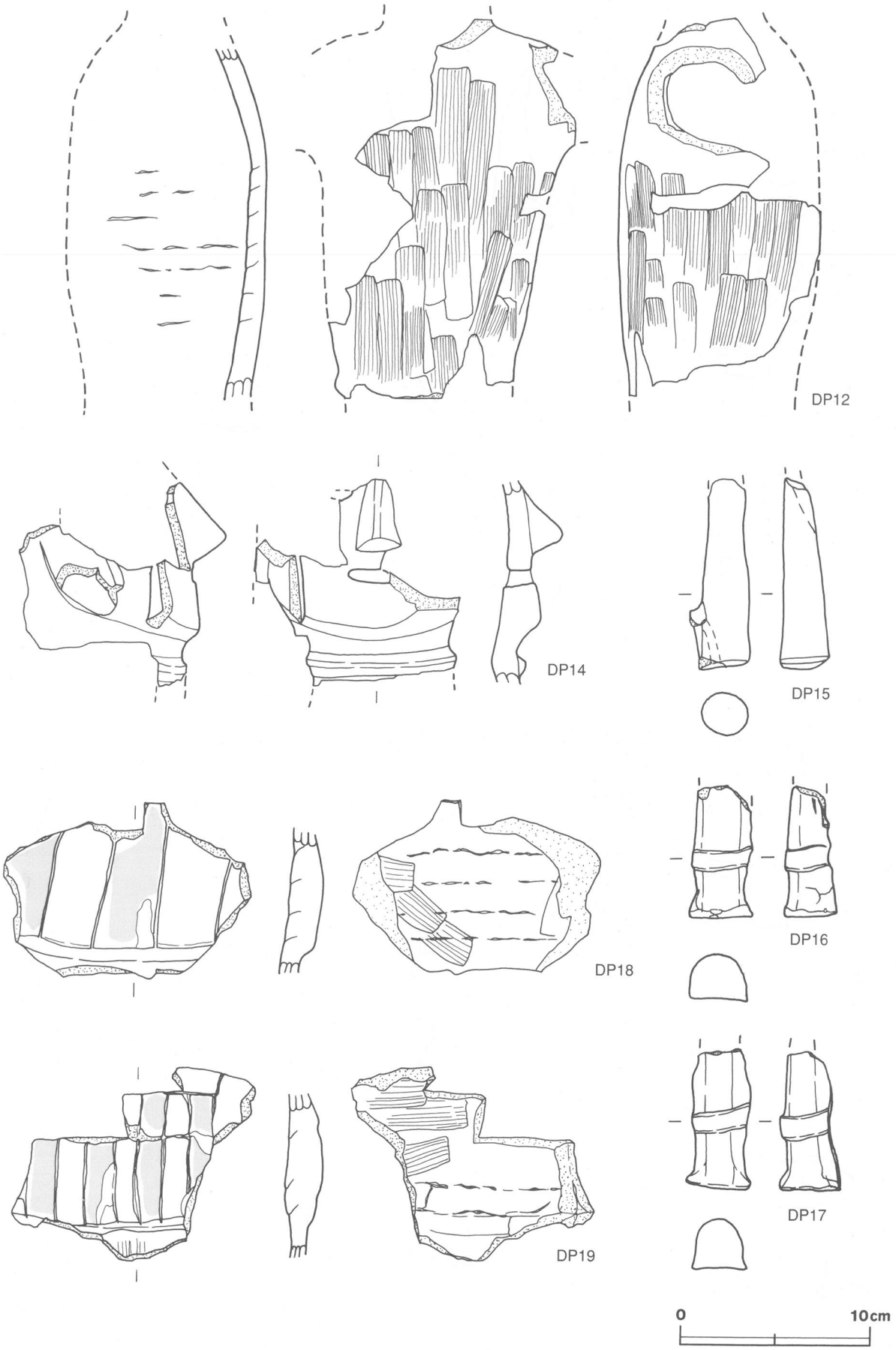
所見　本墳は，第10・11号溝や第１号塚によって，周溝や墳丘の大部分を掘り込まれ，埋葬施設も確認できなかったが，南部のくびれ部側周溝から多くの埴輪片を確認することができた。本墳は出土した埴輪片の形状などから６世紀後半に築造されたものと考えられる。



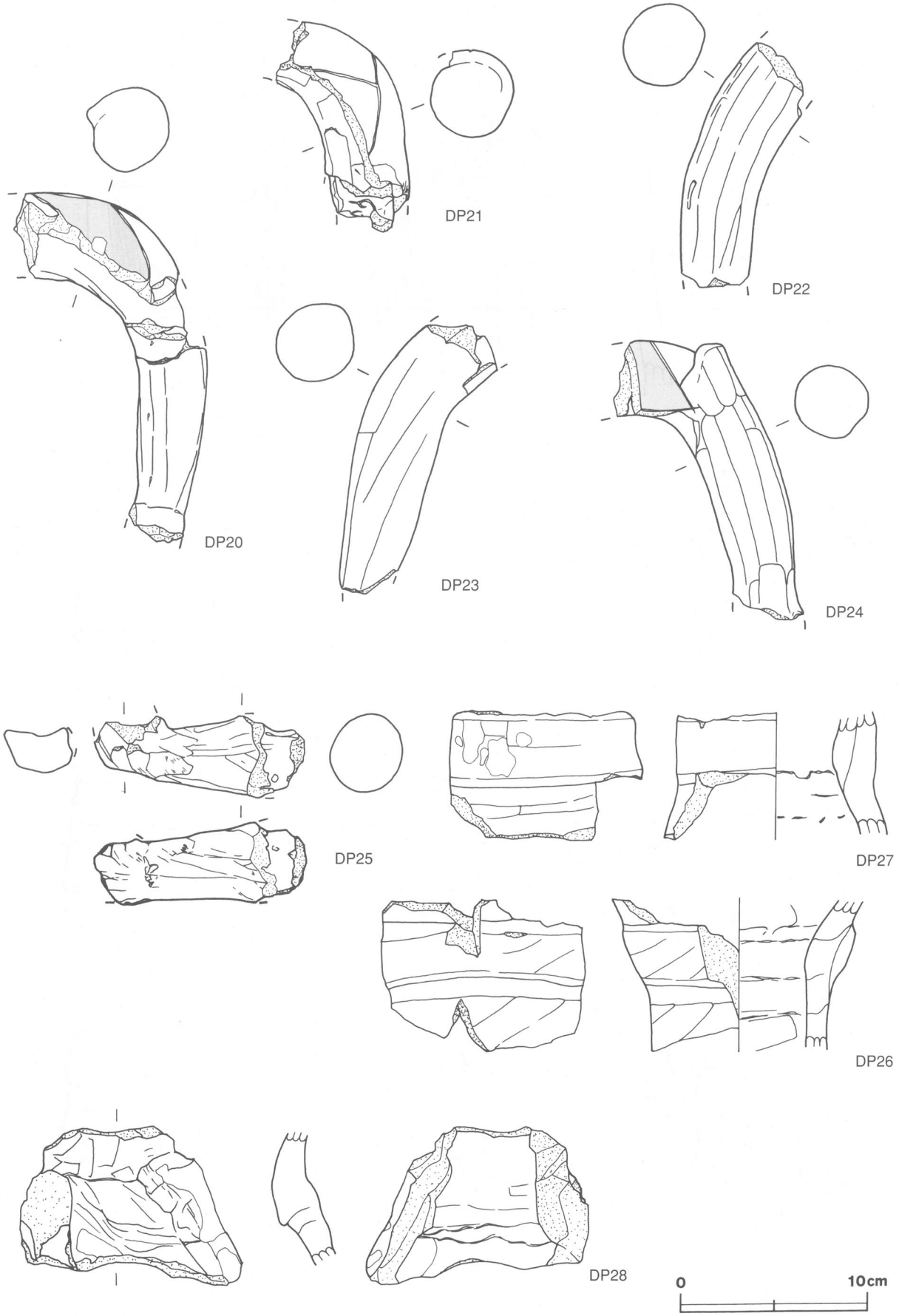
第198図　第１号墳出土遺物実測図（１）



第199図　第１号墳出土遺物実測図（２）



第200図　第１号墳出土遺物実測図（３）



第201図　第１号墳出土遺物実測図（４）

第１号墳出土遺物観察表（第198～201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	𤮈ヵ	〔9.8〕	(1.3)	－	緻密	灰	良好	口辺部ロクロナデ	周溝覆土中	
2	須恵器	𤮈ヵ	－	(1.7)	－	緻密	灰	良好	頸部外面に10本の櫛歯状工具による波状文	周溝覆土中	
4	須恵器	無蓋高坏ヵ	－	(4.2)	－	緻密	灰	良好	体部外面に２条の凸帯と４本と12本の櫛歯状工具による波状文	周溝覆土中	
TP144	須恵器	無蓋高坏ヵ	－	(3.5)	－	緻密	灰	良好	体部外面に２条の凸帯と12本の櫛歯状工具による波状文	周溝覆土中	PL38

番号	器種	口径	器高	底径	色調	特　徴	出土位置	備考
DP1	円筒埴輪	(20.8)	(15.2)	－	明褐	外面縦ハケ後凸帯貼り付け，内面縦ハケ，円形透孔，凸帯断面三角形	くびれ部側周溝下層	
DP2	円筒埴輪	(14.4)	(8.2)	－	にぶい赤褐	外面縦ハケ後凸帯貼り付け，内面縦ハケ，凸帯断面三角形	くびれ部側周溝下層	
DP3	円筒埴輪	(14.8)	(8.9)	－	明褐	外面縦ハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ，凸帯断面三角形	くびれ部側周溝下層	
DP4	円筒埴輪	(16.8)	(9.6)	－	明褐	外面ナデ後凸帯貼り付け，内面ナデ，凸帯断面三角形	盛り土最下層	
DP5	円筒埴輪	(16.0)	(11.3)	－	橙	外面ナデ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ，凸帯断面三角形	くびれ部側周溝下層	
DP6	円筒埴輪	(14.4)	(5.1)	－	明褐	外面縦ハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ，凸帯断面三角形	くびれ部側周溝下層	
DP7	円筒埴輪	(18.4)	(8.6)	〔16.1〕	明褐	外面縦ハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ，凸帯断面三角形	くびれ部側周溝下層	
DP8	円筒埴輪	(15.6)	(6.1)	〔12.4〕	明褐	外面縦ハケ，内面ナデ	くびれ部側周溝下層	
DP9	円筒埴輪	(12.9)	(5.2)	11.5	にぶい橙	外面縦ハケ，内面ナデ，基底部茎状の圧痕	くびれ部側周溝下層	
DP10	円筒埴輪	(13.8)	(9.1)	12.2	にぶい赤褐	内外面縦ハケ，基底部茎状の圧痕	くびれ部側周溝下層	
DP11	円筒埴輪	(18.2)	(7.1)	〔17.0〕	にぶい褐	外面縦ハケ，内面ヘラナデ後縦ハケ，基底部茎状の圧痕	くびれ部側周溝下層	PL40
DP29	円筒埴輪 形象埴輪 基台部？	(22.6)	(18.5)	〔21.6〕	にぶい褐	外面縦ハケ，内面ナデ，基底部茎状の圧痕	くびれ部側周溝下層	20% PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	色調	特　徴	出土位置	備考
DP12	形象埴輪 人物埴輪	(20.2)	(12.9)	10.4	にぶい褐	人物の胴部，外面縦ハケ，内面ナデ	くびれ部側周溝下層	35% PL39
DP13	形象埴輪 人物埴輪	(18.5)	(14.6)	〔15.2〕	橙	人物の背部～器台部，外面縦ハケ，内面ヘラナデ	くびれ部側周溝下層	15% PL39
DP14	形象埴輪 人物埴輪	(10.6)	(10.7)	2.2	にぶい橙	人物の顔部，鼻貼り付け後，ナデ	くびれ部側周溝底面	10% PL39
DP15	形象埴輪 人物埴輪	(10.0)	2.8	2.2	明赤褐	人物の美豆良片，ナデ	くびれ部側周溝底面	PL40
DP16	形象埴輪 人物埴輪	(6.9)	(3.4)	2.3	橙	人物の剣部，ナデ	くびれ部側周溝下層	PL40
DP17	形象埴輪 人物埴輪	(7.4)	3.4	2.5	橙	人物の剣部，ナデ	くびれ部側周溝底面	PL40
DP18	形象埴輪 人物埴輪	(9.2)	(13.0)	1.7	にぶい褐色	人物の鎧部，線刻・赤彩	くびれ部側周溝下層	10%
DP19	形象埴輪 人物埴輪	(10.1)	(12.8)	2.0	明赤褐	人物の鎧部，線刻・赤彩	くびれ部側周溝下層	10%
DP20	形象埴輪 人物埴輪	(18.7)	(10.4)	4.6	橙	人物の左腕，鎧部に線刻・赤彩，指貼り付け痕	くびれ部側周溝下層	10% PL40
DP21	形象埴輪 人物埴輪	(10.5)	(7.9)	4.8	橙	人物の左腕，鎧部に線刻，ナデ	くびれ部側周溝底面	
DP22	形象埴輪 人物埴輪	(13.0)	(6.6)	4.5	にぶい明赤褐	人物の腕，ナデ	くびれ部側周溝下層	
DP23	形象埴輪 人物埴輪	(14.3)	(8.4)	4.1	にぶい橙	人物の腕，ナデ	くびれ部側周溝下層	
DP24	形象埴輪 人物埴輪	(14.9)	(10.3)	4.1	にぶい橙	人物の左腕，鎧部に線刻・赤彩，指残存	くびれ部側周溝下層	10% PL40
DP25	形象埴輪 人物埴輪	(11.4)	(4.4)	4.2	にぶい橙	人物の腕～手，手の平を上に向け，椀あるいは坏を捧げ持つ。ナデ	くびれ部側周溝下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	色調	特　徴	出土位置	備考
DP26	形象埴輪 人物埴輪	(8.1)	(13.1)	2.2	にぶい橙	人物の胴部，内外面ナデ	くびれ部側周溝下層	10%
DP27	形象埴輪 人物埴輪	(6.9)	(12.1)	2.4	にぶい褐	人物の胴部，内外面ナデ	くびれ部側周溝下層	10%
DP28	形象埴輪 人物埴輪	(8.5)	(11.8)	2.4	にぶい褐	人物の胴部，外面ナデ後剣貼り付け，内面ナデ	くびれ部側周溝下層	

第２号墳（第202～205図）

位置　調査区西部のＣ２c3～Ｃ２j6区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　第99号住居を掘り込み，第５・８号溝に掘り込まれている。

墳形及び規模　前方後円墳で，主軸方向はＮ―49°―Ｗであり，墳丘の全長は約26.5m，周溝を含む全長は約31.3m，周溝内法で後円部径約20.1m，前方部のくびれ部幅約13.3mであり，くびれの少ない墳形を呈している。

墳丘　遺構確認時には，既に耕作等によって削平されており，盛土は現存していない。

周溝　全周しており，上幅は約1.9～3.7mで，下幅は約0.7～2.2m，深さは約0.2～0.5mで，断面形は逆台形状を呈している。覆土はロームブロックを主体として13層からなり，盛土の流入が認められる。

周溝土層解説

1　黒　　色　黒色土ブロック多量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量
3　黒 褐 色　ロームブロック微量
4　暗 褐 色　ロームブロック微量
5　黒 褐 色　ローム粒子少量
6　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　極暗褐色　ロームブロック中量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量
9　褐　　色　ロームブロック中量
10　極暗褐色　ロームブロック微量
11　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
12　暗 褐 色　ローム粒子中量
13　暗 褐 色　ロームブロック少量

埋葬施設　箱式石棺が，前方部に確認された。石棺の主軸方向はＮ－50°－Ｗであり，本墳の主軸方向とほぼ一致する。箱式石棺は，長さ約2.3m，幅約1.0m，深さ約0.9mで，ローム面を掘り込んで構築されている。掘り方は長さ2.9～3.0m，幅2.1～2.4m，深さ約1.3mのほぼ長方形を呈している。

石棺内には土砂が流入し，最下層に小骨片を多く含んでいる。掘り方の覆土は23層で，各層とも固く締まっており，石棺を固定するために突き固めたものと考えられる。掘り方の覆土上層には，粘土ブロックが確認でき，これも石棺を固定されるためのものと考えられる。

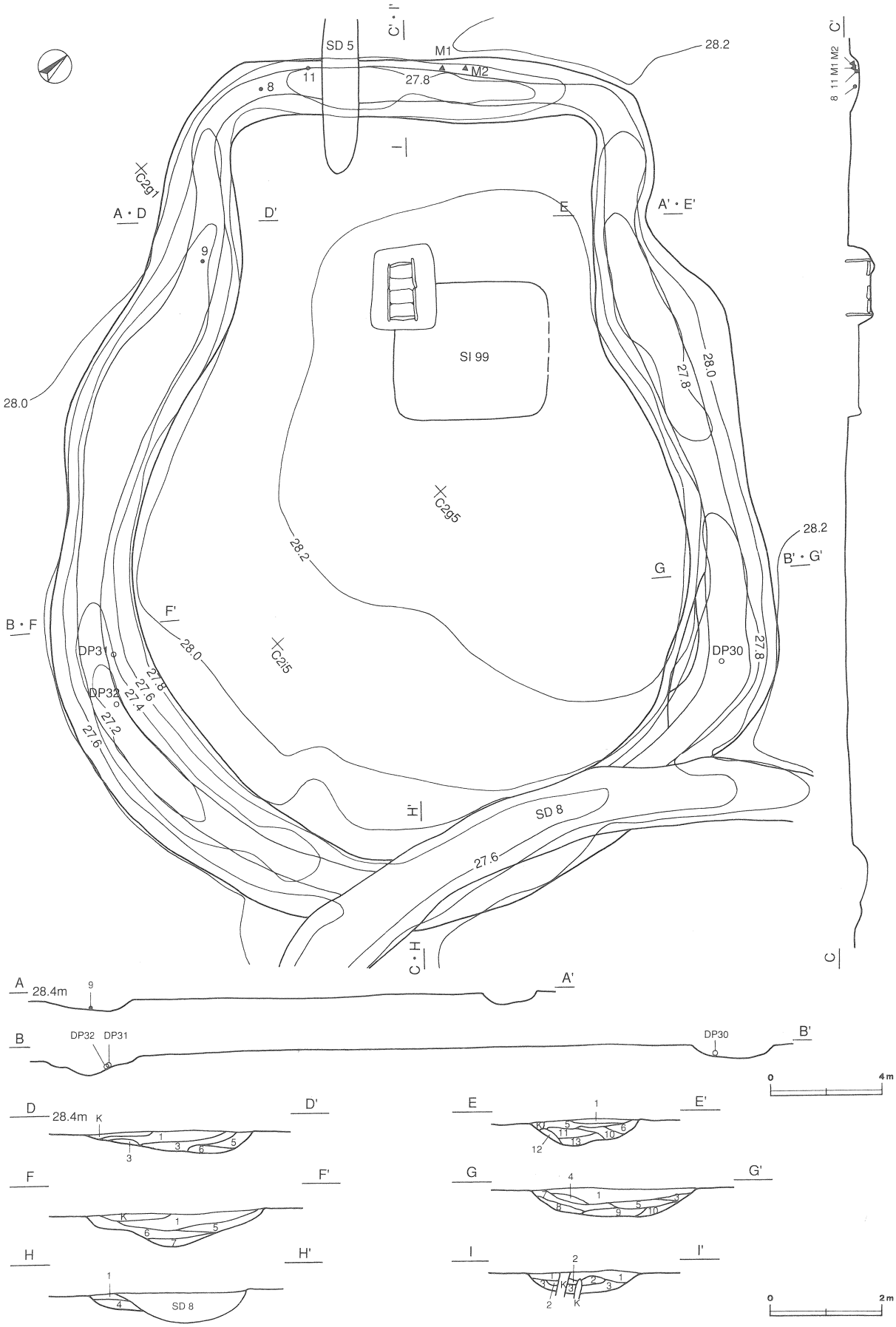
石棺を構成する石材は雲母片岩で，板状に加工し，直方体の箱状に組み合わせて構築している。石棺材は蓋石が３枚，側板は各２枚，小口板は各１枚，底板は４枚（うち１枚は外され，表土上で確認），合計13枚の板材で構成される。

石棺内土層解説

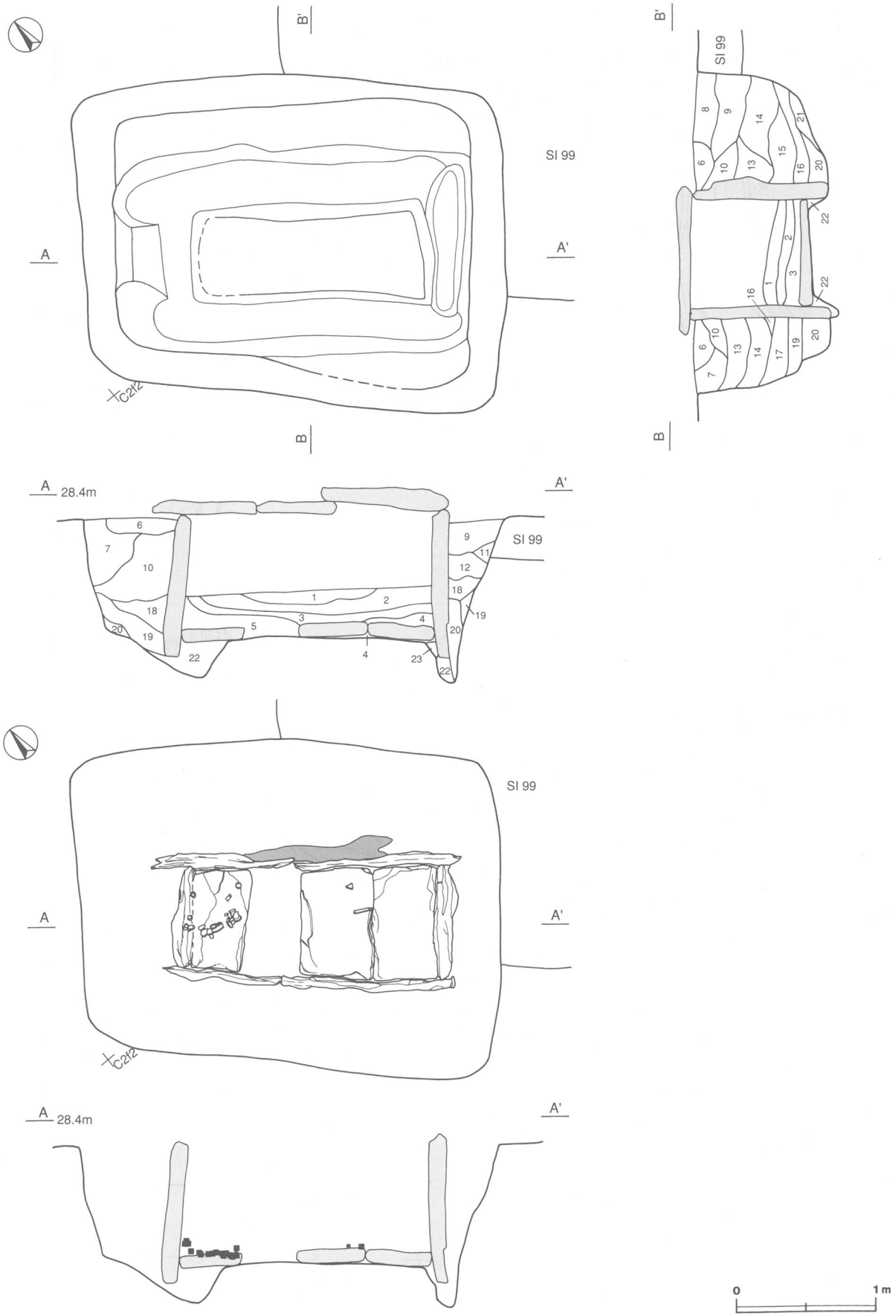
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　砂粒少量，ロームブロック微量
3　黒 褐 色　ローム粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子微量
5　暗 褐 色　小骨片多量，ローム粒子少量

掘り方土層解説

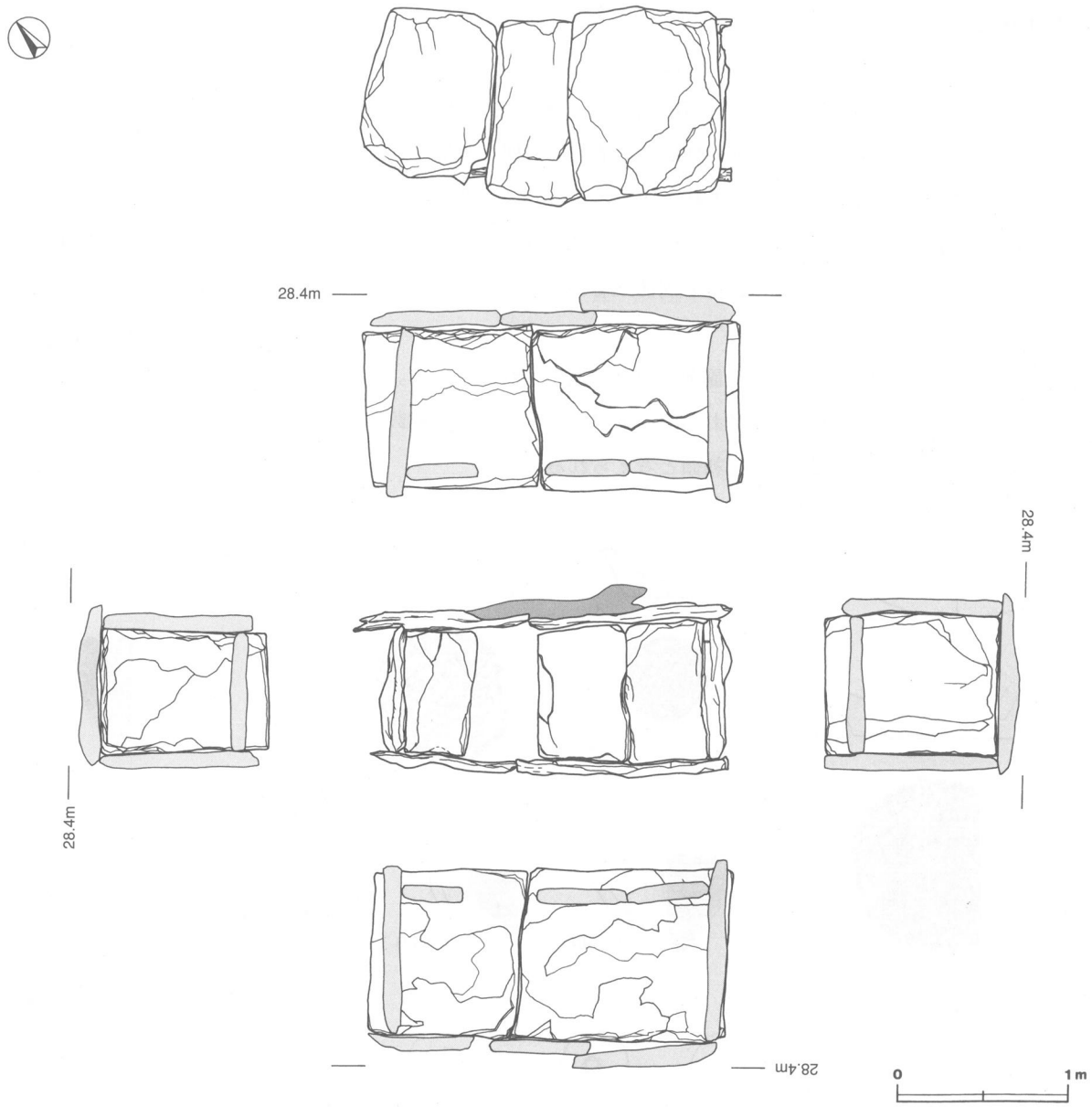
6　灰 褐 色　粘土中ブロック中量，ロームブロック少量
7　暗 褐 色　ロームブロック中量，粘土ブロック微量
8　黒 褐 色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
9　黒 褐 色　ロームブロック中量，粘土ブロック微量
10　極暗褐色　ロームブロック少量
11　暗 褐 色　ロームブロック少量
12　褐　　色　ロームブロック多量
13　黒 褐 色　ロームブロック少量
14　極黒褐色　ロームブロック中量
15　暗 褐 色　ロームブロック少量
16　褐　　色　ロームブロック中量
17　黒 褐 色　ロームブロック少量
18　極暗褐色　ロームブロック多量
19　褐　　色　ローム粒子中量
20　褐　　色　ローム粒子多量
21　極暗褐色　ロームブロック少量
22　暗 褐 色　ローム粒子微量
23　褐　　色　ロームブロック少量



第202図　第２号墳実測図（１）



第203図　第２号墳実測図（２）



第204図　第２号墳実測図（３）

石棺内遺物出土状況

石棺内からは，骨片603点，歯牙50点が出土し，副葬品は認められない。

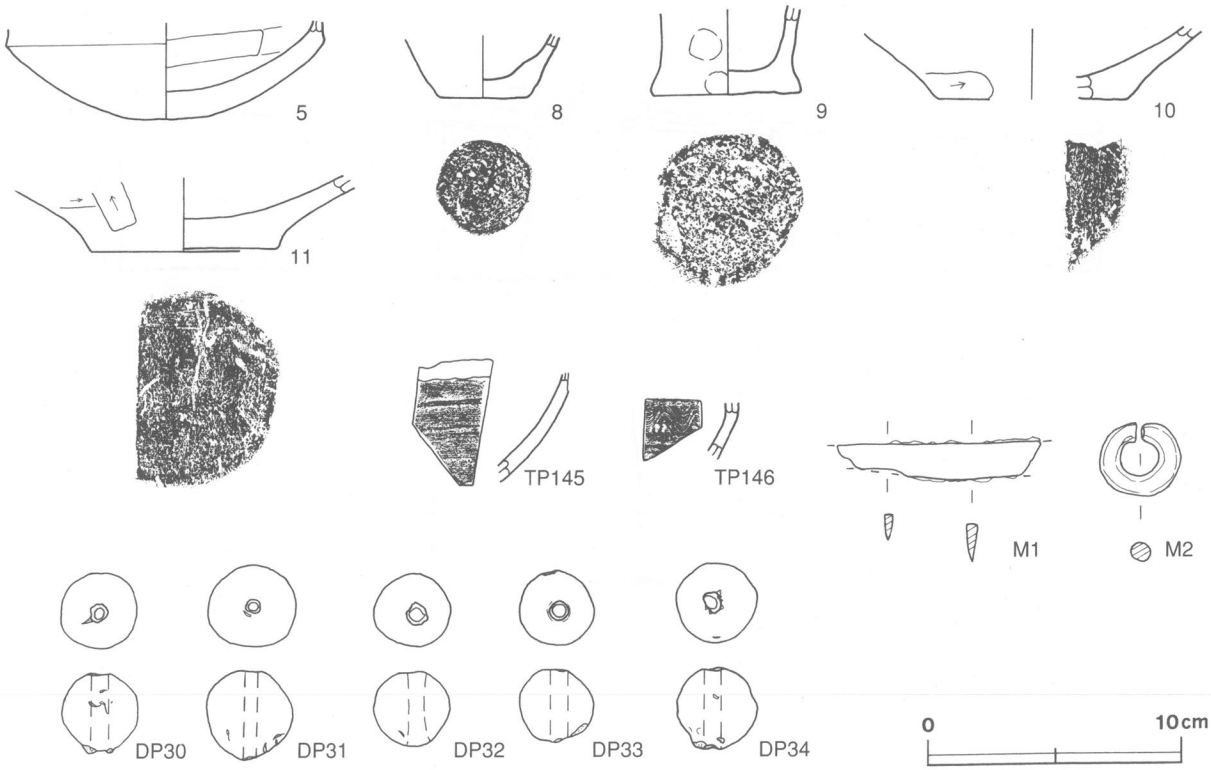
骨片や歯牙は，石棺の北西部に寄せ集められ，本来の埋葬状態を保っていない。出土人骨は，パリノ・サーヴェイ株式会社に鑑定を依頼した結果，石棺内から出土した歯牙の内，下顎の左第１大臼歯及び第２大臼歯が，それぞれ６点出土していることから，最小個体数として６体と同定された。壮年初期（20歳代前後）から熟年期前期（30～40歳代）の男性が大部分で，胎児・新生児・乳幼児・小児などや老人の人骨及び女性の人骨も含まれていた。本墳は，主体部が箱式石棺であり，主体部の位置が前方部にある変則的古墳（常総型古墳）で追葬例が顕著に認められ，本墳でも追葬が確認された。（付章参照）

蓋石部分の目張り粘土は確認できず，一部には重なりが認められ，蓋石は既にはずれていたと考えられる。また，副葬品も確認されていないため，本跡は既に開口されており，追葬された割には残されていた骨格が少なく，追葬盗掘の際の投棄か，また，盗掘の際の廃棄の双方が想定されるが明確でない。

遺物出土状況

周溝から土師器片2859点（坏398，高坏３，器台23，坩10，ミニチュア３，手捏２，甕2420），須恵器片２点（坏ヵ１，瑞ヵ１），土製品５点（土玉），鉄製品１点（刀子），耳環１点が出土している。多くが細片で破断面が摩滅しており，加えて，本墳は第99号住居（古墳時代前期）を掘り込んで構築されているため，溝中に混入したり，墳丘構築時の盛土の中に含まれていたものが流入したものと考えられる。５・TP145・TP146・DP33・DP34は周溝の覆土中から出土し，８・９・11は南西部の周溝下層，DP30は北東部の周溝下層，DP31・32は南東部の周溝下層，Ｍ１・２は西部の周溝下層から出土している。５～９，Ｍ２は器形などから本墳に伴う可能性が高い。

所見　主体部は，既に開口されおり，副葬品などは検出されなかった。また，石棺内出土の人骨を同定した結果，５回以上の追葬があったと推定される。時期は，墳形及び埋葬施設の形状や位置，さらに埴輪が出土していない点などから，６世紀末～７世紀初頭と考えられる。



第205図　第２号墳出土遺物実測図

第２号墳出土遺物観察表（第205図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
5	土師器	坏	－	(3.7)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面器面荒れ，内面ヘラナデ	周溝覆土中	
8	土師器	ミニチュア土器	－	(2.4)	3.6	長石・石英	橙	普通	外面ナデ，内面削り	南部周溝下層	15%
9	土師器	手捏	－	(3.4)	5.8	長石・石英	明赤褐	普通	外面指頭による押圧	南部周溝下層	15% PL32
10	土師器	甕	－	(2.7)	〔7.6〕	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り，内面ナデ	周溝覆土中	
11	土師器	甕	－	(2.7)	7.6	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り，内面ナデ	南部周溝下層	
TP145	須恵器	坏ヵ	－	(4.7)	－	長石	黄灰	良好	体部外面に櫛歯状工具による波状文	周溝覆土中	
TP146	須恵器	瑞ヵ	－	(2.1)	－	石英	黄灰	良好	体部外面に７本の櫛歯状工具による波状文	周溝覆土中	

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP30	土玉	3.1	3.1	0.7	26.1	土	ナデ	北東部周溝下層	
DP31	土玉	3.5	3.5	0.5	38.6	土	ナデ	南東部周溝下層	

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP32	土玉	2.9	3.1	0.8	26.3	土	ナデ	南東部周溝下層	
DP33	土玉	2.9	3.0	0.7	22.3	土	ナデ	周溝覆土中	
DP34	土玉	3.2	3.3	0.8	27.5	土	ナデ	周溝覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(8.1)	1.5	0.4~0.5	(13.2)	鉄	刃部の破損，刃先・茎部欠損	西部周溝下層	PL46

番号	器種	外径	内径	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
M 2	耳環	3.3	1.6	0.8	25.8	鉄	鉄地銅張り，表面は緑青で覆われ，鍍金や鍍銀は確認できない。	西部周溝下層	PL46

表４　古墳一覧表

番号	位　置	墳丘主軸方向	規模（周溝内法　m）					埋葬施設	周　溝（m）			遺　物	備考（時期）
			全長	高さ	前方部幅	後方部幅	後方部長		上幅	下幅	深さ		
1	C3i2～D3f6	N-28°-W	(21.5)	(0.7)	(18.0)	(13.0)	－	不明	2.8～3.9	1.1～3.5	0.6～0.9	土師器片・須恵器片・埴輪片	６世紀後半
2	C2c3～C2j6	N-49°-W	26.5	－	13.3	20.1	10.0	箱式石棺	1.9～3.7	0.7～2.2	0.2～0.5	土師器片・須恵器片・土製品・鉄製品・骨片・歯牙	６世紀末～７世紀初頭

（4）土坑

第４号土坑（第206図）

位置　調査区西部のＤ６h3区に位置し，標高約26.8mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸247cm，短軸132cmほどの不整長方形で，長軸方向はＮ－74°－Ｅである。深さは21cmほどで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

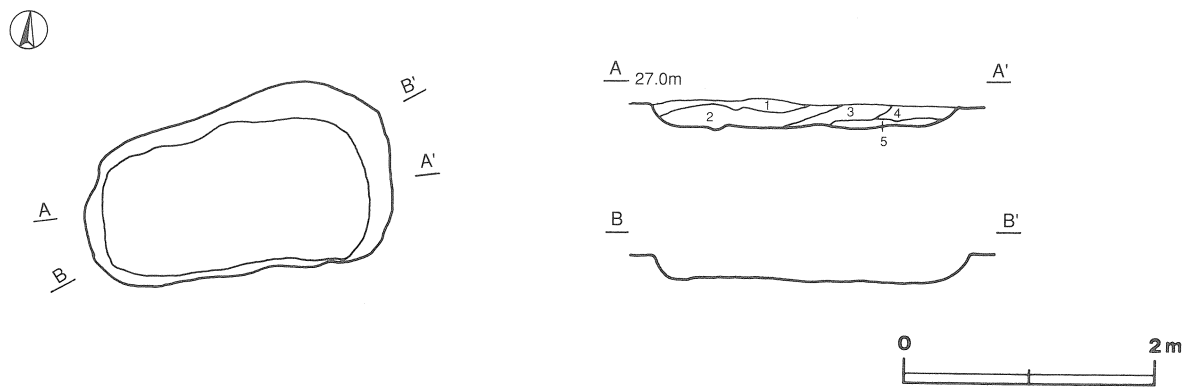
覆土　５層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　極暗褐色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　覆土下層から床面にかけて土師器片２点（甕）が出土しているが，細片のため図示できなかった。

所見　時期は，出土土器から４世紀代と考えられる。性格は不明である。



第206図　第４号土坑実測図

第34号土坑（第207図）

位置　調査区中央部のD4h4区に位置し，台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸208cm，短軸180cmほどの隅丸長方形で，長軸方向はN－33°－Wである。深さは34cmほどで，底面は皿状であり，壁は緩斜している。

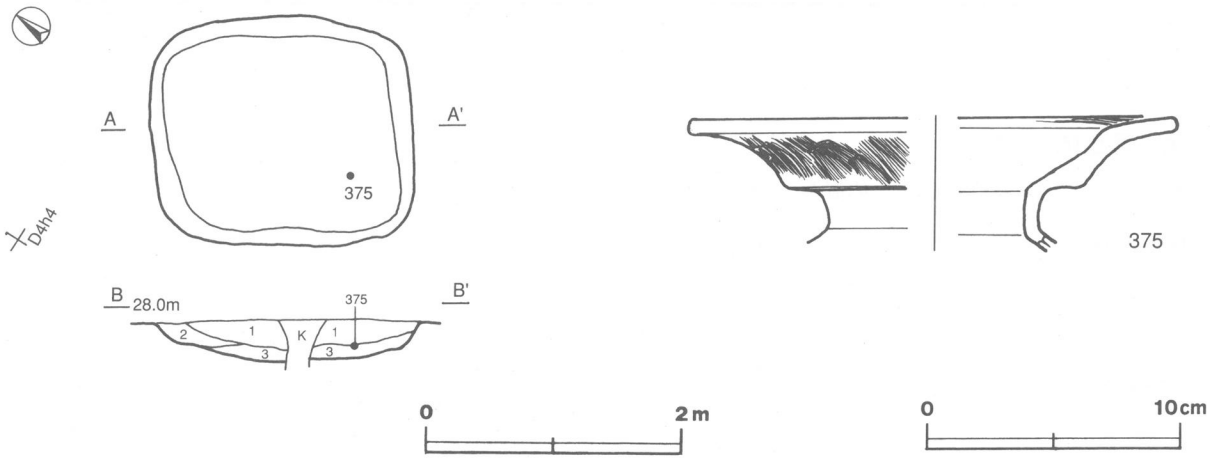
覆土　3層からなり，ロームブロック・粒子を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片32点（壺4，甕28），礫1点が南側の覆土中層から下層にかけて出土しており，図示できたものは1点である。375は覆土下層から投棄されたような状態で出土している。そのほか混入した縄文土器4点が出土している。

所見　土器片はいずれも細片であり，覆土中層から下層にかけて投棄されたような状態で出土しているが，ほとんど接合できるものはない。性格については明確でないが，時期は出土土器や周辺の住居跡から，4世紀代と考えられる。



第207図　第34号土坑・出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表（第207図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
375	土師器	壺	[19.3]	(5.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部外面ハケ目整形，口唇部内面ハケ目整形	床面	10%

表5　古墳時代土坑一覧表

土坑番号	位　置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規　模(m)（長軸×短軸）	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備　考（旧→新）
4	D6h3	N-74°-E	不整長方形	2.47×1.32	21	緩斜	平坦	自然	土師器片	
34	D4h4	N-33°-W	隅丸長方形	2.08×1.8	34	緩斜	皿状	人為	土師器片	

3　中・近世の遺構と遺物

今回の調査で，掘立柱建物跡３棟，塚１か所，井戸跡１基，溝跡３条，墓壙35基を確認した。以下，検出された遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

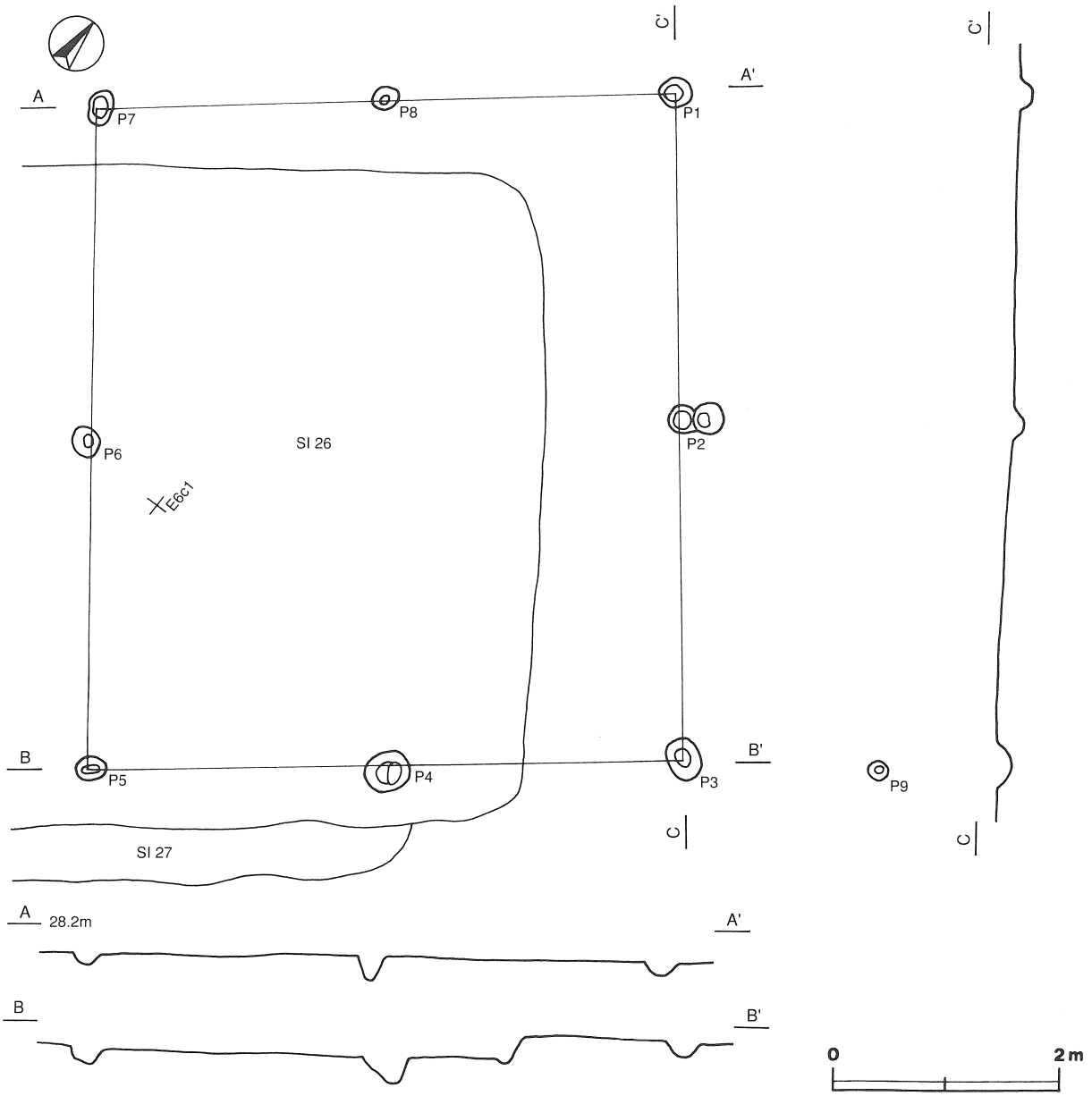
第１号掘立柱建物跡（第208図）

位置　調査区東部のＥ６b1区に位置し，標高約28.1mほどの台地の平坦部に立地している。

重複関係　Ｐ４，Ｐ５，Ｐ６が第26号住居を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行方向をＮ－37°－Ｗの南北棟である。規模は桁行5.95m，梁行5.26mで，柱間寸法は，桁行2.94～3.04m，梁行2.54～2.64mである。柱穴は規則的に配置され，柱筋もほぼ芯々を通っている。

柱穴　いずれも円形で，深さは10～24cmである。



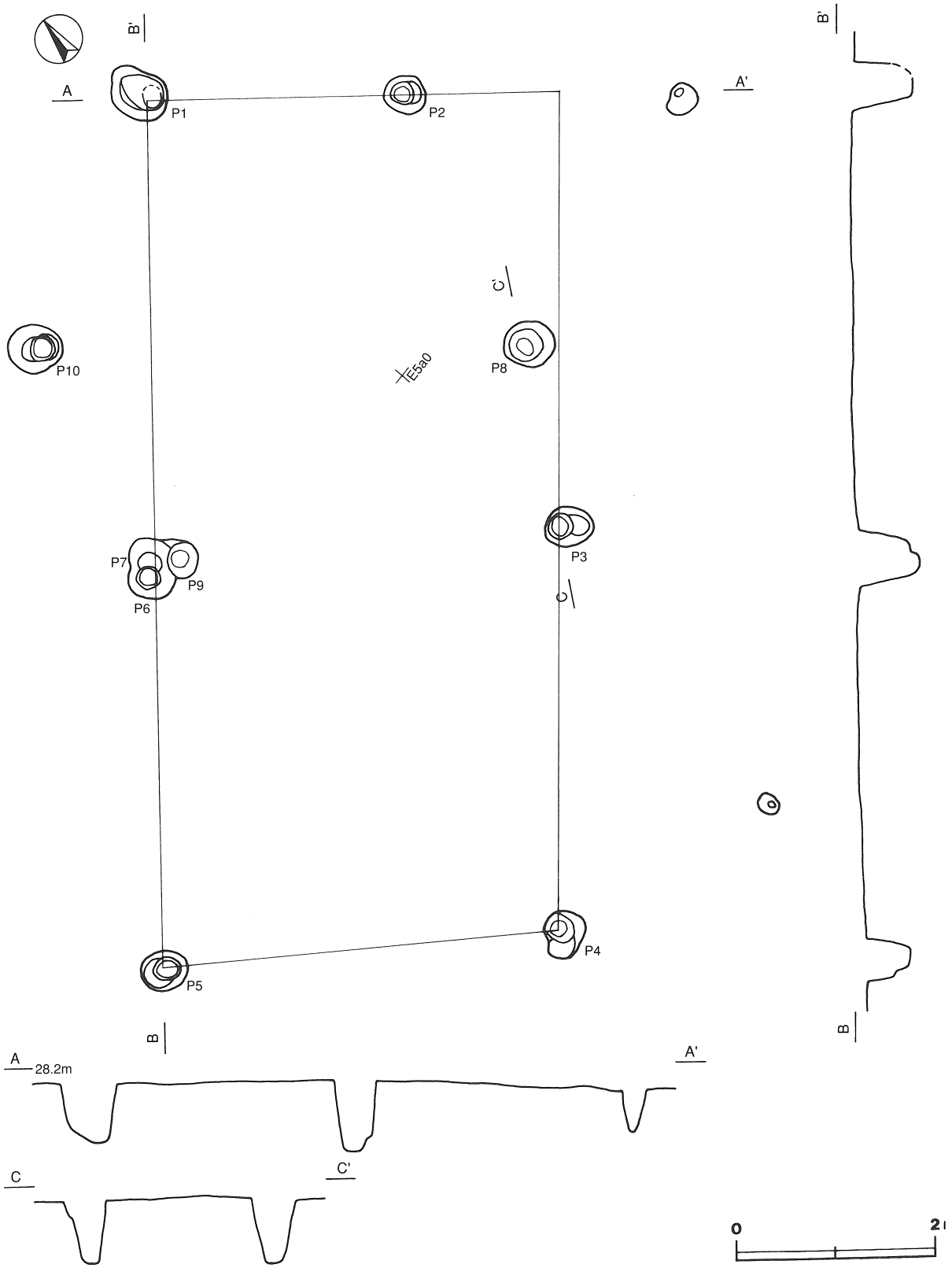
第208図　第１号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　土器が出土していないために時期決定が困難であるが，柱穴の規模，形状から中世以降と考えられる。

第２号掘立柱建物跡（第209図）

位置　調査区東部のＥ５a9区に位置し，標高約28.1ｍほどの台地の平坦部に立地している。



第209図　第２号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行方向をＮ－50°－Ｅの南北棟である。規模は桁行8.66m，梁行4.12mで，柱間寸法は，桁行3.92～4.74m，梁行1.56～2.56mである。東部の隅柱，南西列中央部の柱穴は確認できなかった。柱筋は揃うが，柱間はややばらつきがある。

柱穴　平面形はいずれも円形で，深さは46～72cmである。

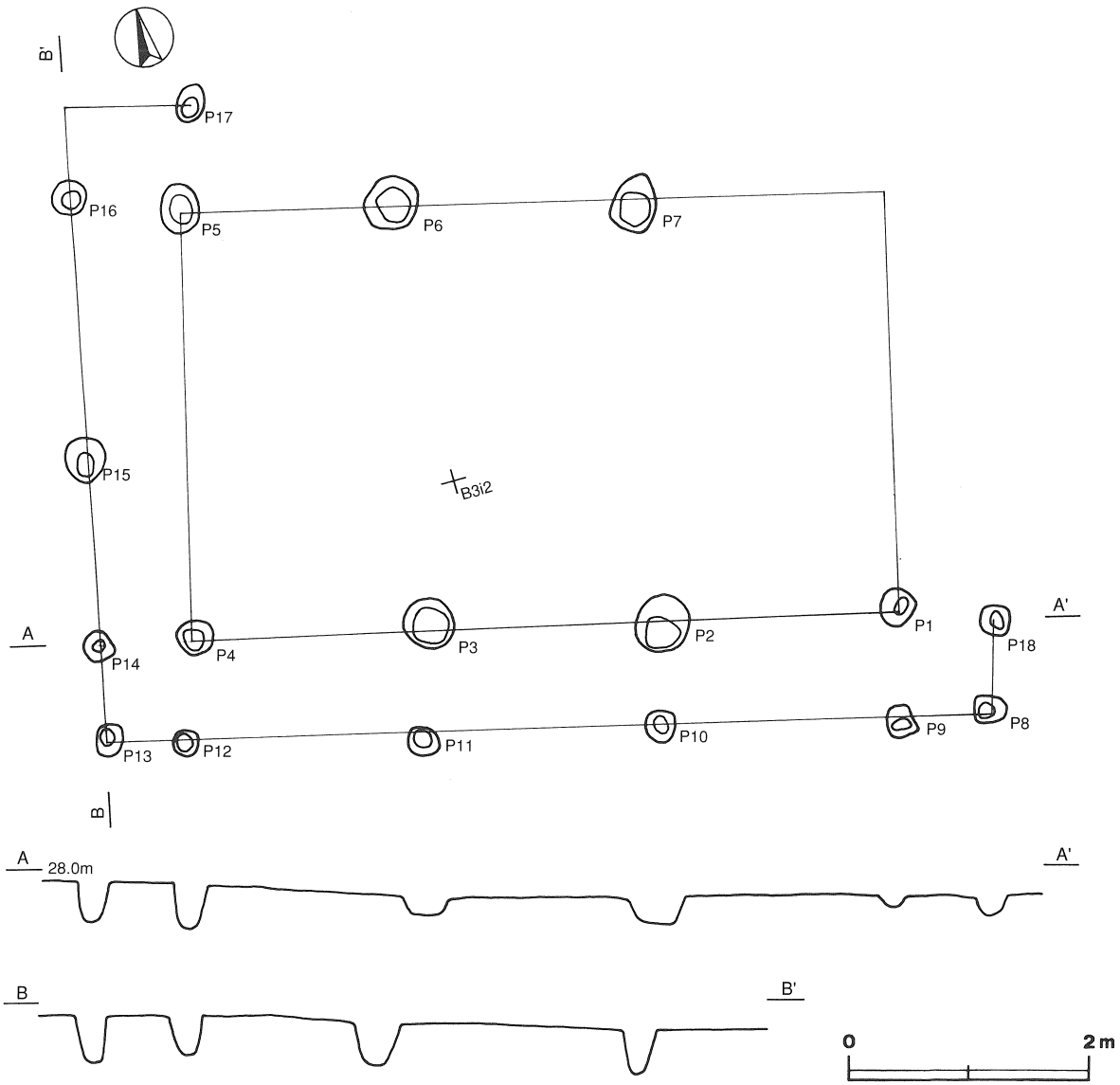
遺物出土状況　混入した土師器（高坏）１点が出土しているが，図示できなかった。

所見　本跡に伴う土器が出土していないために時期決定が困難であるが，他の掘立柱建物跡と比べて柱穴の規模が小さく，構造も異なることから，中世の可能性が考えられる。

第３号掘立柱建物跡（第210図）

位置　調査区西部のＢ３i2区に位置し，標高約28mほどの台地の平坦部に立地している。

規模と構造　身舎は，桁行３間，梁行１間の側柱式の建物跡で，南側と西側の２面に庇か縁が付き，桁行方向をＮ－75°－Ｗの東西棟である。庇あるいは縁を含めた規模は桁行7.35m，梁行4.56mで，柱間寸法は，桁行1.75～2.05m，梁行3.6mで，庇あるいは縁との間は東側84cm，南側88～100cmの間尺を示す。身舎の北東側の隅柱，庇あるいは縁部の北西側隅柱は確認できなかった。



第210図　第３号掘立柱建物跡実測図

柱穴　いずれも円形で，身舎部が径30～45cmほどで深さ22～42cm，庇部が径25～35cmほどで深さ14～40cmであり，身舎部の方が規模が大きい。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　身舎の北側，東列の延長線上と東側，南列の延長線上には庇部の柱の規模と同様のピットが検出されており，４面庇の可能性も考えられるが，身舎との間が狭いため，縁とも考えられる。また，本跡の南方に位置する墓域との関連も考えられる。時期決定は困難であるが，墓域と関連するとすれば中世と考えられる。

表６　掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	位置	桁行方向	柱間数(桁×梁)	規　模(m)	面積(m²)	構造	桁行柱間(m)	梁行柱間(m)	柱穴平面形	深さ(cm)	主な出土遺物	備考（時期）
1	E6b1	N-37°-W	２×２	5.95×5.26	31.3	側柱	2.94～3.04	2.54～2.64	円形・楕円形	10～24		中世　SI 26→本跡
2	E5a9	N-50°-E	２×２	8.66×4.12	35.6	側柱	3.92～4.74	1.56～2.56	円形・楕円形	46～72	土師器片	中世
3	B3i2	N-75°-W	３×２	5.9×3.59	21.18	側柱	1.75～2.05	3.6	円形・楕円形	22～40		中世
			５×４	7.35×4.56	39.32	二面庇	0.7～2.0	0.8～2.2				

(2) 塚

今回の調査で，古墳を利用した中世の塚１か所が確認され，多数の五輪塔が出土した。以下，確認された塚の特徴と出土遺物について記載する。

第１号塚（第211～223図）

位置　調査区中央部のＤ３a3～Ｄ３c5区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　第１号墳の墳丘の上に盛土をして構築している。

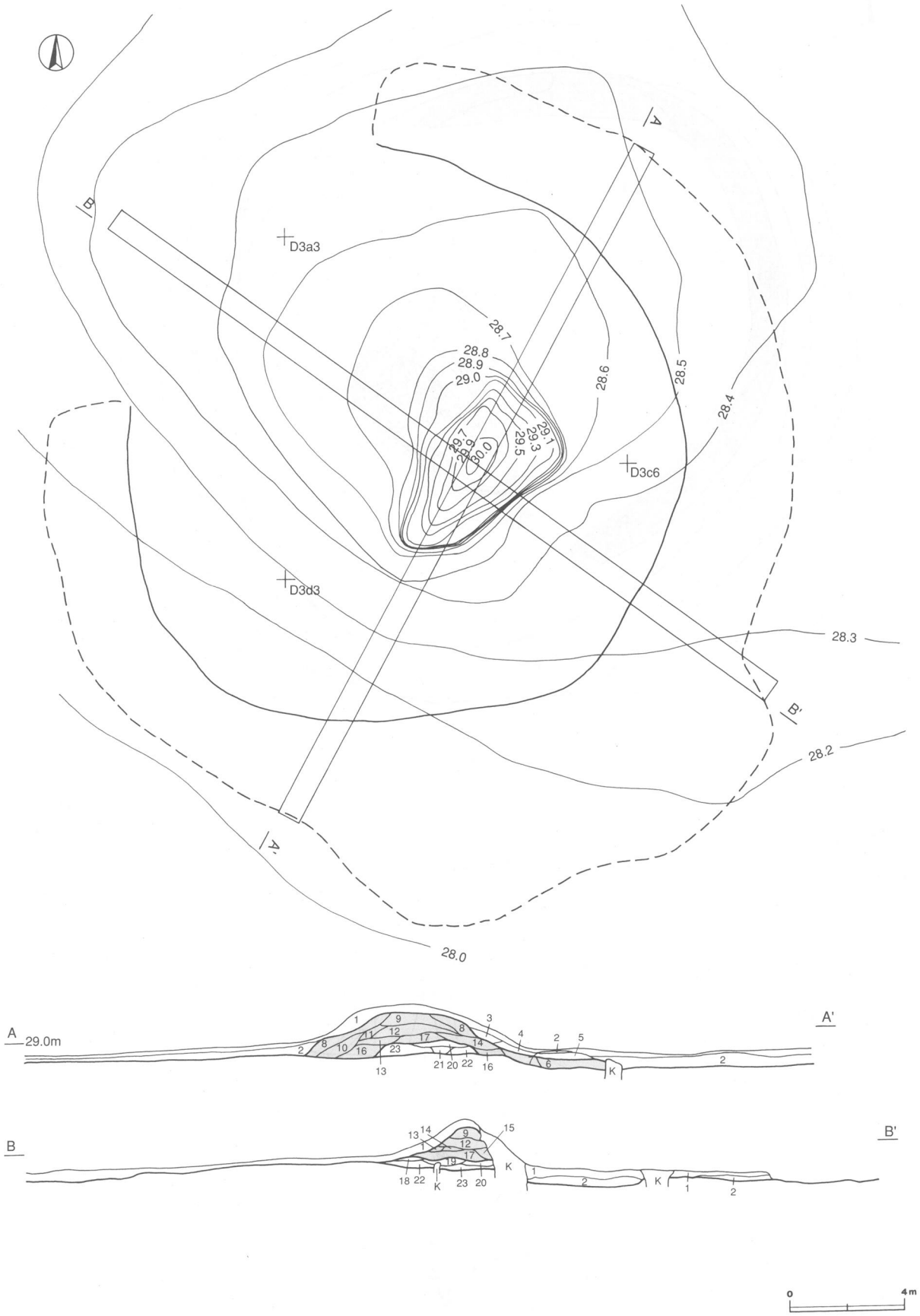
規模と形状　調査前の状況では，長径約11.4m，短径約4.4mの不整楕円形で，高さ約1.4mの塚状を呈している。

構築状況　23層からなり，中央部からローム粒子・ロームブロックを微量から中量含んだ黒色土・黒褐色土・極暗褐色土・暗褐色土を盛土し，第１～12層は粘性・締まりともに弱い。第１～17層には五輪塔片・常滑片・土師質土器片あるいは埴輪片などが混じっているが，第18～23層にはそれらの遺物が混じっていないし比較的しまりもあるため，第18～23層は第１号墳の盛土と考えられる。また，第１～17層は締まりが弱く，あるいは普通であり，第１号墳を意識し，墳丘の跡に塚として構築された盛土及び表土と考えられる。本跡は第１号墳を利用して構築されている。

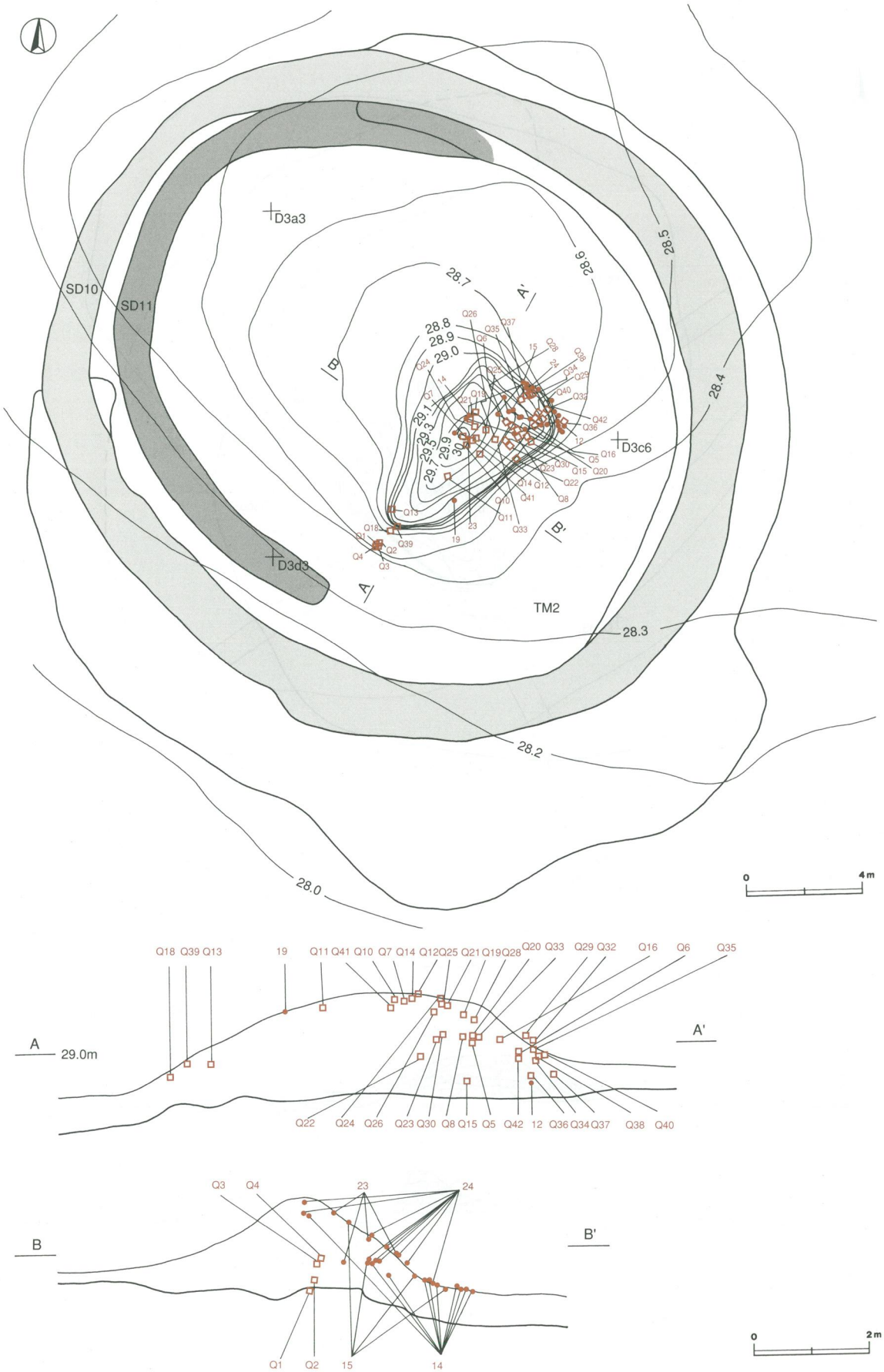
塚土層解説（表土・第１号墳墳丘土層含む）

1	黒褐色	ローム粒子微量	表土
2	黒褐色	ローム粒子少量	表土
3	極暗褐色	ロームブロック微量	表土
4	極暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	表土
5	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	表土
6	黒褐色	ロームブロック少量	塚盛土
7	極暗褐色	ロームブロック少量	塚盛土
8	暗褐色	ロームブロック中量	塚盛土
9	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	塚盛土
10	極暗褐色	ローム粒子中量	塚盛土
11	極暗褐色	ローム粒子微量	塚盛土
12	黒色	ロームブロック・炭化粒子微量	塚盛土
13	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	塚盛土
14	黒色	ローム粒子微量	塚盛土
15	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	塚盛土
16	極暗褐色	ローム粒子少量	塚盛土
17	暗褐色	ロームブロック微量	塚盛土
18	黒色	ロームブロック微量	古墳盛土
19	黒褐色	ロームブロック微量	古墳盛土
20	暗褐色	ロームブロック少量	古墳盛土
21	暗褐色	ローム粒子少量	古墳盛土
22	暗褐色	ローム粒子中量	古墳盛土
23	暗褐色	ロームブロック中量	古墳盛土

遺物出土状況　土師器片117点（高坏９，甕108），土師質土器片23点（内耳鍋４，焙烙鍋７，火舎12），陶器片151点（広口壺26，甕125），磁器31点（椀），埴輪片98点，五輪塔片367点（地輪29，水輪42，火輪22，空風輪125，部位不明149），宝篋印塔片４点（相輪３，笠１），砥石４点が盛土中層から表土中にかけて出土している。



第211図　第１号塚実測図（１）



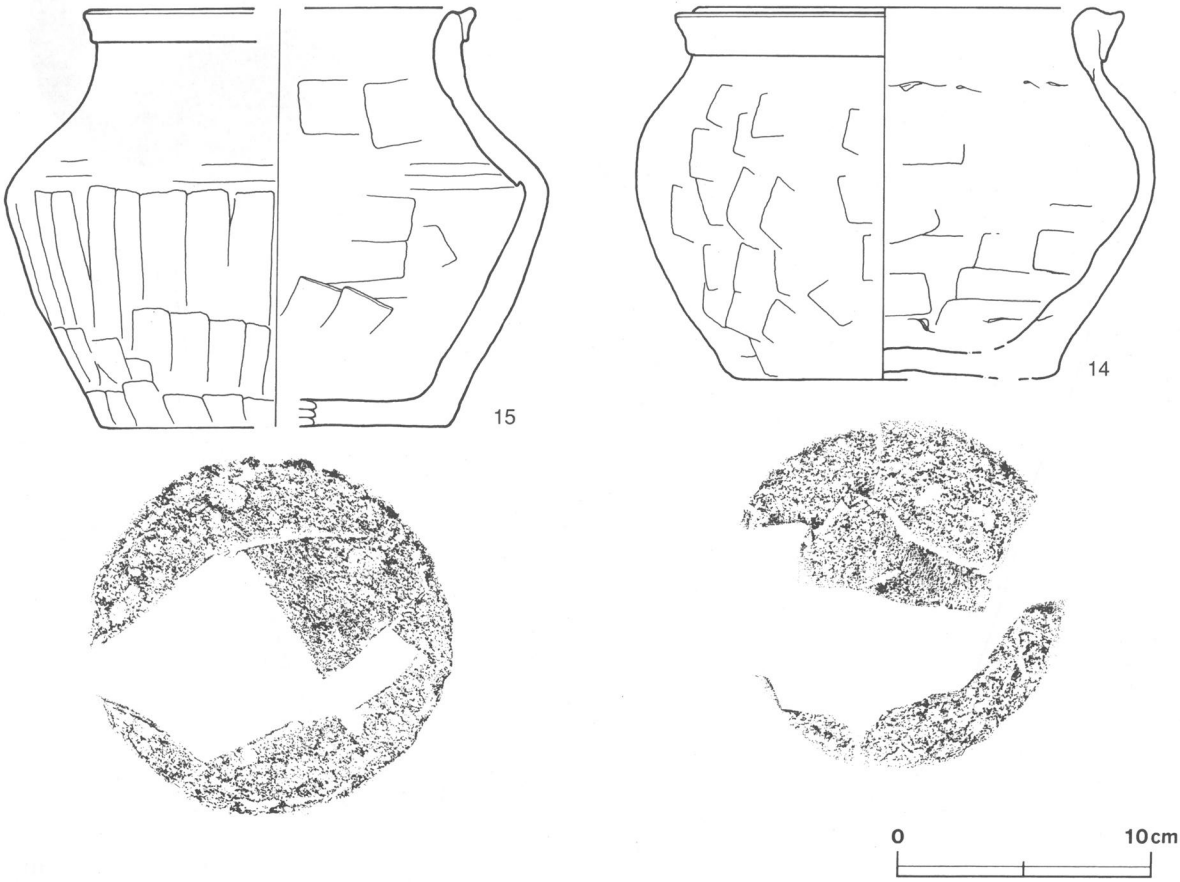
第212図　第１号塚実測図（２）

13・16・18・21は表土中，19は西側表土中，12は東側裾部の表土中，14・15・23・24は東側表土中及び盛土中層から出土した破片が接合したものである。Q１～Q４は本跡西側裾部に組み上げられていたが，Q13・Q18・Q39は西側裾部の表土中，Q11は西側表土中，Q６・Q７・Q９・Q10・Q12・Q14・Q16・Q17・Q19～Q22・Q24～Q29・Q31～Q38・Q40～Q42は東側表土中，Q５・Q８・Q15・Q23・Q30は東側盛土上層からそれぞれ出土している。土師器片や埴輪片は盛土に混入したものである。常滑産の広口壺片・甕片や五輪塔などは塚の表土中及び盛土上層から多く出土しているために，その周辺にあったものが集められたものと考えられる。

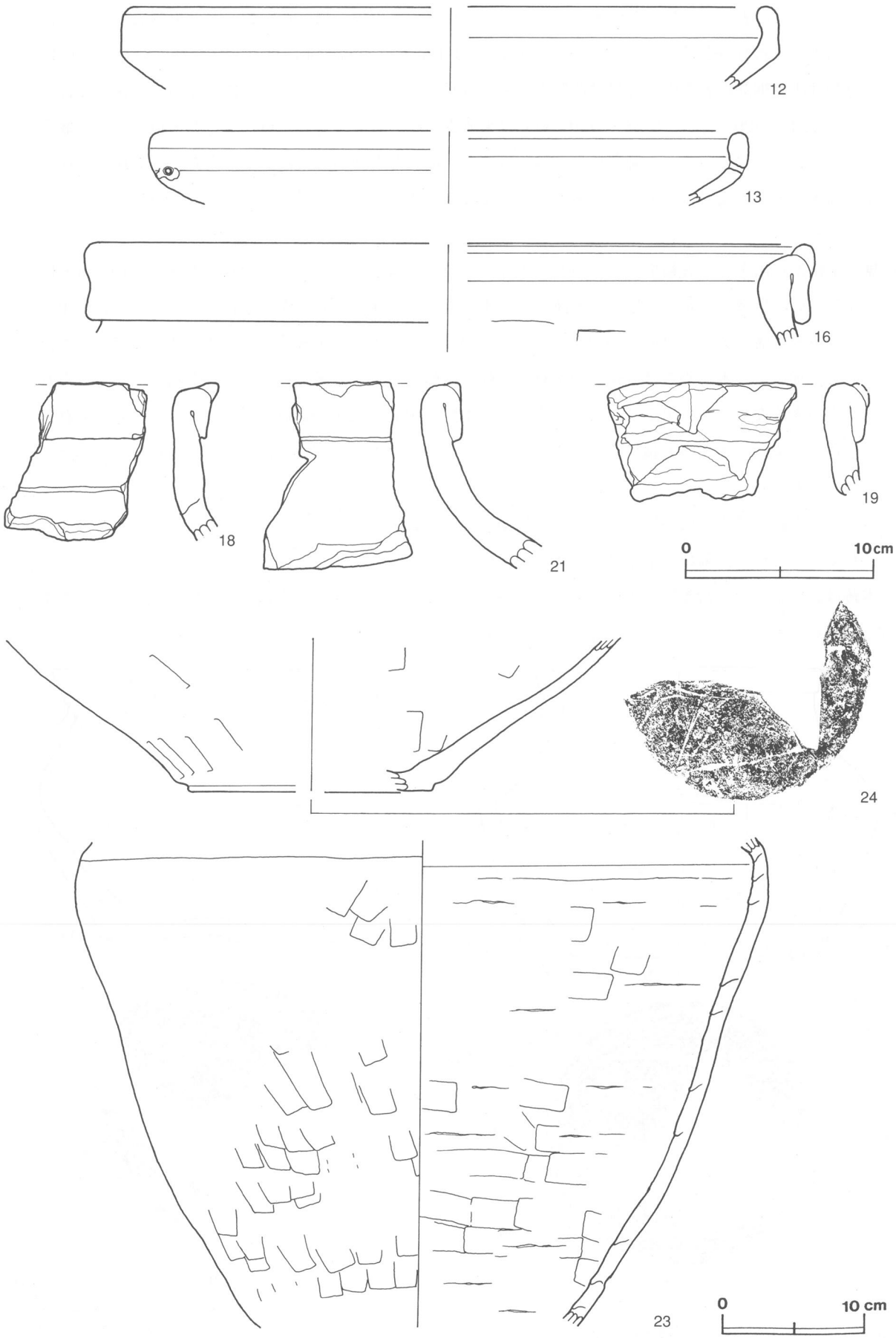
所見　本跡から出土した五輪塔片や常滑産の甕片は，第10号溝からも出土しており，本跡は第10号溝と同時期に機能していたと考えられる。また，本跡は，二重に巡らした溝（第８号溝と第10・11号溝）のほぼ中央部に位置し，第８号溝と第10・11号溝の間には多くの火葬土坑が位置し，第８号溝の外側に隣接して井戸も確認されている。加えて，本跡からは五輪塔の部材（地輪・水輪・火輪・空風輪）や火葬骨を納めたと考えられる常滑産の広口壺片などが多く出土していることから，本跡を中心に墓域が形成されていたものと考えられる。また，前述したように多くの五輪塔片が出土していることから，本跡の周囲には多くの五輪塔などが建立されていたものと考えられる。

さらに，本跡は第１号墳の墳丘を利用して構築され，第10・11号溝は第１号墳の周溝とほぼ重なるように掘削されているために，墓域も第１号墳を意識して構築されていると考えられる。

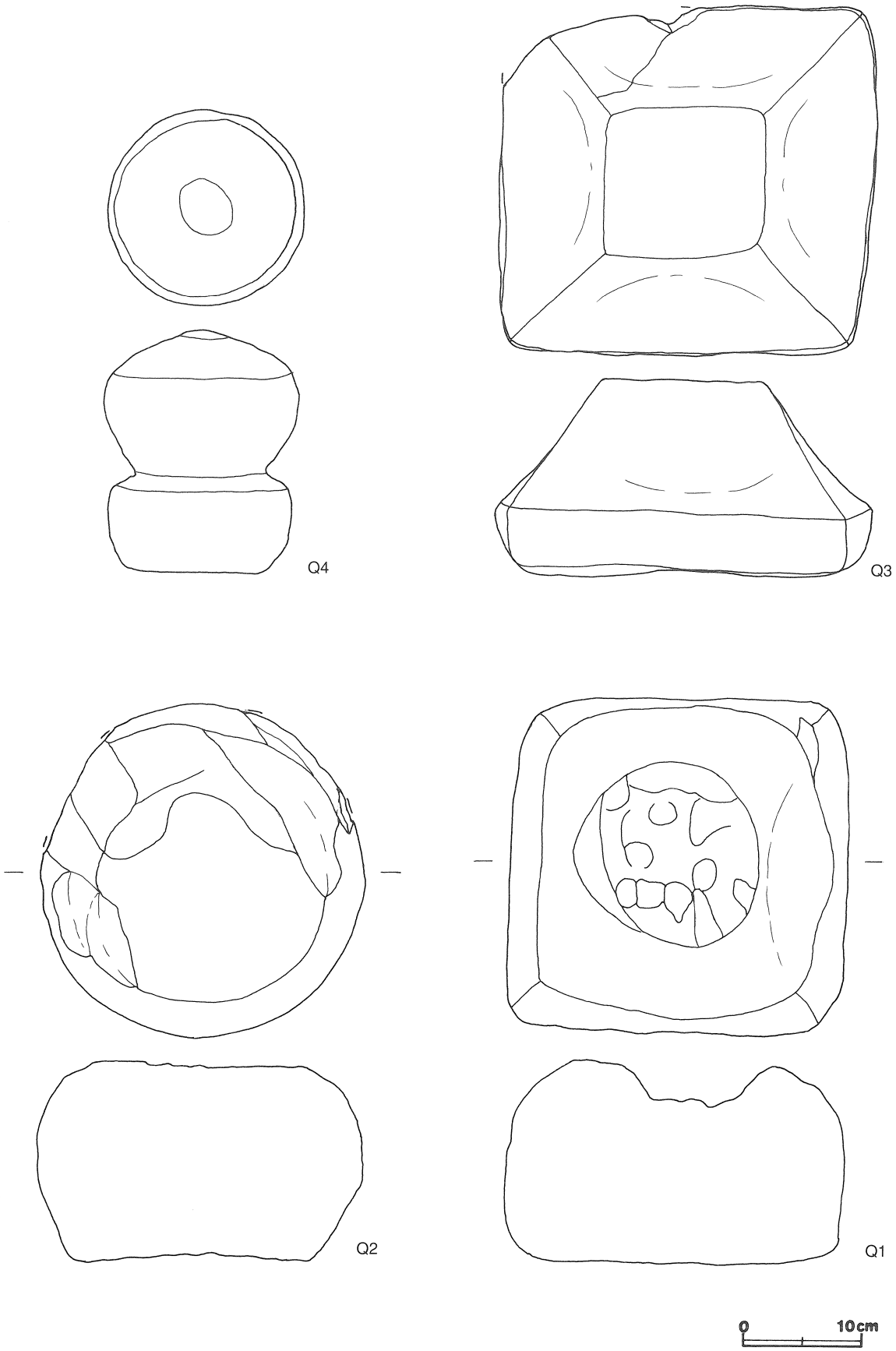
本跡は，出土した常滑甕片の形状や五輪塔の型式などから，15世紀から16世紀にかけて機能していたものと考えられる。



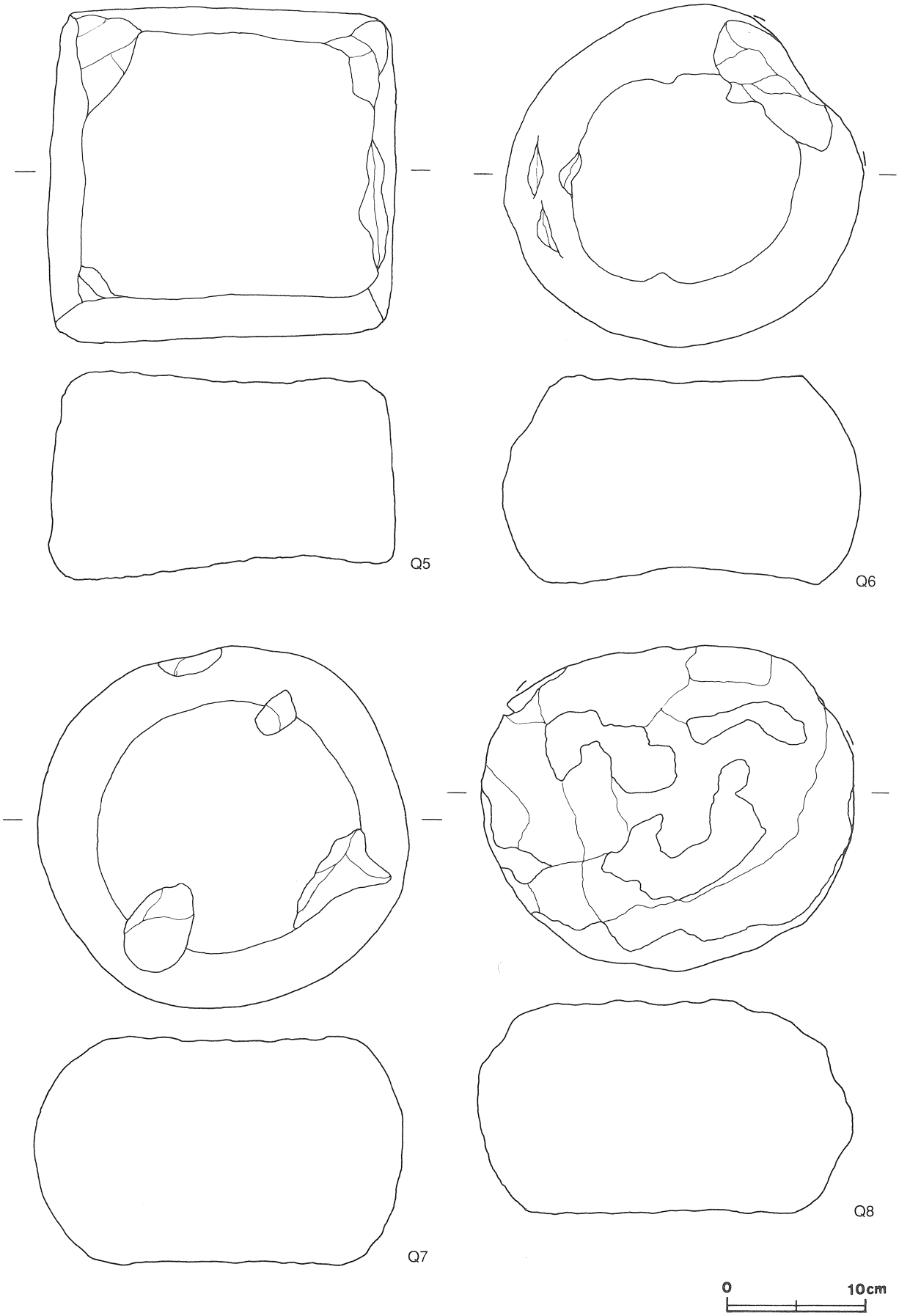
第213図　第１号塚出土遺物実測図（１）



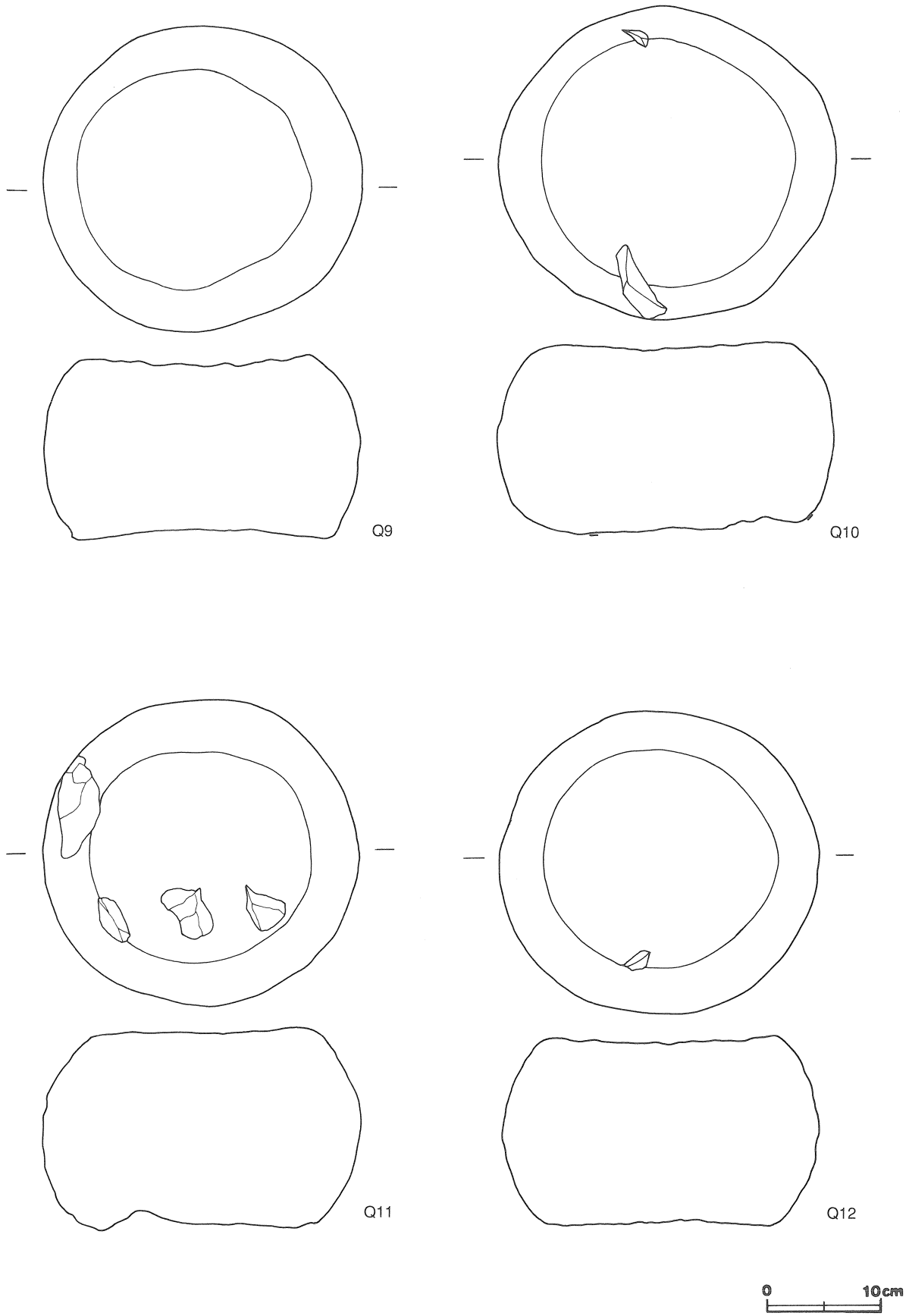
第214図　第１号塚出土遺物実測図（２）



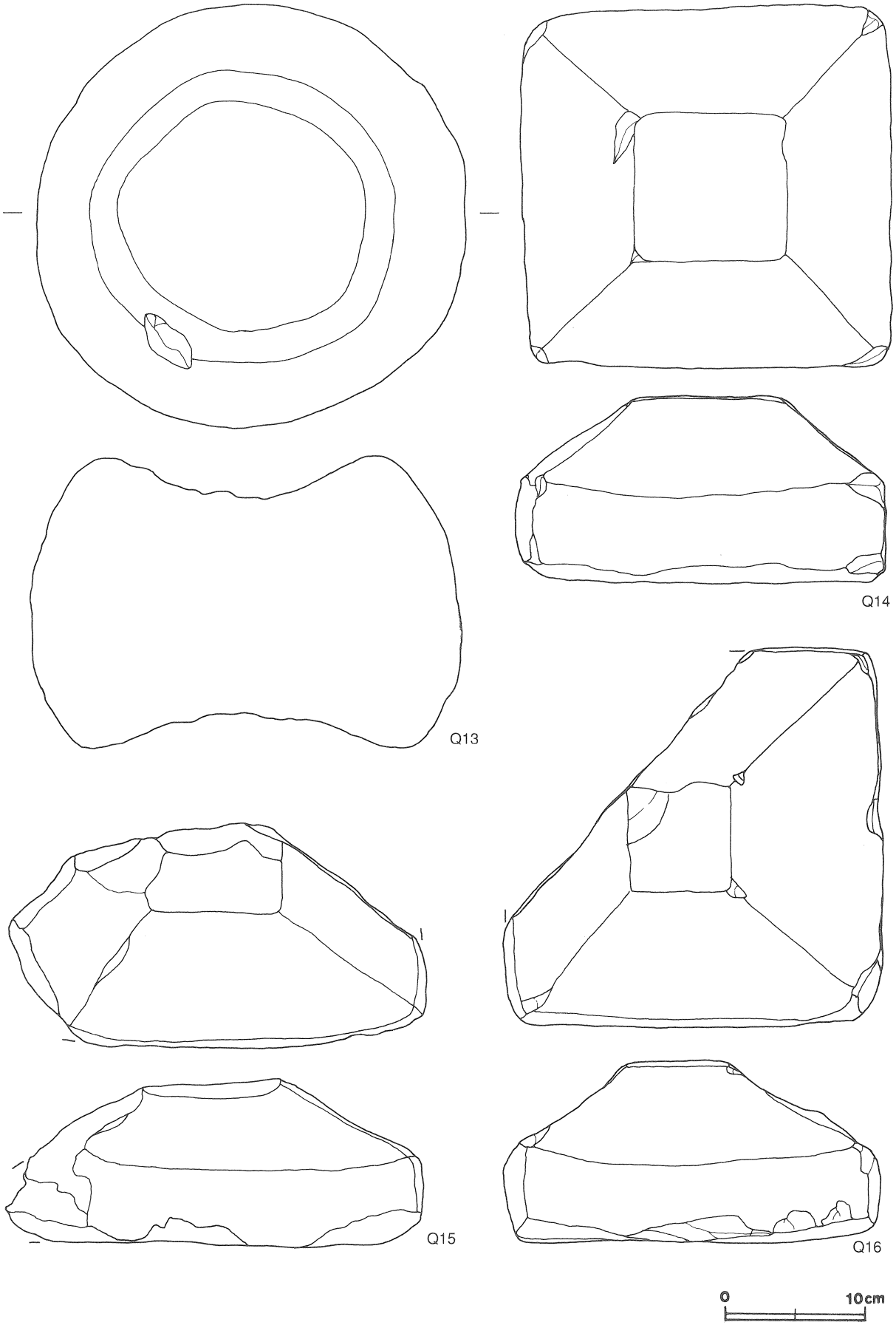
第215図　第１号塚出土遺物実測図（３）



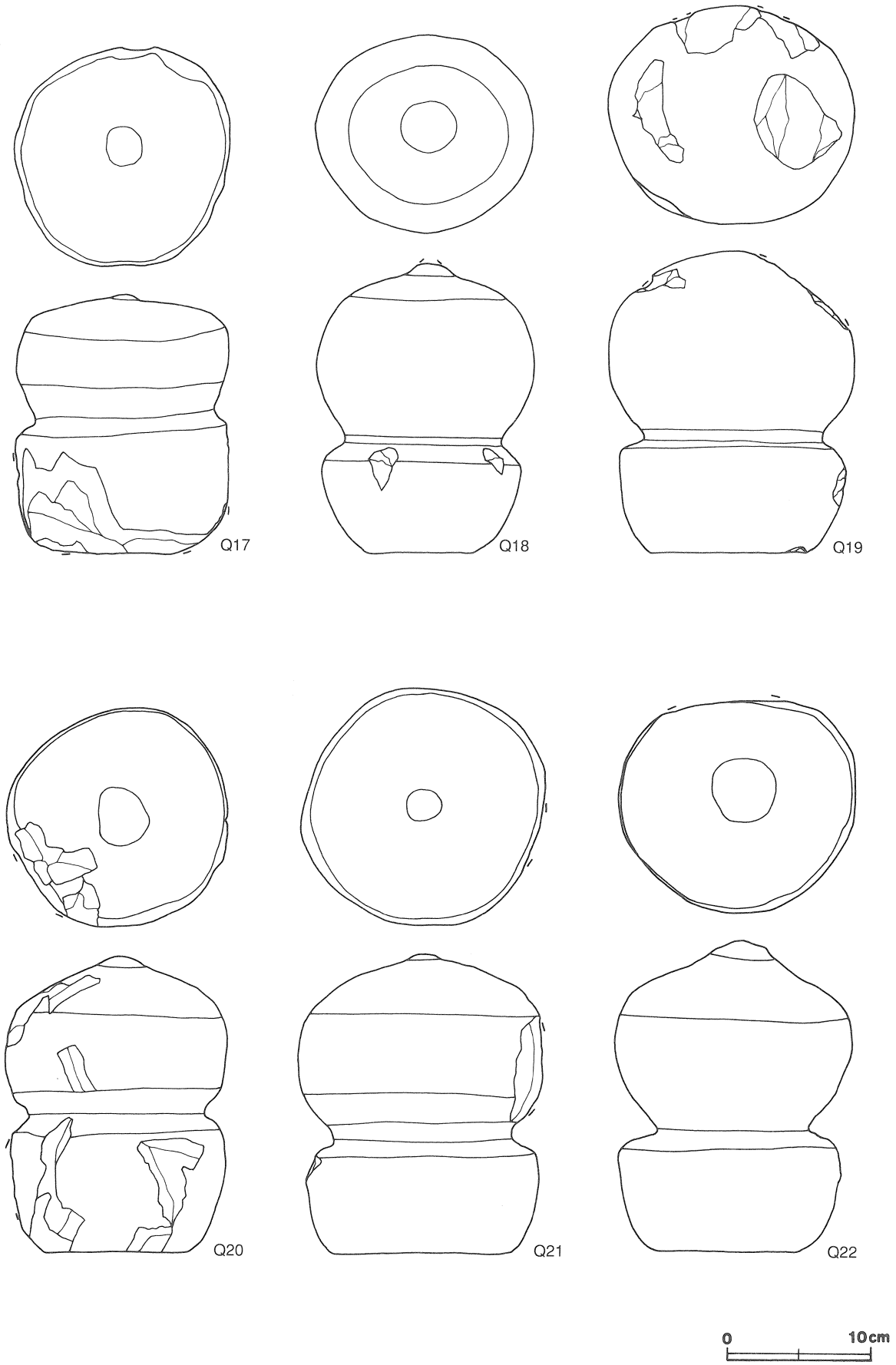
第216図　第１号塚出土遺物実測図（４）



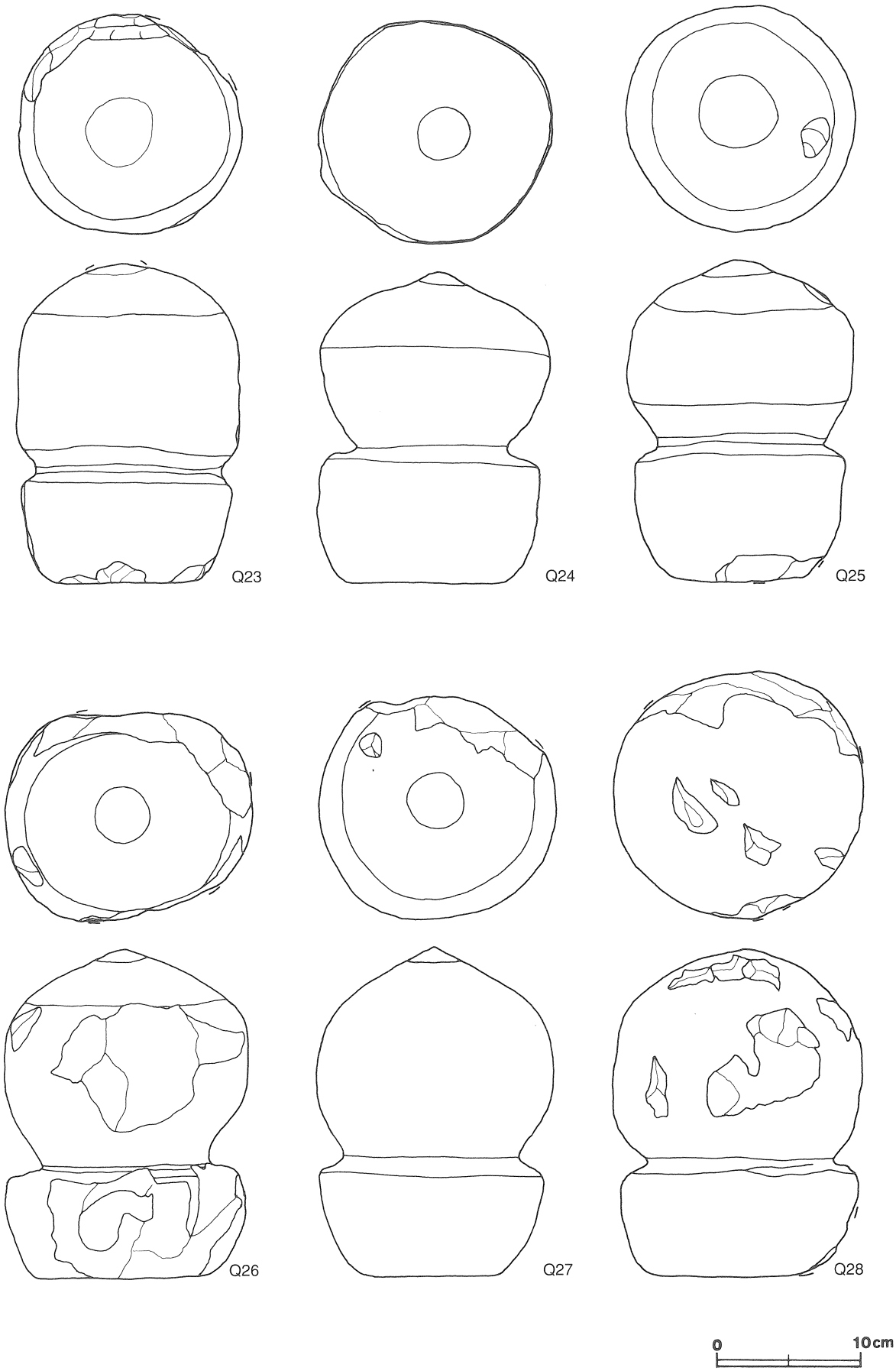
第217図　第１号塚出土遺物実測図（５）



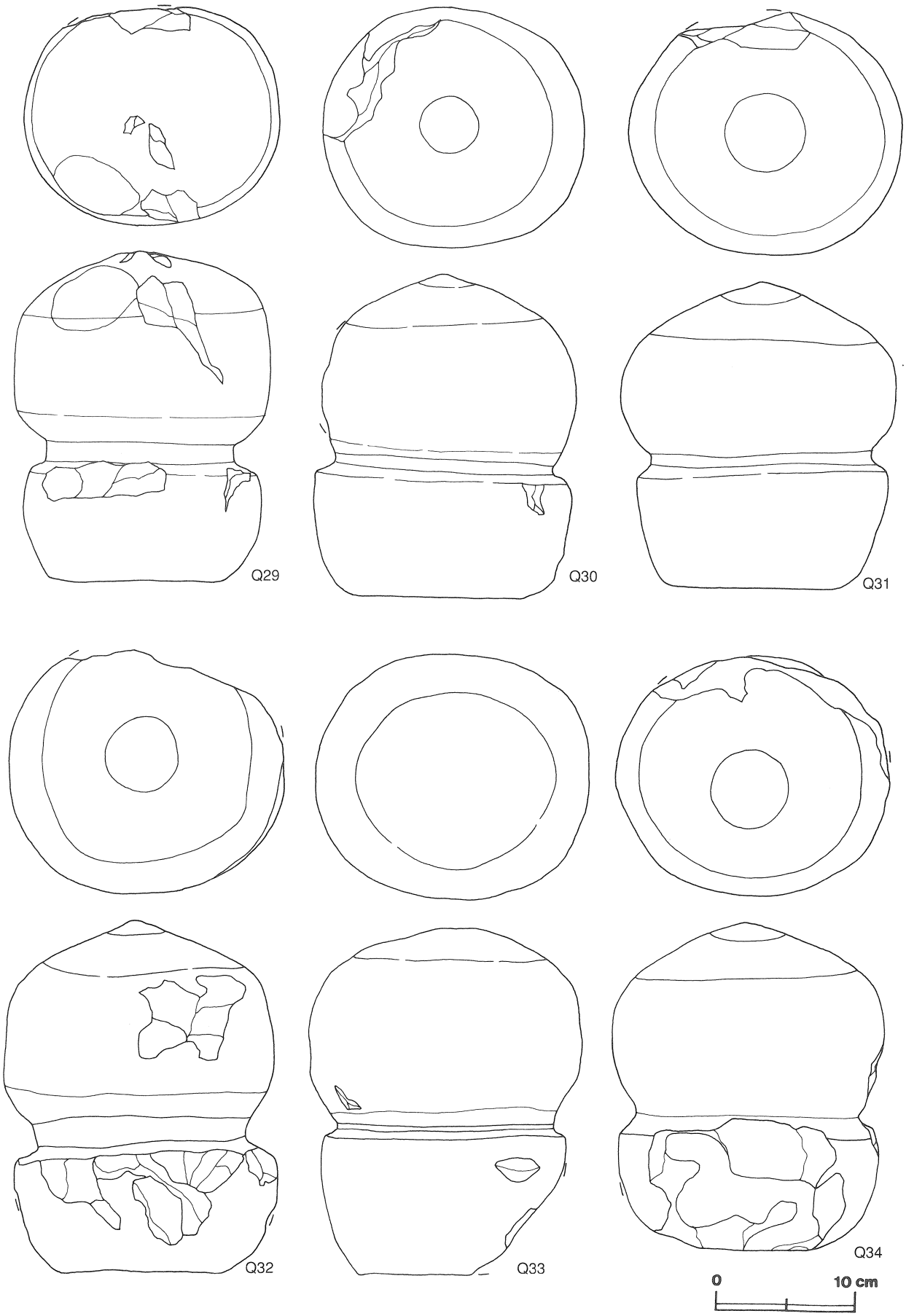
第218図　第１号塚出土遺物実測図（６）



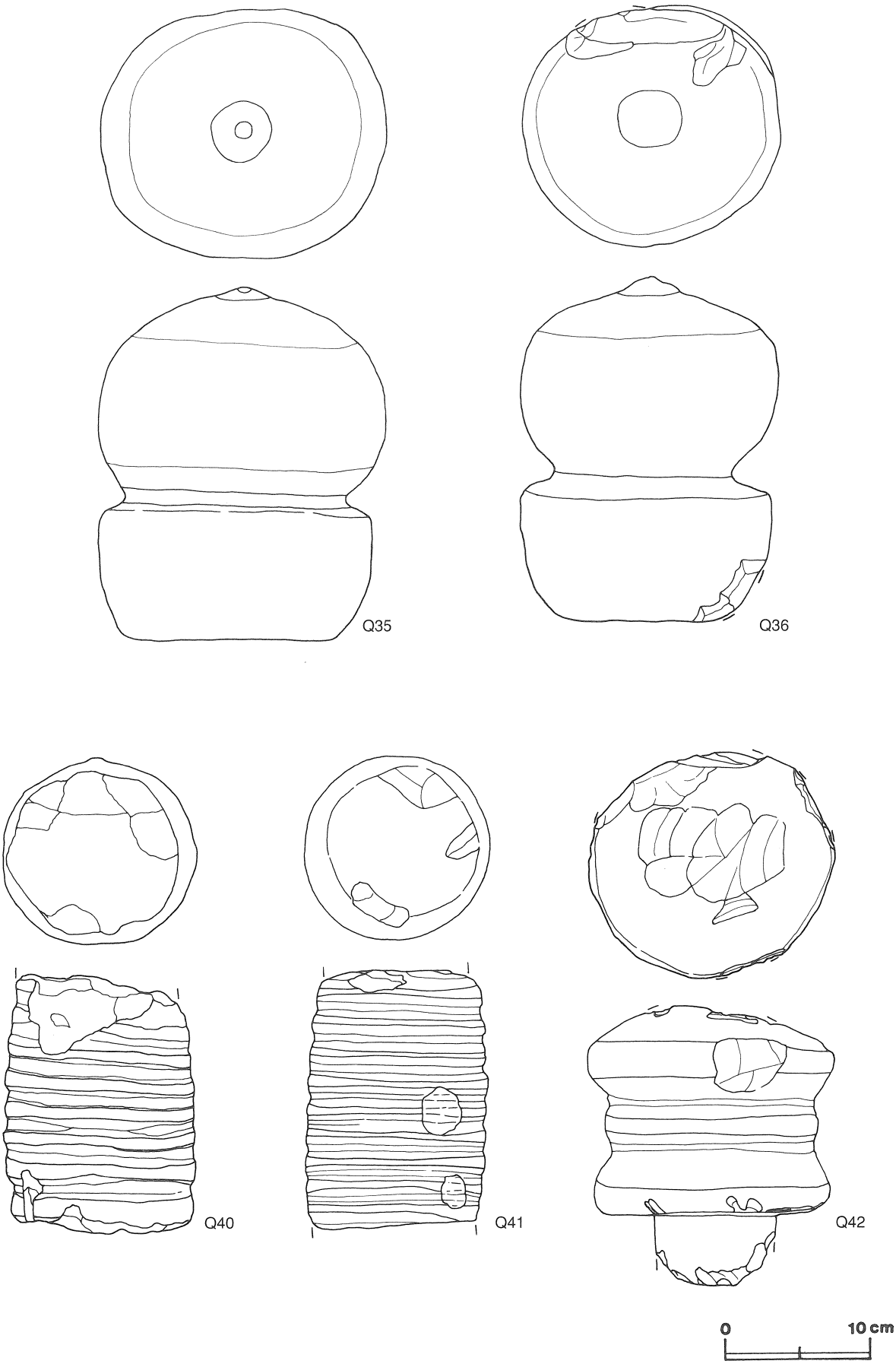
第219図　第１号塚出土遺物実測図（７）



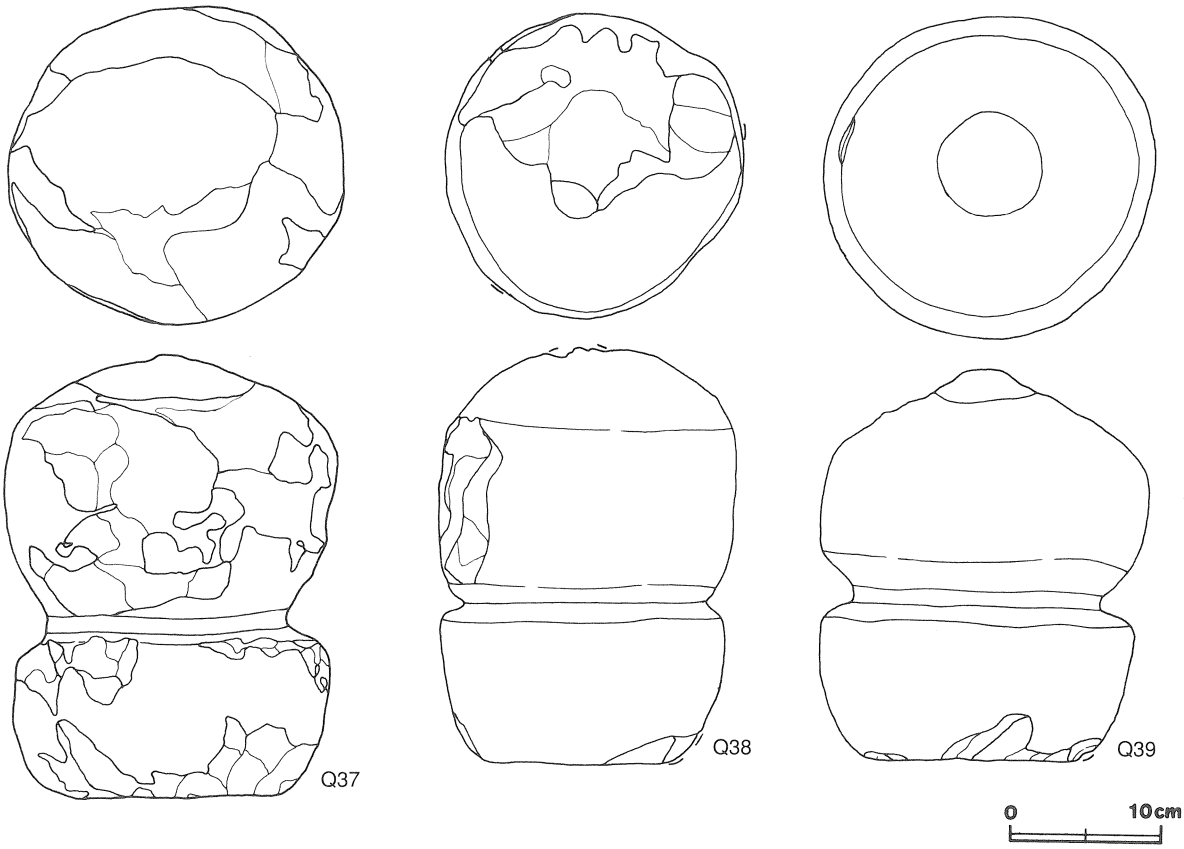
第220図　第１号塚出土遺物実測図（８）



第221図　第１号塚出土遺物実測図（９）



第222図　第１号塚出土遺物実測図（10）



第223図　第１号塚出土遺物実測図（11）

第１号塚出土遺物観察表（第213～223図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
12	土師質土器	焙烙	〔34.2〕	(4.4)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	内・外面ロクロナデ	盛土下層	外面煤付着
13	土師質土器	焙烙	〔31.4〕	(4.0)	—	雲母	にぶい褐	普通	内・外面ロクロナデ，体部に穿孔	表土中	外面煤付着
14	陶器	広口壺	17.7	14.7	12.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	良	体部内・外面ヘラナデ，内面輪積み痕	表土中	80% 常滑11型式 PL26
15	陶器	広口壺	〔15.4〕	16.6	〔13.8〕	長石・石英	にぶい赤褐，灰オリーブ（釉）	良	体部下端・内面ヘラナデ	表土中	80% 常滑9型式 PL26
16	陶器	大甕	〔38.4〕	(5.4)	—	長石・石英	明褐	良	口辺部内・外面ナデ	表土中	常滑８型式
18	陶器	大甕	—	(8.4)	—	長石・石英	暗灰黄	良	口辺部内・外面ナデ	表土中	常滑９型式
19	陶器	大甕	—	(6.1)	—	長石・石英	にぶい褐	良	口辺部内・外面ナデ	表土中	常滑11型式
21	陶器	大甕	—	(10.0)	—	長石・石英	にぶい褐	良	口辺部内・外面ナデ	表土中	常滑10型式
23	陶器	大甕	—	(35.0)	—	長石・石英・黄色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ，内面輪積み痕	表土中	常滑系
24	陶器	大甕	—	(11.0)	〔17.4〕	長石	にぶい褐	普通	体部下段内・外面ヘラナデ	盛土中層	常滑系 PL26

番号	器　種	幅	奥行	厚さ	重量	石質	特　　徴	出土位置	備考
Q１	五輪塔（地　輪）	29.1	28.7	17.3	25.1	花崗岩	上面に窪みあり	西側裾部	PL43・44
Q２	五輪塔（水　輪）	27.4	28.1	17.0	17.1	花崗岩	側面に丸みあり	西側裾部	PL43・44
Q３	五輪塔（火　輪）	32.3	29.7	16.8	19.6	花崗岩	ほぼ直線的な軒	西側裾部	PL42・44
Q４	五輪塔（空風輪）	16.8	16.6	20.7	7.4	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	西側裾部	PL42・44
Q５	五輪塔（地　輪）	25.2	24.2	14.9	17.6	花崗岩	側面形はやや台形状を呈する	東側盛土上層	PL43
Q６	五輪塔（水　輪）	25.9	24.7	15.1	14.0	花崗岩	側面の丸み明瞭	東側表土中	
Q７	五輪塔（水　輪）	26.9	25.9	16.5	18.2	花崗岩	側面の丸み明瞭	東側表土中	
Q８	五輪塔（水　輪）	27.0	(23.5)	15.5	(19.5)	花崗岩	側面の丸み明瞭	東側盛土上層	
Q９	五輪塔（水　輪）	27.8	26.7	15.9	18.5	花崗岩	側面の丸み明瞭	東側表土中	
Q10	五輪塔（水　輪）	29.6	27.3	16.8	19.0	花崗岩	側面の丸み明瞭	東側表土中	
Q11	五輪塔（水　輪）	27.7	26.7	17.5	19.5	花崗岩	側面の丸み明瞭	西側表土中	
Q12	五輪塔（水　輪）	27.8	26.3	16.5	19.4	花崗岩	側面の丸み明瞭	東側表土中	PL43
Q13	五輪塔（水　輪）	30.9	30.4	20.9	29.0	花崗岩	側面の丸み明瞭，上面のくびれ明瞭	西側裾部表土中	
Q14	五輪塔（火　輪）	26.9	26.1	13.5	15.0	花崗岩	軒先軽く外反	東側表土中	PL42

番号	器　種	幅	奥行	厚さ	重量	石質	特　　徴	出土位置	備考
Q15	五輪塔（火　輪）	(29.8)	(16.1)	12.1	(6.1)	花崗岩	軒先軽く外反	東側盛土上層	
Q16	五輪塔（火　輪）	27.2	26.8	13.0	10.5	花崗岩	軒先軽く外反	東側表土中	
Q17	五輪塔（空風輪）	(14.8)	(15.0)	17.8	(5.4)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q18	五輪塔（空風輪）	15.0	13.7	(19.9)	(5.3)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	西側裾部表土中	
Q19	五輪塔（空風輪）	17.1	(14.4)	20.6	(7.0)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q20	五輪塔（空風輪）	15.2	15.0	20.4	6.3	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q21	五輪塔（空風輪）	16.8	16.3	20.5	8.2	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q22	五輪塔（空風輪）	16.5	14.5	21.4	6.2	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	PL42
Q23	五輪塔（空風輪）	15.4	15.0	(21.8)	(7.8)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側盛土上層	
Q24	五輪塔（空風輪）	15.8	15.4	21.4	7.6	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	PL42
Q25	五輪塔（空風輪）	15.9	15.6	22.2	7.2	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q26	五輪塔（空風輪）	17.1	(14.4)	22.8	(7.4)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q27	五輪塔（空風輪）	16.4	(15.4)	22.8	(7.9)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q28	五輪塔（空風輪）	17.4	17.0	22.6	8.9	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q29	五輪塔（空風輪）	18.6	(15.8)	(23.9)	(9.6)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q30	五輪塔（空風輪）	19.0	17.4	23.0	10.6	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側盛土上層	
Q31	五輪塔（空風輪）	20.0	(17.6)	22.3	(10.9)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q32	五輪塔（空風輪）	19.7	17.6	25.5	11.8	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q33	五輪塔（空風輪）	19.7	17.7	25.1	11.5	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q34	五輪塔（空風輪）	20.0	(17.4)	23.7	(10.4)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q35	五輪塔（空風輪）	19.9	17.2	24.6	12.4	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q36	五輪塔（空風輪）	18.0	16.8	24.0	8.3	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q37	五輪塔（空風輪）	22.3	21.1	29.4	18.0	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q38	五輪塔（空風輪）	(20.0)	(20.0)	(27.4)	(15.3)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東側表土中	
Q39	五輪塔（空風輪）	21.7	21.2	25.9	15.6	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	西側裾部表土中	
Q40	宝篋印塔（相輪）	13.5	13.0	(18.0)	(4.6)	花崗岩	九輪の側面はほぼ直線的に立ち上がる	東側表土中	PL44
Q41	宝篋印塔（相輪）	12.8	12.8	(18.0)	(4.4)	花崗岩	九輪の側面はほぼ直線的に立ち上がる	東側表土中	PL44
Q42	宝篋印塔（相輪）	17.1	(15.7)	(19.4)	(5.6)	花崗岩	ほぞ有り	東側表土中	PL44

(3) 井戸跡

第１号井戸跡（第224図）

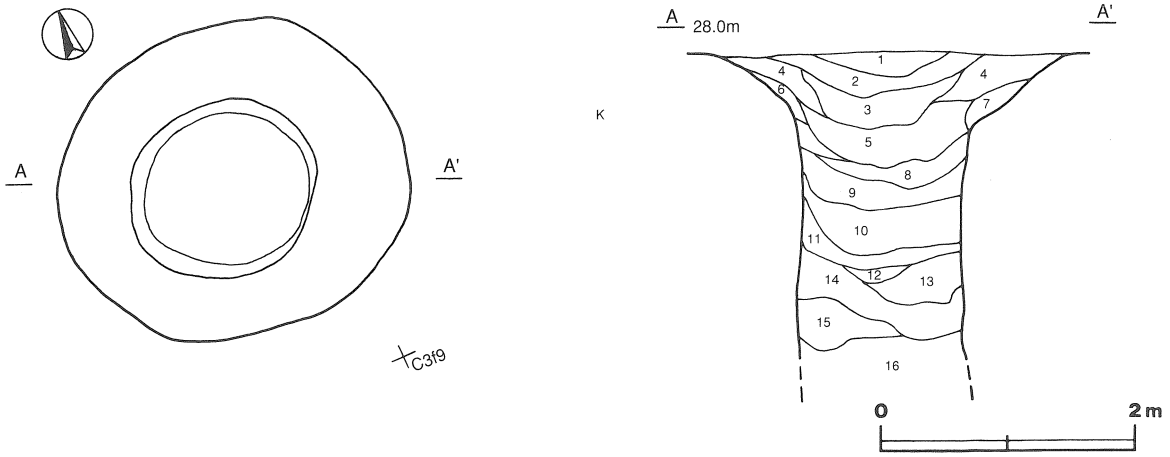
位置　調査区東部のＣ３e8区に位置し，標高約27.8mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長径2.8m，短径2.4mほどの楕円形で，漏斗状に掘り込まれている。2.7mまで掘り下げたが，壁崩落などの危険が伴うため下部の調査を断念した。

覆土　確認された覆土は16層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化物微量
3　極暗褐色　　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　　ロームブロック微量



第224図　第１号井戸跡実測図

5　黒　褐　色　　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　　ローム粒子中量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　　ローム粒子中量
8　黒　褐　色　　ロームブロック少量
9　極暗褐色　　ロームブロック少量
10　褐　　色　　ロームブロック中量
11　暗　褐　色　　ロームブロック少量
12　黒　　色　　ロームブロック中量
13　褐　　色　　ローム粒子多量
14　灰　褐　色　　ローム粒子少量
15　灰　褐　色　　ローム粒子微量
16　暗　褐　色　　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片２点（甕類）が出土しているが，細片のため図示できなかった。そのほか混入した縄文土器７点が出土している。

所見　出土遺物が少なく，時期を判定することは困難であるが，覆土のしまりが弱いことなどから，中・近世と推定され，また，南方に位置している墓域との関連も考えられる。

（4）溝跡

第８号溝跡（第226・227・付図）

位置　調査区西部のＣ２j7～Ｄ４d1区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　第２号墳，第62・70・71号住居跡を掘り込み，第９号溝に掘り込まれている。

規模と形状　第１号墳の周溝および第10号溝と同心円状に巡っている。確認された規模は外径52.8～59.8m，内径45.0～56.0m，上幅1.0～3.8m，深さは31cmほどであり，底部は皿状であるが，内側がやや落ち込んでいる。

覆土　覆土は，ローム粒子・ロームブロックを主体として３層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
2　極暗褐色　　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　須恵器２点（坏），土師質土器１点（小皿），陶器１点（椀）が出土しており，１点が図示できた。27は北部の覆土中から出土している。そのほか混入した縄文土器22点，土師器片141点，埴輪片１点が出土している。

所見　本跡と第１号塚との内側には，多くの火葬土坑が確認され，外側には確認されなかったことから，墓域を区画した溝と考えられる。また，第10号溝とほぼ同心円状に構築されており，墓域に二重の溝を巡らした構造となっているが，同時に構築されていたかどうかは明確でない。時期判定資料となる出土土器が極めて少ないが，第10号溝と同時期の15～16世紀と考えられる。

第８号溝跡出土遺物観察表（第227図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
27	土師質土器	小皿	—	(1.2)	3.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	10%

第10号溝跡（第225～232図）

位置　調査区西部のＤ３a1～Ｄ３c7区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　第１号墳を掘り込み，第11号溝，第65～68・85・86・88・116号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第１号墳の周溝とほぼ重なるように，第１号墳を利用して構築された第１号塚の周りを円形に全周している。確認された規模は外径22.6～25.4m，内径18.3～21.0mで，上幅1.0～2.4m，深さは約0.7～1.2mであり，断面は逆台形状を呈している。

覆土　覆土は，ローム粒子・ロームブロックを主体として21層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり，第１号塚の盛土の流入が認められる。

土層解説

1　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
2　極暗褐色　　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　　ローム粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　　ロームブロック少量
7　極暗褐色　　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　　ロームブロック微量
9　黒　褐　色　　ロームブロック少量
10　黒　褐　色　　ローム粒子微量
11　黒　褐　色　　ローム粒子・粘土粒子微量
12　極暗褐色　　ロームブロック微量
13　暗　褐　色　　ロームブロック・黒色ブロック微量
14　黒　褐　色　　ローム粒子・砂粒微量
15　黒　褐　色　　ロームブロック・砂粒微量
16　暗　褐　色　　ロームブロック中量
17　黒　　色　　ローム粒子・炭化粒子微量
18　褐　　色　　ロームブロック多量
19　褐　　色　　ロームブロック中量
20　極暗褐色　　ロームブロック・炭化粒子微量
21　褐　　色　　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師質土器６点（小皿３，内耳鍋３），陶器片51点（椀18，広口壺3，大甕30），磁器１点（椀）五輪塔片70点（地輪３，水輪９，火輪８，空風輪17，部位不明33）が出土し，五輪塔片は第１号塚に建立されていたものが崩れて流れ込んだものと考えられる。Q56は溝覆土中，Q53は北部中層，28・Q49・Q63は北東部中層，Q50・Q62は東部中層，上層からはQ45が，南東部中層からは32が，下層からはQ55が，Q51・Q57は南西部中層，33・Q43・Q47・Q48・Q52・Q54・Q59～Q61は南西部底面，Q44・Q46・Q58は西部底面からそれぞれ出土している。

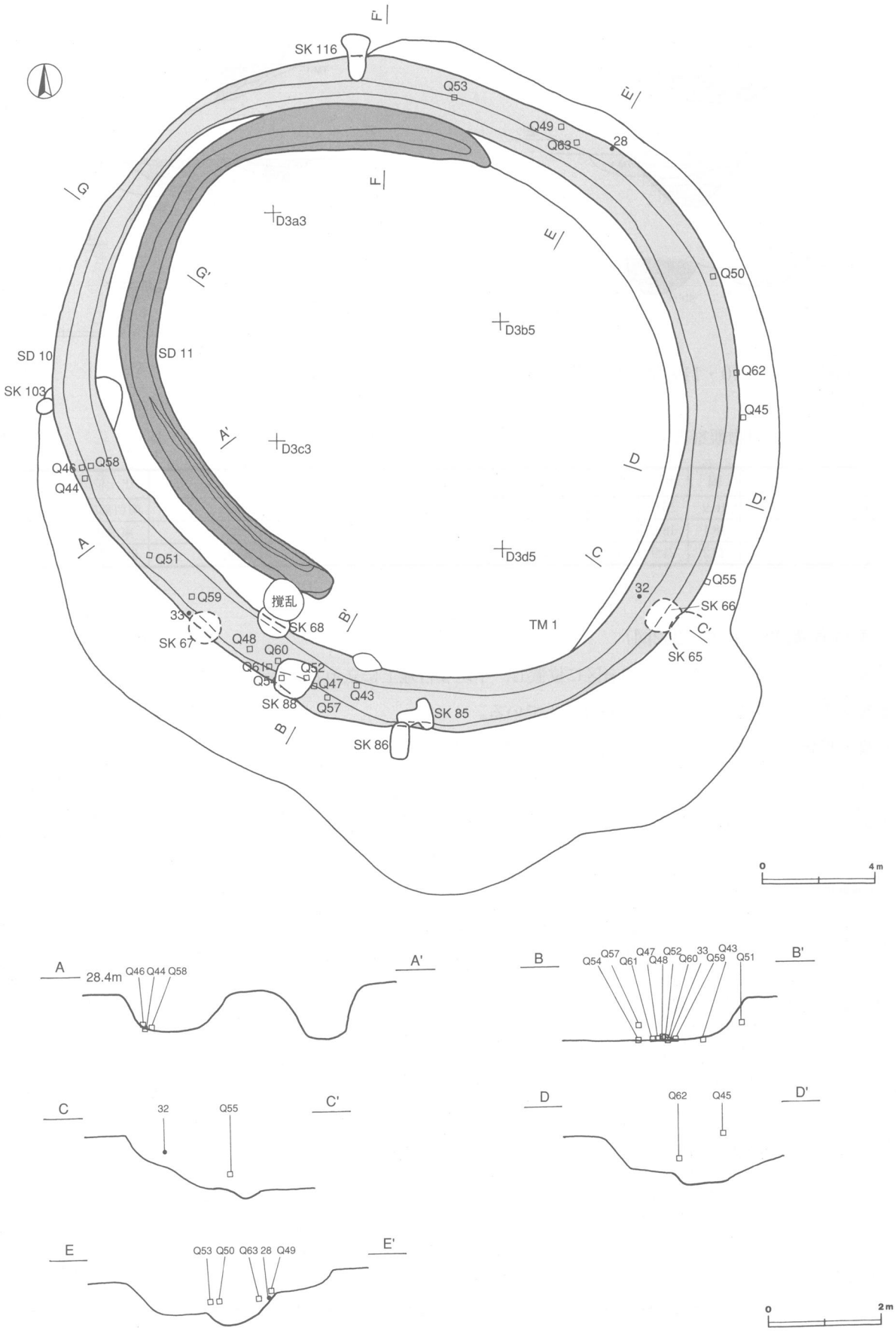
所見　本跡の外側には多くの火葬土坑が確認されており，本跡内側の第１号塚からは五輪塔や常滑産の甕片がが多数出土しているため，第１号塚を中心に墓域が形成されているものと考えられる。本跡は，第１号塚の周りを巡っており，墓域を区画した溝と考えられる。さらに，本跡は第１号墳の周溝とほぼ重なるように構築されているために，第１号墳を意識して掘削したものと考えられる。

時期は，本跡から出土している五輪塔片や常滑甕片が第１号塚から出土しているものとほぼ同時期であり，15世紀～16世紀に比定されている第１号塚と同時期の15～16世紀と考えられる。

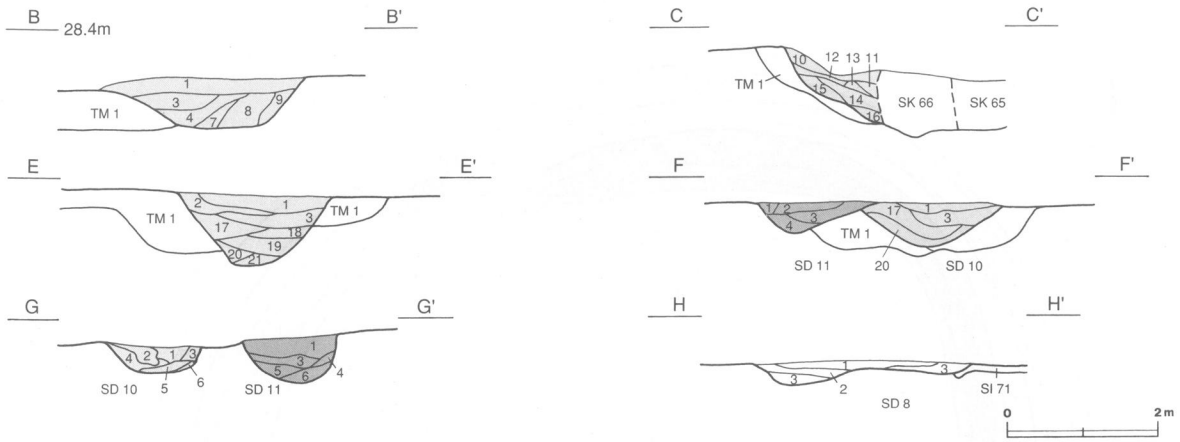
第10号溝跡出土遺物観察表（第227～231図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
28	土師質土器	小皿	8.2	2.8	3.7	長石・雲母	橙	普通	体部内外面ロクロナデ，底部回転糸切り	北東部中層	80%　口辺部内外面油煙 PL32
29	土師質土器	小皿	〔7.3〕	2.5	4.2	長石	橙	普通	体部内外面ロクロナデ，底部回転糸切り	溝覆土中	70%　口辺部内面油煙 PL32
32	磁器	青磁碗	〔13.3〕	(4.7)	－	白色粒子	灰オリーブ	堅緻	全面施釉，体部外面片刃彫の連弁文	南東部中層	25%　竜泉窯系
33	陶器	大甕	〔39.8〕	(5.3)	－	長石	にぶい赤褐	良	口辺部内外面ナデ	南西部底面	常滑８形式

番号	器　種	幅	奥行	厚さ	重量(kg)	石質	特　徴	出土位置	備考
Q43	五輪塔(地　輪)	24.0	23.1	16.7	18.0	花崗岩	側面は台形状を呈する	南西部底面	
Q44	五輪塔(地　輪)	24.9	24.0	15.5	(18.2)	花崗岩	上面のくぼみにのみ痕跡が残る	西部底面	
Q45	五輪塔(地　輪)	28.9	28.7	20.1	(33.8)	花崗岩	側面は長方形状を呈する	東部上層	
Q46	五輪塔(水　輪)	23.4	(21.4)	(11.4)	7.5	花崗岩	側面の丸み明瞭	西部底面	
Q47	五輪塔(水　輪)	22.5	21.9	15.7	11.8	花崗岩	側面の丸み不明瞭	南西部底面	
Q48	五輪塔(水　輪)	(26.9)	(24.5)	(12.5)	(10.4)	花崗岩	側面の丸み明瞭	南西部底面	
Q49	五輪塔(水　輪)	27.0	26.9	17.9	21.1	花崗岩	側面の丸み明瞭	北東部中層	
Q50	五輪塔(水　輪)	26.4	25.3	14.7	14.5	花崗岩	側面の丸み明瞭	東部中層	
Q51	五輪塔(水　輪)	28.9	26.5	18.5	22.1	花崗岩	側面の丸み明瞭	南西部中層	
Q52	五輪塔(火　輪)	28.1	(25.4)	14.8	(13.0)	花崗岩	軒先軽く外反	南西部底面	
Q53	五輪塔(火　輪)	(28.8)	26.9	(14.0)	(16.8)	花崗岩	軒先ほぼ並行	北部中層	
Q54	五輪塔(火　輪)	(28.7)	28.0	(14.6)	(14.0)	花崗岩	軒先ほぼ並行	南西部底面	
Q55	五輪塔(火　輪)	(30.3)	30.3	(13.7)	(17.6)	花崗岩	軒先軽く外反	南東部下層	
Q56	五輪塔(火　輪)	31.3	29.8	15.5	(21.0)	花崗岩	軒先軽く外反	溝覆土中	
Q57	五輪塔(火　輪)	32.1	31.1	15.4	(18.8)	花崗岩	軒先軽く外反	南西部中層	
Q58	五輪塔(火　輪)	33.9	32.8	16.7	(28.2)	花崗岩	軒先ほぼ並行	西部底面	
Q59	五輪塔(火　輪)	(32.4)	(27.5)	22.2	(23.4)	花崗岩	軒先軽く外反	南西部底面	
Q60	五輪塔(空風輪)	15.6	13.9	18.4	(5.1)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	南西部底面	



第225図　第10・11号溝跡実測図



第226図　第８・10・11号溝跡実測図

第10号溝跡出土遺物観察表（第232図）

番号	器　種	幅	奥行	厚さ	重量(kg)	石質	特　徴	出土位置	備考
Q61	五輪塔（空風輪）	16.9	16.6	21.4	8.3	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	南西部底面	
Q62	五輪塔（空風輪）	18.1	18.5	22.6	(10.2)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	東部中層	
Q63	五輪塔（空風輪）	22.2	21.9	30.4	(17.6)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ明瞭	北東部中層	

第11号溝跡（第225～232図）

位置　調査区西部のＤ３b1～Ｃ３j4区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　第１号墳，第10号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　第１号墳を利用して構築された第１号塚の周りを半周している。確認された規模は外径17.2m，内径15.0m，上幅は1.2～1.6mで，深さ約0.4～0.9mであり，断面は逆台形状を呈している。

覆土　覆土はローム粒子・ロームブロックを主体として６層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり，第１号塚の盛土の流入が認められる。

土層解説

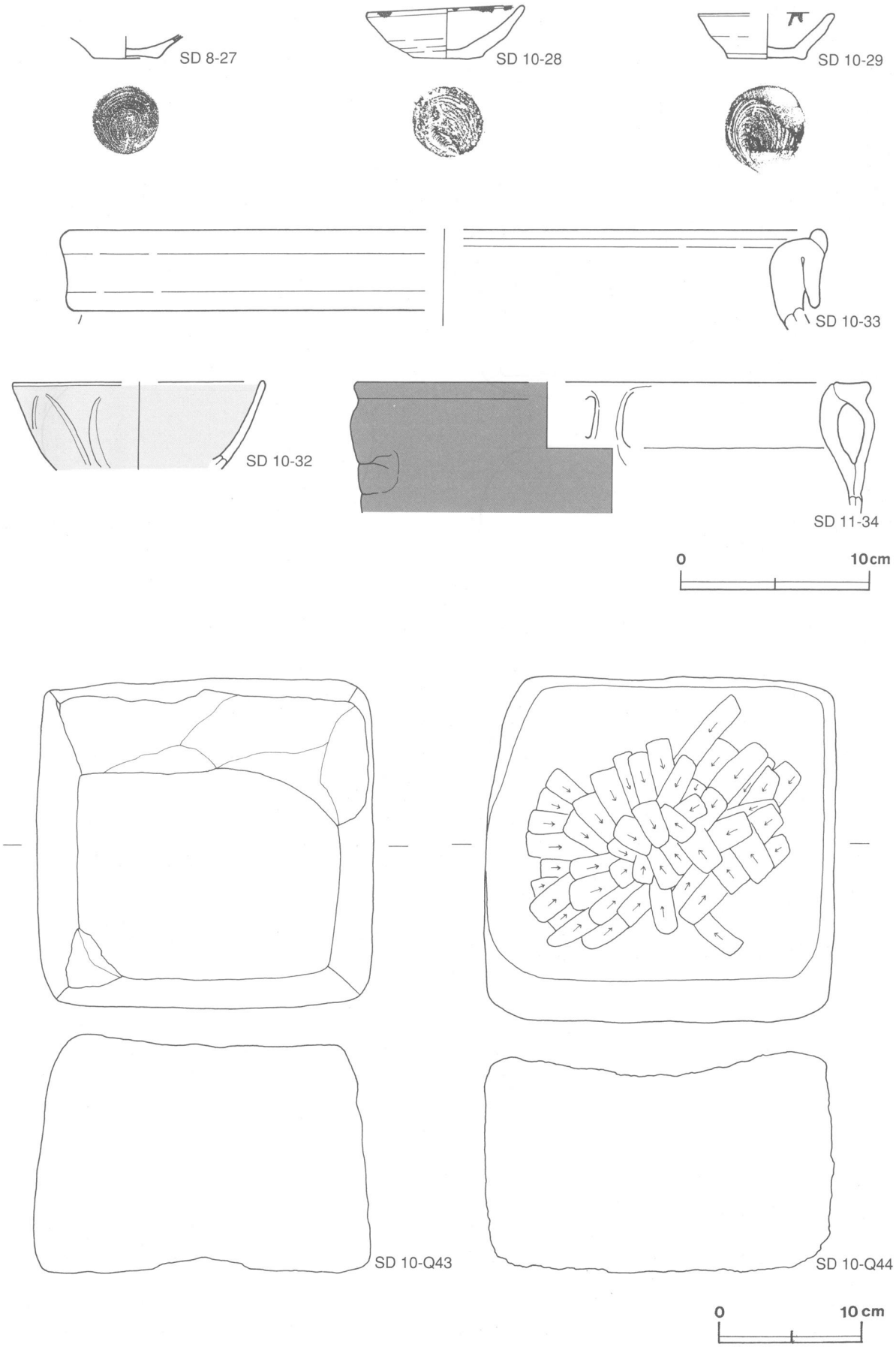
1　黒　褐　色　　ロームブロック微量
2　極暗褐色　　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師質土器２点（内耳鍋），陶器片４点（甕）が出土しているが，ほとんどが細片で破断面は摩耗しており，混入したものである。図示できたものは覆土中から出土した１点である。

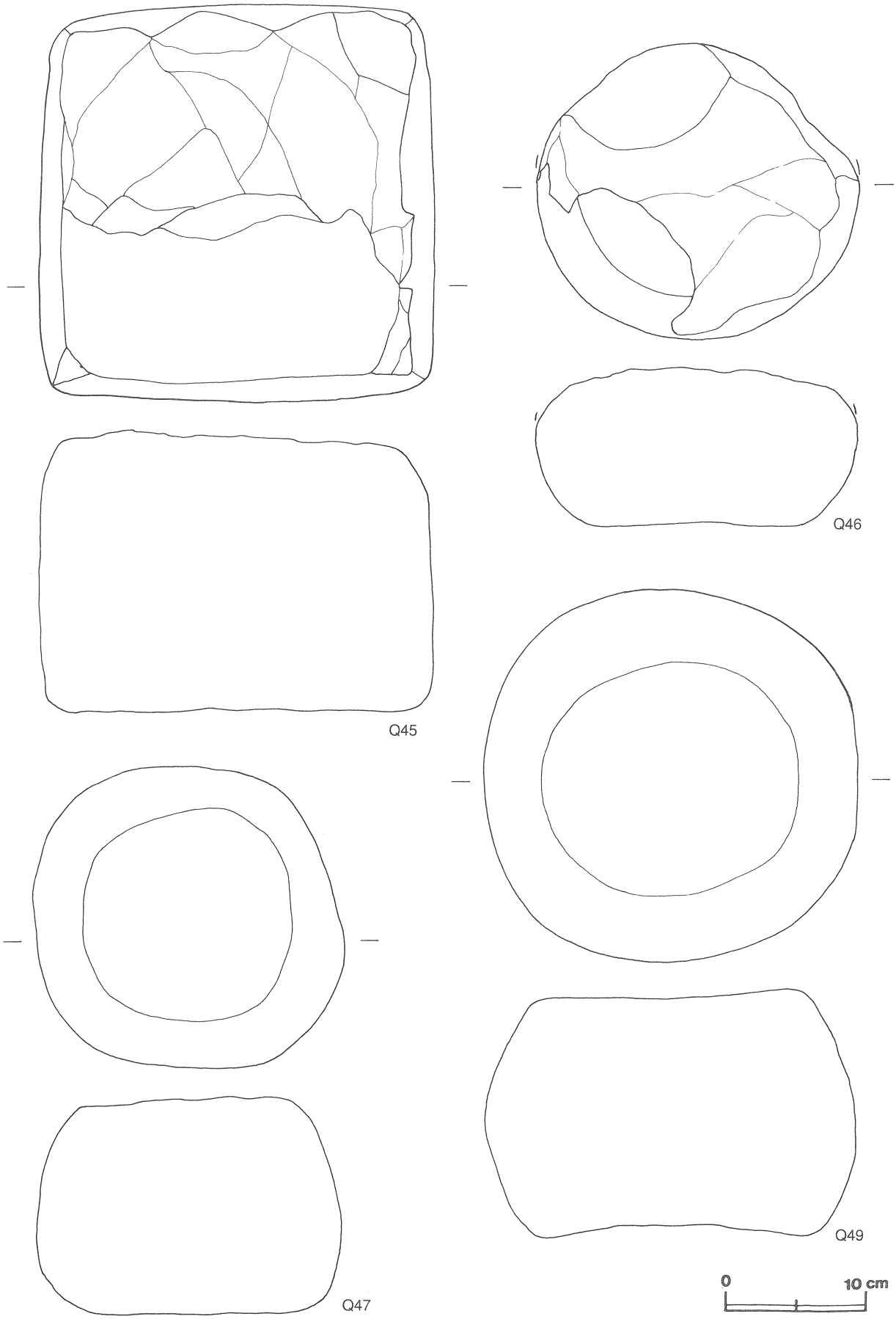
所見　本跡は第10号溝を一部で掘り込んでいるが，第10号溝に沿うように，第1号塚の周りを巡っており，本跡も第10号溝と同様に，第１号墳を意識して掘削され，墓域を区画する溝であったと考えられる。時期は，伴出遺物がないが，15～16世紀に比定されている第10号溝を掘り込み，第10号溝と同様に第１号墳を意識して掘削されているため，第10号溝が埋没後すぐに掘削されたものと考えられる。

第11号溝跡出土遺物観察表（第227図）

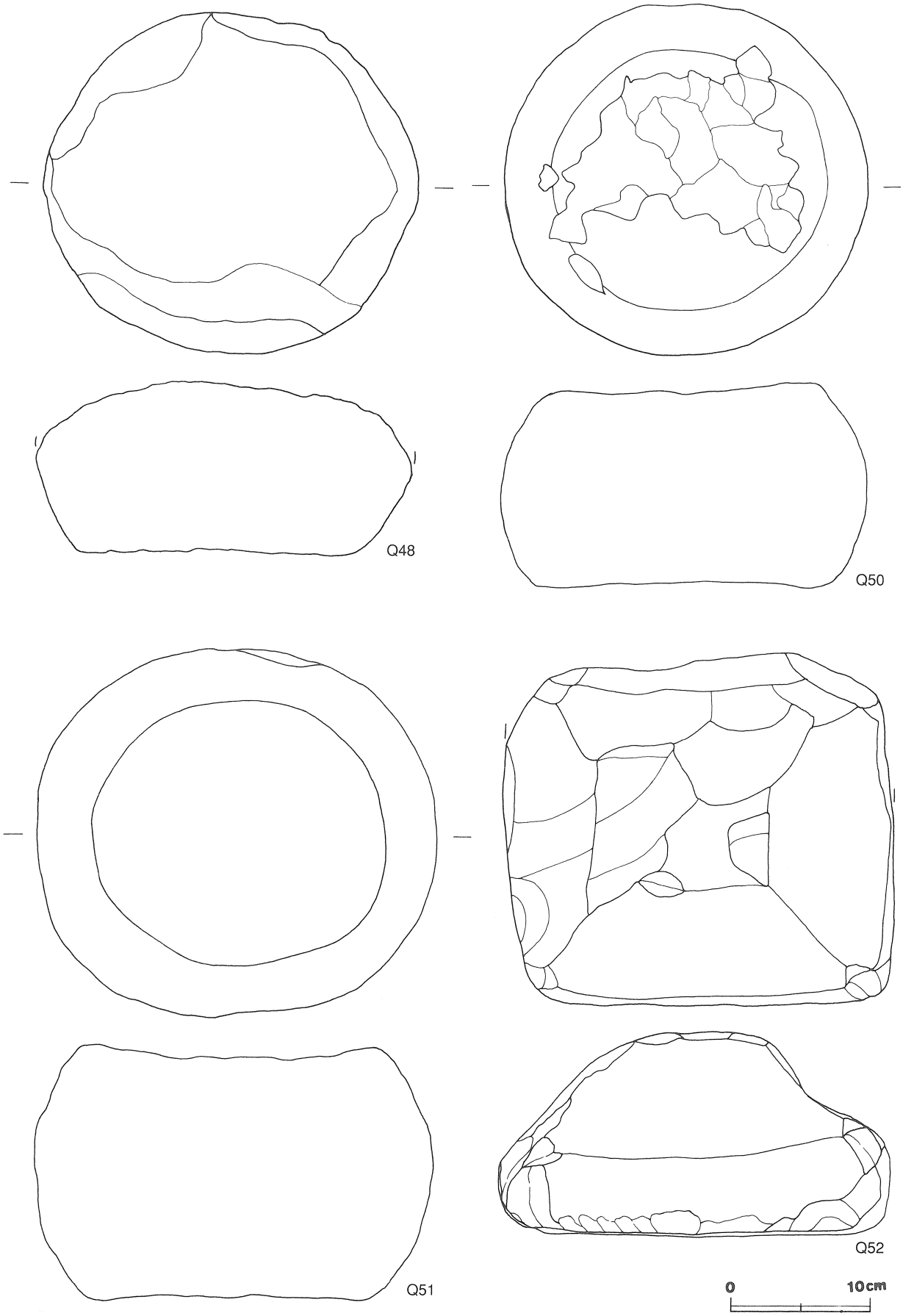
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
34	土師質土器	内耳鍋	〔27.0〕	(6.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	内外面ナデ，内耳１か所残存	覆土中	体部外面煤付着



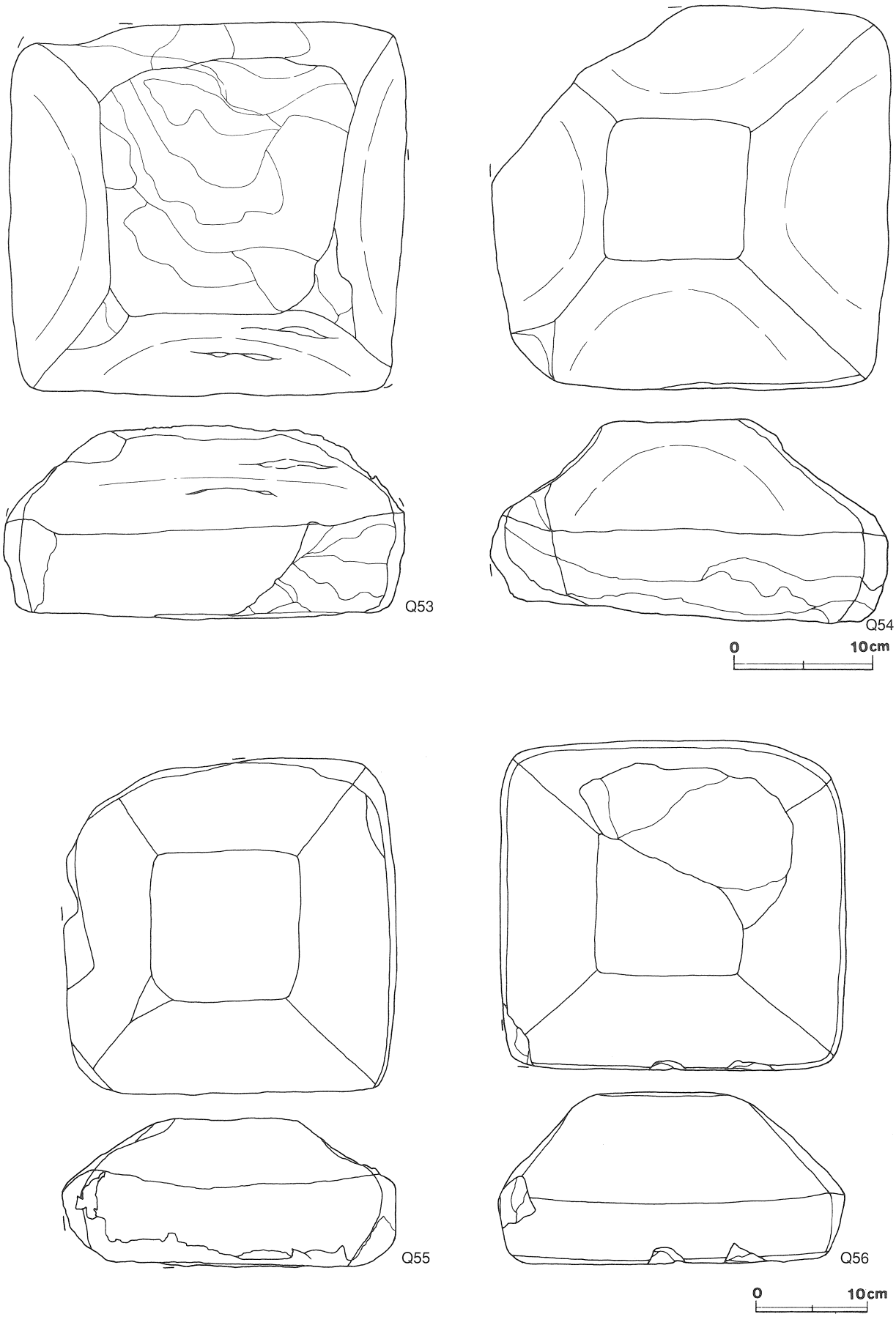
第227図　第８・10・11号溝跡出土遺物実測図



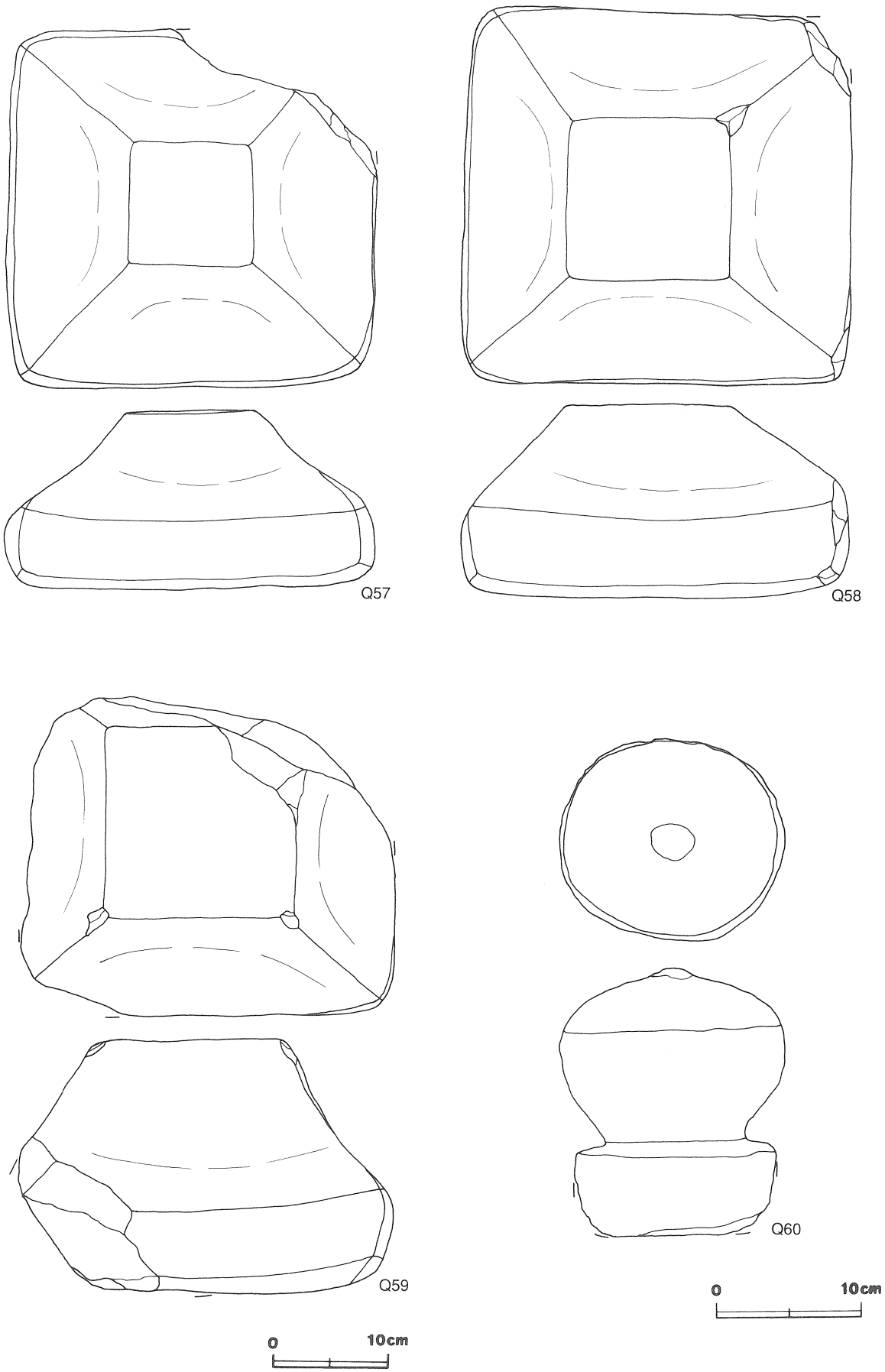
第228図　第10号溝跡出土遺物実測図（1）



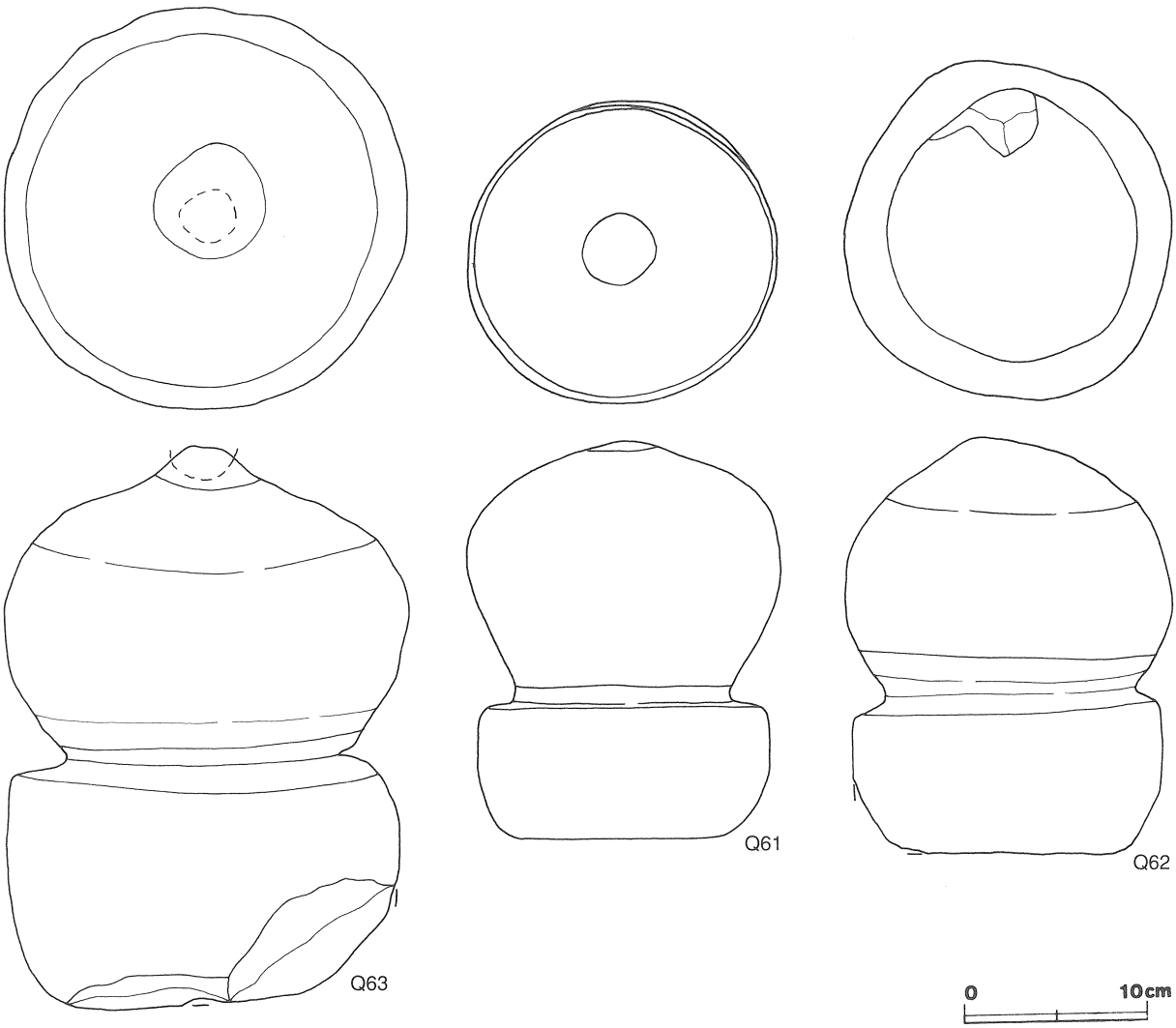
第229図　第10号溝跡出土遺物実測図（2）



第230図　第10号溝跡出土遺物実測図（3）



第231図　第10号溝跡出土遺物実測図（4）



第232図　第10号溝跡出土遺物実測図（５）

表７　中世溝一覧表

遺構番号	位　置	主軸方向	形状	規　模（m）				断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（旧→新）
				確認長	上幅	下幅	深さ					
8	C2j7～D4d1	N-45°-W	円弧状	(136.0)	1.0～3.8	0.7～2.9	0.31	皿状	皿状	自然	土師器	SI 62・70・71，TM 2→本跡→SD 9
10	D3a1～D3c7	N-53°-W	円弧状	72.0	1.0～2.4	0.3～1.3	0.7～0.12	逆台形状	平坦	自然	土師質土器・五輪塔など	TM 1→本跡→SD 11，SK 65～68・85・86・88・116
11	D3b1～C3j4	N-60°-W	半円弧状	28.7	1.2～1.6	0.4～0.7	0.4～0.9	逆台形状	平坦	自然	土師質土器・陶器など	TM 1→SD 10→本跡

（5）墓壙

調査の結果，36基の墓壙が検出され，内訳は土葬墓と思われるもの９基，火葬墓と思われるもの24基，明確でないもの３基である。これらは，第１号墳とその周りを円弧状に巡っている第８号溝の内側に位置し，墓域を形成している。ここでは,遺存状態が良好な代表的な墓壙をいくつか取り上げて記述し，それ以外については一覧表及び実測図を掲載する。

①　土葬墓

第62号土坑（墓壙）（第233図）

位置　調査区中央部のＤ３e7区に位置している。

重複関係　第１号墳の周溝，第64号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸102cm，短軸84cmほどの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－36°－Ｅである。深さは80cm，底面は平坦であるが西側に傾斜し，壁は直立している。

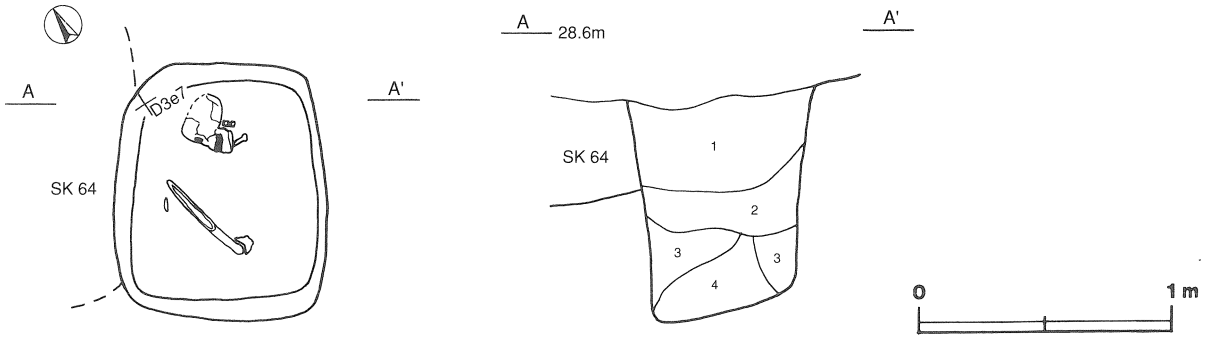
覆土　４層からなり，不自然な堆積している人為堆積である。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック少量	3	褐　　色	ローム粒子多量
2	暗　褐　色	ロームブロック中量	4	暗　褐　色	ローム粒子中量

遺物出土状況　覆土下層から床面にかけて人骨（頭蓋骨，骨盤，大腿骨）が出土している。

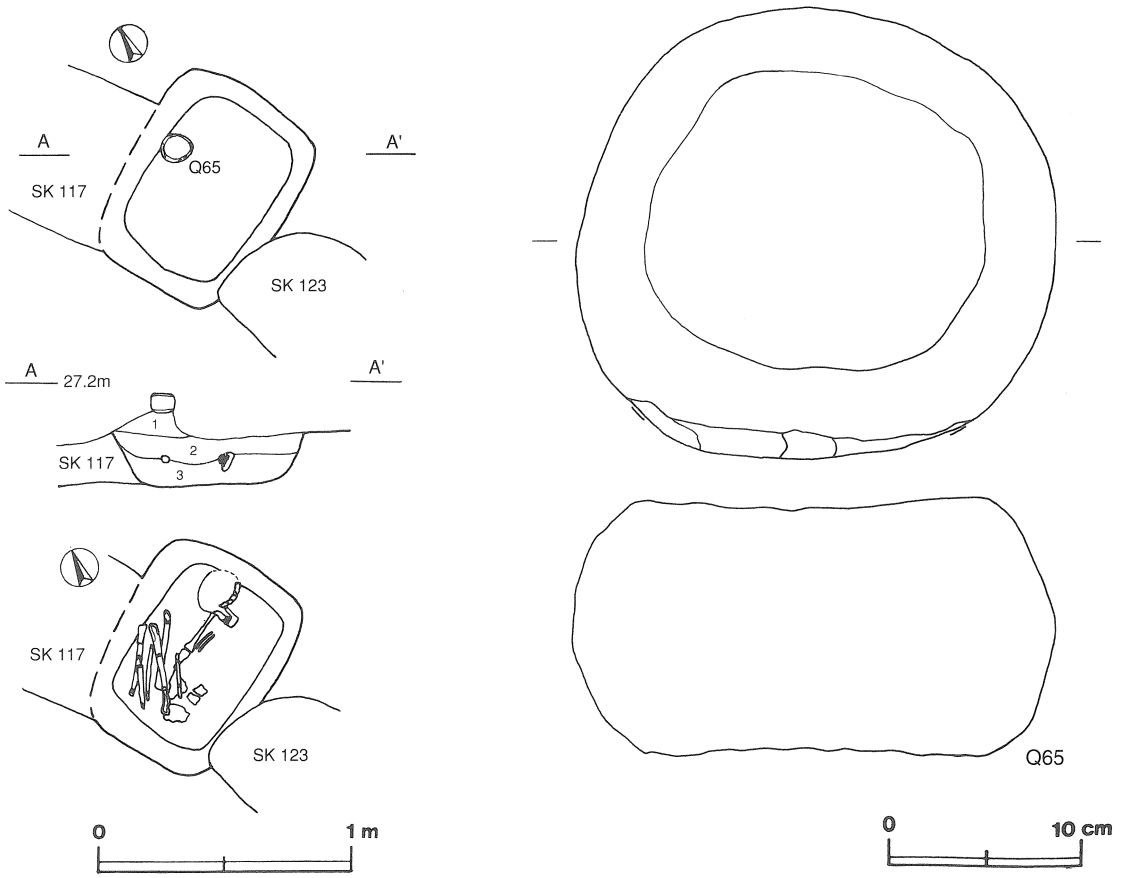
所見　出土した頭蓋骨と大腿骨の位置関係から，埋葬形態は座葬または臥屈葬と考えられる。時期は周辺の墓壙墓群と同時期の中・近世と考えられる。



第233図　第62号土坑（墓壙）実測図

第121号土坑（墓壙）（第234図）

位置　調査区中央部のＤ３e5区に位置している。



第234図　第121号土坑（墓壙）・出土遺物実測図

重複関係　北西側で第117号土坑を掘り込み，第123号土坑に南東壁際に掘り込まれている。

規模と形状　長軸85cm，短軸69cmほどが確認され，隅丸長方形で，長軸方向はN－53°－Eである。深さは22cm，底面は平坦であり，壁は緩斜している。

覆土　3層からなり，ロームブロック・粒子を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　　ロームブロック中量

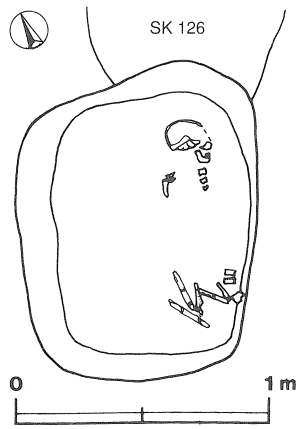
遺物出土状況　墓壙上面に五輪塔(Q65)が置かれ，覆土中層から下層にかけて人骨（頭蓋骨・上腕骨・大腿骨・骨盤など）が出土している。

所見　出土した人骨の出土状況から，埋葬形態は座葬または臥屈葬と考えられる。時期は周囲の墓壙墓群と同時期の中・近世と考えられる。

第121号土坑（墓坑）出土遺物観察表（第234図）

番号	種別	幅	奥行	厚さ	重量(kg)	材質	特　徴	出土位置	備考
Q65	五輪塔（水輪）	25.8	(23.9)	13.6	(12.5)	花崗岩	側面の丸み明瞭	覆土上部	

第125号土坑（墓壙）（第235図）



第235図　第125号土坑（墓壙）実測図

位置　調査区中央部のD3e7区に位置している。

重複関係　第126号土坑の南側を掘り込んでいる。

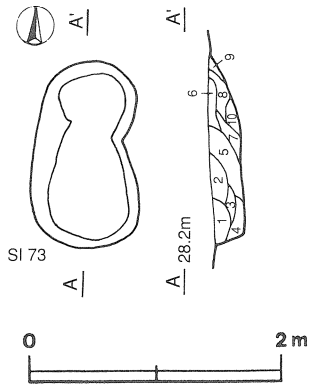
規模と形状　長軸123cm，短軸95cmほどの不整長方形で，長軸方向はN－30°－Eである。

遺物出土状況　覆土中から，人骨（頭蓋骨，脊椎，大腿骨，骨盤など）が出土している。

所見　時期は遺構の形状から，埋葬形態は座葬または臥屈葬と考えられる。時期は周辺の墓壙墓群と同時期の中・近世と考えられる。

② 火葬墓

第51号土坑（墓壙）（第236図）



第236図　第51号土坑（墓壙）実測図

位置　調査区中央部のC3j9区に位置している。

重複関係　第73号住居を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸148cm，短軸68cmほどの双円状に確認され，深さは燃焼部20cm，通気溝25cmほどである。壁は外傾して立ち上がっているが，燃焼部の壁は緩斜しており，長軸方向はN－8°－Eである。

覆土　10層からなり，焼土粒子・炭化粒子を含む人為堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　　ローム粒子微量
4　極暗褐色　　ロームブロック少量
5　黒　　色　　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　　炭化粒子少量，焼土粒子微量

7　黒　　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
8　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
9　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　混入した土師器片８点（甕類），縄文土器３点（深鉢類）が覆土中から出土している。

所見　削平のため，平面形は双円状に確認されたが，本来はＴ字状であったと考えられ，南部が焚口である。本跡に伴う遺物が出土していないため，明確な時期は不明であるが，周辺の同様な形状の遺構の出土遺物から，中・近世の火葬墓と考えられる。

第53号土坑（墓壙）（第237図）

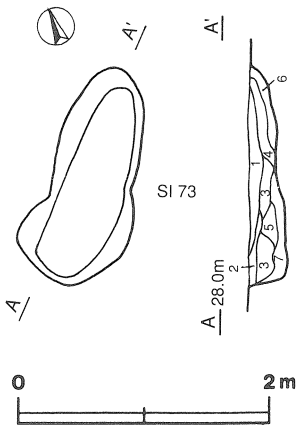
位置　調査区中央部のＤ３a9区に位置している。

重複関係　第73号住居を掘り込んでいる。

規模と形状　長径175cm，短径65cmほどの楕円状に確認され，深さは燃焼部22cm，通気溝30cmほどである。通気溝の壁は直立ぎみに立ち上がっているが，燃焼部の壁は緩斜しており，主軸方向はＮ－34°－Ｅである。

覆土　７層からなり，焼土粒子・炭化粒子を含む，人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化物微量
2　極暗褐色　黒色粒子中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子微量
6　灰　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック少量



第237図　第53号土坑（墓壙）実測図

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　削平のため，平面形は楕円が連結した形状で確認されたが，本来はＴ字状と考えられ，南西部が焚口である。本跡に伴う遺物が出土していないため，明確な時期は不明であるが，周辺の同様な形状の遺構の出土遺物から，中・近世の火葬墓と考えらる。

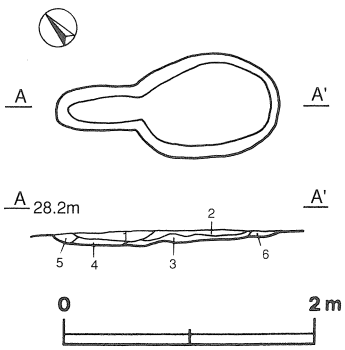
第72号土坑（墓壙）（第238図）

位置　調査区中央部のＣ３i8区に位置している。

規模と形状　長径178cm，短径36cmほどの楕円が連結した形状で確認され，深さは燃焼部10cm，通気溝12cmほどである。通気溝・燃焼部の壁とも，壁は外傾して立ち上がっており，主軸方向はＮ－47°－Ｗである。

覆土　６層からなり，焼土粒子・炭化粒子を含む人為堆積である。

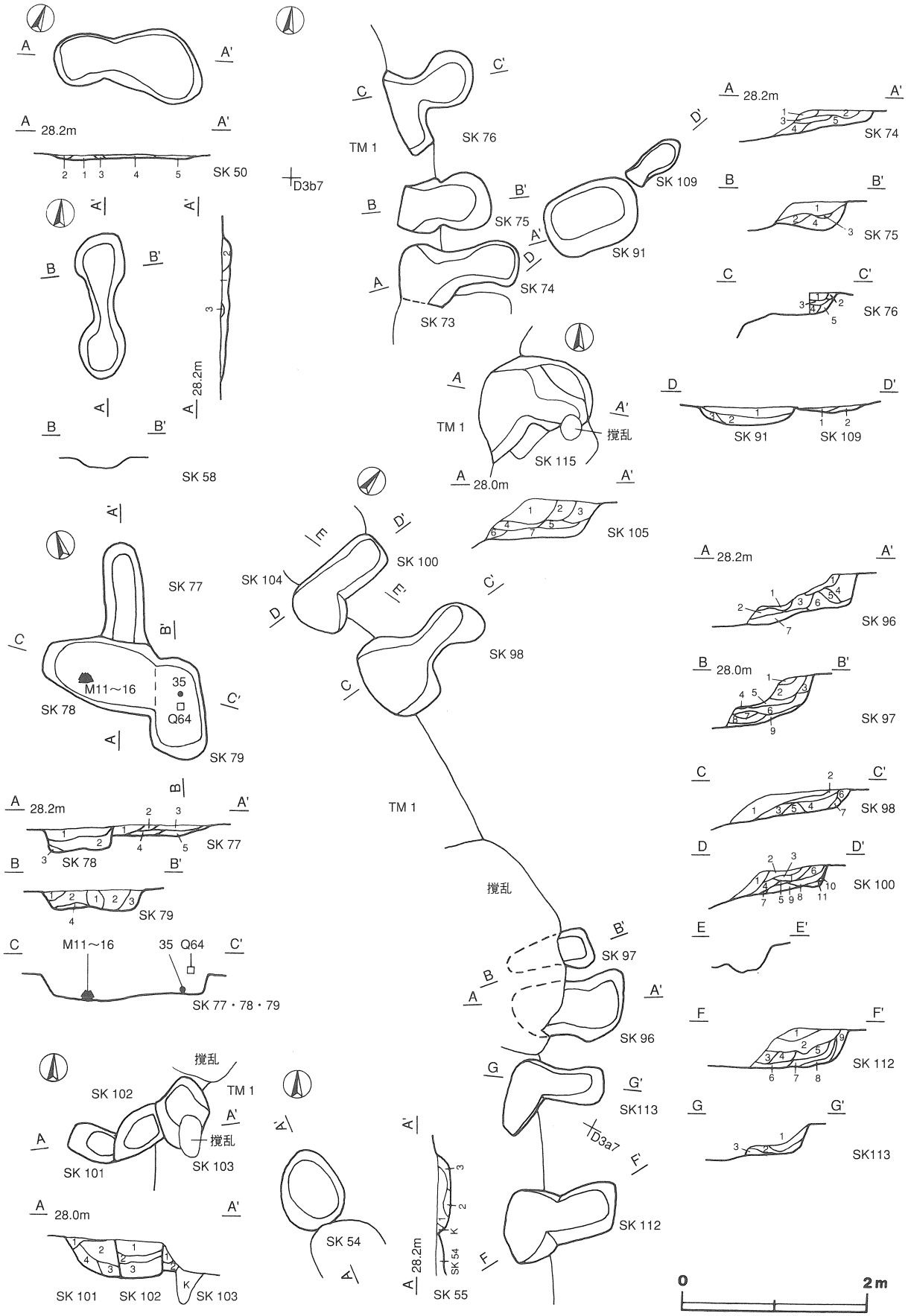
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，黒色ブロック・炭化物微量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化物微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物多量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化材微量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量
6　褐　　色　炭化物中量



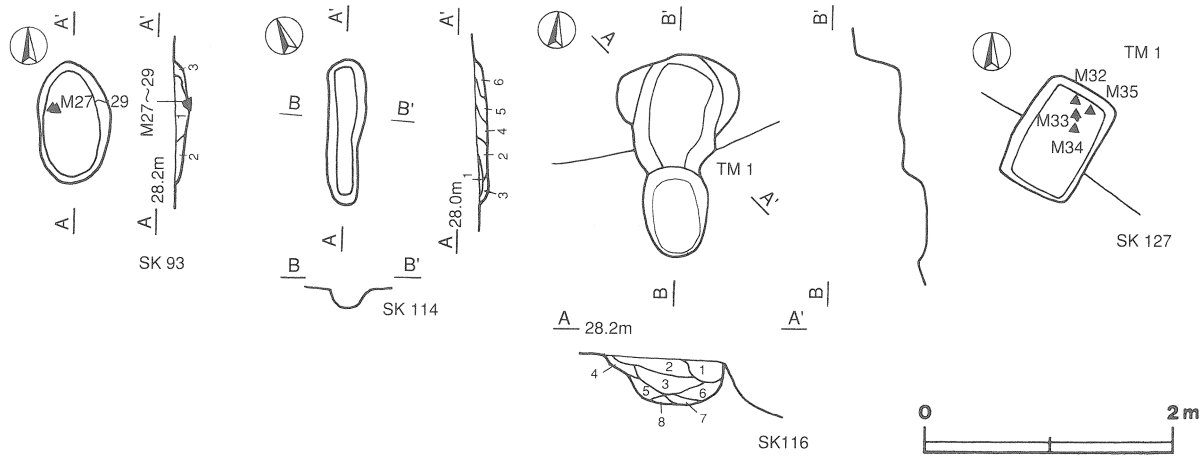
第238図　第72号土坑（墓壙）実測図

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　削平のため，平面形は楕円が連結した形状で確認されたが，本来はＴ字状であったと考えられ，北西部が焚口である。本跡に伴う遺物が出土していないため，明確な時期は不明であるが，周辺の同様な形状の遺構の出土遺物から，中・近世の火葬墓と考えらる。



第239図　中世その他の土坑（墓壙）実測図（1）



第240図　中世その他の土坑（墓壙）実測図（２）

③　その他の土壙

土層解説

第50号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物少量，ローム粒子微量
2　黒　　色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第55号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック微量

第58号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量，焼土粒子中量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量，炭化物多量
3　暗赤褐色　ローム粒子微量，焼土粒子多量，炭化物微量

第74号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化物少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　　色　炭化物多量，ローム粒子・焼土粒子微量

第75号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒　　色　炭化物多量

第76号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　　色　炭化物多量，ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

第77号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
3　黒　　色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　赤　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子・炭化物少量

第78号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第79号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量

第91号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　褐　　色　ローム粒子微量

第93号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　極暗褐色　ローム粒子微量

第96号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化物微量
2　黒　　色　焼土粒子・炭化物微量
3　黒　　色　炭化物中量，焼土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
5　黒　　色　炭化材少量
6　黒　　色　炭化物中量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量

第97号土坑土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化物微量
5　黒　　色　炭化物少量，焼土粒子少量
6　黒　　色　炭化物多量，ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ローム粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック少量

第98号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
4　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
7　黒　　色　炭化粒子少量

第100号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　　焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　　焼土粒子・炭化物少量
4　暗 赤 褐 色　　焼土ブロック中量，炭化物微量
5　黒　　色　　炭化物多量
6　黒　　色　　炭化材多量
7　暗 赤 褐 色　　焼土粒子・炭化物少量
8　極暗赤褐色　　焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 赤 褐 色　　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗 赤 褐 色　　焼土粒子多量
11　黒　　色　　炭化物中量

第101号土坑土層解説

1　暗　褐　色　　ロームブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　　ローム粒子少量
4　褐　　色　　ロームブロック・炭化物微量

第102号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　ロームブロック少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　　ロームブロック少量
3　明　褐　色　　炭化物少量

第103号土坑土層解説

1　暗 赤 褐 色　　焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化材少量

第105号土坑土層解説

1　極 暗 褐 色　　ロームブロック微量
2　灰　褐　色　　ロームブロック少量
3　褐　　色　　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　褐　　色　　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
5　暗 赤 褐 色　　焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック微量
6　褐　　色　　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　　炭化物多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量

第109号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
2　極 暗 褐 色　　炭化粒子多量，ローム粒子中量，焼土粒子微量

第112号土坑土層解説

1　暗　褐　色　　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子・炭化物中量，焼土粒子中量
3　暗　褐　色　　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
4　極 暗 褐 色　　焼土粒子中量，炭化物少量
5　黒　　色　　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
6　黒　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
7　黒　　色　　ロームブロック中量
8　黒　　色　　ロームブロック少量
9　暗　褐　色　　ロームブロック少量

第113号土坑土層解説

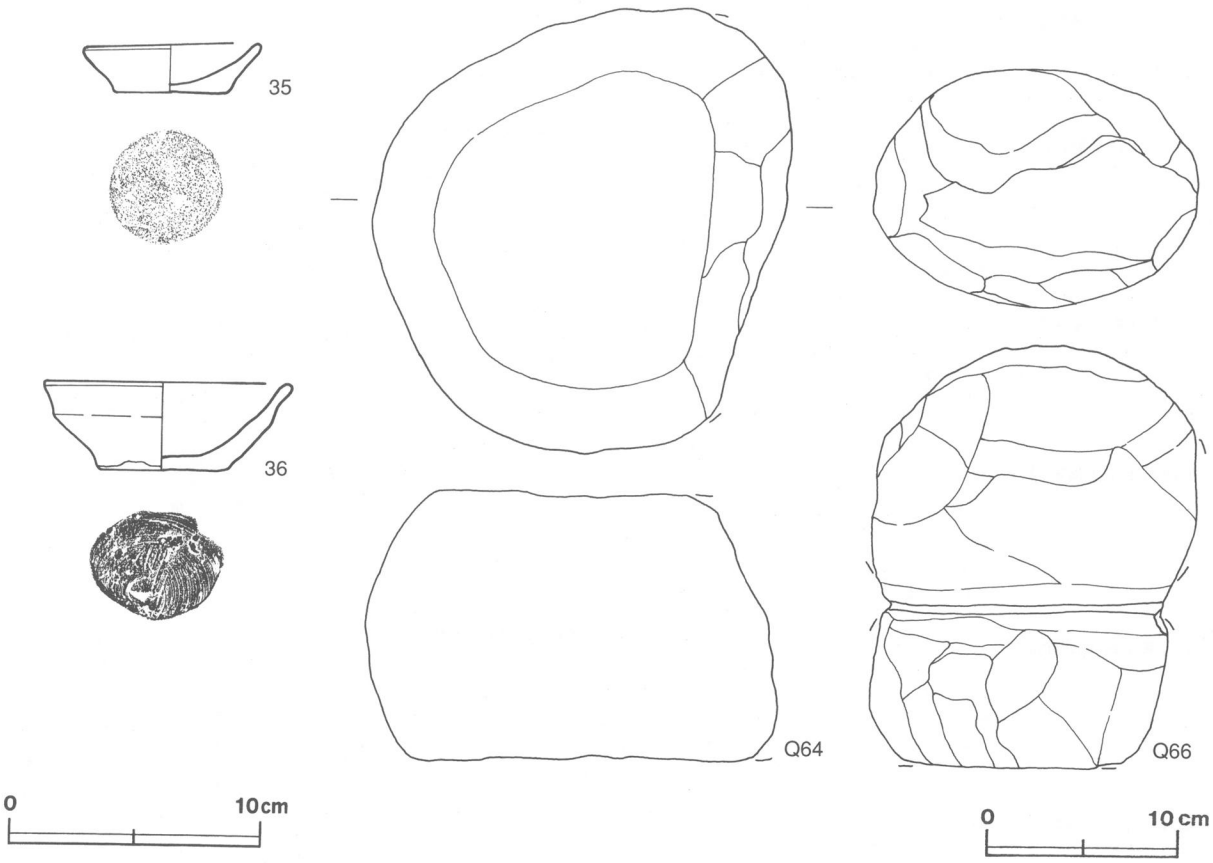
1　暗　褐　色　　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子少量

第114号土坑土層解説

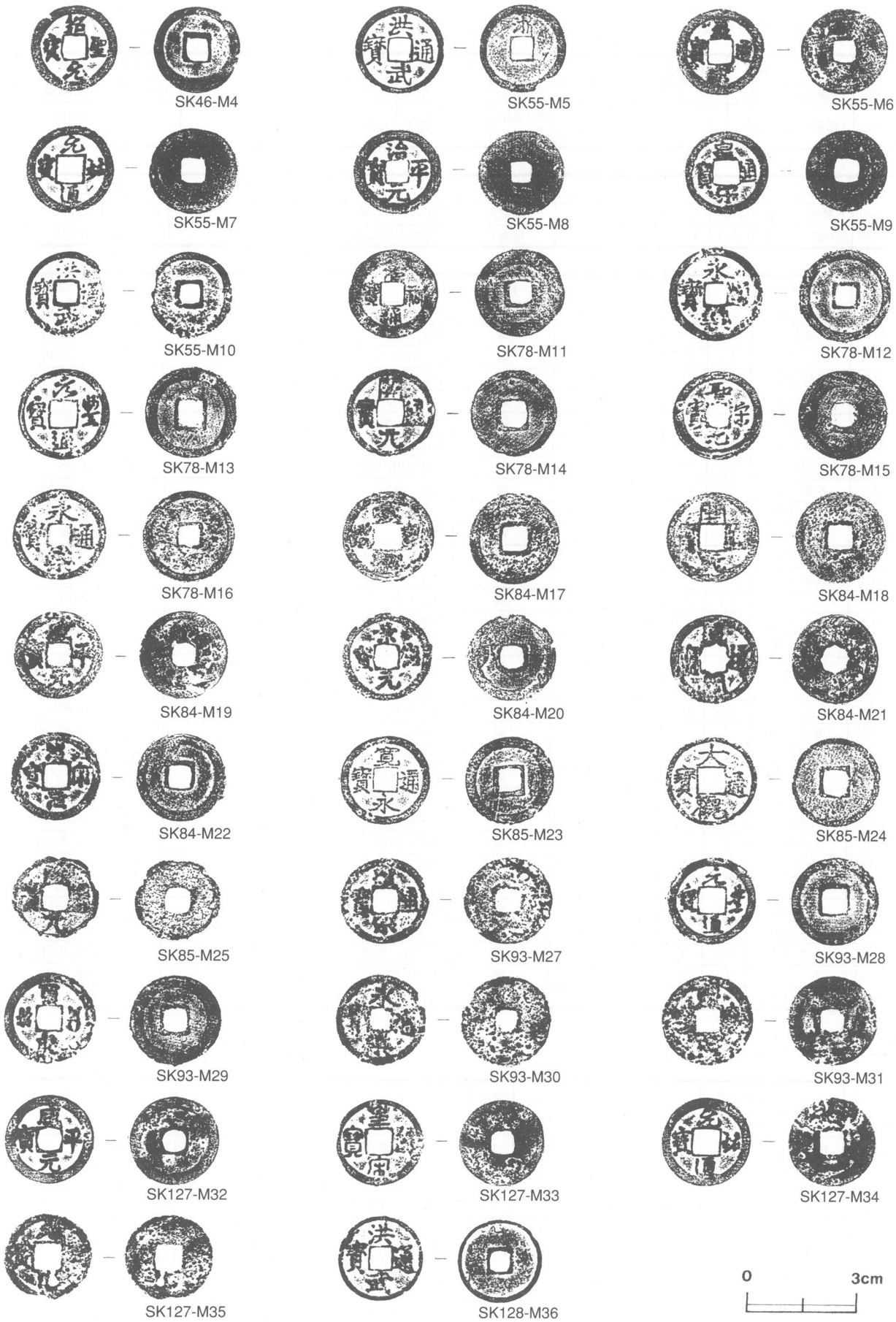
1　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
2　黒　　色　　ローム粒子・炭化物中量，焼土粒子中量
3　暗　褐　色　　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　　焼土粒子中量，炭化物少量
5　にぶい赤褐色　　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
6　褐　　色　　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量

第116号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
5　黒　褐　色　　炭化物中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　　焼土粒子中量
7　暗 赤 褐 色　　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
8　黒　　色　　炭化物中量



第241図　中世その他の土坑（墓壙）出土遺物実測図（1）



第242図　中世その他土坑（墓壙）出土遺物実測図（2）

中・近世　その他の墓壙出土遺物観察表（第241・242図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	土師質土器	小皿	6.9	2.0	4.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部ナデ	下層	100%PL 32 SK 79
36	土師質土器	小皿	9.7	3.5	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	—	100%PL 32 SK 128

番号	種別	幅	奥行	厚さ	重量(kg)	材質	特　徴	出土位置	備考
Q64	五輪塔（水輪）	(22.2)	23.2	14.2	11.0	花崗岩	側面の丸み明瞭（一部欠損）	覆土上部	SK 79
Q66	五輪塔（空風輪）	(17.3)	(12.5)	(22.3)	5.8	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれ明瞭	—	SK 123

番号	種別	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特　徴	出土位置	備考
M 4	招聖元寶	2.3	0.6	3.4	1094	銅	北宋銭，行書	—	SK 46 PL 46
M 5	洪武通寶	2.4	0.6	3.5	1386	銅	明銭，背漸	—	SK 55 PL 46
M 6	□□通寶	2.3	0.7	3.1	—	銅	銭名不明	—	SK 55 PL 46
M 7	元符通寶	2.4	0.7	3.4	1098	銅	北宋銭，行書	—	SK 55 PL 46
M 8	治平元寶	2.3	0.6	2.5	1064	銅	北宋銭，真書	—	SK 55 PL 46
M 9	皇宋通寶	2.2	0.7	2.4	1038	銅	北宋銭，真書	—	SK 55 PL 46
M10	洪武通寶	2.3	0.6	3.1	1368	銅	明銭，無背	—	SK 55 PL 46
M11	□祠通寶	2.4	0.6	3.0	—	銅	一部欠損，銭名不明	床面	SK 78
M12	永樂通寶	2.5	0.6	3.6	1408	銅	明銭，無背	床面	SK 78 PL 46
M13	元豊通寶	2.5	0.7	3.8	1078	銅	北宋銭，行書	床面	SK 78 PL 47
M14	開元通寶	2.4	0.7	2.7	621	銅	唐銭	床面	SK 78 PL 47
M15	聖宋元寶	2.4	0.6	2.9	1101	銅	北宋銭，行書	床面	SK 78 PL 47
M16	永樂通寶	2.5	0.6	3.6	1408	銅	明銭，模鋳銭	床面	SK 78 PL 47
M17	不　明	2.4	0.7	3.9	—	銅	銭名不明	—	SK 84
M18	開元通寶	2.5	0.7	3.3	621	銅	古寛永	—	SK 84 PL 47
M19	治平元寶	2.4	0.6	3.0	1064	銅	北宋銭，真書	—	SK 84
M20	景祐元寶	2.9	0.7	2.5	1034	銅	北宋銭，真書	—	SK 84 PL 47
M21	不　明	2.4	0.7	3.0	—	銅	摩滅，銭名不明	—	SK 84 PL 47
M22	□□□寶	2.5	0.7	3.7	—	銅	銭名不明	—	SK 84
M23	寛永通宝	2.4	0.6	2.5	1636	銅	古寛永	床面	SK 85 PL 47
M24	大観通寶	2.5	0.7	2.7	1107	銅	北宋銭	床面	SK 85 PL 47
M25	□□元寶	2.3	0.7	2.3	—	銅	摩滅，銭名不明	床面	SK 85 PL 47
M27	皇宋通寶	2.4	0.7	3.2	—	銅	銭名不明	床面	SK 93
M28	元豊通寶	2.3	0.7	3.2	1078	銅	北宋銭，行書	床面	SK 93 PL 47
M29	寛永通宝	2.5	0.7	3.1	—	銅	表面不明瞭	床面	SK 93 PL 47
M30	永樂通寶	2.5	0.6	2.2	1408	銅	明銭，模鋳銭	床面	SK 93
M31	不　明	2.5	0.7	3.6	—	銅	表面不明瞭	—	SK 93
M32	咸平元寶	2.4	0.6	3.0	998	銅	北宋銭	—	SK 127 PL 47
M33	皇宋通寶	2.4	0.7	3.4	1038	銅	北宋銭，篆書	—	SK 127 PL 47
M34	元祐通寶	2.4	0.7	3.7	1086	銅	北宋銭，行書	—	SK 127 PL 47
M35	不　明	2.4	0.8	2.1	—	銅	銭名不明	—	SK 127
M36	洪武通寶	2.3	0.6	2.3	1386	銅	明銭，無背	—	SK 128 PL 47

表8　中・近世の墓壙一覧

土坑番号	位　置	主軸方向長径（軸）	平面形	規　模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備　考（旧→新）
46	D4e6	N-21°-E	[隅丸長方形]	[1.17]×1.01	16	外傾	皿状	人為	古銭,土師器片	本跡→SK 47
50	C3j9	N-73°-E	不整楕円形	1.47×0.61	57	緩斜	平坦	人為		SI 73→本跡
51	C3j9	N- 8°-E	双円状	1.48×0.68	26	外傾・緩斜	平坦	人為		SI 73→本跡
53	D3a9	N-34°-E	不整楕円形	1.75×0.65	31	直立・外傾	平坦	人為		SI 73→本跡
55	C3j9	N- 6°-W	楕円形	0.85×0.67	16	緩斜	平坦	人為	古銭	SK 54→本跡
58	D3b9	[N- 3°-W]	不整楕円形	1.57×0.24	14	緩斜	平坦	人為		
62	D3e7	N-36°-E	隅丸長方形	1.02×0.84	80	直立	平坦	人為	人骨	SK 64→本跡
72	C3i8	N-47°-W	不整楕円形	1.78×0.36	13	緩斜	平坦	人為		

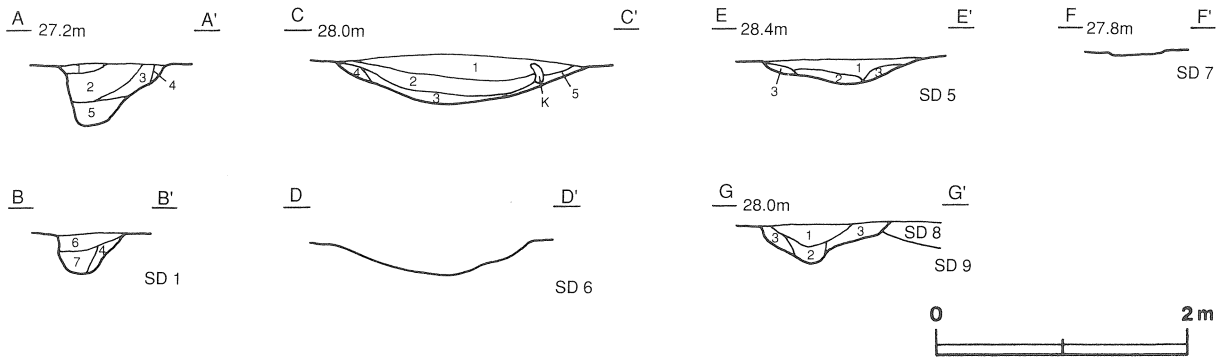
土坑番号	位　置	主軸方向長径（軸）	平面形	規　模(m)長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備　考(旧→新)
74	D3b7	N-73°-E	[不定形]	(1.34)×0.39	23	外傾	皿状	人為		TM 1→本跡→SK 73
75	D3b7	N-82°-E	[不定形]	(0.97)×0.43	30	緩斜	皿状	人為		TM 1→本跡
76	D3a7	N-47°-E	[不定形]	(0.98)×0.38	20	緩斜	皿状	人為		TM 1→本跡
77	D3c9	N-22°-E	隅丸長方形	(1.06)×0.42	11	緩斜	平坦	人為		本跡→SK 78
78	D3c9	N-49°-W	不整長方形	(1.22)×0.74	26	外傾	平坦	人為	古銭	SK 77→本跡・SK 79
79	D3c9	N-22°-E	隅丸長方形	1.09×0.58	23	外傾	凸凹	人為	土師質土器，五輪塔	SK 78と重複（新旧不明）
84	D3a8	N-78°-E	楕円形	[0.66]×[0.48]	不明	不明	不明	人為	古銭	SI 73→本跡
85	D3e4	N-81°-E	T字状	1.18×1.18	不明	不明	不明	人為	古銭	
91	D3b7	N-72°-E	隅丸長方形	1.02×0.71	17	緩斜	皿状	人為	人骨	
93	C3i9	N- 6°-W	楕円形	0.96×0.57	8	緩斜	皿状	人為	古銭	
96	C3j6	N-54°-E	[不定形]	(0.71)×0.57	34	外傾	凸凹	人為		TM 1→本跡
97	C3j6	N-42°-E	[長方形]	(0.32)×0.38	39	外傾	ほぼ平坦	人為		TM 1→本跡
98	C3j5	N-15°-E	[不定形]	(1.43)×0.34	23	緩斜	皿状	人為		TM 1→本跡
100	C3j5	N-19°-E	[不定形]	(1.16)×0.34	24	外傾	凸凹	人為		TM 1→本跡→SK 104
101	D2b0	N-77°-W	[隅丸長方形]	(0.49)×0.35	41	緩斜	皿状	人為		本跡→SK 102
102	D2b0	N-57°-E	不整楕円形	(0.58)×0.43	40	外傾	平坦	人為		SK 101・103→本跡
103	D2b0	N-23°-E	不整方形	0.78×(0.6)	28	直立	[平坦]	人為		本跡→SK 102
105	D3c7	N-61°-E	[不定形]	1.26×0.75	44	外傾	平坦	人為		TM 1→本跡・SK 115
109	D3a7	N-49°-E	不定形	0.67×0.21	6	緩斜	皿状	人為		
112	D3a7	N-46°-E	[不定形]	(1.25)×0.54	43	外傾	凸凹	人為		TM 1→本跡
113	C3j6	N-56°-E	[不定形]	(1.07)×0.35	30	外傾	平坦	人為		TM 1→本跡
114	D3c8	N-29°-E	不整長方形	1.16×0.28	9	緩斜	皿状	人為		
116	C3i3	N- 0°	[不定形]	1.64×0.65	35	外傾・緩斜	皿状	人為		TM 1→本跡
121	D3e5	N-53°-E	[隅丸長方形]	0.85×[0.69]	22	緩斜	平坦	人為	五輪塔，人骨	SK 117→本跡→SK 123
123	D3e5	N-25°-E	不整楕円形	0.81×0.51	20	外傾	皿状	人為	五輪塔	本跡→121
125	D3e7	N-30°-E	不整長方形	1.23×0.95	不明	不明	不明	人為	人骨	SK 126→本跡
127	D3e2	N-30°-E	長方形	0.93×0.65	不明	不明	不明	人為	古銭	TM 1→本跡
128	D3f6	N-55°-E	隅丸長方形	1.05×0.73	不明	不明	不明	人為	土師質土器，古銭	

4　その他の時代の遺構と遺物

今回の調査で，時期不明の溝６条，土坑69基，ピット群１か所を確認した。以下，記述したもの以外は，実測図及び一覧表で掲載する。

(1) 溝跡

当遺跡からは，中世の項で紹介した第８・10・11号溝を除いて６条の溝が検出されている。第１号溝は，調査区の東部を東西に直線的に延びた後，西端でほぼ直角に短く南北に屈曲している。第２号溝は，調査区の東部を南北に延びており，北部はエリア外に達している。第５号溝は，調査区の西部を東西に延び，第95・96号住居跡，第２号墳の周溝を掘り込んでいる。第６号溝は，第５号溝とほぼ平行して延びており，第65・66・97号住居跡を掘り込み，東端はエリア外に達している。第７号溝は，調査区の南西部，第６号溝の南側を北北西に延び，第66号住居跡を掘り込んでいる。第９号溝は，円弧状に巡っている第８号溝の北部内側に接するように延びている。いずれからも遺物は出土しておらず，性格は不明である。これらの溝について，平面図は全体図に示し，土層実測図と一覧表を記載する。



第243図　その他の時期不明溝跡実測図

その他の時期不明溝跡土層解説

第1号溝土層解説

1　黒　褐　色　　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　　ロームブロック多量
3　極暗褐色　　ロームブロック多量
4　灰　褐　色　　ロームロック中量
5　黒　褐　色　　ロームブロック中量
6　極暗褐色　　ローム粒子少量
7　極暗褐色　　ロームブロック中量

第5号溝土層解説

1　暗　褐　色　　ローム粒子少量
2　褐　　色　　黒色ブロック多量，ロームブロック微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子中量

第6号溝土層解説

1　黒　　色　　黒色ブロック中量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子微量
3　灰　褐　色　　ロームブロック微量
4　褐　　色　　ローム粒子微量
5　灰　褐　色　　ロームブロック中量

第9号溝土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　　ロームブロック少量

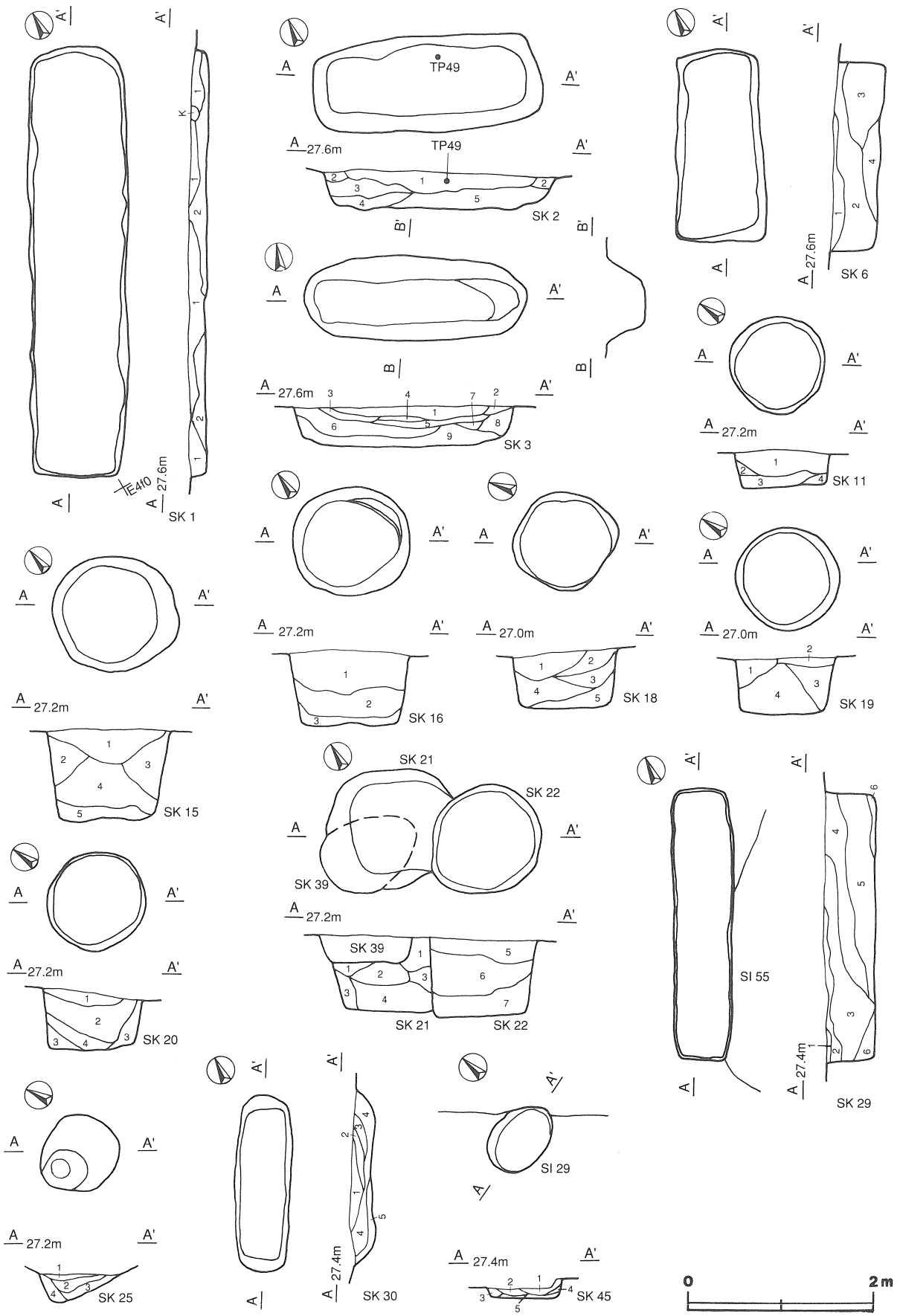
表9　その他の時代　溝一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	形状	規模（m）				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（旧→新）
				確認長	上幅	下幅	深さ					
1	F6b4～F7f7	N-68°-W	T字状	(43.02)	0.6～1.2	0.2～0.7	1.6～2.5	外傾	平坦	人為	土師器片	SI 66・70→本跡→SK 80・82・83・141・142・146・147・163～165
2	E6g9～E6e0	N-29°-E	直線	(11.20)	0.1～0.15	0.1	－	－	－	－		
5	C1b8～C2e2	N-49°-W	直線	(17.98)	0.4～1.3	0.2	0.18	緩斜	皿状	自然		SI 65，66・SD 1・3，SK 80→本跡
6	C1c4～D2f7	N-52°-W	直線	(11.20)	0.8～2.0	0.4～0.6	0.25	緩斜	皿状	自然		
7	D2a2～D2c3	N-22°-W	弧状	19.82	0.4～0.7	0.1	0.1	(緩斜)	平坦	－	須恵器片	SI 93・94・97→本跡
9	C3f6～C3i0	N-47°-W	直線	22.0	0.8～1.9	0.2～0.7	0.16	外傾	凹	自然	土師器片	SD 8→本跡

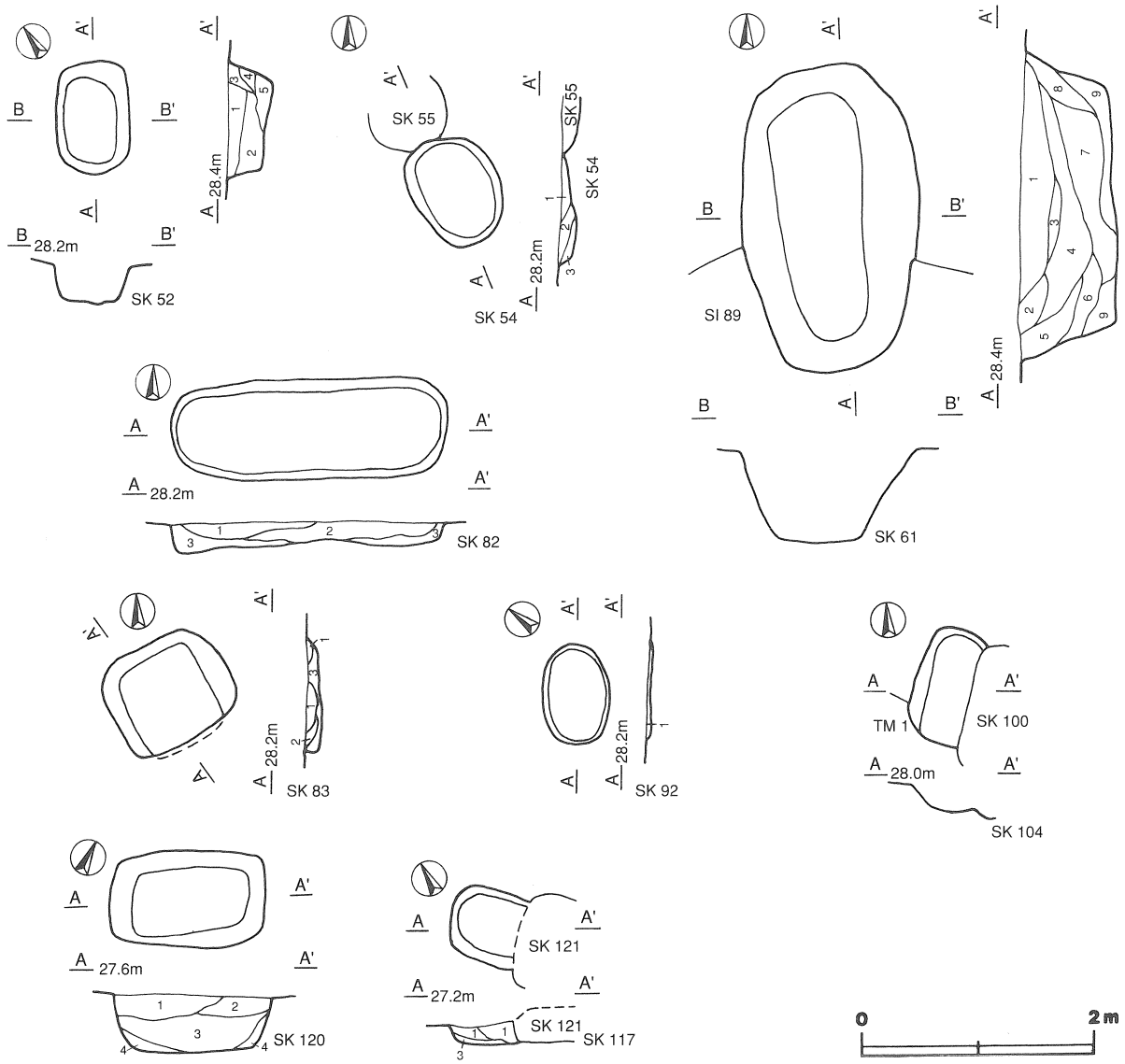
（2）土坑

今回の調査の結果，105基の土坑が検出された。土坑は調査区域全体に分布しており，方形及び長方形のもの，円形及び楕円形のもの，T字状のもの，双円状のもの，不定形のものなどが確認された。このうち，出土遺物や土層観察などから古墳時代のものと考えられる第4・34号土坑は古墳時代の項で，中世の墓壙と考えられる第46・50・51・53・55・62・68・72・74～79・84・85・91・93・96～98・100・102・103・105・109・112～114・116・121・123・125・127・128号土坑（墓壙）は中世の項で取り上げている。そのほかの土坑は，出土遺物が少ないため，時代や性格ともに不明なものが多い。

ここでは,遺存状態が良好な土坑をいくつか取り上げ，一覧表及び実測図を掲載する。



第244図　その他時期不明土坑実測図（1）



第245図　その他時期不明土坑実測図（2）

その他時期不明土坑土層解説

第1号土坑土層解説

1　暗　褐　色　　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　　ロームブロック多量

第2号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　　ロームブロック少量

第3号土坑土層解説

1　黒　　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗赤褐色　　焼土ブロック中量
4　黒　褐　色　　焼土粒子少量
5　黒　　色　　ロームブロック・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　　ロームブロック・焼土粒子微量
7　黒　　色　　ロームブロック少量
8　黒　褐　色　　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　　ロームブロック少量

第6号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　　ロームブロック多量

第11号土坑土層解説

1　暗　褐　色　　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　　ロームブロック中量
4　褐　　色　　ロームブロック少量

第15号土坑土層解説

1　褐　　色　　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　　ロームブロック微量
3　極暗褐色　　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　　ロームブロック少量

第16号土坑土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　　ロームブロック少量

第18号土坑土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　　ロームブロック中量
5　極暗褐色　　ロームブロック中量

第19号土坑土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　　ロームブロック多量
4　極暗褐色　　ロームブロック多量

第20号土坑土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　　ロームブロック多量
4　極暗褐色　　ロームブロック多量

第21号土坑土層解説
1　黒　褐　色　　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　　ロームブロック中量
4　褐　　色　　ロームブロック多量

第22号土坑土層解説
5　黒　褐　色　　ロームブロック中量
6　極暗褐色　　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　　ロームブロック中量

第25号土坑土層解説
1　黒　　色　　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　　ローム粒子多量
4　極暗褐色　　ロームブロック中量

第29号土坑土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　　ロームブロック中量
6　極暗褐色　　ロームブロック少量

第30号土坑土層解説
1　褐　　色　　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　　ロームブロック少量
3　褐　　色　　ロームブロック中量，炭化物微量
4　褐　　色　　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　　ロームブロック少量，焼土粒子微量

第45号土坑土層解説
1　極暗褐色　　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　　ローム粒子多量
5　黒　　色　　ローム粒子多量

第52号土坑土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量
2　極暗褐色　　ロームブロック微量
3　極暗褐色　　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　　ローム粒子中量

第54号土坑土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，黒色粒子微量
2　黒　褐　色　　ロームブロック中量，黒色粒子微量
3　黒　褐　色　　ローム粒子微量

第61号土坑土層解説
1　黒　　色　　ローム粒子，黒色粒子微量
2　黒　褐　色　　黒色粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　　ローム粒子微量
5　極暗褐色　　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　　ローム粒子中量，炭化粒子微量
7　極暗褐色　　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　　ロームブロック少量

第82号土坑土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量
2　極暗褐色　　ローム粒子中量
3　褐　　色　　ロームブロック少量

第83号土坑土層解説
1　黒　褐　色　　ロームブロック・黒色ブロック微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　　ロームブロック微量

第92号土坑土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，黒色ブロック微量

第117号土坑土層解説
1　黒　褐　色　　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第120号土坑土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　　ロームブロック微量，黒色ブロック少量
3　黒　褐　色　　ロームブロック微量
4　褐　　色　　ローム粒子中量

第246図　その他時期不明土坑出土遺物実測図

その他の土坑出土遺物観察表（第246図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP48	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	繊維・長石・石英	明褐	普通	羽状縄文施文	北壁際上層	SK 2
TP49	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	繊維・長石・石英	赤褐	普通	Ｌの無節縄文施文	－	SK 2

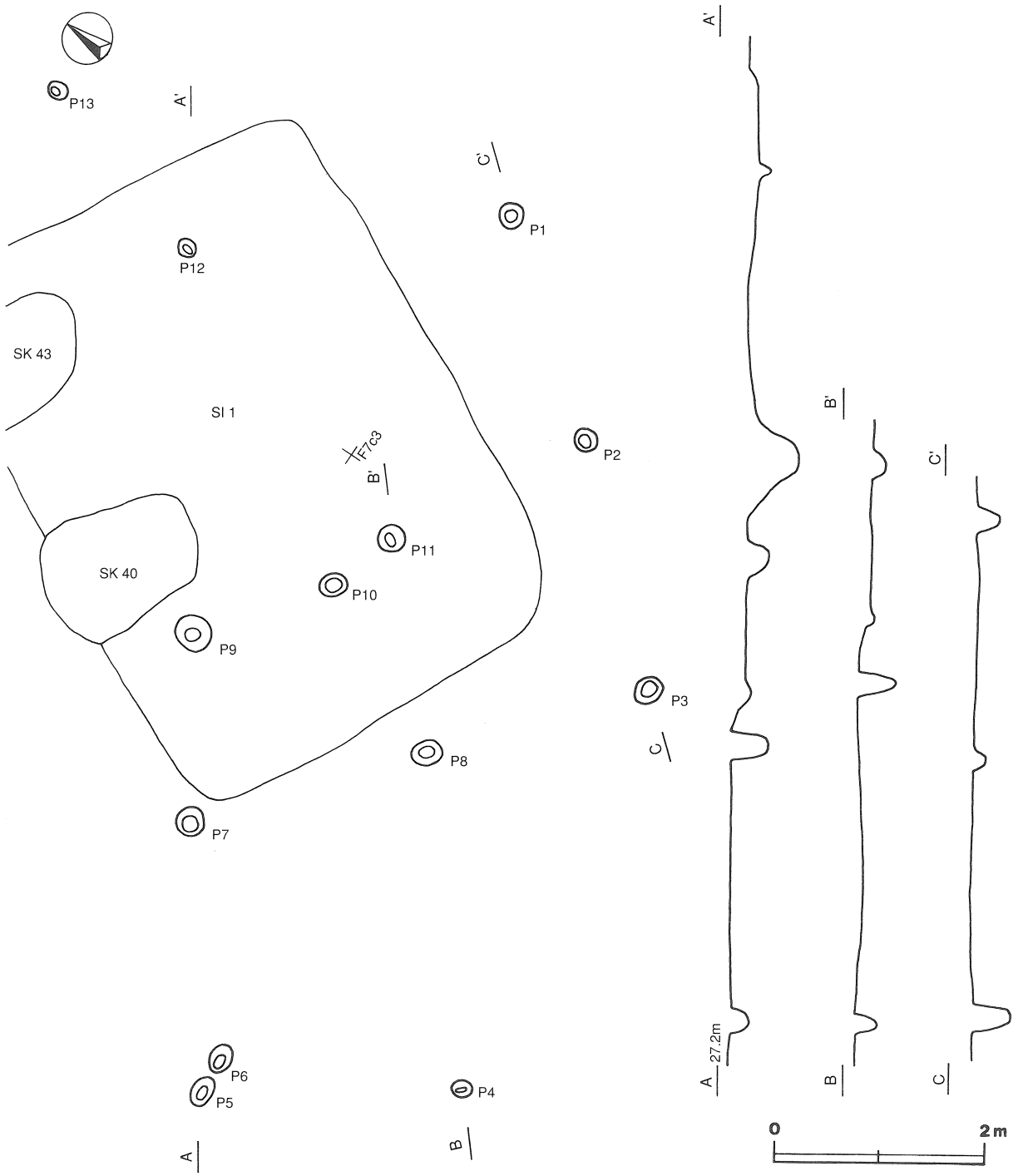
表10　その他の土坑一覧

土坑番号	位　置	主軸方向 長径(軸)方向	平面形	規　模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備　考 (旧→新)
1	E4e0	N-30°-E	長方形	4.66×1.02	20	直立	平坦	人為		
2	E4a0	N-68°-W	長方形	2.44×1.03	40	外傾	平坦	人為		
3	E5h4	N-77°-W	隅丸長方形	2.39×0.92	42	緩斜	平坦	人為		
5	E5i4	N-28°-E	長方形	4.01×1.05	43	外傾	平坦	人為	縄文土器片，土師器片，陶器片	
6	E5h5	N-29°-E	長方形	2.06×0.93	49	直立	平坦	人為	縄文土器片	
7	D5e4	N-62°-W	長方形	(2.64)×1.02	25	外傾	平坦	人為		本跡→SK 8
8	D5e4	N-62°-W	隅丸長方形	1.63×0.94	28	外傾	平坦	人為		SK 7→本跡
9	D4c0	N-33°-E	長方形	2.37×1.16	29	外傾	平坦	人為		SK 10→本跡
10	E4c0	N-33°-E	長方形	(1.89)×0.98	16	緩斜	平坦	人為		本跡→SK 9
11	F6c7	N- 0°	円形	1.04	40	外傾	平坦	人為		
12	F6a0	N-32°-E	円形	1.1×0.96	67	外傾	平坦	人為	土師器片	SI 6→本跡
15	F7c1	N-29°-W	円形	1.42×1.26	100	外傾	平坦	人為		
16	F6d0	N-25°-W	円形	1.29×1.21	78	外傾	平坦	人為		
17	F6d0	N-55°-W	円形	1.02×0.91	42	外傾	傾斜	人為		
18	F6d0	N-32°-W	円形	1.16×1.09	61	直立	平坦	人為		
19	F6d9	N-28°-W	円形	1.14×1.09	62	直立	平坦	人為		
20	F6c8	N- 0°	円形	1.07	65	直立	平坦	人為		
21	E5j8	N-50°-W	[円形]	1.29×(1.15)	80	外傾	平坦	人為		本跡→SK 22・39
22	E5j8	N-88°-W	円形	1.27×1.14	84	直立	平坦	人為		SK 21→本跡
23	E6j8	N- 0°	[円形]	1.05	35	外傾	平坦	人為		本跡→SK 24
24	E6j8	N-53°-W	円形	1.16×1.04	56	外傾	平坦	人為	土師器片	SI 23→本跡
25	F7a2	N-63°-W	円形	0.89×0.82	31	外傾・緩斜	皿状	人為	土師器片	
26	E7j1	N-58°-W	楕円形	0.99×0.65	43	外傾・緩斜	皿状	人為	土師器片	
27	F7a4	N-24°-E	隅丸長方形	2.14×1.05	120	直立	平坦	人為	土師器片	
28	F7a4	N-24°-E	隅丸長方形	1.40×0.96	78	直立	平坦	人為		
29	C4f8	N-31°-E	長方形	2.93×0.61	57	直立	平坦	人為		SI 55→本跡
30	C4g7	N-26°-E	隅丸長方形	1.77×0.59	30	緩斜	平坦	人為		
33	E6j9	N-64°-W	円形	1.26×1.14	54	直立	平坦	人為		
36	F7c3	N-64°-W	隅丸長方形	1.47×0.76	92	直立	平坦	人為		SI 55→本跡
37	F7e3	N-62°-W	長方形	1.09×0.66	50	直立	平坦	不明		SD1→本跡
38	E6i9	N-28°-E	楕円形	1.17×0.78	70	直立	平坦	不明		SI 5→本跡
39	E5j8	N-10°-W	[楕円形]	[1.05]×0.69	29	外傾	平坦	人為		SK 21→本跡
40	F7b3	N-63°-W	楕円形	1.68×1.1	102	外傾・緩斜	平坦	人為		SI 1→本跡
42	E6j6	N-25°-E	円形	0.50×0.47	33	外傾	皿状	人為	土師器片	SI 13→本跡
43	F7b3	N-65°-W	楕円形	1.60×1.05	109	外傾	平坦	人為		SI 1→本跡
44	E5c4	N-70°-W	隅丸長方形	1.48×0.88	65	直立	平坦	人為		SI 38→本跡
45	E6e1	N-90°	楕円形	0.8×0.58	20	外傾	平坦	人為		SI 29→本跡
47	D4e6	N- 0°	隅丸長方形	0.96×0.73	14	緩斜	皿状	不明		SK 46・48→本跡

土坑番号	位　置	主軸方向 長径(軸)方向	平面形	規　模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備　考 (旧→新)
49	D4e4	N-38°-E	楕円形	1.1×0.96	42	緩斜	平坦	不明		
52	C3j8	N-42°-E	長方形	0.98×0.63	33	外傾	平坦	人為	土師器片	
54	C3j9	N-28°-W	楕円形	0.97×0.77	17	緩斜	平坦	人為	土師器片	SK 55→本跡
56	C3h6	N-50°-E	隅丸方形	1.23×1.04	32	緩斜	平坦	人為	土師器片	
59	C3f2	N-81°-W	隅丸長方形	1.55×1.15	74	外傾	平坦	不明		SI 83→本跡
60	C3g1	N-59°-W	長方形	2.58×1.13	44	外傾	平坦	人為		SI 83→本跡
61	B2j8	N-10°-W	隅丸長方形	2.65×1.53	80	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI 89→本跡
63	C3j9	N- 7°-E	楕円形	0.61×0.44	12	緩斜	平坦	人為		
64	D3d6	N-42°-E	[楕円形]	[1.4]×[0.9]	46	外傾	平坦	人為		
65	D3d6	N-30°-E	[楕円形]	[1.68]×[1.35]	70	外傾	平坦	人為		
66	D3d6	N-46°-E	[楕円形]	[1.55]×[1.02]	85	緩斜	平坦	人為		
67	D3D2	[N-37°-W]	[円形]	[1.12]×[1.05]	62	直立	皿状	人為		
69	D3e1	N-24°-E	[長方形]	1.73×0.79	28	外傾・緩斜	傾斜	自然		
73	D3b7	N-89°-E	[不定形]	[1.3]×0.47	36	内傾	凸凹	人為	土師器片	TM 1・SK 74→本跡
82	C3i9	N-90°	隅丸長方形	2.36×0.87	26	外傾	平坦	自然		
83	C3i9	N-49°-E	隅丸方形	1.06×0.92	15	外傾	凸凹	人為		
86	D3e4	N- 0°	楕円形	1.32×0.7	不明	不明	不明	不明		
87	D3f3	N-76°-W	長方形	1.5×0.6	不明	不明	不明	不明		
88	D3e3	N-65°-E	楕円形	1.7×1.39	不明	不明	不明	不明	埴輪片	
92	C3i8	N-59°-E	楕円形	0.85×0.58	4	外傾	平坦	自然		
99	D3d7	N- 0°	円形	1.0×0.97	不明	不明	不明	不明		TM 1→本跡
104	C3i5	N-20°-E	[隅丸長方形]	(0.99)×(0.49)	24	緩斜	皿状	不明		TM 1→本跡→SK 100
106	D3c7	N-60°-E	[不定形]	[1.27]×0.46	29	緩斜	凸凹	人為		TM 1→本跡
111	D3a7	N-21°-W	楕円形	1.32×0.54	不明	緩斜	平坦	不明		
115	D3c7	N-46°-E	[不定形]	1.33×0.53	不明	外傾	不明	人為		TM 1→本跡→SK 105
117	D3e5	N-44°-W	[隅丸長方形]	(0.66)×0.62	15	緩斜	平坦	人為		本跡→SK 121
120	D3f6	N-64°-E	長方形	1.34×0.83	51	外傾	平坦	自然		
124	D3e1	N-49°-W	[長方形]	[1.48]×0.78	不明	不明	不明	不明		TM 1→本跡→SK 69
126	D3e7	N- 5°-W	不整円形	0.89×0.84	不明	不明	不明	不明		本跡→SK 125

（３）ピット群（第247図）

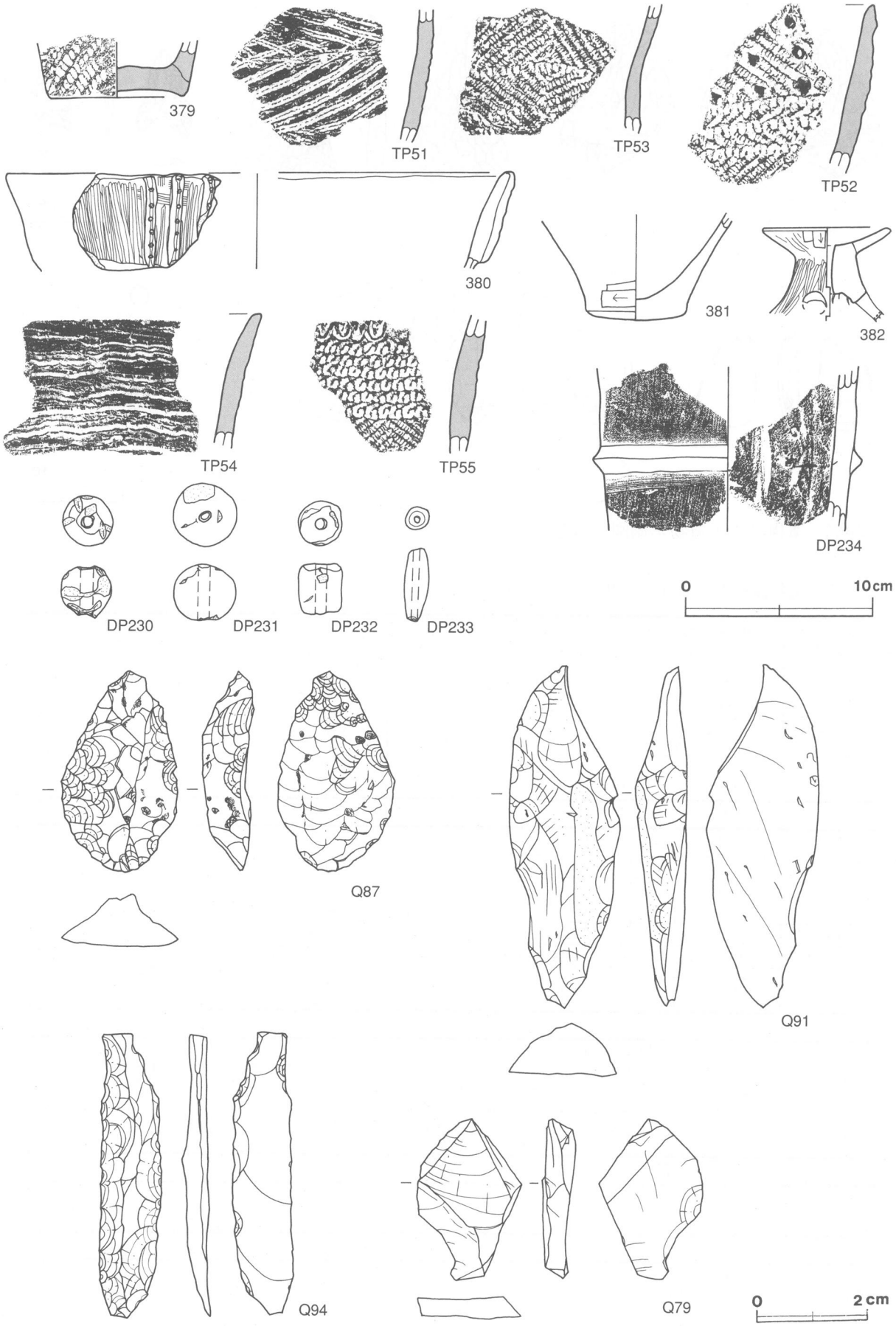
調査区東部で第１号ピット群が確認された。ピットは13か所（Ｐ１～Ｐ13）検出され，平面形は長径20～41㎝，短径18～22㎝の円形または楕円形で，深さは８～37㎝である。出土遺物がないため時期は明確でないが，古墳時代の住居を掘り込んでいることから，それ以降と考えられる。並び方に規則性がないためピット群として扱ったが，Ｐ１，Ｐ２，Ｐ３また，Ｐ３，Ｐ７，Ｐ８はそれぞれ直線状に並ぶことから，未検出の掘立柱建物跡の柱穴である可能性も考えられる。



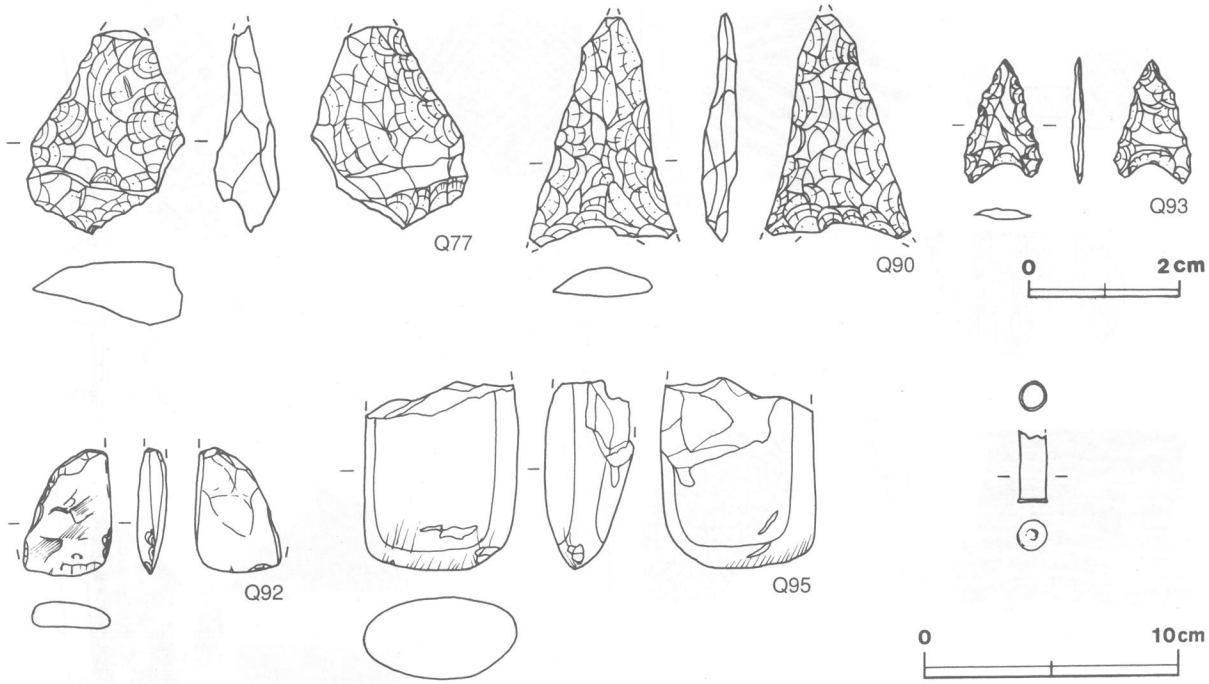
第247図　第１号ピット群実測図

5　遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない主な遺物について，遺物観察表で記述する。



第248図　遺構外出土遺物実測図（1）



第249図　遺構外出土遺物実測図（２）

遺構外出土遺物観察表（第248・249図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
379	縄文土器	深鉢	－	(3.0)	7.2	繊維・石英	橙	普通	ＬＲの単節縄文，やや上げ底	D4d6	
380	土師器	壺	[26.6]	(5.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部に刺突痕がある３本の棒状浮文貼付，浮文間ヘラ磨き	B2i1	PL 48
381	弥生土器	壺	－	(5.8)	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下段ヘラ削り，内面ナデ	E5a9	
382	土師器	器台	6.7	(5.0)	－	長石・石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	器受部外面ヘラ削り，脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラ当痕，窓３か所	TM 1	65% PL 16

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP51	縄文土器	深鉢	－	(7.1)	－	繊維・長石・石英	にぶい褐	良	ＲとＬの短軸絡条体縄文	－	PL 48
TP52	縄文土器	深鉢	－	(8.7)	－	繊維・長石	暗赤褐	普通	０段多条の羽状縄文地に，ループ文，瘤状の貼り付け文	－	PL 48
TP53	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	繊維・長石	明赤褐	良	０段多条の羽状縄文	－	PL 48
TP54	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	繊維・長石	にぶい黄橙	良	半裁竹管による波状文	－	PL 48
TP55	縄文土器	深鉢	－	(7.0)	－	繊維・石英	明黄褐	普通	ループ文が密に施され，上段にコンパス文，下段に多条縄文が羽状に構成	TM 1	PL 48

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
DP230	土玉	2.9	2.8	0.7	18.8	土	外面ナデ，ヘラ当痕	－	
DP231	土玉	3.0	3.4	0.7	32.9	土	外面ナデ	－	
DP232	管状土錘	2.8	2.4	0.6	16.9	土	外面ナデ，一面が平らに整形，半分ほど欠損	－	
DP233	管状土錘	3.9	1.3	0.3	5.9	土	外面ていねいなナデ	－	

番号	種別	口径	器高	底径	色調	材　質	手法の特徴	出土位置	備考
DP234	円筒埴輪	－	(8.8)	－	明赤褐	土	外面ナデ後凸帯貼り付け，凸帯断面三角形，内面ナデ	－	PL 40

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
Q77	石鏃	(2.7)	(2.1)	0.8	(3.6)	チャート	無茎鏃，押圧剥離，刃部先端・基部欠損	SI 58	PL 48
Q79	剥片	2.9	1.8	0.6	2.9	チャート	縦長剥片，打面は単剥離面で平坦	SI 62	PL 48
Q87	スクレーパー	3.6	2.1	0.9	5.5	黒曜石	左側縁部に主要剥離面側から急角度の調整	－	PL 48

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
Q90	石鏃	(3.0)	(1.9)	0.5	1.8	チャート	無茎鏃，押圧剥離	B2h7	PL 48
Q91	ナイフ形石器	6.1	2.0	0.9	10.2	安山岩	細身の切り出し型	F6	PL 48
Q92	石斧	(5.0)	3.5	1.2	(31.6)	砂岩	小型の磨製，定角式カ	D4d6	PL 45
Q93	石鏃	1.65	1.05	0.2	0.3	チャート	無茎鏃，押圧剥離	SI 3	PL 48
Q94	石匙	5.1	1.1	0.5	2.5	頁岩	縦型，先端・つまみ部一部欠損	SI 13	PL 48
Q95	石斧	(7.5)	6.2	3.6	(253.8)	流紋岩	全面磨製，定角式カ	SI 22	PL 45

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
M43	薬莢	(3.8)	3.8	1.0	8.3	鉄	鋳造	—	PL 46

第4節　ま　と　め

当遺跡の調査は，平成14年7月から平成15年3月にかけて実施され，縄文時代前期と古墳時代前期の集落跡であることと，古墳時代後期の古墳群，さらには中世から近世にかけての墓域でもあることが確認された。ここでは，集落の変遷についての概略を述べ，まとめとしたい。

1　旧石器時代

今回の調査で出土した旧石器時代の遺物は，剥片・スクレーパー・ナイフ形石器であるが，表土中や耕作による撹乱層等から出土したもので，遺構から単独で出土したものは存在しなかった。また，石器集中地点なども確認できなかった。出土した遺物はいずれも混入したもので，この地が旧石器人の居住の場となっていた可能性は低いと思われる。

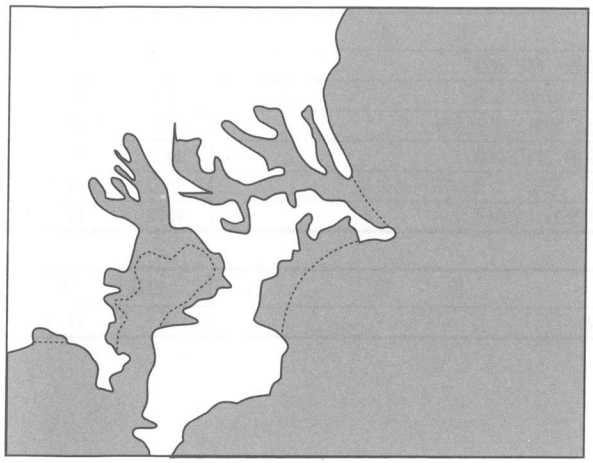
2　縄文時代

遺跡の南方には霞ヶ浦が位置しているが，この時期には気候が温暖化し，縄文海進が最高潮に達した[1]ことから，海岸線は現在よりも間近に迫っていたと想定される。

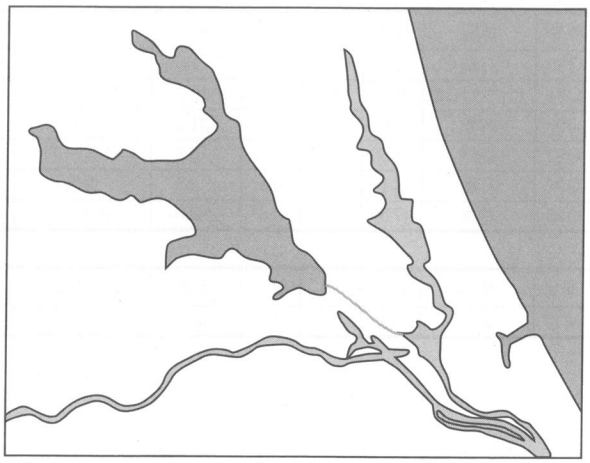
霞ヶ浦周辺の遺跡を見ると，定型的な竪穴住居で構成される集落が多くなり，それまでと比べて遺跡数は爆発的に増加しており[2]，当遺跡もそのひとつに挙げられる。

縄文時代の遺構として，前期前葉および後葉の竪穴住居跡18軒が確認され，出土土器や住居の形態から，関山式期と黒浜式期，浮島Ⅱ式期の三時期であることが判明した。関山式期は，調査区中央部の南側に2軒，黒浜式期は，調査区東部に5軒，中央部に3軒，西部に3軒の3群に分かれて，浮島Ⅱ式期は西部に1軒確認された。なお，残る4軒については，出土土器から前期前葉と考えられるが，明確な時期については不明である。また，遺構とは別に，調査区のほぼ全域の表土中からも縄文土器が検出されたが，これらもその特徴から前期に比定されるものである。

当遺跡では，内陸まで進んだ海進の時期に小規模の集落が形成され，人々の生活が営まれていた。しかし，その後海退に転じる。集落は，海進による環境の変化に伴って，縄文時代前期後半以降にいったん衰退することとなる。



第250図　縄文海進時の霞ヶ浦



第251図　現在の霞ヶ浦

※「特別展　霞ヶ浦の貝塚文化」茨城県立歴史館より転載

3　弥生時代

後期と思われる混入した土器細片１点が，表土中から確認されているが，弥生時代の遺構は確認されていない。

4　古墳時代

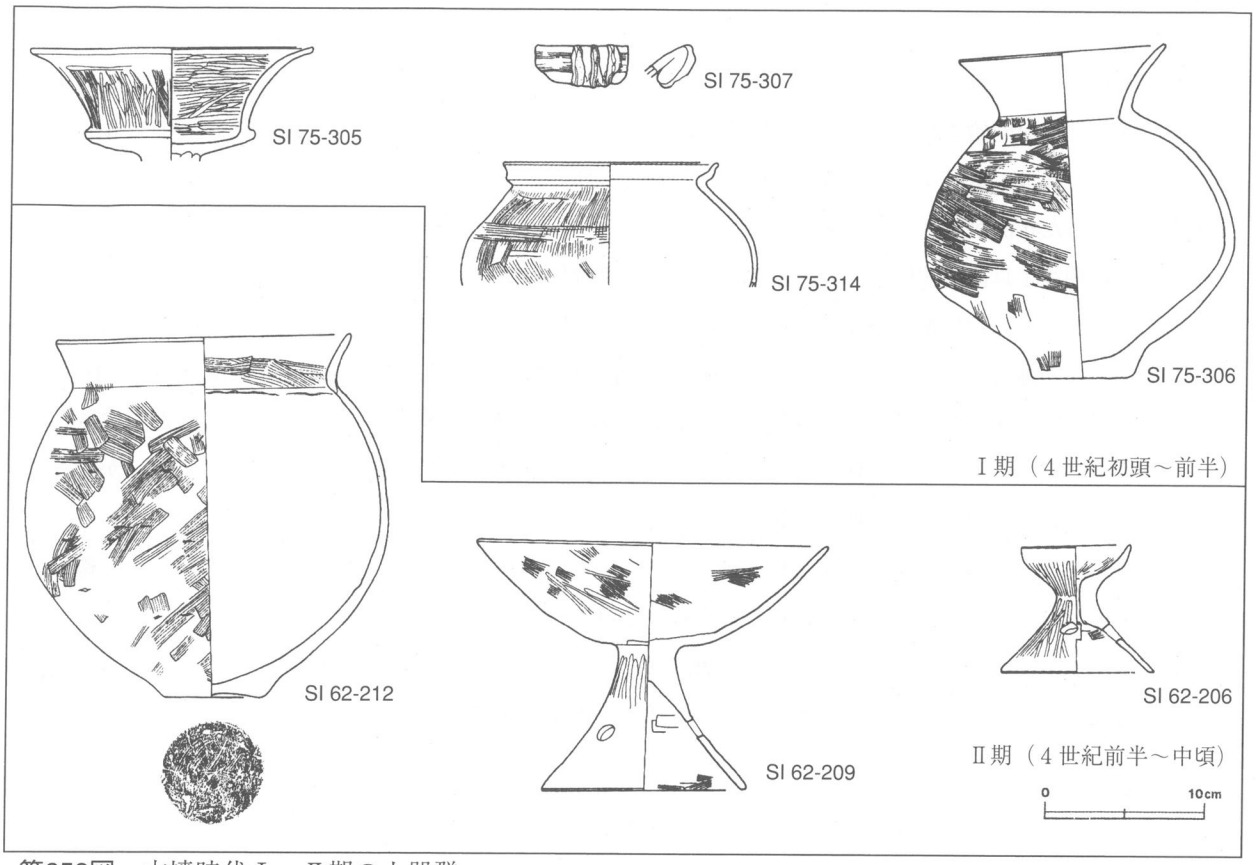
縄文海進による環境の変化に伴って，縄文時代前期後半以降断絶した集落は，４世紀になると再び居住域となる。

古墳時代は当遺跡の主たる時期であり，調査区全域から85軒の竪穴住居跡と２基の土坑，１基の方形周溝墓，２基の古墳が確認されている。出土土器から住居跡・土坑・方形周溝墓は前期であり，この時期に規模の大きな集落が営まれていた。集落については，土器の形態や住居跡間の切り合いなどから，２時期に分けることができ,二世代から三世代にわたって継続して生活の場となったことも見てとれる。

Ⅰ期は４世紀初頭から前半にあたり，土器の特徴を見てみると，壺は複合口縁で棒状浮文が貼り付けられ，高坏は坏部に大きく張り出す段をもっている。さらに，Ｓ字甕Ｂ類が出土している。一方Ⅱ期の土器は４世紀前半から中頃で，高坏は，大きく深めの坏部をもっている。また，器台は器受部が小さめで内湾椀状を呈し，脚部はⅠ期に比べると長くなっている。

また，調査エリアのほぼ中央部に方形周溝墓が位置している。調査の結果，方形周溝墓は集落と同時期と考えられ，集落と混在するあり方[3]を示し水戸市大塚新地（おおつかあらぢ）遺跡[4]や日立市金井戸（かないど）遺跡[5]などと同様に，同時期の集落内に１基だけ存在するタイプといえる。ただ，北側は調査区域外となっており，周辺にはさらに方形周溝墓が存在している可能性もあり，この場合には，大洗町髭釜（ひいがま）遺跡[6]や土浦市向原（むかいはら）遺跡[7]，牛久市奥原（おくはら）遺跡[8]のような，同時期の集落内に数基存在するタイプとなる。

古墳時代後期になると，遺跡内は墓域に変わり，２基の古墳が構築される。



第252図　古墳時代Ⅰ・Ⅱ期の土器群

第1号墳は，後世の削平のため，墳丘中心部付近の一部と周溝が検出されたが，埋葬施設は確認できなかった。規模は周溝内法で，全長21.5m，後円部の径18mほどの帆立貝形である。遺物は多量の埴輪片と土師器片，わずかに須恵器片が周溝から出土している。埴輪は円筒埴輪と人物埴輪の顔面部・胴部・腕部が認められるがすべて破片であり，一個体がまとまって出土したものは一点もなかった。時期は円筒埴輪の特徴から6世紀後半と考えられる。

第2号墳の規模は，周溝内法で全長26.5mで，後円部径20.1m，前方部幅13.3mほどのくびれの少ない前方後円墳で，墳丘はすでに削平されているが，周溝と，前方部に埋葬施設(箱式石棺)が検出された。遺物は周溝から銅製の耳環，刀子，土師器片が出土している。石棺は既に開口されており，盗掘された状態で人骨が出土している。時期的には第1号墳よりも新しい時期に構築されたもので，6世紀末から7世紀初頭と考えられる。

5　中世

墓域となり，塚1基，掘立柱建物跡3軒，溝跡3条，土坑（墓壙）36基，井戸跡1基が検出された。塚は，第1号墳の墳丘跡に盛土によって構築され，墓壙は塚を取り囲むように位置し，円心円状の二重の溝（SD 8，SD 10・11）によって区画され，墓域が形成されている。中世墓は古墳や経塚など何らかの聖なるものを中核に形成されている場合が多い[9]とされるが，第1号塚には，当墓域のシンボル的な意味合いがあったものと考えられる。また，中世後半には，村落などの単位集団で墓域を形成していったという報告もあり[10]，当遺跡においては東側に位置している戸崎城跡との深い関連が想定される。遺物は塚周辺からは常滑甕・須恵器片のほか，多くの墓塔(五輪塔・宝篋印塔)が検出され，墓壙からは人骨とともに副葬品と考えられる小皿・古銭が出土している。時期は常滑甕片の形状や，五輪塔の形式などから15世紀から16世紀にかけて機能していたと

考えられる。

これまで述べてきたように，この地に初めて人の手が加えられたのは旧石器時代であるが，居住地として人々の生活の営みが開始されたのは，縄文時代前期である。この時期は，海進によって台地の下まで海が入り込んでおり，そこは，豊富な食料資源を提供したと考えられる。しかし，海退が始まるとこの地から人々の姿は消え，こうした状況がしばらくの間続くこととなる。

縄文時代前期後半以降，沈黙していたこの地域も，古墳時代前期になって再び居住地として復活する。かつては海が入り込んでいた低地の谷津は可耕地となり，地域の開発が進められた。水が豊富で良好な耕地として恵まれていたこの地は，この時期にはかつての縄文時代前期の集落規模を上まわる大きな集落が形成された。

しかし，古墳時代後期には墓域へと変貌する。前期にも方形周溝墓が構築され，有力者の存在が想定されるが，この時期にはさらに大きな労働力を使うことのできる，より強大な有力者層の存在が窺える。しかし，墓域として確立した後，再び空白の期間が訪れる。

奈良・平安時代までは，おそらく不可侵の地となっていたこの地も，中世になるとまたも墓域として機能するようになる。この背景には，当遺跡の東方に位置する戸崎城が，大きく関係していると考えられる。

古代から現代に至るまで，この地は幾度か様相を変える。今後この地に「霞ヶ浦環境センター」(仮称)が建設される予定であるが，これも歴史の流れの中では通過点のひとつなのであろう。

註

1）　玉里村立資料館　『特別展　霞ヶ浦の縄文土器』　2002年11月

2）　霞ヶ浦町教育委員会　筑波大学考古学研究室　『霞ヶ浦町遺跡分布調査報告書　－遺跡地図編－』　2001年３月

3）　山岸　良二ほか　『関東の方形周溝墓』　同成社　1996年12月

4）　高根　信和　「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告XI』　1981年３月

5）　佐藤　次男　「金井戸集落」『茨城県資料　考古資料編　古墳時代』　茨城県　1974年２月

6）　井上　義安　『髭釜　－鹿島線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報－』　大洗地区遺跡発掘調査会　1980年３月

7）　水戸市教育委員会　『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書』　1984年３月

8）　河野　辰男ほか　『奥原遺跡』　牛久市教育委員会　1990年12月

9）　斎藤　弘　「地下式壙と埋葬儀礼　－栃木県下の事例を中心に－」『研究紀要』　第４号　栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1966年３月

10）　皆川　修　「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　十万原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第179集　2001年３月

参考文献

・阿久津　久ほか　『日本城郭体系』　新人物往来社　1979年11月

・加藤　晋平ほか　『縄文文化の研究１　縄文人とその環境』　雄山閣　1982年２月

・小林　三郎ほか　「宮中野古墳群発掘調査概報」『鹿島町の文化財　第30集』　鹿島町教育委員会　1983年３月

・茨城県教育委員会　『重要遺跡調査報告書Ⅱ』　1985年３月

・瓦吹　堅ほか　『特別展　霞ヶ浦の貝塚文化』　茨城県立歴史館　1987年10月

・海老沢　稔ほか　『要害山古墳群発掘調査報告書』　石岡市教育委員会　1988年３月

・土生　朗治　「(仮称)上高津団地建設事業地内埋蔵文化財調査報告書　寄居遺跡　うぐいす平遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』　第84集　1994年３月
・石野　博信　『全国古墳編年集成』　雄山閣　1995年11月
・古墳時代土器研究会　『土器が語る　－関東古墳時代の黎明－』　第一法規　1997年５月
・埼葛地区文化財担当者会　「埼葛の縄文前期　－埼葛地区の縄文前期調査報告書」『埼葛地区文化財担当者会報告書第３集』1999年１月
・平石　和尚　「一般国道354号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書　下郷古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第167集　2000年３月
・関口　満ほか　『佐々木建設株式会社土砂採取工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　下郷遺跡・下郷古墳群』　下郷古墳群遺跡調査会　2001年７月
・阿久津　久先生還暦記念事業実行委員会　『領域の研究　－阿久津　久先生還暦記念論集－』　2003年４月

付　章

戸崎中山遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

茨城県霞ヶ浦町に所在する戸崎中山遺跡は，霞ヶ浦に半島状に突き出している新治台地の南端部付近に位置する。新治台地は，下末吉期に広がった海がその後に退いたことにより形成，拡大した三角州などの河成堆積物により構成されており，小原台面相当（約10万年前）の上位台地に区分されている（貝塚ほか編，2000）。

戸崎中山遺跡は，南に霞ヶ浦を望む台地上に位置し，発掘調査により縄文時代前期，古墳時代前期・後期および中世後期の各時期の遺構・遺物が確認されている。本報告では，発掘調査の過程で，古墳時代前期の竪穴住居跡覆土に認められた団塊状の土壌について，その特性を明らかにすることにより，その由来および当時の環境に関わるものであるかを検証する。また，古墳時代後期（６世紀後半）の前方後円墳の箱式石棺から検出された人骨を同定し，埋葬された人数，さらに埋葬者の性別・年齢等に関する情報を得る。

Ⅰ．土塊の分析

１．試料

試料は，古墳時代前期の住居跡とされる38号住居跡の覆土上部から採取した土塊と土塊を包含していた黒色土の２点である。覆土層は厚さ約50cm，上部20cmの黒色土層，中部10cmの黒褐色土層，下部20cmの色調のやや明るい黒褐色土層の３層に分層されている。これらのうち，上部の黒色土層の上半部に，径１cmほどの土塊が団塊を形成している状況が認められた。

土塊および黒色土ともに，関東の台地上に広く認められる黒色火山灰土いわゆる黒ボク土である。また，土塊の外形は亜角礫状の不定形を呈する。

以下に述べる分析では，土壌薄片作製鑑定では土塊試料１点のみを対象とし，Ｘ線回折および土壌理化学分析では土塊試料と黒色土試料の２点を対象とした。

２．分析方法

（１）土壌薄片作製観察

土壌薄片は，樹脂を含浸させて固化した試料をダイアモンドカッターで切断，正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。薄片は岩石学的な手法を用いて観察し，土壌中に含まれる砕屑物の種類構成を明らかにし，また基質の構造などの特徴を把握する。

（２）Ｘ線回折分析

試料を105℃で２時間乾燥させた後，メノウ乳鉢で微粉砕した。この微粉砕試料をアルミニウムホルダーに充填し，Ｘ線回折測定試料とした。作成したＸ線回折測定試料について以下の条件で測定を実施した（足立，1980；日本粘土学会，1987）。

検出された物質の同定解析は，Materials Data,Inc．のＸ線回折パターン処理プログラムＪＡＤＥを用い，該当する化合物または鉱物を検索した。

装　置：理学電気製MultiFlex　　Divergency Slit：1°

Target：Ｃｕ（Ｋα）	Scattering Slit：1°
Monochrometer：Graphite湾曲	Recieving Slit：0.3mm
Voltage：40KV	Scanning Speed：2° /min
Current：40mA	Scanning Mode：連続法
Detector：ＳＣ	Sampling Range：0.02°
Calculation Mode：cps	Scanning Range：3～45°

（３）土壌理化学分析

土壌中におけるジチオナイトクエン酸に溶解する鉄（Fe）は粘土や鉱物粒子表面に付着した非晶質や結晶質の遊離酸化鉄あるいは水酸化鉄に由来し，土壌の褐色あるいは赤色の原因になるとされている。一方，ジチオナイトクエン酸に溶解するマンガンは非晶質と一部の結晶質（低結晶度のマンガン）に由来する。鉄斑やマンガン斑，あるいはこれらの結核が存在しうる場合には，ジチオナイトクエン酸により抽出量が増す傾向にある。したがって，ここでは，土壌の理化学性として全炭素量（腐植含量）とジチオナイトクエン酸可溶鉄・マンガン量を求める。

全炭素量は元素分析装置による乾式燃焼法，ジチオナイトクエン酸可溶鉄・マンガンはDCB溶液抽出－原子吸光光度法（International Soil Reference and Information Center,1986）で行った。以下に各項目の操作工程を示す。

１）試料調製

試料を風乾後，軽く粉砕して2.00mmφのふるいを通過させる（風乾細土）。この一部を細かく粉砕し，0.5mmφのふるいを全通させる（粉砕土）。風乾細土の水分を加熱減量法（105℃，５時間）により測定する。

２）全炭素量（腐植含量）

粉砕土100mg前後をスズカプセルに精秤し，ＣＨＮＳ／Ｏ元素分析装置（PERKIN ELMER2400Ⅱ）に挿入する。挿入した試料を酸素気流中で高温燃焼させ，燃焼生成したガスをフロンタルクロマトグラフ法により展開し，熱伝導度検出器（ＴＣＤ）により測定する。測定値と加熱減量法で求めた試料中の水分から，乾土あたりの炭素量（T-C%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

３）ジチオナイトクエン酸可溶鉄・マンガン（Holmgren法）

粉砕土0.50ｇにＤＣＢ抽出液30mlを添加して16時間振とうする。振とう後，0.4％高分子凝集剤を２滴加えて軽く振とうした後，遠心分離する。上澄み液の一定量を蒸留水で希釈し，干渉抑制剤を加えた後，原子吸光光度計により鉄・マンガンの濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの鉄・マンガン（Fe2O3，MnO％）の含量をそれぞれ求める。

３．結果

（１）土壌薄片作製観察

観察結果を表１に示す。以下に砕屑片と基質に分けて述べる。

＜砕屑片＞

鉱物片として，斜長石，斜方輝石，単斜輝石，角閃石，酸化角閃石および不透明鉱物が認められる。粒径は0.05～0.3mm大の細粒砂サイズのものを主体とし，新鮮なものが多いことから，火山岩・火山砕屑岩に由来するものが大部分を占めていると考えられる。

岩片として，安山岩，凝灰岩および軽石が認められる。安山岩および凝灰岩はガラス質で，軽石との識別が困難なものもある。安山岩および凝灰岩は，斑晶として斜方輝石，単斜輝石および角閃石を含んでいる。

表１　土壌薄片観察結果

飼料名	砂粒			砂粒の種類構成										孔隙度	方向性	粘土残存量	含鉄量	備考
				鉱物片						岩石片								
	全体量	淘汰度	最大径	斜長石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	不透明鉱物	安山岩	軽石	火山ガラス	植物珪酸体					
土塊試料	○	×	0.8	△	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	△	×	△	＋	径0.5mm大の褐色粘土粒子が試料表面部に点在している。

注
量比　◎：多量　○：中量　△：少量　＋：微量
程度　◎：強い　○：中程度　△：弱い　×：なし

その他として，火山ガラス，植物珪酸体および褐色粘土粒子が含まれる。火山ガラスは軽石の破片からなり，骨片状を呈する。植物珪酸体はきわめて微量に含まれ，粒径最大0.05mmで散含されている。褐色粘土粒子は粒径0.2～1.2mmで，粒状～楕円粒状を呈し，斜長石，斜方輝石，角閃石などを鉱物片として含む。基質は非晶質な褐色粘土を主体とし，微細な雲母鉱物を散点状に含んでいる。

＜基質＞

基質は，黒色～褐色を呈する非晶質粘土からなる。基質には，幅0.01～0.2mm大のクラック状の孔隙が発達している。充填物は認められない。

（２）Ｘ線回折分析

Ｘ線回折図を図１に示す。両試料とも類似した回折パターンを示す。検出鉱物としては石英（quartz），曹長石（albite），角閃石（hornblende），正長石（orthoclase），磁鉄鉱（magnetite），緑泥石（chlorite），イライト（illite），ギブサイト（gibbsite）などが確認されており，それぞれの回折パターンを図の下段に掲げたので参照されたい。

（３）土壌理化学分析

理化学分析結果を表２に示す。いずれの値も，関東地方の台地における黒色火山灰土いわゆる黒ボク土として特異なものではない。また，土塊試料と黒色土試料との間に有意な差も認められない。

表２　土壌理化学分析結果

試料名	土性	土色	腐植含量（%）	DCB可溶	
				Fe2O3（%）	MnO（%）
土塊試料	LiC	10YR2/1　黒	15.78	6.12	0.14
黒色土試料	CL	10YR1.7/1　黒	14.50	6.56	0.14

土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
CL　・・・埴壌土（粘土15～25%、シルト20～45%、砂３～65%）
LiC　・・・軽埴土（粘土25～45%、シルト０～45%、砂10～55%）

４．考察

土塊試料は径1cm大で土壌層中において団粒状の粒子を形成している。そのことから，膠着物質や，同心円状の累帯構造などが予想されたが，その断面の薄片からは，そのような組織は観察されなかった。しかし，褐色粘土粒子が試料表面部に点在する組織が認められた。この褐色粘土粒子は土塊の中心部には分布せず，表面部に特徴的に分布しており，土塊の成因に係わる組織である可能性が示唆される。

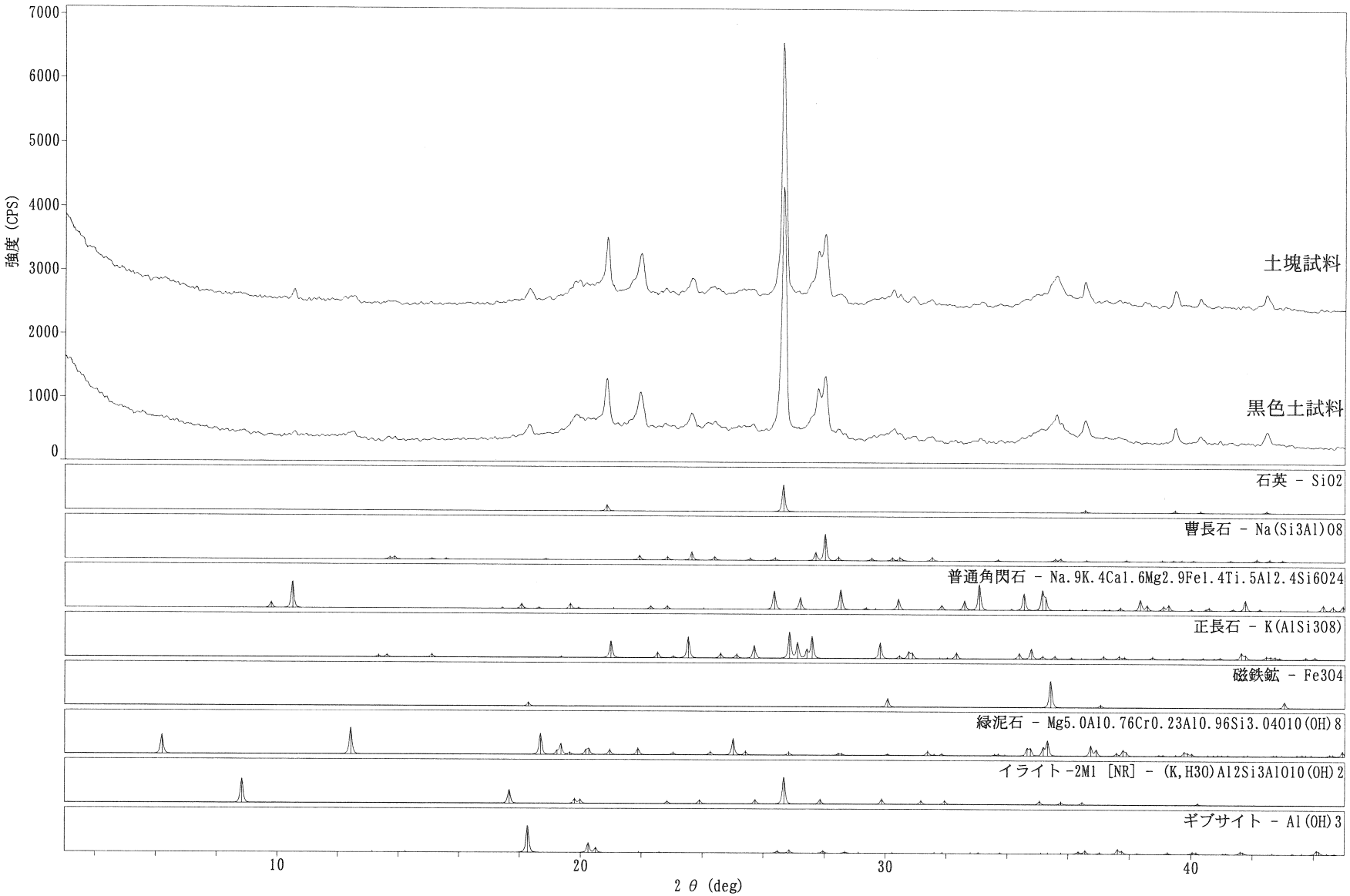

7000
6000
5000
4000
3000
2000
1000
0
強度 (CPS)
土塊試料
黒色土試料
石英 - SiO2
曹長石 - Na(Si3Al)O8
普通角閃石 - Na.9K.4Ca1.6Mg2.9Fe1.4Ti.5Al2.4Si6O24
正長石 - K(AlSi3O8)
磁鉄鉱 - Fe3O4
緑泥石 - Mg5.0Al0.76Cr0.23Al0.96Si3.04O10(OH)8
イライト-2M1 [NR] - (K,H3O)Al2Si3AlO10(OH)2
ギブサイト - Al(OH)3
10
20
30
40
2θ (deg)

図1　X線回析図

一方，土壌理化学分析では，土塊試料と黒色土試料との間でジチオナイトクエン酸可溶鉄，マンガンの抽出量に差が見られず，また，腐植 含量もほぼ同程度の量であることから，両試料における質的な違いを見いだすことはできない。X線回折分析の結果においても，両試料とも類似した回折パターンを示している。これらのことから，少なくとも現段階では土塊試料の特異性は全く見出せない。

土塊の硬さは，指で軽くつまむと崩れる程度の弱い状態であることも考慮すれば，土塊試料は，ある成分の濃集した結核などではなく，中度に発達した亜角塊状をなす土壌構造そのものである可能性が高い。土壌構造は，一般には乾湿の繰り返しや植物根および土壌動物などの作用により形成されるといわれている。現時点では，試料が採取された住居跡覆土の上部でどのような作用が及んだかを明らかにすることはできないが，いずれにしても住居跡埋積後のことであり，住居使用時の環境との関連性は低いと考えられる。

Ⅱ．人骨の同定

1．試料

試料は，古墳時代後期（6世紀後半）の前方後円墳（TM-2）の箱式石棺より一括採取された17点（試料番号3～16・19～21），および2区～4区から出土した人骨である。これらの出土人骨は，既にクリーニングされた状態にある。

2．分析方法

一部の試料については，一般工作用接着剤を用いて接合を行う。これら試料を肉眼で観察し，その形態的特徴から，部位の同定を行う。また，2区～4区で出土した歯牙の内，比較的形状を保つ標本に関しては，デジタルノギスを用いて歯冠長と歯冠幅を測定する。同定および解析には金子浩昌先生の協力を得た。

3．結果

同定結果を表3に，また歯牙の計測値を表4に示す。本石棺内から検出された骨格遺体は，全体を通じて保存が悪く，断片を残すのみである。完存する骨格は，3区で出土した趾節骨（第1基節骨）1点のみである。確認された部位は，頭蓋骨片，上顎歯，下顎歯，椎骨片，寛骨片，肋骨片，肩甲骨片，四肢骨片，手根骨片，中手骨片，足根骨片，中足骨片，指骨片である。

4．考察

石棺内から出土した歯牙の内，下顎の左第1大臼歯および第2大臼歯が，それぞれ3区で2点，4区で4点ほど検出されていることから，最小個体数として6体が推定される。大部分が壮年期初期（20歳代前後）～熟年期前期（30～40歳代）と推定される。胎児・新生児・乳幼児・小児などの若い遺体や老年期（60歳代以降）と考えられる遺体は，埋納されていなかったと思われる。性別については不確かであるが，大部分が男性であるが，少なからず女性1体程度も含まれていると考えられる。

出土骨の内，頭骨は砕片骨となっている。顎骨も破片化しており，上顎骨の小片が僅かに1点検出される程度にとどまる。下顎骨は確認されない。これら出土した頭骨全てを集めても，推定された最小個体の頭骨にはならないと考えられる。検出された歯牙は50点ほどあるが，推定される最小個体からみるとごく一部である。なお，下顎臼歯の検出が多いが，これは下顎臼歯が歯根の形態から脱落し易いことに由来する。四肢骨は多くの破片があることから，棺内で腐食したことも考えられ，当初保存の良い骨がもっと多くあったと想像される。

表３　出土人骨同定結果（１）

遺構	区	番号	部　位	左右	部　分	数量	性別	推定年齢	備　考
TM-2	一括	3	脛骨	右	骨体	1	男性		
石棺		4	足根骨（踵骨）	右	破片	1	男性		
		5	不明		破片	2			
		6	第１中足骨	左	両位端破損	1	女性		
		7	足根骨（距骨）	右	破片	1	男性	成人	
		8	四肢骨		破片	1			
		9	脛骨		破片	1			
		10	四肢骨		破片	1			
		11	四肢骨		破片	2			接合
		12	肩甲骨	左	肩甲棘部	1	男性		
		13	脛骨	右	近位端	1			他破片1
		14	脛骨	左	骨端	1			
		15	頭頂骨		破片		男性？	成人？	
		16	前頭骨		破片				
		19	脛骨	左	遠位端	1	男性		
		20	上腕骨	左	近位端	1	女性		
		21	胸椎		椎弓部	1			
	２区		上顎歯	左	犬歯	1			破片
					第２小臼歯	1			歯根部欠
	３区		頭蓋骨		破片	30			
			後頭骨		破片	1			
			上顎歯	左	第１小臼歯	1	女性	熟年期	
					第２小臼歯	1			破片
					第１大臼歯	1	男性	熟年期	歯根部一部欠
						1	女性	壮年期初期	歯冠部のみ
					第２大臼歯	1	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
					第３大臼歯	1	男性		歯冠部のみ
				右	犬歯	1	男性		歯根部一部欠
					第２小臼歯	1			破片
					第１大臼歯	1			破片
					第２大臼歯	1	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
						1	男性	熟年期	歯根部一部欠
			下顎歯	左	第１小臼歯	1	男性		歯冠部・歯根部欠
						1	女性		歯冠部のみ
					第２小臼歯	1	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
					第１大臼歯	1			破片
						1	男性		歯冠部一部欠
					第２大臼歯	1	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
						1	男性	熟年期	歯冠部のみ
				右	側切歯	1			破片
					犬歯	1	女性		歯冠部のみ
					第１小臼歯	1	女性		歯冠部のみ
					第２小臼歯	1	男性		歯冠部のみ
					第１大臼歯	1	男性	熟年期	破片
					第２大臼歯	1	男性		歯冠部のみ
					第３大臼歯	1	男性		歯冠部のみ
			臼歯		破片	1			
			歯牙		破片	2			
			胸椎		破片	1			他破片2
			椎体		破片	59+			

＊１）数量

検出個数を示す。なお、数字の後に+を付けたものは、その他に細かい破片が含まれることを示す。

＊２）推定年齢

成人：16歳以上，成年：16～20歳，壮年：20～39歳，熟年：40～59歳，老年：60歳以上

表３　出土人骨同定結果（２）

遺構	区	番号	部　位	左右	部　分	数量	性別	推定年齢	備　考
TM-2 石棺	３区		肋骨		破片	3			
			肩甲骨	右	肩甲棘部	2			
					破片	1			
			指骨		近位端	1			
					遠位端	2			
			脛骨	左	遠位端	1			
			足根骨（舟状骨）	右	破片	1	男性		
			第３中足骨	右	近位端	1			
			中足骨		破片	2			
			趾節骨（第１基節骨）		完形	1			
			趾節骨		近位端	1			
			四肢骨等		破片	130+			
	４区		頭蓋骨		破片	32			
			前頭骨	右	破片	1			
			上顎骨		破片	1			歯根部埋存
			上顎歯	左	第２小臼歯	1			破片
						1	女性		歯冠部のみ
				右	犬歯	1	女性？		歯冠部のみ
					側切歯／犬歯／第１小臼歯	1			破片
					第２大臼歯	1	女性	壮年期初期	歯冠部のみ
					第３大臼歯	1	男性？		歯冠部のみ
						1	女性？		破片
			下顎歯	左	第１小臼歯	1	女性？		歯冠部のみ
						1	男性？		歯冠部のみ
					第１大臼歯	1	男性	成年	歯根部一部欠
						1	男性	壮年期初期	歯根部一部欠
						1	男性	熟年期	歯冠部のみ
						1			破片
					第２大臼歯	1	男性	成年	歯冠部のみ
						1	男性	壮年期初期	歯根部一部欠
						1	女性	熟年期	歯冠部のみ
						1	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
					第３大臼歯	1	男性		歯冠部のみ
				右	第１大臼歯	1	男性	成年	歯冠部のみ
						1	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
					第２大臼歯	1	女性	成年	歯冠部のみ
						1	女性	成年	歯冠部のみ
					第３大臼歯	1	女性？		歯根部一部欠
			臼歯		破片	2			
			歯牙		破片	2			
			椎骨		破片	5			
			寛骨		破片	1			
			肋骨		破片	1			
			中手骨		近位端欠	1			
			指骨（基節骨）		近位端欠	1			
			足根骨（舟状骨）	左	破片	1			
			中足骨		近位端	1			
			四肢骨		破片	271+			
			土器片			1			
			土塊等			4			内1点赤色物質付着

＊１）数量
検出個数を示す。なお、数字の後に+を付けたものは、その他に細かい破片が含まれることを示す。

＊２）推定年齢
成人：16歳以上，成年：16～20歳，壮年：20～39歳，熟年：40～59歳，老年：60歳以上

表４　出土歯牙の計測値

遺構	区	部位	左右	部　　分	計測値(mm)		性別	推定年齢	備　　考
					歯冠長	歯冠幅			
TM-2	２区	上顎歯	左	犬歯	－	－			破片
石棺				第２小臼歯	6.99	8.07			歯根部欠
	３区	上顎歯	左	第１小臼歯	6.82	8.85	女性	熟年期	
				第２小臼歯	－	－			破片
				第１大臼歯	11.05	9.94	男性	熟年期	歯根部一部欠
					9.84	12.43	女性	壮年期初期	歯冠部のみ
				第２大臼歯	9.70	11.67	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
				第３大臼歯	10.89	9.58	男性		歯冠部のみ
			右	犬歯	7.55	7.63	男性		歯根部一部欠
				第２小臼歯	－	－			破片
				第１大臼歯	－	－			破片
				第２大臼歯	10.04	11.18	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
					9.78	10.81	男性	熟年期	歯根部一部欠
		下顎歯	左	第１小臼歯	7.17	7.02	男性		歯冠部・歯根部欠
					7.06	8.27	女性		歯冠部のみ
				第２小臼歯	7.16	6.60	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
				第１大臼歯	－	－			破片
					11.32	－	男性		歯冠部一部欠
				第２大臼歯	11.46	10.45	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
					9.43	11.09	男性	熟年期	歯冠部のみ
			右	側切歯	－	－			破片
				犬歯	6.84	7.10	女性		歯冠部のみ
				第１小臼歯	7.37	7.17	女性		歯冠部のみ
				第２小臼歯	8.43	7.20	男性		歯冠部のみ
				第１大臼歯	12.30	－	男性	熟年期	破片
				第２大臼歯	11.22	10.66	男性		歯冠部のみ
				第３大臼歯	11.10	10.37	男性		歯冠部のみ
	４区	上顎歯	左	第２小臼歯	－	－			破片
					9.32	12.54	女性		歯冠部のみ
			右	犬歯	8.23	8.26	女性？		歯冠部のみ
				側切歯／犬歯／第１小臼歯	－	－			破片
				第２大臼歯	9.30	11.14	女性	壮年期初期	歯冠部のみ
				第３大臼歯	9.65	10.80	男性？		歯冠部のみ
					－	－	女性？		破片
		下顎歯	左	第１小臼歯	6.80	7.75	女性？		歯冠部のみ
					7.41	7.91	男性？		歯冠部のみ
				第１大臼歯	12.03	10.64	男性	成年	歯根部一部欠
					12.84	11.54	男性	壮年期初期	歯根部一部欠
					11.13	9.97	男性	熟年期	歯冠部のみ
					－	－			破片
				第２大臼歯	11.40	9.88	男性	成年	歯冠部のみ
					11.14	10.49	男性	壮年期初期	歯根部一部欠
					10.71	9.56	女性	熟年期	歯冠部のみ
					11.70	10.50	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
				第３大臼歯	10.39	10.00	男性		歯冠部のみ
			右	第１大臼歯	11.96	11.26	男性	成年	歯冠部のみ
					11.96	11.35	男性	壮年期初期	歯冠部のみ
				第２大臼歯	10.50	10.18	女性	成年	歯冠部のみ
					10.31	10.25	女性	成年	歯冠部のみ
				第３大臼歯	9.84	10.23	女性？		歯根部一部欠

＊）推定年齢
成人：16歳以上，成年：16～20歳，壮年：20～39歳，熟年：40～59歳，老年：60歳以上

ただし，全体の推定個体数からすると，四肢骨の検出個数もあまりにも少ない。

以上，検出された人骨は，頭骨をはじめとして主要四肢骨も断片化している。多数の遺骸があった割には残されて骨格があまりにも少ないと考えられる。特に，下顎骨，さらに保存状態が良好な四肢骨などは，後世に遺骸がまとめて運びだされているのではないかと思われる。終末期古墳では追葬を重ね一つの石棺内から多数の遺体の検出される例も稀でない（例えば，池田，1993）。本石棺においても最低6体が追葬されたことが明らかにされた。しかし，その遺骨の大部分は，既に運びだされ，再葬されたことも考えられる。この点については，考古学的な所見も踏まえた上で，改めて再検討したい。

文献

足立吟也（1980）　6章　粉末X線回折法．機器分析のてびき3，p.64-76，化学同人．

土壌環境分析法編集委員会編（1997）　土壌環境分析法．427p.,博友社．

池田次郎（1993）　古墳人．p.27-95，石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編「古墳時代の研究第1巻　総論・研究史」，雄山閣出版株式会社．

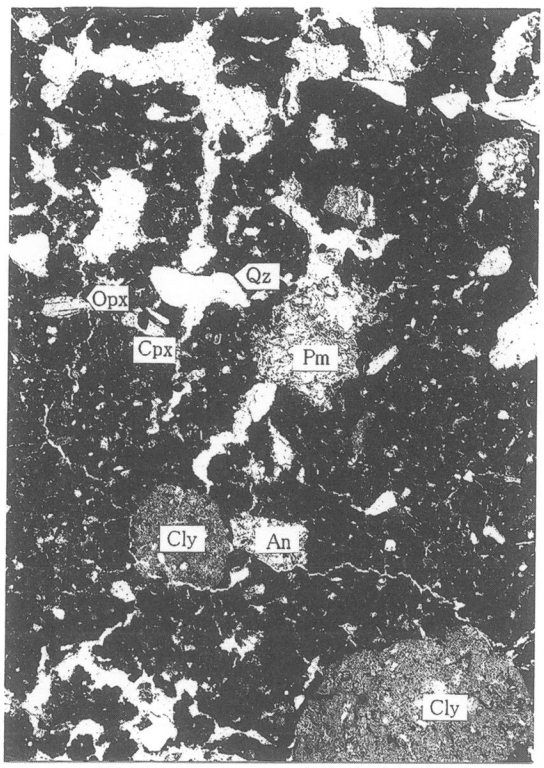
貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編　（2000）　日本の地形4　関東・伊豆小笠原．349p.，東京大学出版会．

日本粘土学会編（1987）　粘土ハンドブック　第二版．1289p.,技報堂出版．

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）　新版標準土色帖．

ペドロジスト懇談会（1984）　野外土性の判定．ペドロジスト懇談会編「土壌調査ハンドブック」，156p.；p.39-40,博友社．

Reeuwijk,L.P.van（1986）　PROCEDERES FOR SOIL ANALYSIS．p106.,International Soil Ref erence and Information Centre.



1.38号住居跡覆土上部黒色土中の団塊
（下方ポーラーのみ）

2.38号住居跡覆土上部黒色土中の団塊
（直交ポーラー下）

Qz：石英.　Opx：斜方輝石.　Cpx：単斜輝石.
An：安山岩.　Pm：軽石.　Cly：粘土塊.

0.5mm

写　真　図　版

遺跡全景

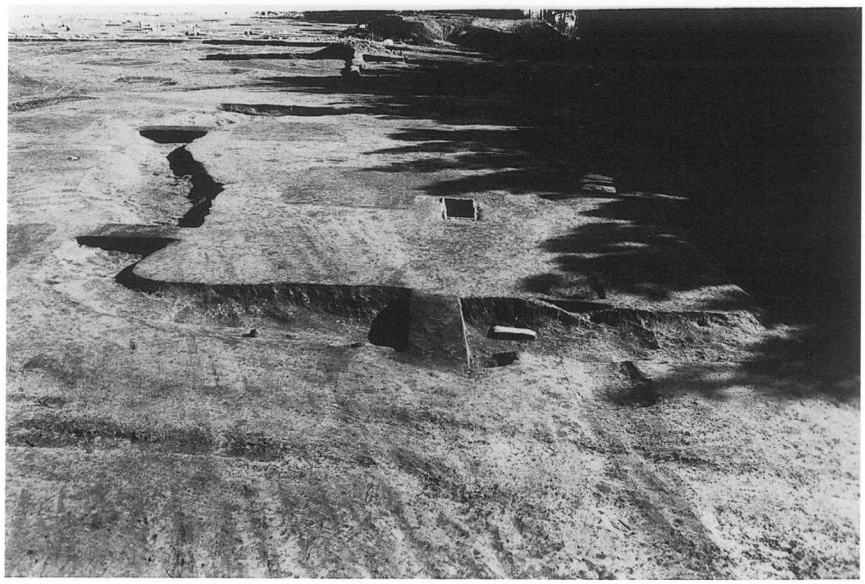
遺跡遠景（南東から）

遺跡遠景（南から）

東部遺構確認状況

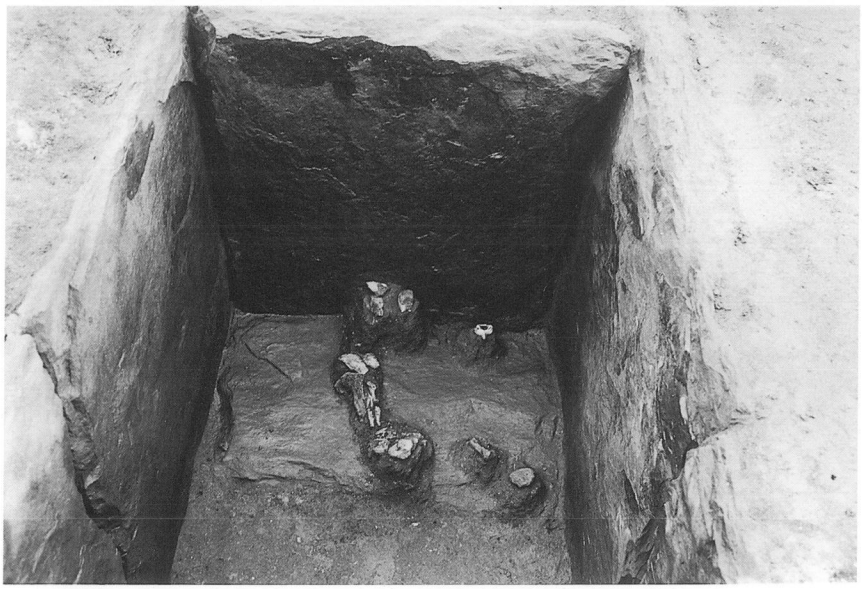
第　1　号　墳
確　認　状　況

第1号墳周溝，
第　10　号　溝
遺物出土状況



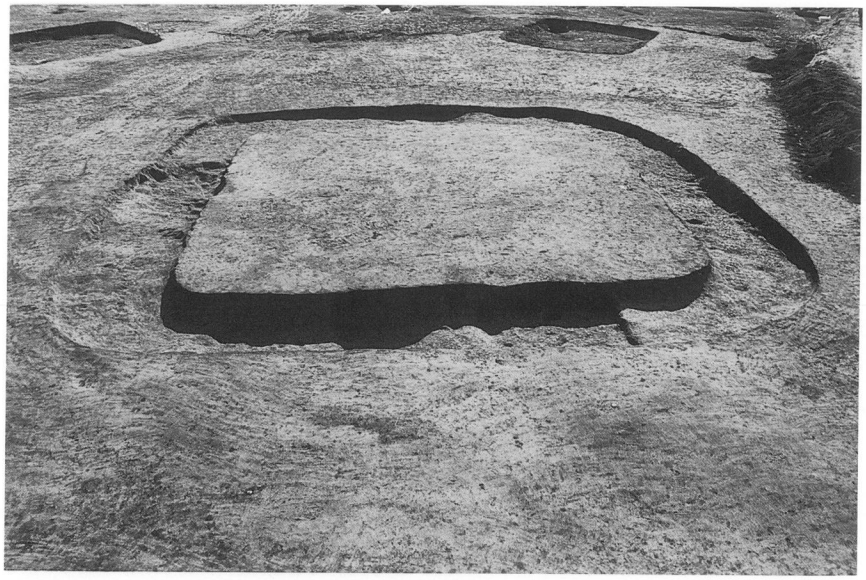
第　2　号　墳
完　掘　状　況

第２号墳主体部
確認状況（蓋石）



第２号墳主体部
遺物出土状況

第２号墳主体部
完　掘　状　況

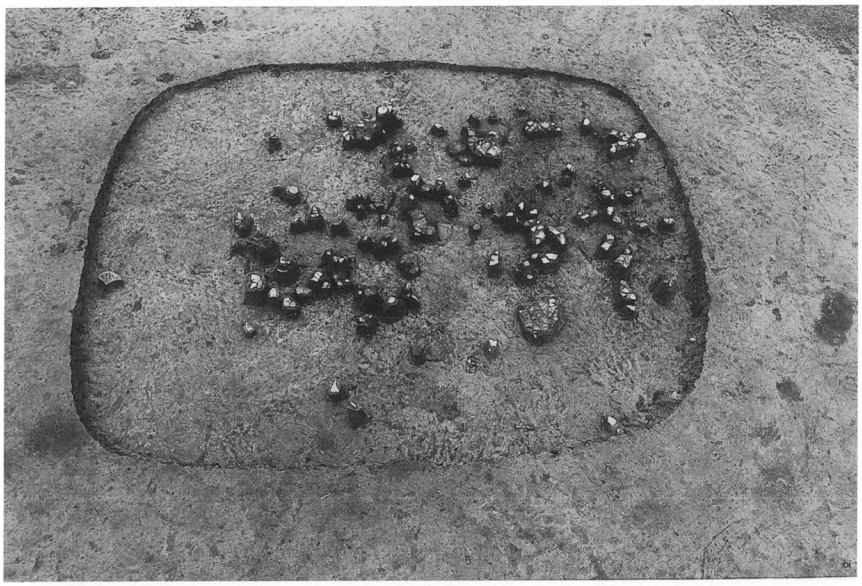


第１号方形周溝墓
完　掘　状　況

第１号方形周溝墓
遺物出土状況

第　１　号　塚
現　　況

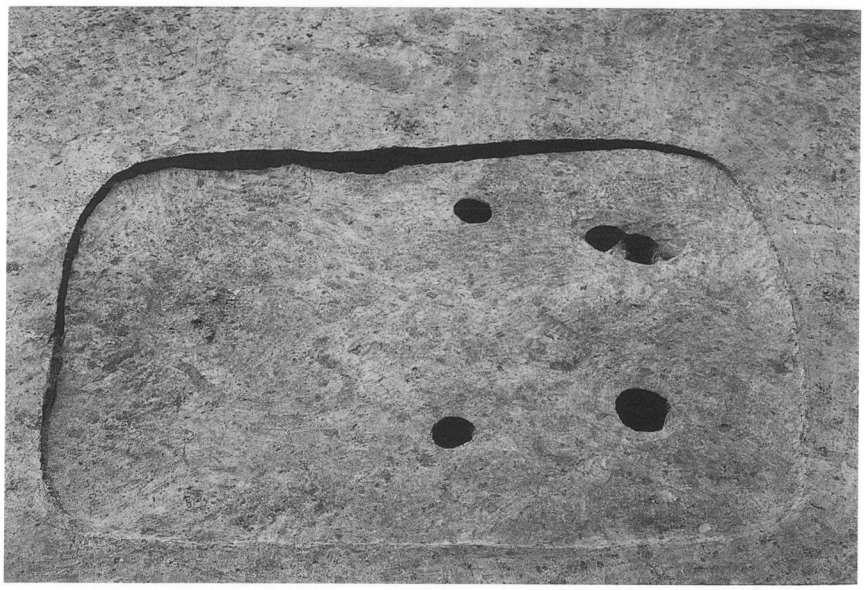
第　1　号　塚
現　　況



第28号住居跡
遺物出土状況

第28号住居跡
遺物出土状況

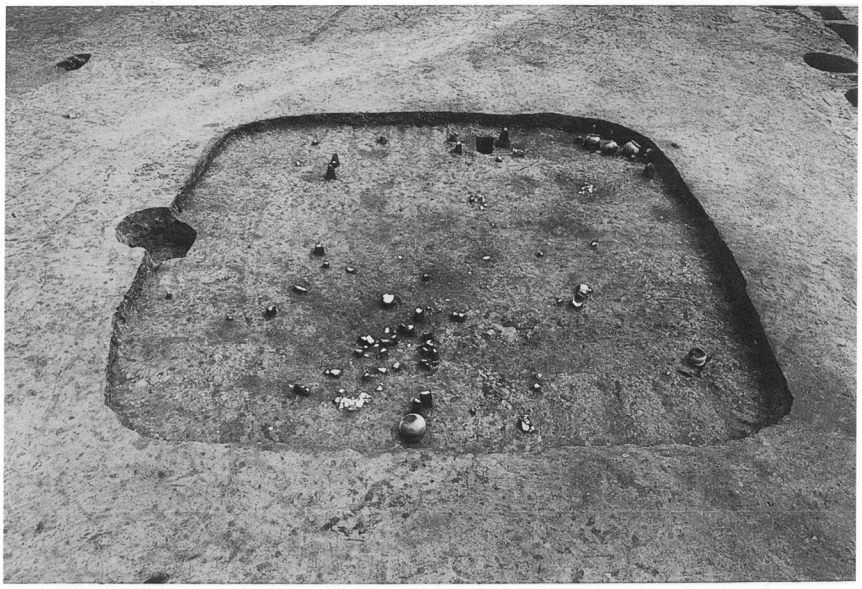
第28号住居跡
遺物出土状況



第103号住居跡
完　掘　状　況

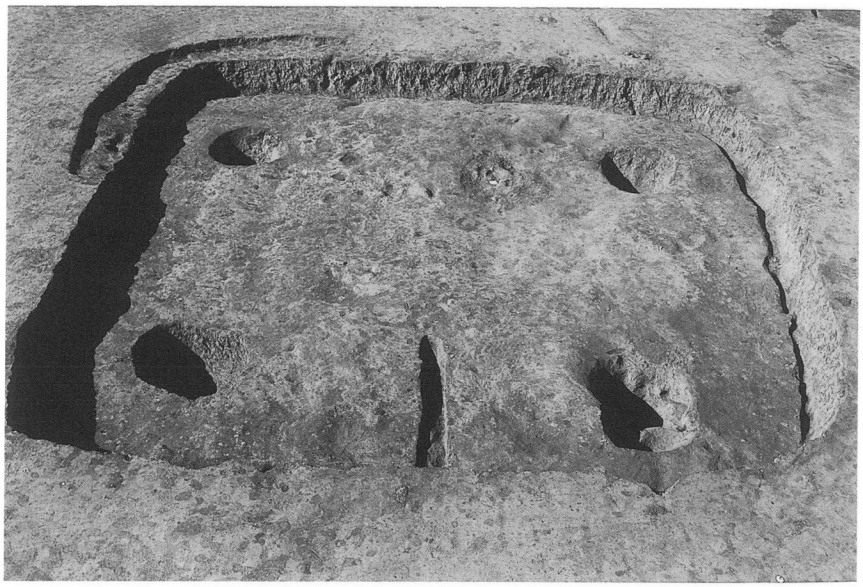
第 6 号住居跡
遺物出土状況

第 6 号住居跡
遺物出土状況



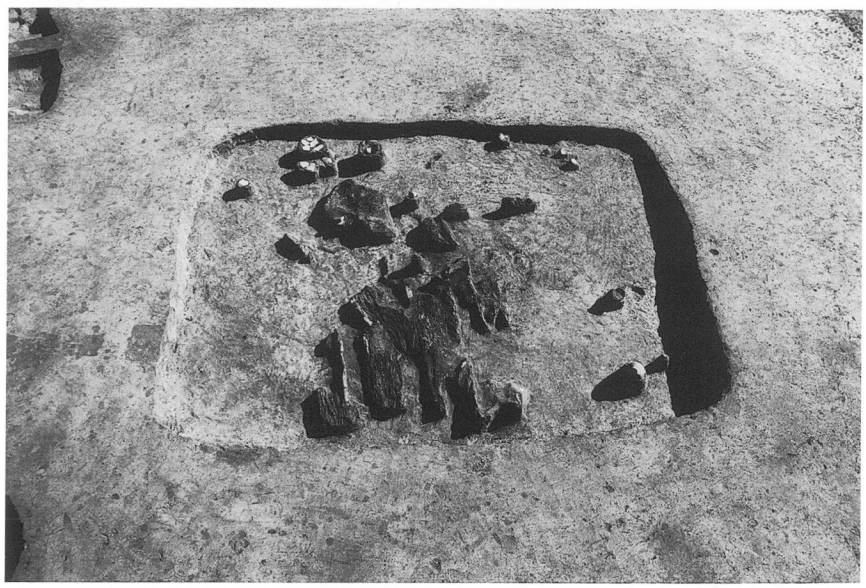
第 6 号住居跡
遺物出土状況

第10号住居跡
遺物出土状況



第14号住居跡
完　掘　状　況

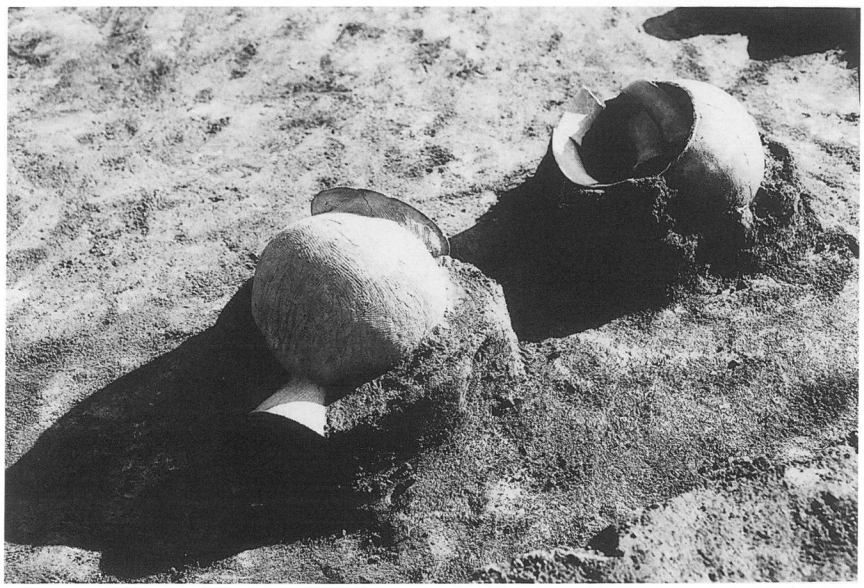
第30号住居跡
土　層　断　面



第44号住居跡
遺物出土状況

第44号住居跡
遺物出土状況

第73号住居跡
遺物出土状況



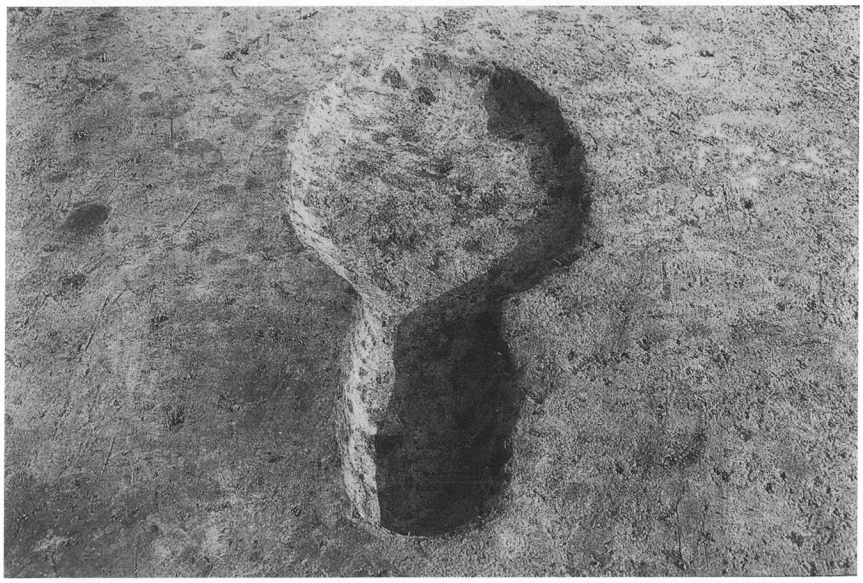
第75号住居跡
遺物出土状況

第95号住居跡
遺物出土状況

第99号住居跡
遺物出土状況

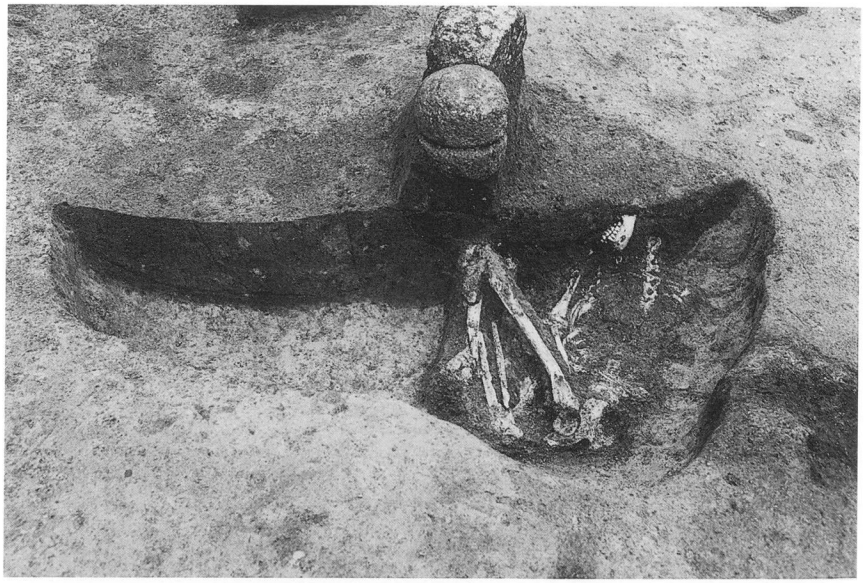
第62号土坑
遺物出土状況

第77・78号土坑
土　層　断　面



第82号土坑
完　掘　状　況

第91号土坑
遺物出土状況

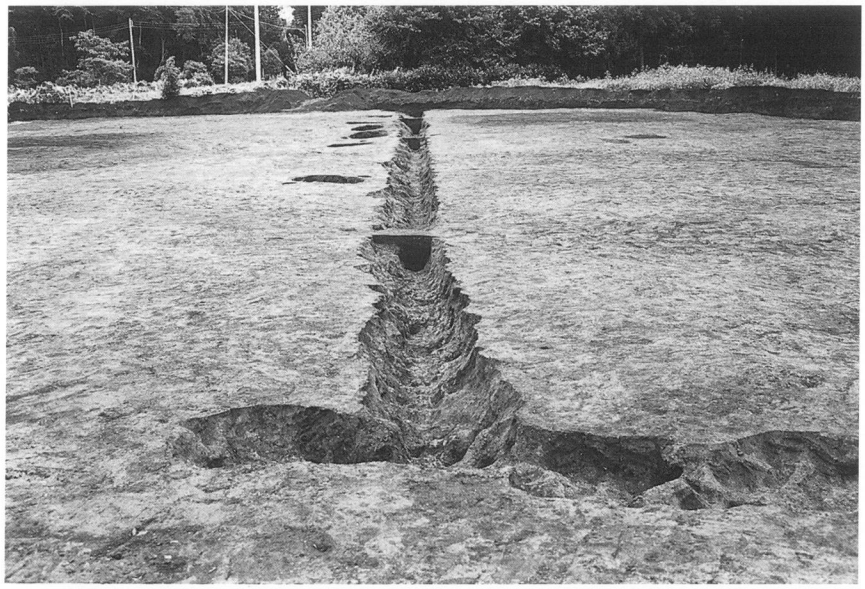


第117・121号土坑
遺物出土状況

第121号土坑
遺物出土状況

第127号土坑
遺物出土状況

第１号井戸跡
完　掘　状　況



第１号溝跡
完　掘　状　況

作　業　風　景
（第１号墳）

SI 37-138

SI 38-140

SI 2-41

SI 6-49

SI 12-70

SI 12-72

SI 30-113

SI 31-116

SI 44-148

SI 48-156

SI 48-157

SI 51-164

SI 53-175

SI 58-204

SI 62-206

第2・6・12・30・31・37・38・44・48・51・53・58・62号住居跡出土遺物

SI 62-207

SI 67-231

SI 69-248

SI 69-249

SI 73-270

SI 73-271

SI 75-304

77-318

SI 95-345

SI 95-346

SI 95-347

SI 95-348

SI 97-356

SI 101-366

TM 1-382

第62・67・69・73・75・77・95・97・101号住居跡，第１号墳出土遺物出土遺物

SI 67-236

SI 76-316

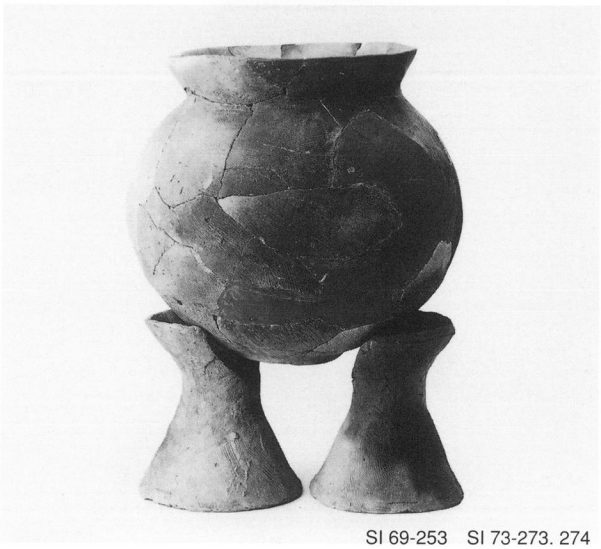
SI 2-40

SI 75-305

SI 67-235

SI 48-158

SI 73-273. 274


SI 69-253　SI 73-273. 274

第２・48・67・69・73・75・76号住居跡出土遺物

SI 48-159

SI 62-209

SI 67-233

SI 67-234

SI 71-261

SI 71-262

SI 72-265

SI 73-276

第48・62・67・71・72・73号住居跡出土遺物

SI 73-277

SI 73-278

SI 73-280

SI 73-281

SI 73-283

SI 95-344

SI 73-269

SI 26-105

第26・73・95号住居跡出土遺物

SI 21-95

SI 94-341

SI 8-62

SI 73-288

SI 67-237

SI 101-368

SI 6-51

SI 10-66

SI 101-367

SI 51-166

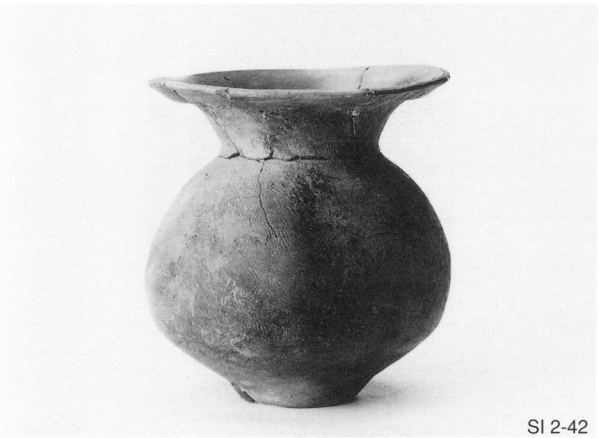
第6・8・10・21・51・67・73・94・95・101号住居跡出土遺物

SI 46-151

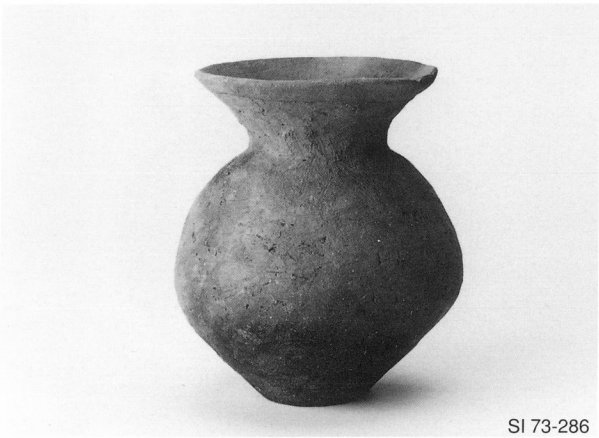
SI 73-284

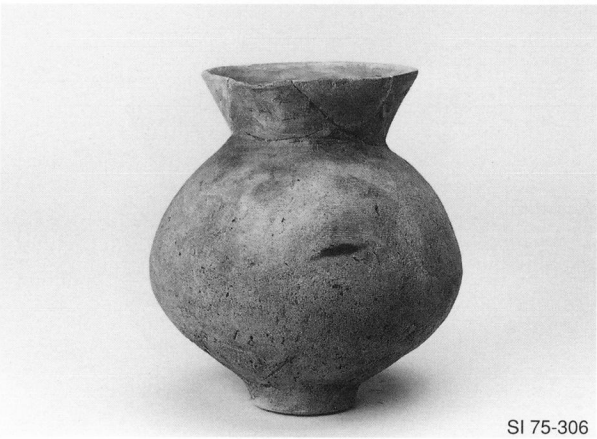
SI 58-205

SI 44-149


SI 2-42

SI 67-232


SI 73-286


SI 75-306

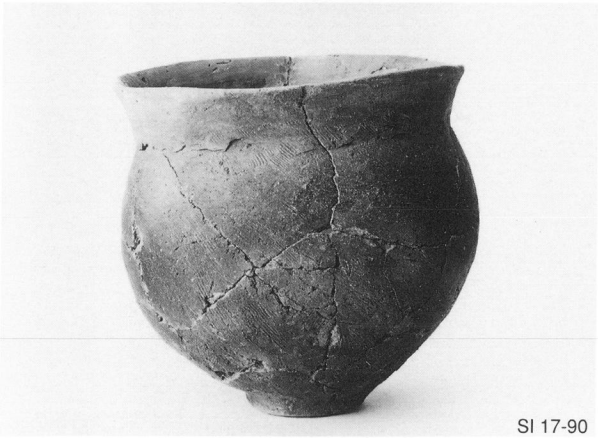
第2・44・46・58・67・73・75号住居跡出土遺物

SI 95-349

SI 95-350

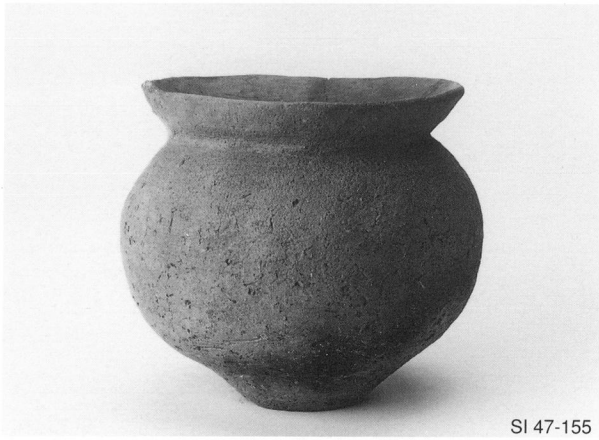
SI 95-351

SI 6-56


SI 17-90

SI 22-100

SI 44-150


SI 47-155

第6・22・44・47・95・117号住居跡出土遺物

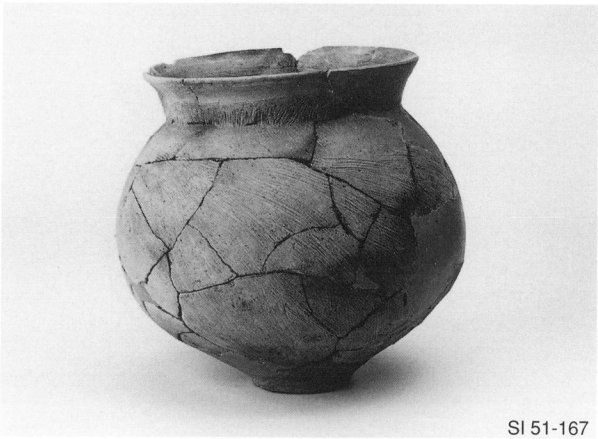
SI 73-293

SI 68-246

SI 75-314

SI 31-118

SI 34-125



SI 51-167

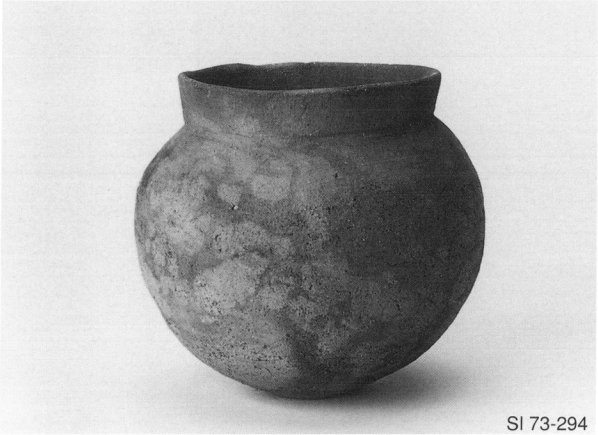
SI 62-211

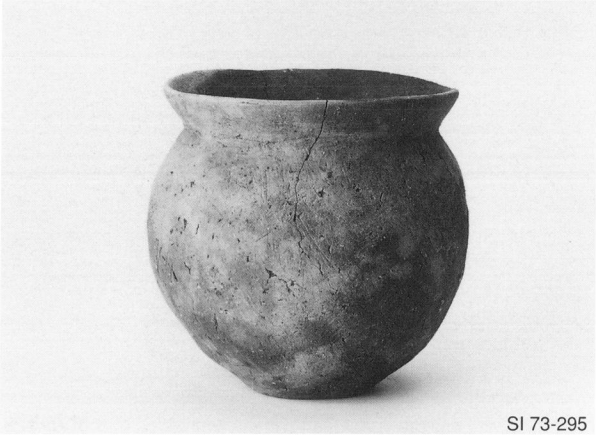
SI 62-212

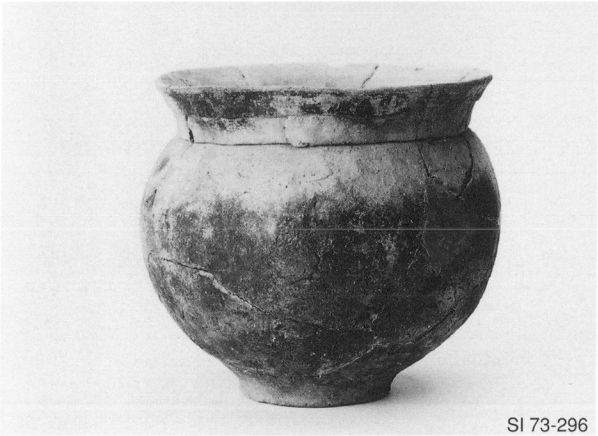
第31・34・51・62・68・73・75号住居跡出土遺物

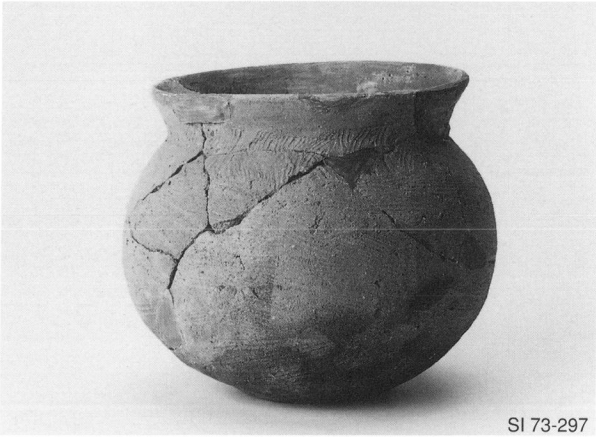
SI 67-241

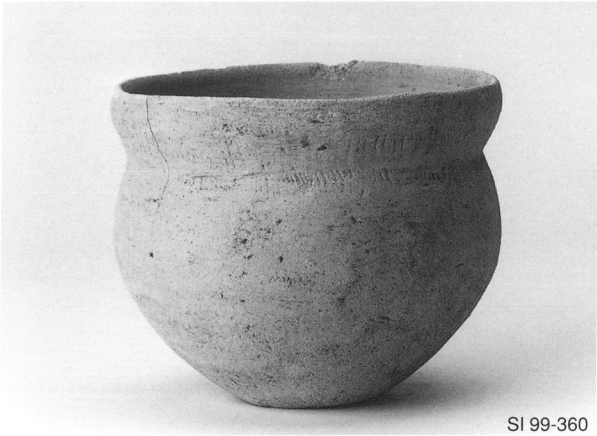
SI 70-259

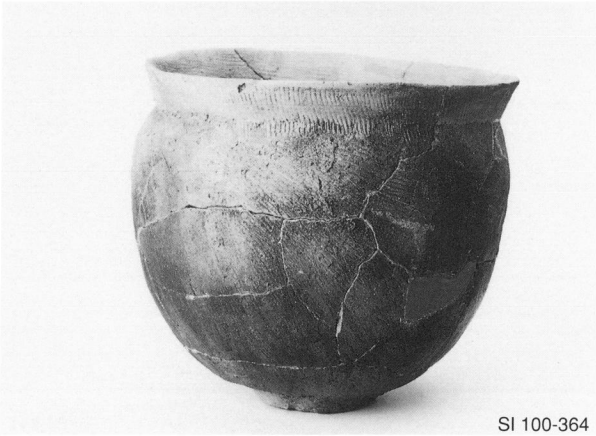

SI 73-294


SI 73-295

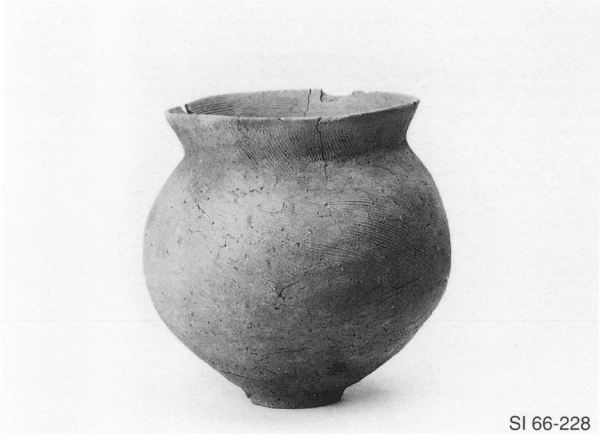

SI 73-296

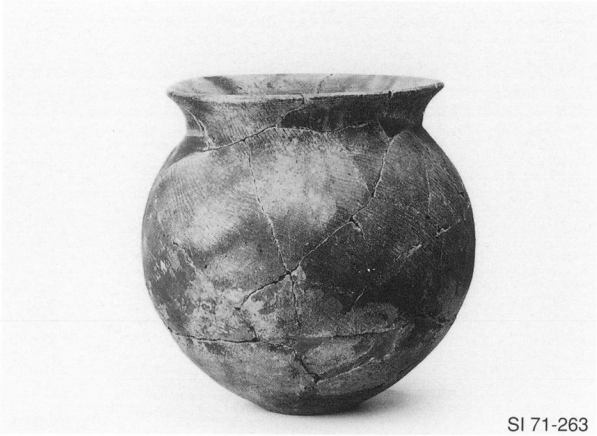

SI 73-297


SI 99-360

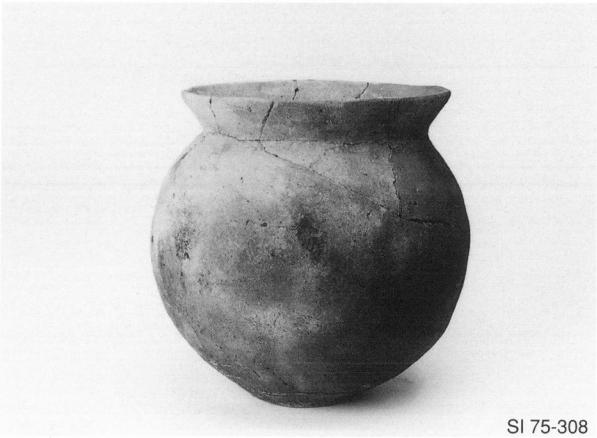

SI 100-364

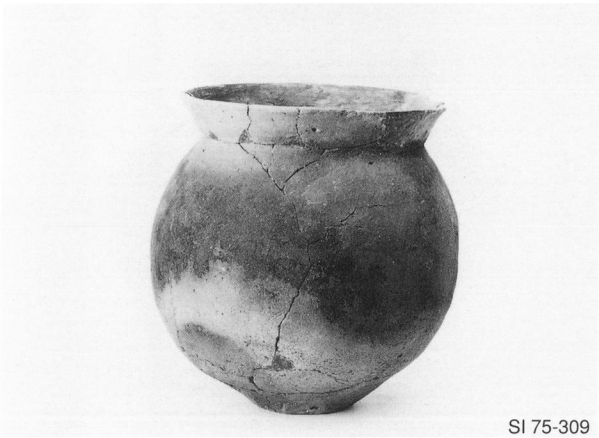
第67・70・73・99・100号住居跡出土遺物

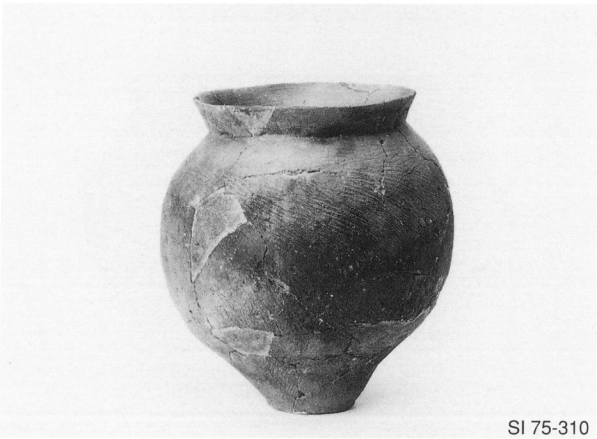

SI 66-228

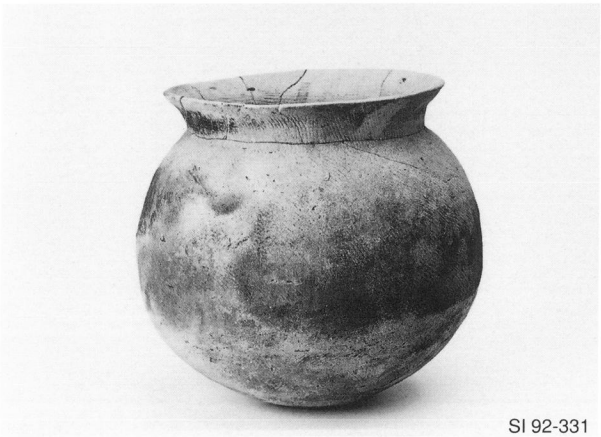

SI 71-263

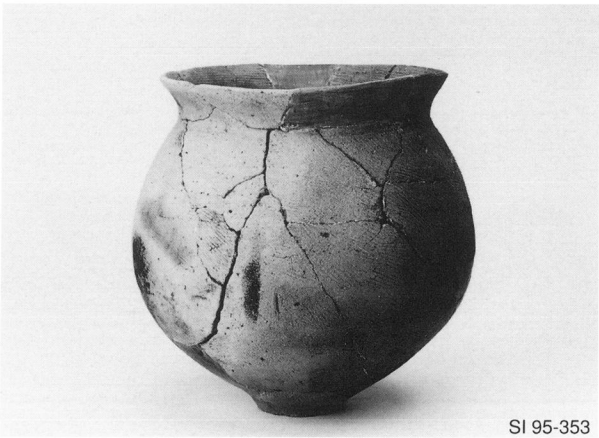
SI 73-292


SI 75-308


SI 75-309


SI 75-310


SI 92-331


SI 95-353

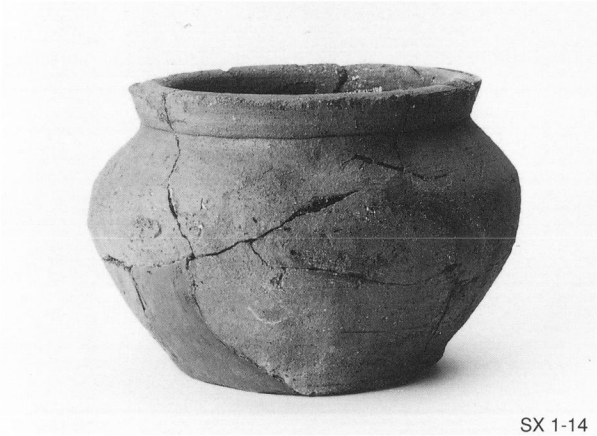
第66・71・73・75・92・95号住居跡出土遺物

SI 99-359

SI 100-363

SI 73-299

SI 73-300


SX 1-14

SX 1-15

SX 1-24

SI 2-45

第２・73・99・100号住居跡出土遺物，第１号塚出土遺物

SI 28-370

SI 28-371

SI 59-373

SI 88-374

SI 78-321

SI 93-337

第28・59・78・88・93号住居跡出土遺物

SI 2-44

SI 6-52

SI 6-53

SI 6-54

SI 6-55

SI 21-96

第２・６・21号住居跡出土遺物

SI 21-97

SI 54-190

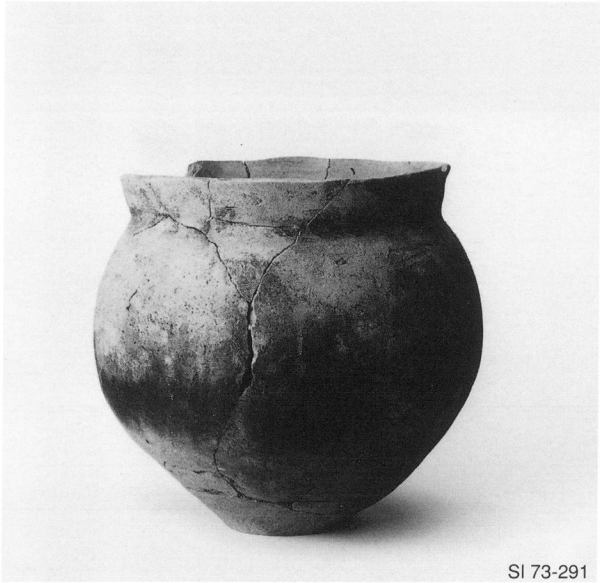
SI 67-239

SI 67-243

SI 69-253

SI 73-290

第21・54・67・69・73号住居跡出土遺物

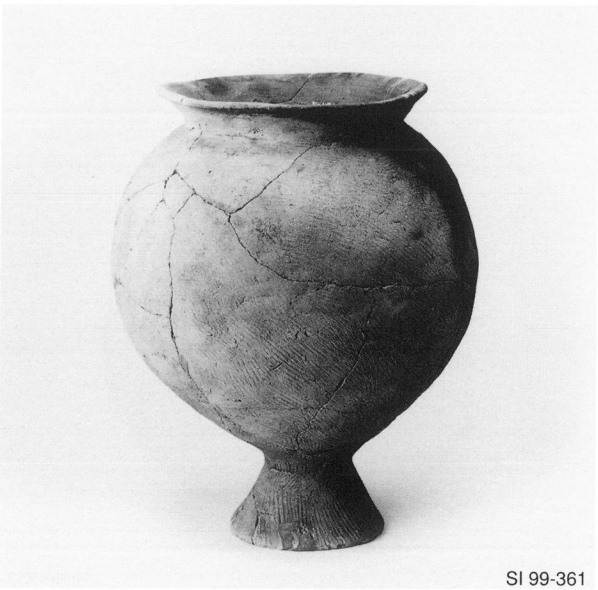

SI 73-291

SI 99-358

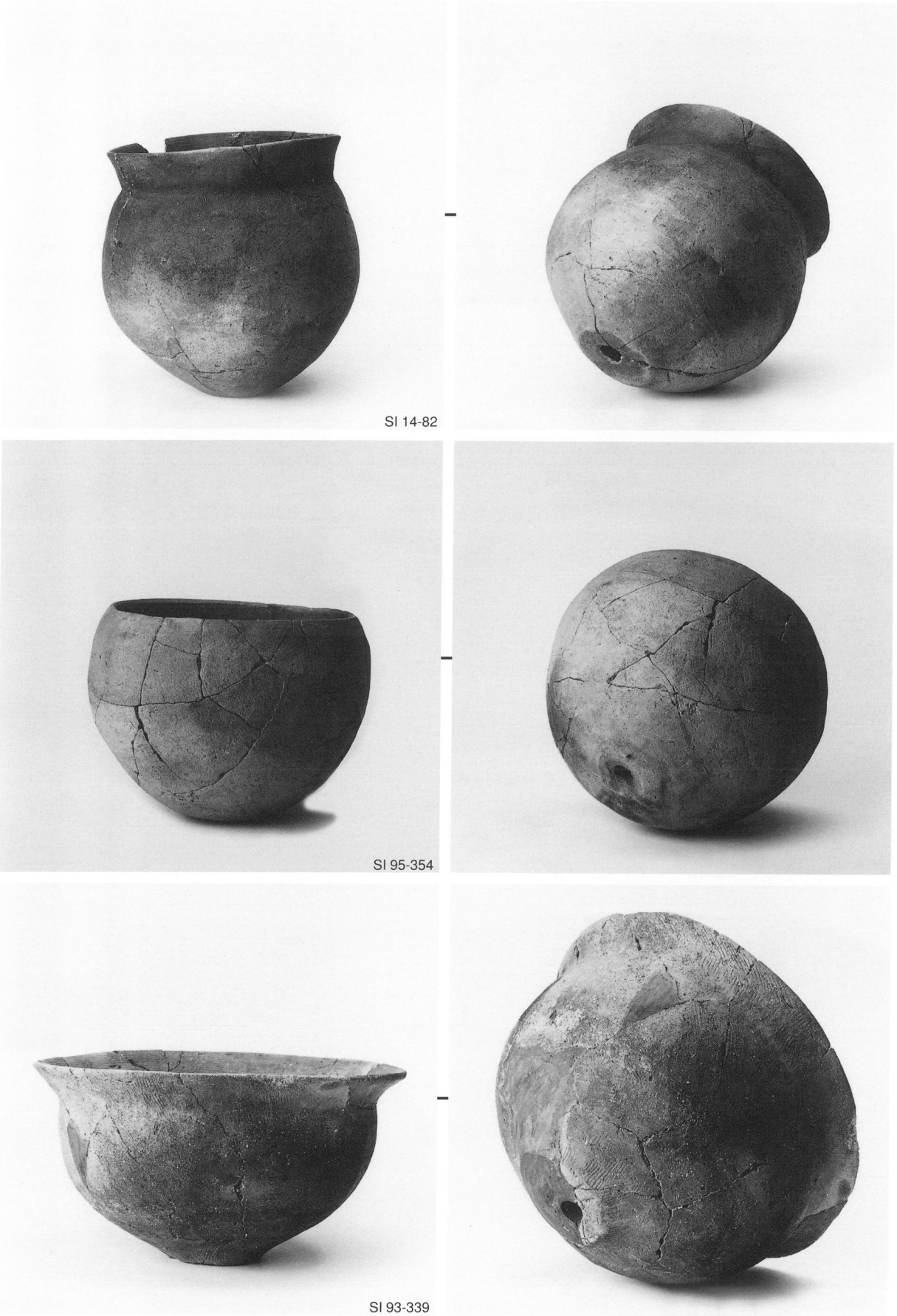
SI 75-311

SI 75-312

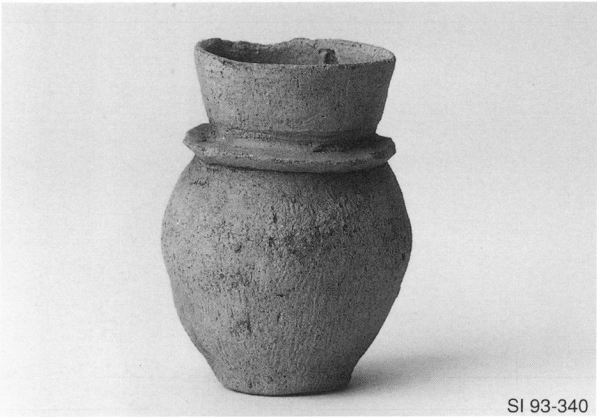
SI 75-313


SI 99-361

第73・75・99号住居跡出土遺物



第14・93・95号住居跡出土遺物


SI 93-340

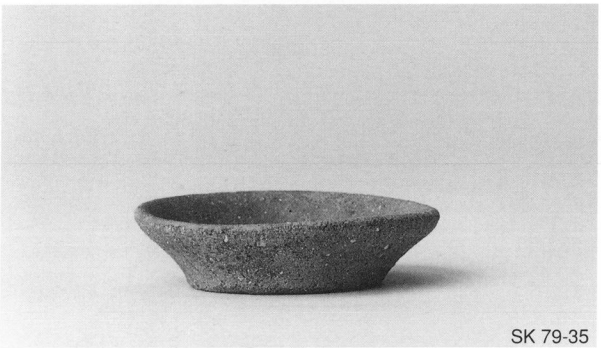
SI 42-147

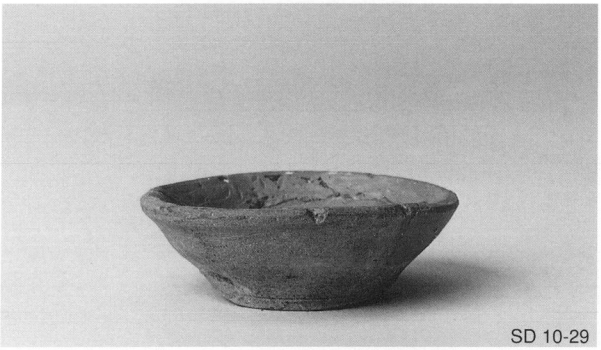
SI 73-275

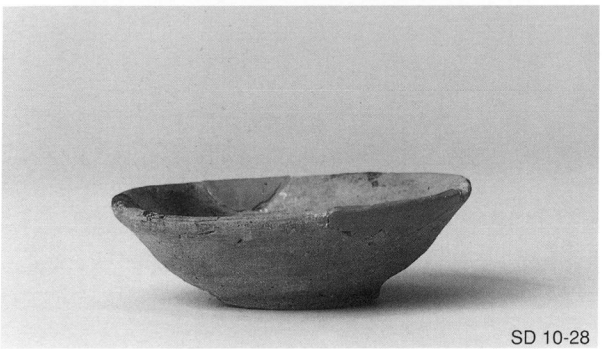
SI 75-315

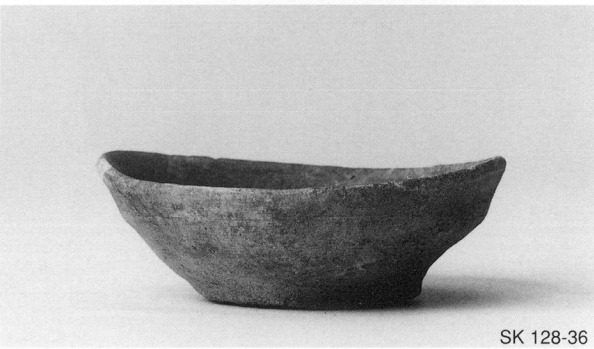
SI 94-343

TM 2-9


SK 79-35


SD 10-29


SD 10-28

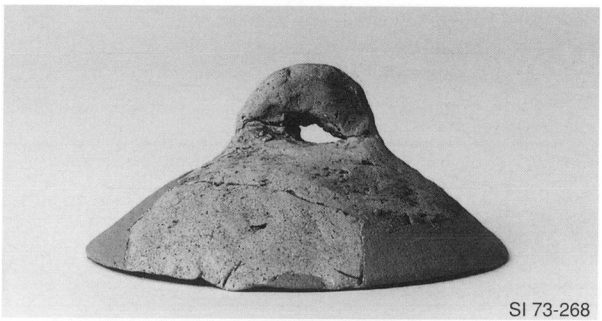

SK 128-36

第38・73・75・93・94号住居跡，第79・128号土坑，第10号溝跡，第２号墳出土遺物

SI 6-58

SI 15-84

SI 22-99


SI 73-268

SI 68-247

SI 24-104

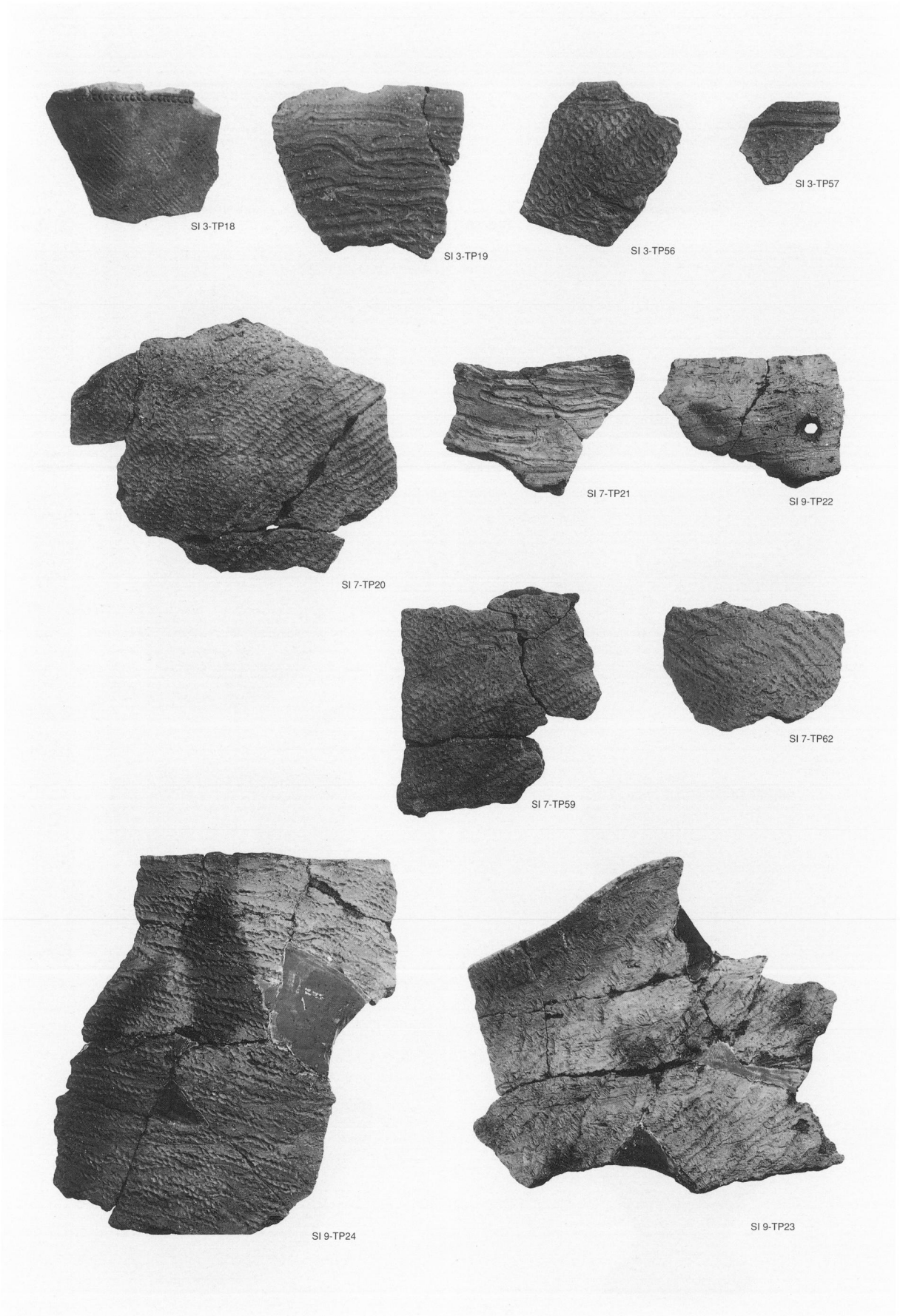
SI 30-115

SI 52-169

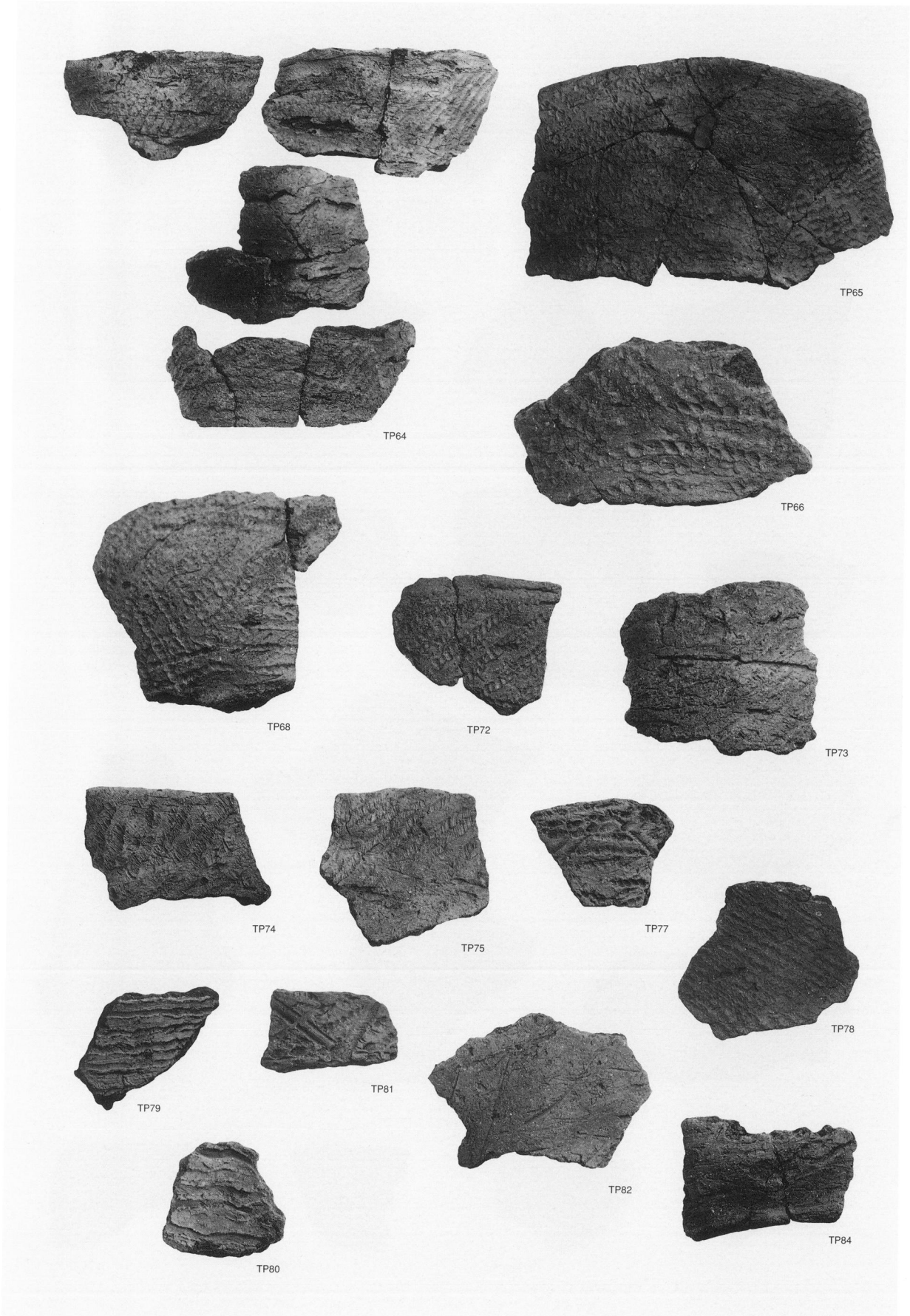
SI 21-98

SI 15-83

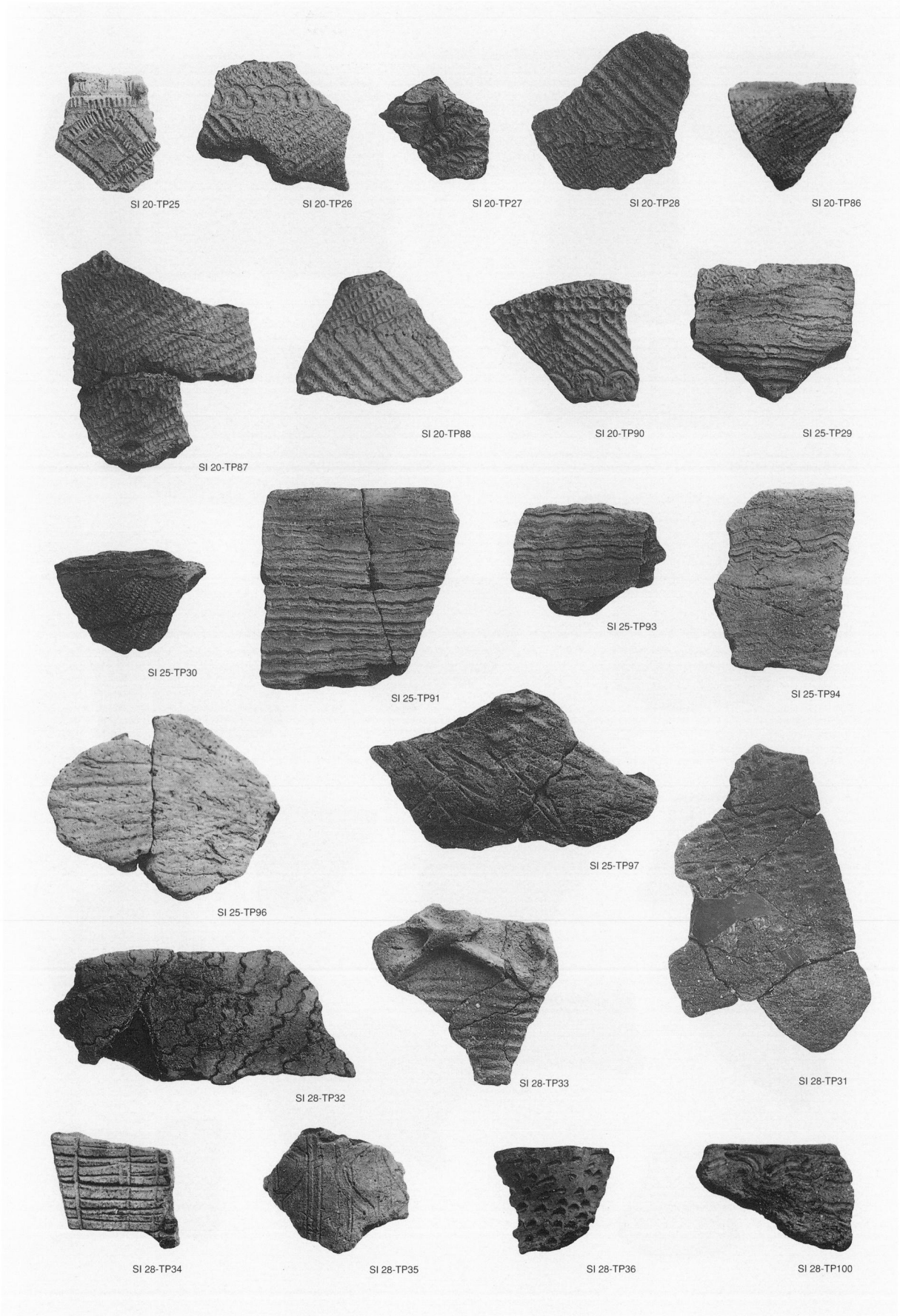
第6・15・21・22・24・30・52・68・73号住居跡出土遺物



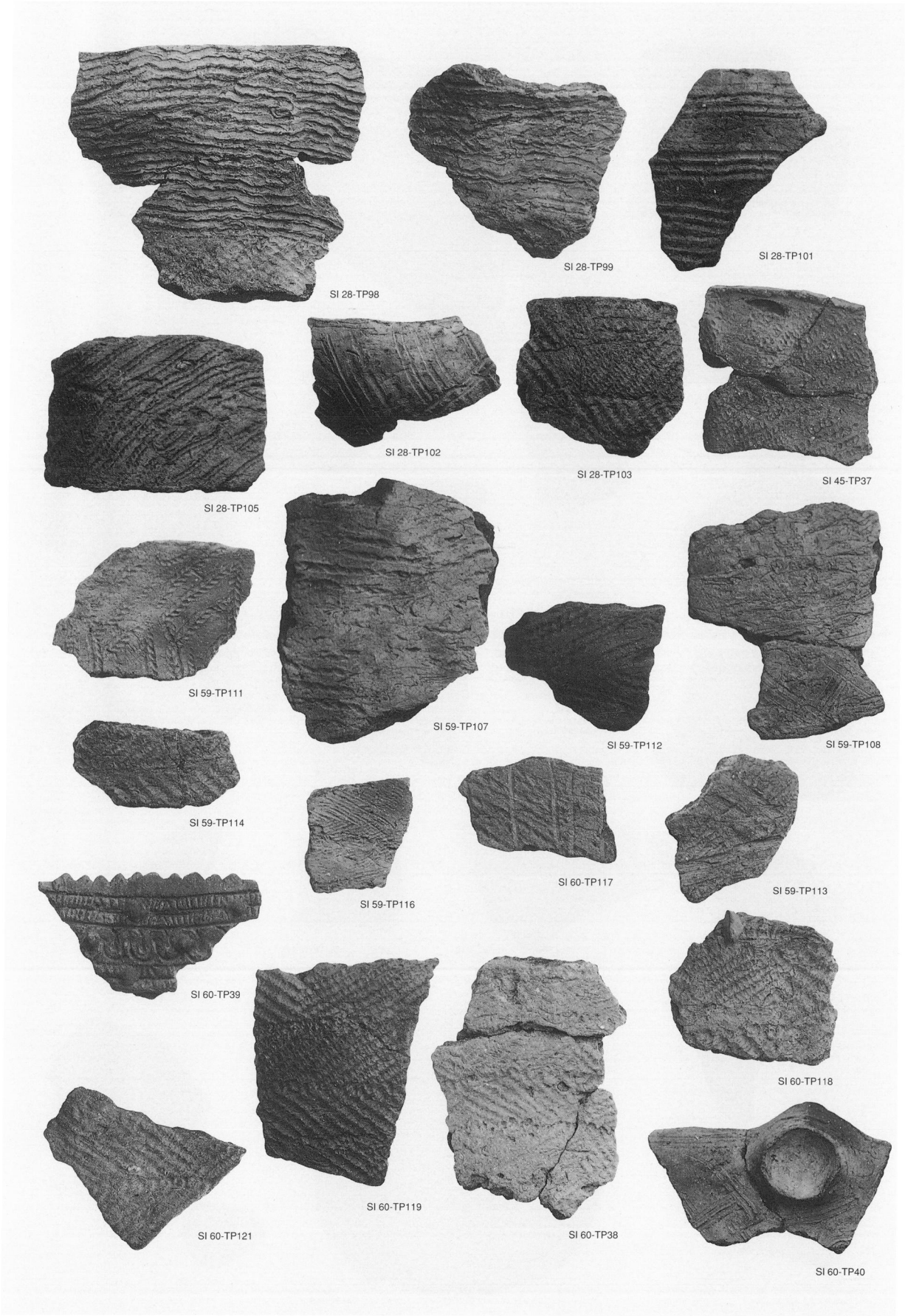
第３・７・９号住居跡出土遺物


TP65
TP64
TP66
TP68
TP72
TP73
TP74
TP75
TP77
TP78
TP79
TP81
TP82
TP84
TP80

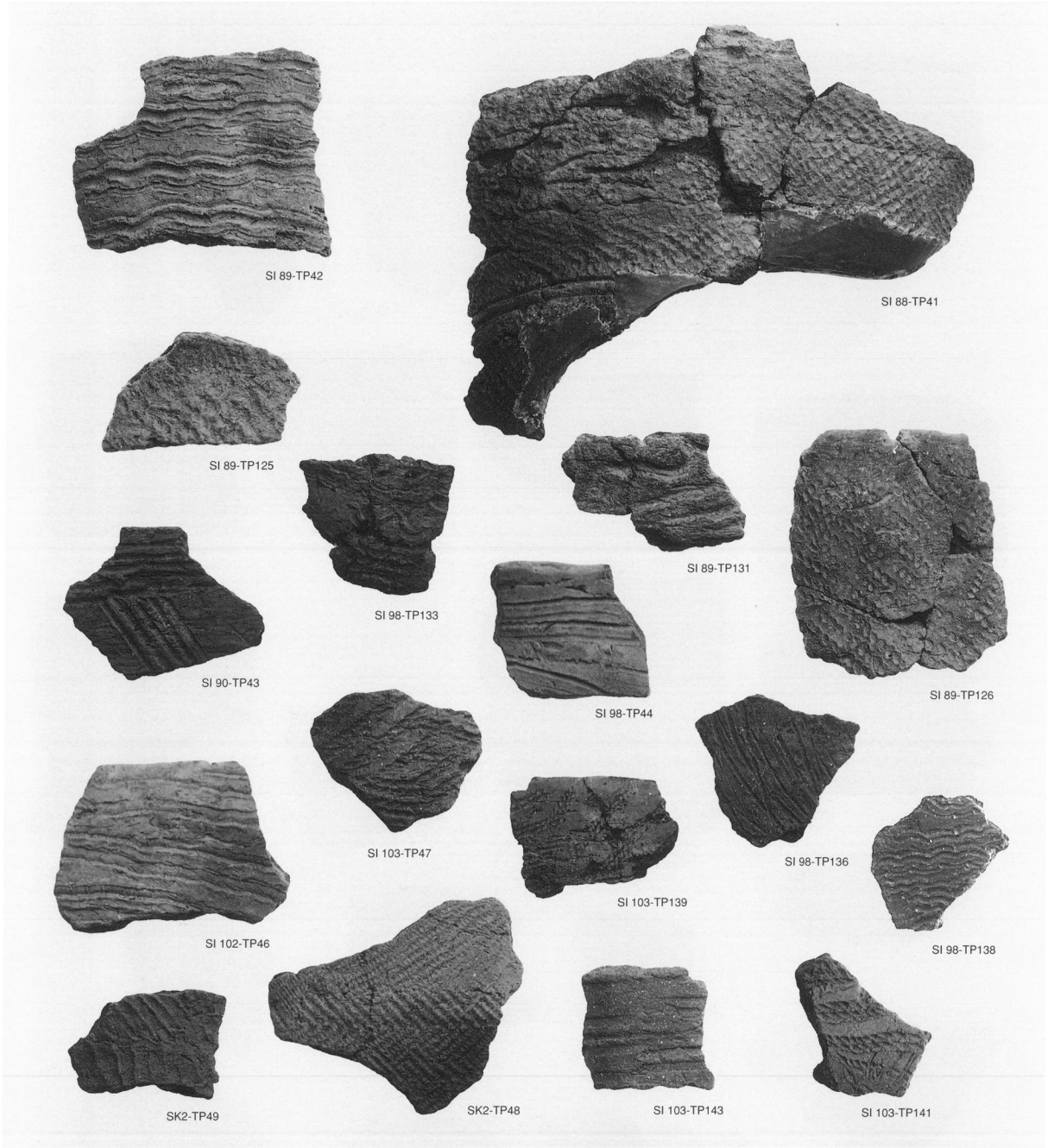
第 9 号住居跡出土遺物

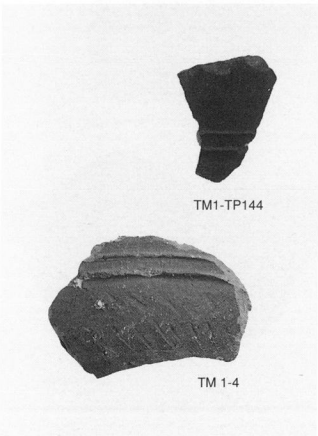


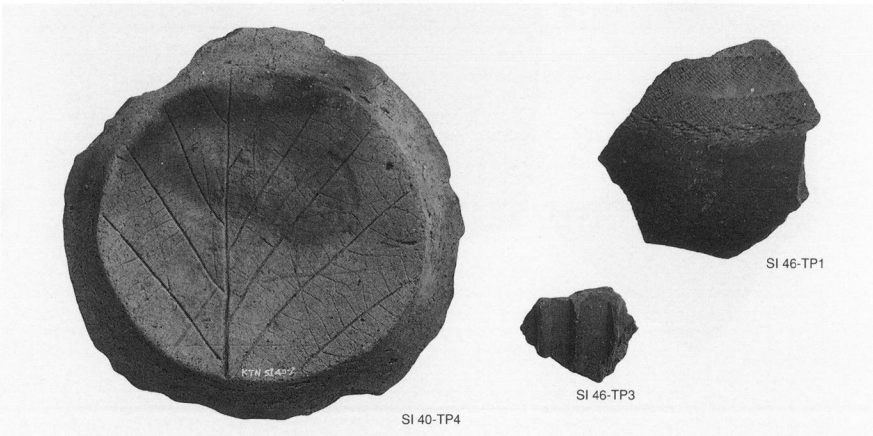
第20・25・28号住居跡出土遺物



第28・45・59・60・65号住居跡出土遺物





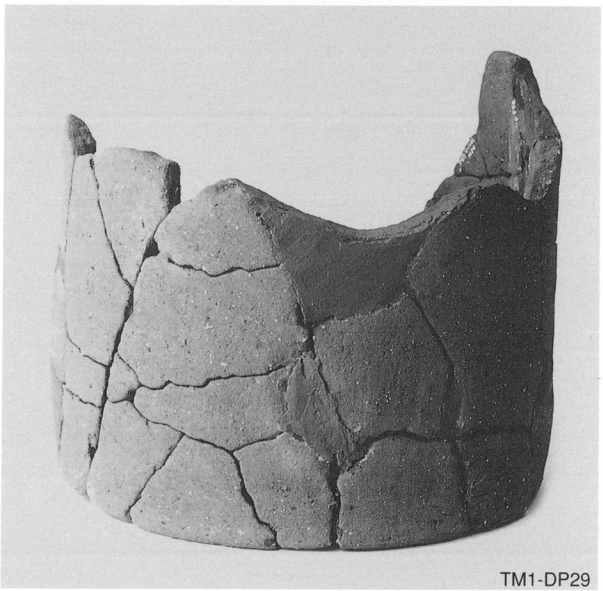


第40・46・88・89・90・98・103号住居跡出土遺物，第１号土坑，第１号墳出土遺物

TM1-DP14

TM1-DP12

TM1-DP13


TM1-DP29

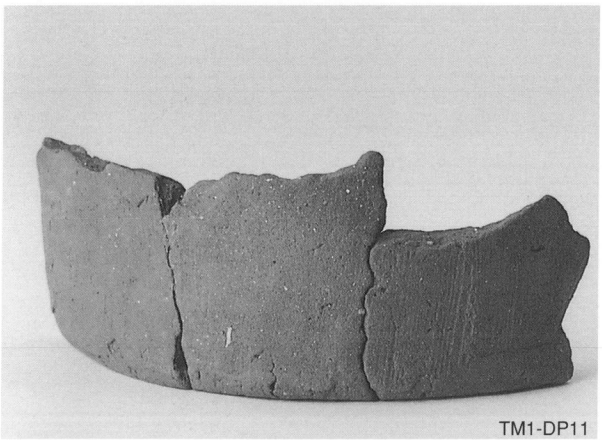
埴輪

TM1-DP15.14

TM1-DP17.16

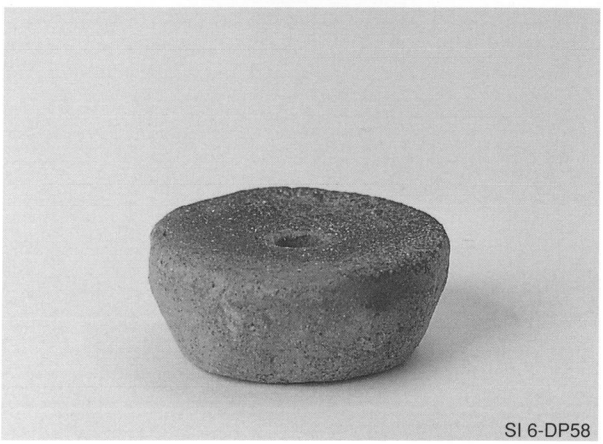
TM1-DP20

TM1-DP24


TM1-DP11

遺構外-DP234

SI 6-DP57


SI 6-DP58

埴輪・土製品

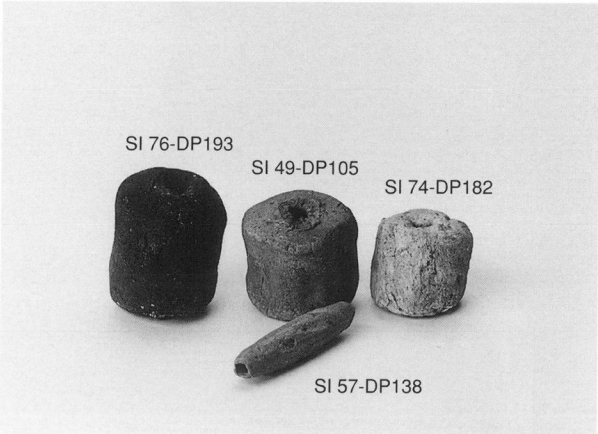
SI 79-DP195

SI 53-DP134・SI 101-DP227

SI 95-DP214

SI 52-DP118

SI 96-DP220



SI 6-DP45～56

SI 51-DP106～117

土製品

PL42

SX1-Q22

SX1-Q24

SX1-Q4

SX1-Q14

SD10-Q58

SX1-Q3

墓塔

SX1-Q2

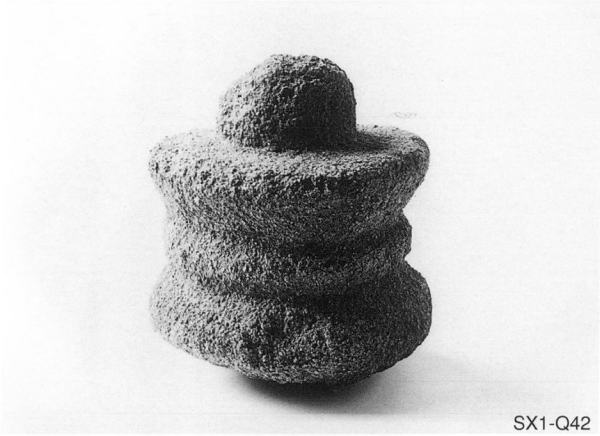
SX1-Q12

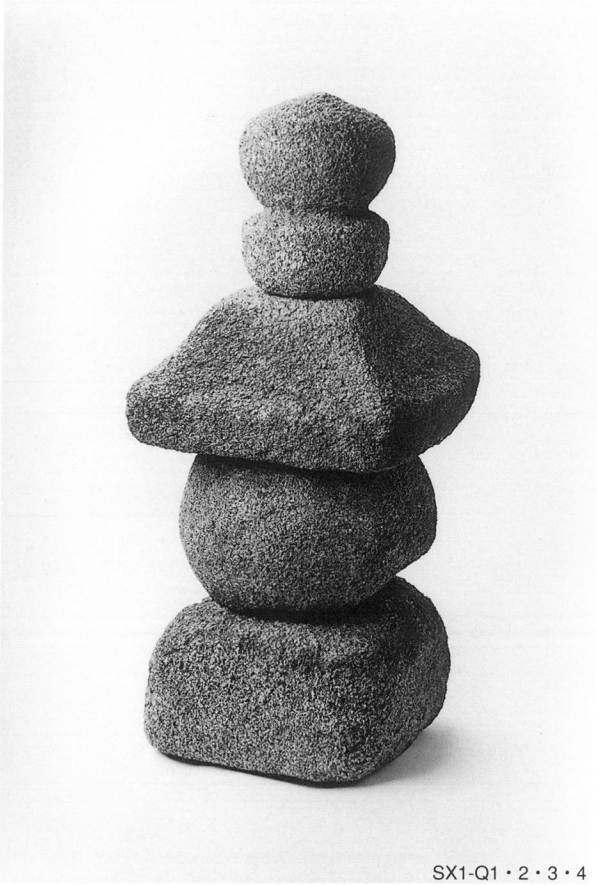
SD10-Q49

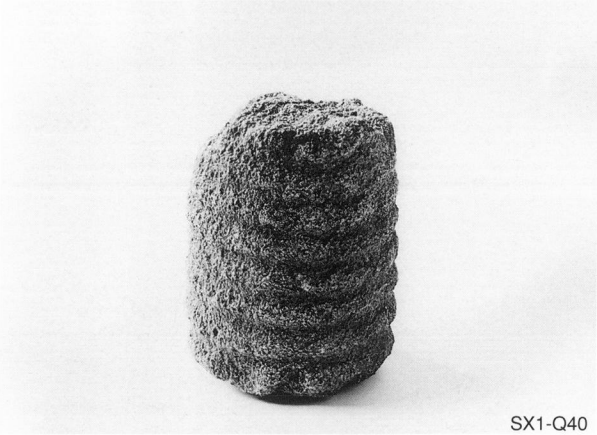
SX1-Q1

SX1-Q5

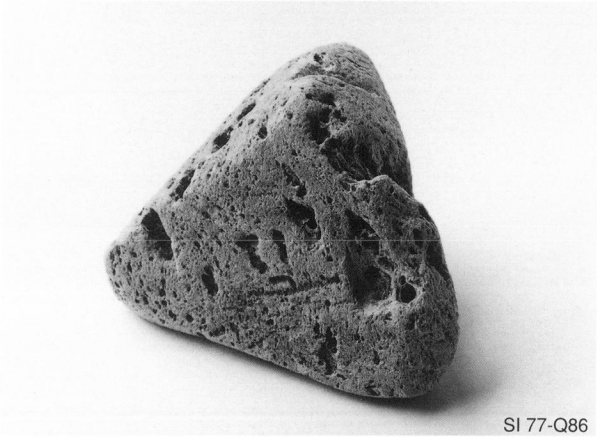
SD10-Q45


SX1-Q42

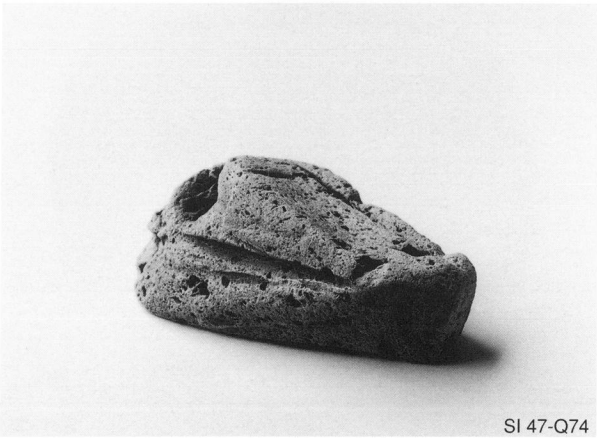

SX1-Q1・2・3・4


SX1-Q40

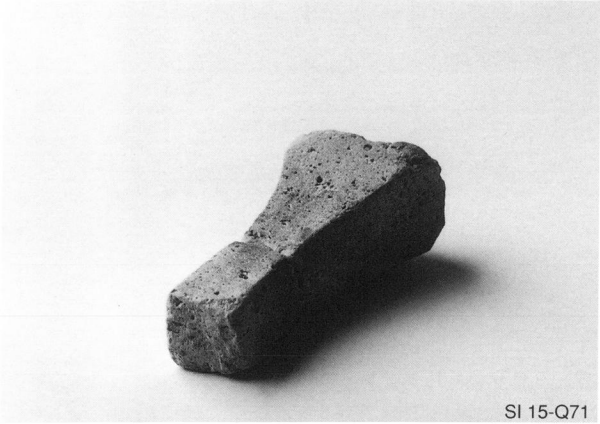
SX1-Q41


SI 77-Q86

SI 40-Q73


SI 47-Q74

墓塔，石製品

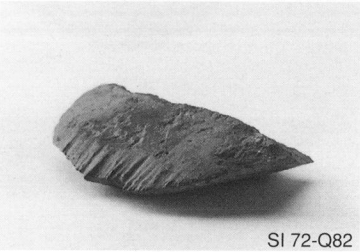

SI 15-Q71

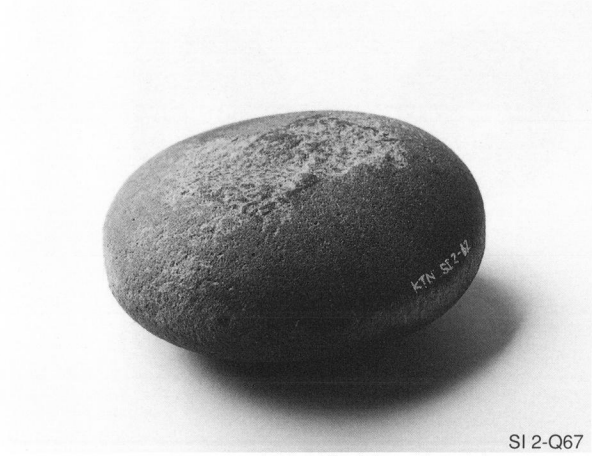
SI 69-Q81

遺構外-Q95

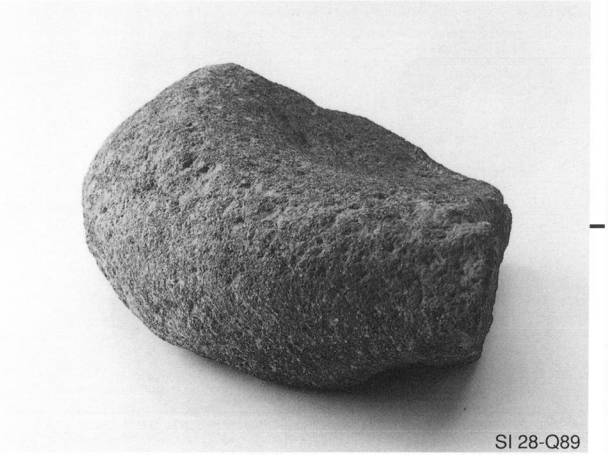
遺構外-Q92

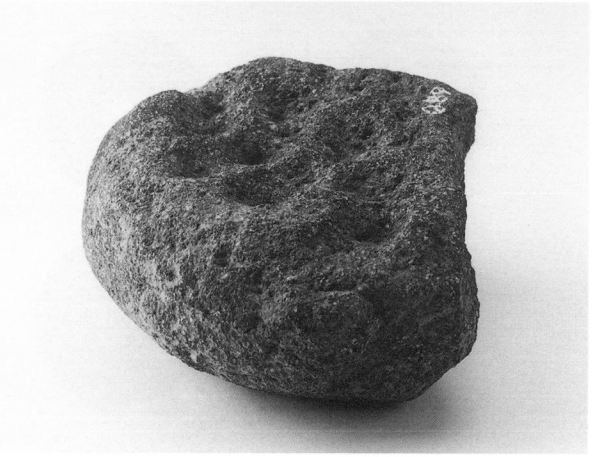
SI 6-Q69


SI 72-Q82

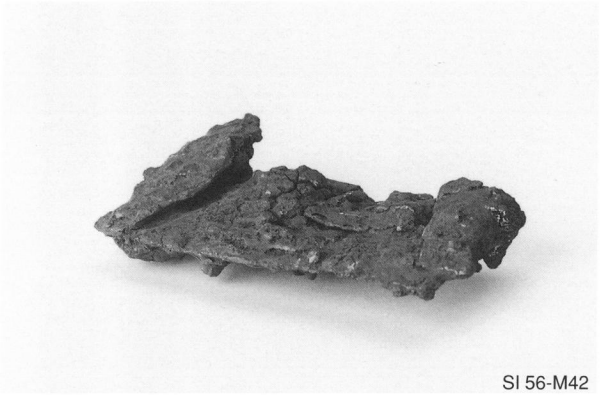

SI 2-Q67

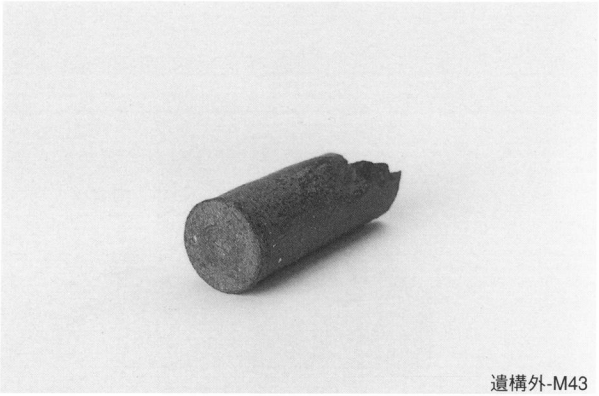
SI 38-Q72

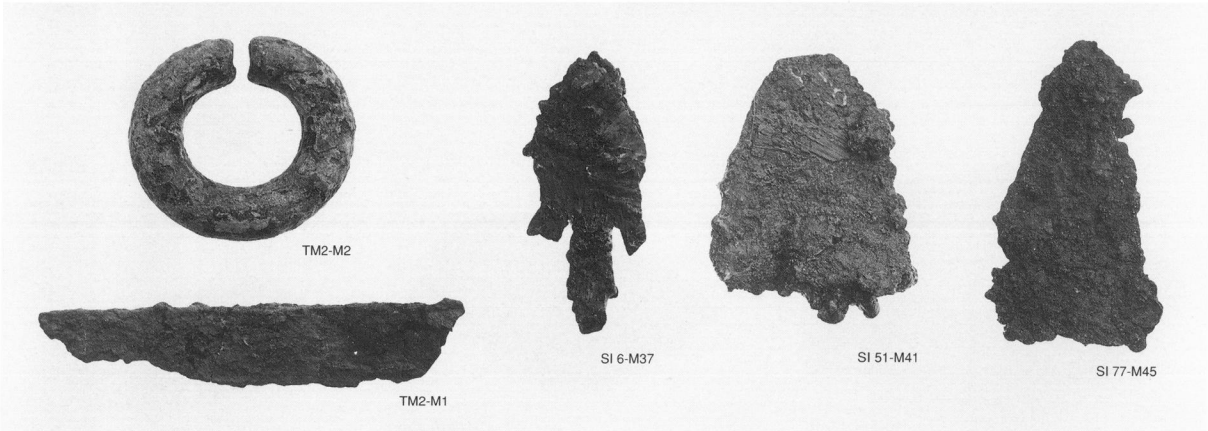

SI 28-Q89

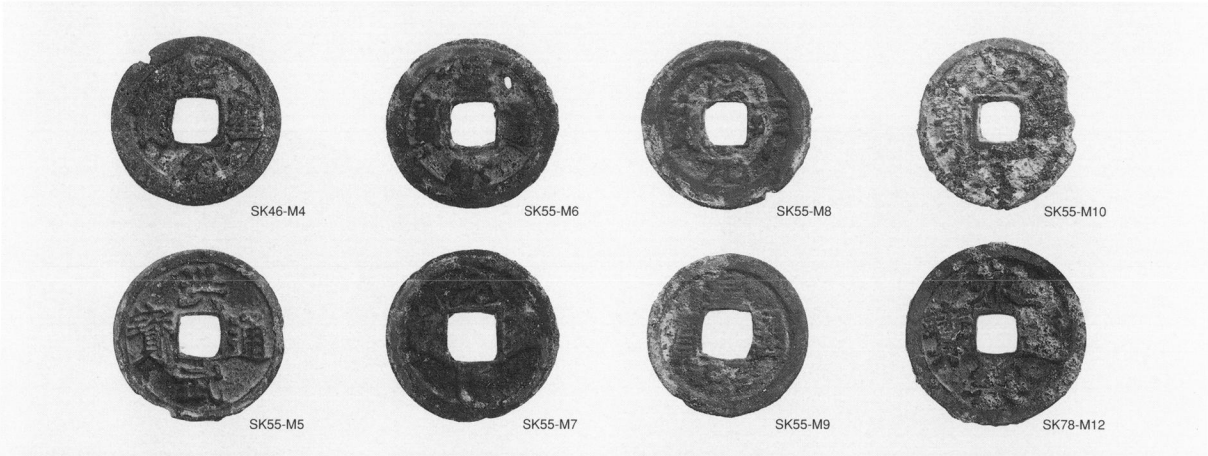


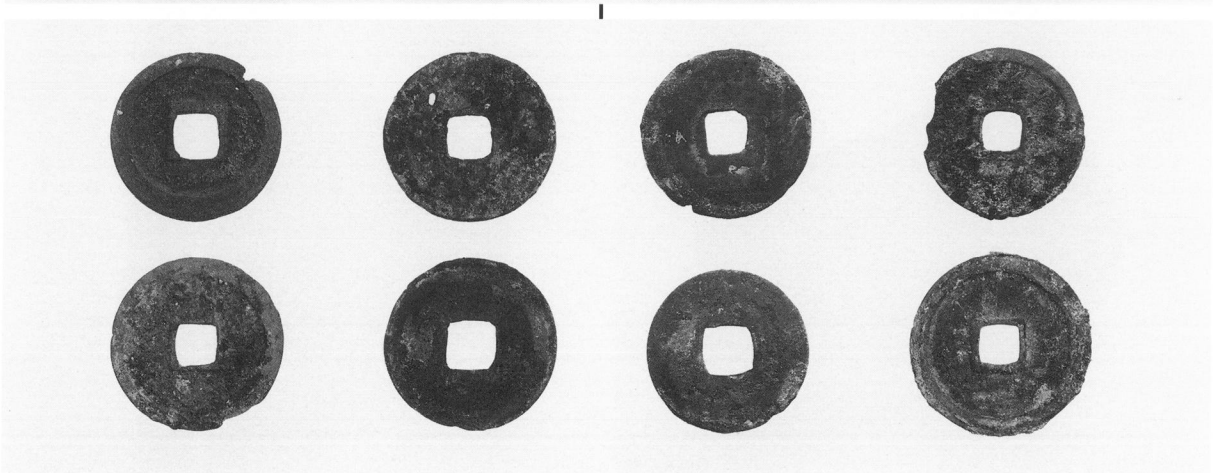
石製品


SI 56-M42


遺構外-M43







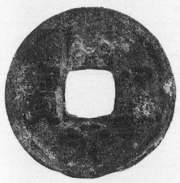
金属製品，古銭

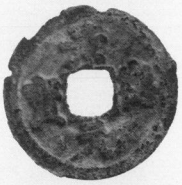
SK78-M13

SK84-M18

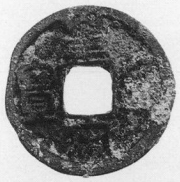
SK85-M24

SK127-M32


SK78-M14


SK84-M20

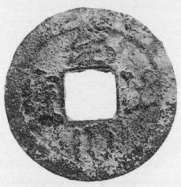
SK85-M25

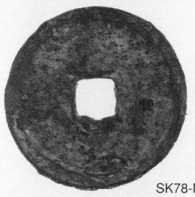

SK127-M33

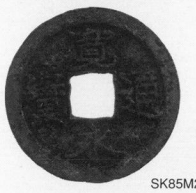
SK78-M15

SK84-M21

SK93-M28

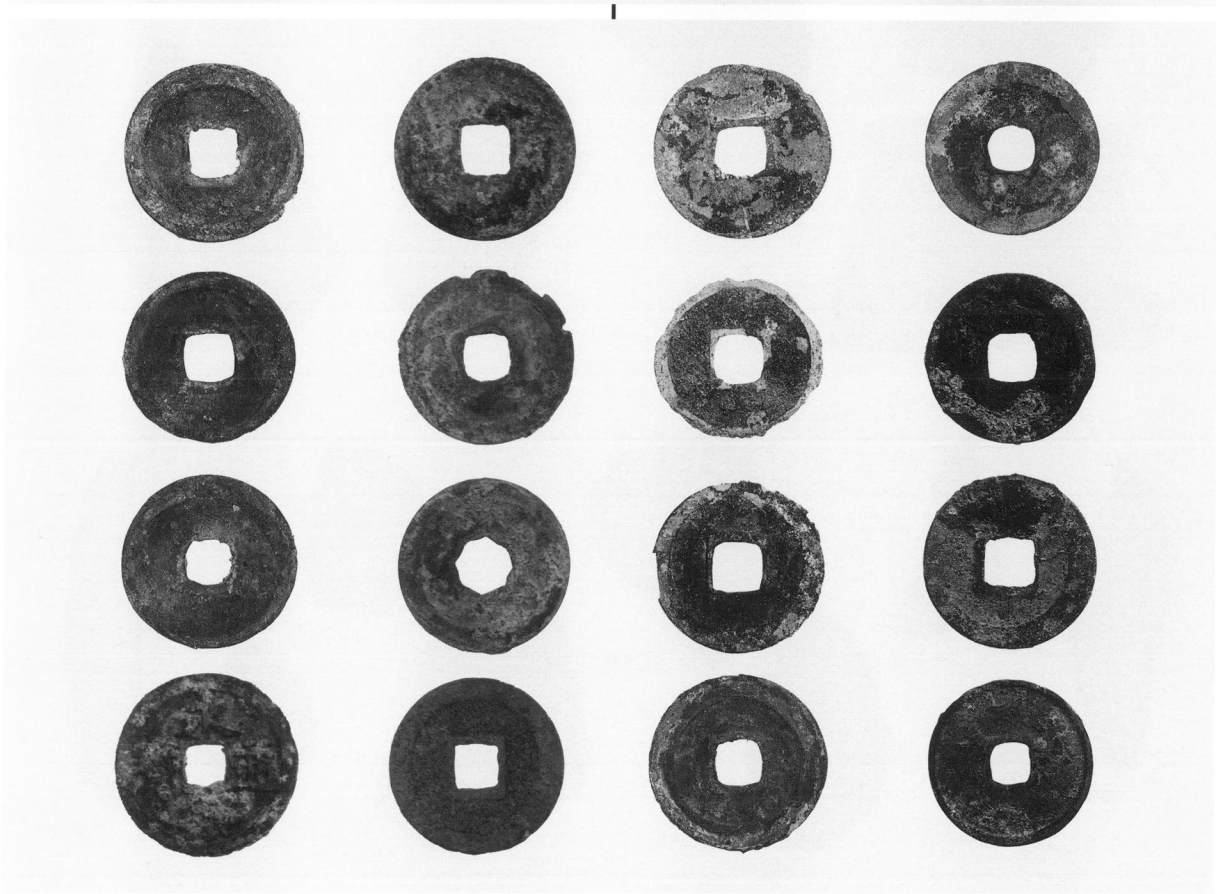

SK127-M34


SK78-M16

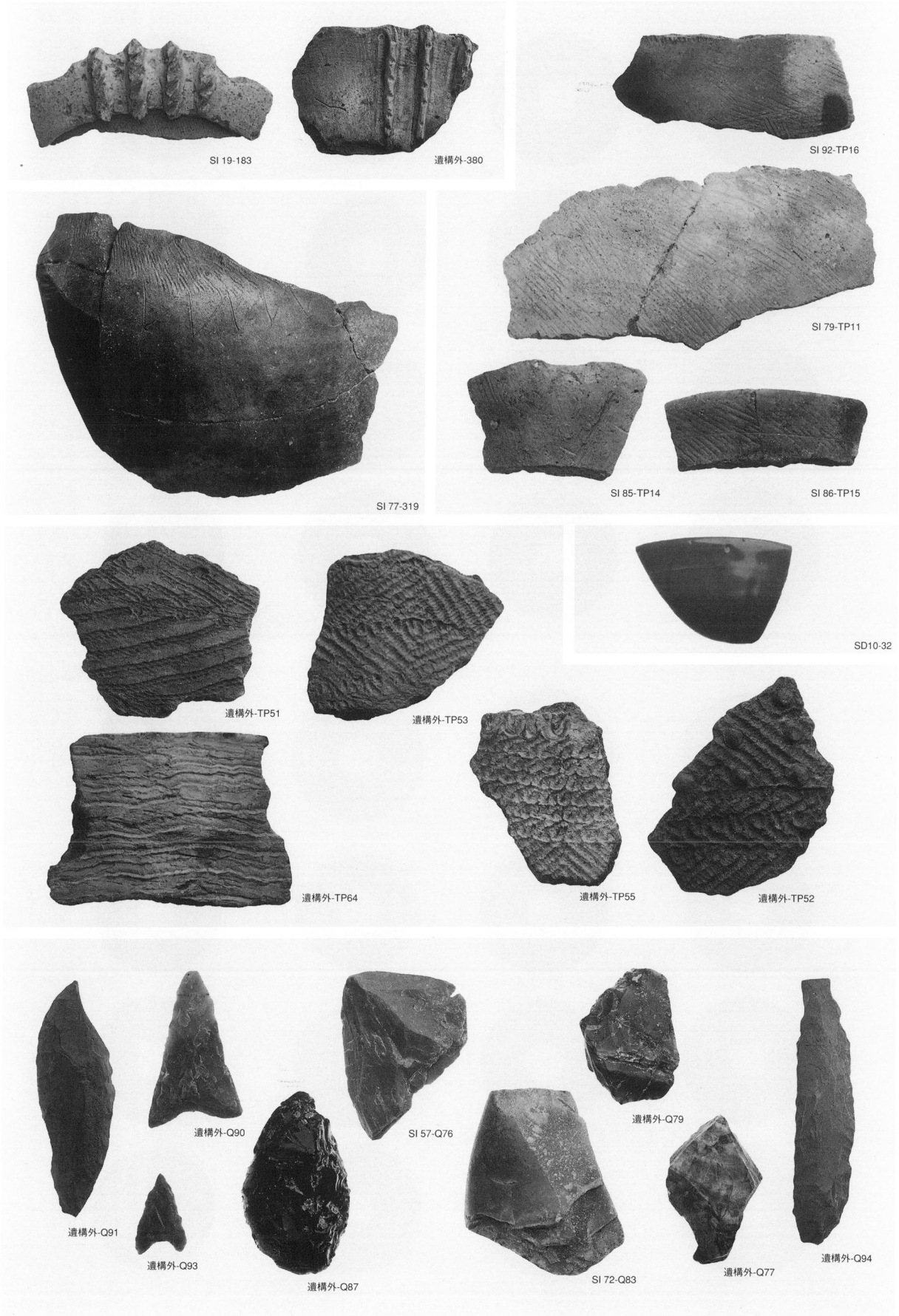

SK85M23

SK93-M29

SK128-M36



古銭



第19・57・72・76・77・79・85・86号住居跡，第10号溝，遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第218集

戸崎中山遺跡

（平成16）2004年3月24日　印刷
（平成16）2004年3月26日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

印刷　株式会社　エリート印刷
〒300-1211　牛久市柏田町3259
TEL　029－873－2231

付　　図

茨城県教育財団文化財調査報告第218集

戸崎中山遺跡　遺構全体図

付図　茨城県教育財団文化財調査報告　第218集

戸崎中山遺跡　遺構全体図